



筑波大学

University of Tsukuba

学群スタンダード

筑波

スタンダード

TSUKUBA STANDARDS
for Undergraduate Schools and Colleges

学群スタンダード

人間としての可能性を 知の拠点 TSUKUBA で拓く

建学の理念を踏まえて、学士課程における教育の目標とその達成方法及び教育内容の改善の方策を含む教育の枠組みを明らかにし、学位の質の保証と持続的向上を目指す本学の教育宣言として広く社会に公表します。

建学の理念

筑波大学は、基礎及び応用諸科学について、国内外の教育・研究機関及び社会との自由、かつ、緊密なる交流関係を深め、学際的な協力の実をあげながら、教育・研究を行い、もって創造的な知性と豊かな人間性を備えた人材を育成するとともに、学術文化の進展に寄与することを目的とする。

従来の大学は、ややもすれば狭い専門領域に閉じこもり、教育・研究の両面にわたって停滞し、固定化を招き、現実の社会からも遊離しがちであった。本学は、この点を反省し、あらゆる意味において、国内的にも国際的にも開かれた大学であることを基本的性格とする。

そのために本学は、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、かつ、多様性と柔軟性を持った新しい教育・研究の機能及び運営の組織を開発する。更に、これらの諸活動を実施する責任ある管理体制を確立する。

筑波大学教育倫理綱領

筑波大学は、あらゆる面で「開かれた大学」となることを目指し、固定観念に捉われない「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい大学の仕組み」を率先して実現することを基本理念とし、我が国における大学改革を先導する役割を担っている。人類社会の調和のとれた発展を担う知の拠点として、大学にさらに大きな役割が求められるなか、筑波大学は、知の全ての分野において幅広い教育研究活動を展開することが可能な総合大学として、個性と自立を基軸とし、世界が直面する問題の解決に主体的に貢献する人材の創出を教育の基本的な目標に掲げ、その実現のための具体的な指針として筑波スタンダード※1を定めている。これらの目標を達成するため、筑波大学のすべての教員は、教育に係わる以下の行動規範※2に従う。

1. 教員は、すべての学生の個性と能力を開花させ、豊かな人間性と創造的な知力の獲得を促し、学生とともに知の拠点を共創することに努める。
2. 教員は、学生の人格を尊重し、成長発達を促し、学生に最善の利益がもたらされるよう努める。
3. 教員は、教養教育から専門教育にわたる教育内容・教育方法の改善を継続的に行い、かつ学生の自主的な学修を支援する。
4. 教員は、筑波スタンダードに基づく明確な学習目標と成績評価の基準を定めるとともに、学習目標に沿った公正な成績評価を行う。
5. 教員は、学生の意見や批判に耳を傾け、誠実できめ細かな学生指導に努めるとともに、個人情報保護を遵守する。

※1:筑波スタンダードは、学士課程に関する「学群スタンダード」と大学院課程に関する「大学院スタンダード」からなる。

※2:5つの行動規範のうち、1は全体の指針、2は学生の人格と利益の尊重、3及び4は教育改善の義務、5は学生の個人情報の保護を定めている。

筑波大学が授与する学位の意味について

筑波大学は、学生の自主的な学修を支え、多様な個性や文化を尊重する倫理的態度を涵養し、すべての学生の個性と能力を開花させる。豊かな教養と情報リテラシー並びに批判的かつ創造的な思考を基盤として、対話により個性や文化の違いを超えた人と人との信頼を醸成し、社会の持続的な発展を目指して高潔かつ真摯に行動し、人間と自然を慈しみ、芸術やスポーツに親しむ豊かな人間性を育む。こうした基盤に加え、

- 学士の学位**は、世界の動向と課題の本質を理解するためにデータの調査・分析を行い、「専門の**知識・技能**」を常に更新しながら異分野の専門知識に対する**広い理解力**を持ち、「本質を究める確かな基礎力と柔軟な思考力に裏打ちされた**創造性**」を身に付け、「国際社会において課題の解決に向けて主体的に行動する**実行力**」が備わったことを認定して授与する。
- 修士の学位**は、世界の動向と課題を学術的に理解して研究を行い、「真理の発見や価値の創造に貢献できる**研究力**」または「最新の学術研究の成果を含む高度な専門知識を学際的な視座から理解し、国際社会で活かす**知の活用力**」が備わったことを認定して授与する。
- 博士の学位**は、未解決の学術的課題や社会課題に対して、「自ら問いを設定し、課題の克服に向けた学際的研究行程を描き、新たな真理の発見や価値の創造をもたらす**自立した研究力**」と「対立する概念や価値観を結びつけ、より高い次元に止揚させ統合させる**創発力**」からなる**知の創成力**に、研究成果を基に国際社会の発展に寄与する**知の活用力**が加わった**創造的な知性**が備わったことを認定して授与する。

情報リテラシー:情報を適切に収集、評価、利用、発信する能力

創発力:対立する既存の概念にとらわれず、新しい発想で異なる概念を止揚させ統合した新たな概念や価値を生み出す能力

筑波スタンダードとは何か

筑波スタンダードは本学による教育宣言です。学士課程の学群スタンダード(平成20年3月公表)と大学院課程の大学院スタンダード(平成23年6月公表)の2種類があり、各課程で筑波大学が何を目指し、その目標をどうやって達成するかを明らかにし、本学が保証する教育の質を広く社会に公表するものです。教育の質を維持するだけでなく、それを絶えず改善し、持続的に向上させるツールとして、筑波スタンダードは学内でも重要な役割を果たしています。

「学位プログラム」の意義

学位プログラムとは、学士・修士・博士といった学位の水準と学問分野に応じて達成すべき能力を明示し、その能力を学生が修得できるように体系的に設計された教育プログラムのことです。学部等の教育組織に教員が固定される従来型のシステムでは、個々の教員が提供する授業の総和としてプログラムが組まれるため、社会の要請や学生のニーズよりも教員の事情が優先されがちでした。それに対し、学位を国際的互換性のある能力の証明と位置づけた上で、学位に相応しいプログラムにするために学内外の組織の枠を超えて教員が集まり、学生視点での教育内容を提供するのが学位プログラムです。学位プログラムを中心とした教育システムとすることで、学生にとっては、自らが何を学び、どのような力を身につけるのかが明確になり、社会にとっても大学教育の方向性と成果がより明確になります。

筑波スタンダードと学位プログラム

本学は開学以来、従来の学部制に代えて「学群・学類」を設置し、柔軟な教育体制を構築してきました。また、学生の教育のための組織と教員の研究のための組織を分離する独自の体制を採用し、教育の必要に応じて全学から教員を配置できるシステムを実現しています。これにより、一つの組織内に閉じずに教育を展開できるという、本学の理念を体現した仕組みとなっています。2011年度には、新たな教員組織(系)を設置する組織改革を行い、さらに2020年度には大学院を改組再編するとともに全学的な教学マネジメントの体制と仕組みを整備し、学位プログラムを中心とした教育システムへと全面移行しました。筑波スタンダードでは、すべての教育組織において、学位ごとの「学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」、およびその質を保証する方策を明示しています。これらは、本学の建学の理念に基づく一貫した取組です。今後も、国際的互換性と協同性を備えた教育システムとして本学の学位プログラム制の確立及び教育の質のさらなる向上を目指し、教職員一同、不断の教育改革を推進しています。

学士課程の教育目標

世界に通用する知性・人間性・逞しさを備えた
グローバル人材の育成に向け、以下の教育目標を掲げる

■ 本質を究める確かな基礎力と柔軟な思考力に
裏打ちされた創造性を養う

■ 国際的な活躍の礎となる
豊かな教養とコミュニケーション力を育む

■ 芸術やスポーツに親しみ、
優れた文化的営みに感動する力を養う

■ 自然と人間を慈しみ、
積極的に社会に貢献する態度を育む

■ 生涯を通して学び、
自律的に自己を成長させ続ける力を養う

学生本位の教育システムによる学位の質保証

学位プログラム、適切な学修プロセス、責任ある教育実施体制により、学位の質を保証します

学位プログラム

筑波大学は、グローバル社会で活躍できる人材の育成に向けて5つの教育目標を定めるとともに、教育目標を達成するために学士課程のすべての学生が修得すべき具体的な知識・能力等として、6項目の汎用コンピテンスを定めています。(表1)

筑波大学の学士課程では、これらの知識・能力等を学生が確実に身に付けられるよう、全学的な教育の枠組みとして、共通教育と各学群・専門学群・学類の専門教育を有機的に連携させた教育システムを構築しています。

また、各学群・専門学群・学類は、学生の卒業後の活躍の場や姿のイメージを具体化した上で、学位ごとに学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)として汎用コンピテンスに加えどのような専門的知識・能力等(専門コンピテンス)を評価するか、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)として学位授与の方針をどのように養う体系を備えているのか、入学者受入の方針(アドミッション・ポリシー)として対応する教育に相応しい入学者としてどのような資質や志を持った人材を求めるのかという3つの方針(ポリシー)とともに、恒常的な教育改善の仕組みを明確化して、体系的な教育を実施します。

このように学位授与に至る道筋として、3つの方針を明確化する考え方は学位の質を保証する上で極めて重要であり、それをさらに推し進めた教育システムが学位プログラムです。筑波大学は、学生本位の視点に立って、学生の学修成果を保証する学位プログラムを構築します。

適切な学修プロセス

学位の質を保証するためには、体系的なプログラムの整備とともに、単位制度の実質化や厳格な成績評価等により、学生が適切な学修プロセスを経るよう指導することが必要です。

各学群・専門学群・学類及び共通科目等の実施組

織は、各授業科目により修得する知識・能力等とその過程(授業の事前・事後の学修を含む)を学生に明示し、計画的に授業を展開します。各授業科目における学生の到達度の判定にあたっては、明確な成績評価基準の下で厳格な成績評価を行います。

シラバス(授業計画)の充実やグレード・ポイント・アベレージ(GPA:履修科目の成績の平均値)の活用、大学院生によるティーチング・アシスタントの効果的な配置等により、学生の学修プロセスを国際標準に準拠させていきます。

責任ある教育実施体制

教育の基本方針や教育改革に関する基本計画の策定、教養教育、学生生活支援、障害学生支援、キャリア支援等については、全学的な組織を設置して、企画立案と実施の総括を行います。

各学群・専門学群・学類においても、教育・学生支援に関する様々な業務を組織的に遂行する体制を整備し、責任をもってその実施にあたります。

また、全学的な学生組織と概ね20人の少人数クラス制により、学生の意見反映や学修全般に関するきめ細かな指導を担保します。

汎用コンピテンス(学士課程)

| | |
|---------------|--|
| コミュニケーション能力 | 母語や外国語を適切に用いるとともに、各種メディアを利用したプレゼンテーション等を行うコミュニケーション能力 |
| 批判的・創造的思考力 | 一般的・専門的知識の体系的理解をベースに批判的・創造的に思考する能力 |
| データ・情報リテラシー | 様々な事象や情報を数量的手法やコンピュータ等を用いて適切に解析・処理する能力 |
| 広い視野と国際性 | 自身の専門に留まらず文化・社会と自然・物質に関して幅広く理解し、異文化を理解・尊重する能力 |
| 心身の健康と人間性・倫理性 | 芸術やスポーツへの理解と実践等を通して心と身体の健康を保ち、人間性と倫理性を有する市民としての責任を自覚して実践する能力 |
| 協働性・主体性・自律性 | チームワークやリーダーシップを通して様々な物事に対処し自己を管理しながら自律的に学び続け行動する能力 |

表1 汎用コンピテンス(学士課程)

TSUKUBA方式によるグローバル人材の育成

「学生本位の視点」「国際的視点」「未来の視点」に立って、世界に通用する知性・人間性・逞しさを育てます

■ 学生本位の視点

筑波大学の学士課程のカリキュラムでは、全学修期間を通して、確かな専門性とそれを支える豊かな教養を養います。そのために教養教育と専門教育を二分せず、学生の履修上の観点から、両者を統合したカリキュラムを編成・実施します。学位に応じて学生の学修成果を保証する教育システムとして、学位プログラム制を構築します。

教育の実施に当たっては、教員と学生・学生同士が相互に作用し合うアクティブ・ラーニングを重視し、学生の主体的・能動的な学修を促します。課外においても、各種課外活動団体の支援に加えて、本学独自の「T-ACT」システムにより、学生の自発的な活動をサポートします。また、全学的な学生組織により、学生と教職員が協働して教育・学生生活の充実・改善に取り組みます。

■ 国際的視点

学生が世界に目を向け、グローバル社会で活躍できる資質を身に付けるための仕組みや環境の整備をあらゆる面にわたって強力に推進します。

各々の専門分野において国際性に富んだ質の高い教育を実施するとともに、グローバル人材としての基礎的素養を培う「グローバル科目群」の設定や海外留学支援策の充実・強化により、「世界を学びの場」とする学修環境を構築します。

また、世界の様々な国からの留学生と日本人学生が、国籍や文化、専門分野の区別なく日常的に接し協働す

の開催などにより、本学のモットーである「国際性の日常化」を体現するキャンパス環境を構築します。

さらに、国境を越えて教育の質を保証していくために、国際的な通用性・互換性のある教育システムの構築に先導的に取り組みます。そして、令和6年度に採択された大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業により日本人学生と留学生が一緒になって課題に取り組む多文化共修活動を行い、グローバルな環境下で課題解決が提案できるグローバルスタートアップ人材を育成します。

■ 未来の視点

変化の激しいグローバル社会において未来を切り拓く力を育成するために、産業界等と連携した教育を積極的に実施します。各界のリーダーによる講義や、様々なフィールドにおける実習・インターンシップ等の実践的な科目を通じて、社会の課題の本質を捉え未来を洞察する力を養います。

学生のキャリア形成支援は入学時からスタートします。学生が自分の将来と大学における学修を結び付けて考えるためのキャリア関連科目や本学独自の「つくばキャリアポートフォリオ」等により、学生のキャリア形成を体系的に支援します。

このように、学生が社会の未来と自分の将来を重ね合わせながら、問題意識と高いモチベーションをもって学修を進めることにより、個性と自立を基軸として社会に主体的に貢献する力を育成します。

世界に通用する知性・人間性・逞しさを備えたグローバル人材

国際的視点

「世界を学びの場」とする学修環境
「国際性の日常化」を
体現するキャンパス環境
国際的互換性のある教育システム

学生本位の視点

学生の学修成果を保証する
学位プログラム制の構築
学生の主体的・能動的学修
学生と教職員の協働

未来の視点

産業界等と連携し、グローバル社会において
未来を切り拓く力を育成
社会の未来と学生自身の将来を
重ね合わせたキャリア形成

TSUKUBA方式によるグローバル人材の育成

学士課程における教育理念

専門分野の学びとしての垂直展開と教養涵養のための水平展開

■ 理念

本学では開学以来、「共通科目」に加えて、他組織開設の専門科目等を履修する「関連科目」を置いて、他学群・学類の専門性を統合した教養教育を通じ、広い学問的視野に基づく高度な問題解決能力を持つ学生を養成してきました。

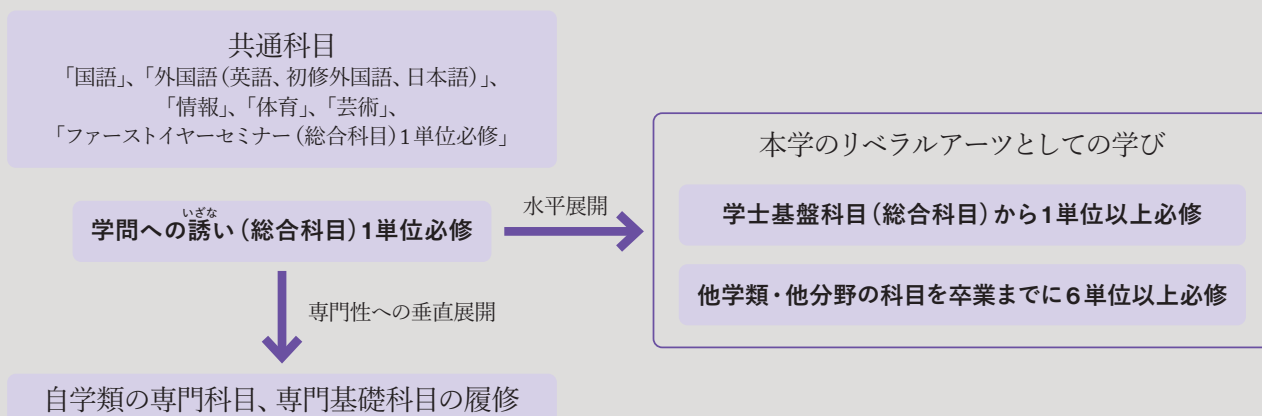
この精神を踏襲し、さらに専門智と汎用智が涵養されて総合智を身につけることができることを理念とする教育体系を構築しました。図のように、自らの専門性を深める学びを垂直的な学びの展開ととらえ、本学のリベラルアーツとしての学びは水平的な学びの展開ととらえます。この両者をともに実践できる教育体系を実現できることを理念としています。

■ 理念を実現するために

この水平と垂直の要(かなめ)に、「学問への誘い^{いざな}」を総合科目(必修)として開設し、この履修を通じて大学における学問のあり方や扱う問題、探求対象をまず学びます。一方、学問に対する考え方の深化や、グローバル

人材に不可欠な教養、あるいは分野横断的な内容を含む総合科目(学士基盤科目)の中から自由に選択して履修することで、社会にある様々な探求対象と学問分野のつながりを理解します。また、各学類・専門学群が開設する「専門導入科目」の履修は、その科目を開設した組織に所属する学生にとっては専門の基礎を学ぶものとなり、それ以外の学生にとっては自分が専門とする分野とは異なる分野の学びとするしくみを整えています。各教育組織がそのカリキュラムポリシーに基づき、水平・垂直ともに体系的な履修を促すことで、学士課程において一貫した教養教育と高度で深い専門教育をより充実したものにします。これにより、複数分野から学生各自が自分の専門性を発見するための能力を涵養し、さらに、様々な学問分野の中で自分の主たる専門分野の位置づけを説明できる広い視野を持つ人材を養成します。

この理念の実践を更に推し進め、2021年度からは「総合学域群」を新たに設置しました。総合学域群では、入学して1年間様々な学問分野に触れた上で所属する学群・学類を選択することができます。



全学的な教学マネジメントの実現

モニタリングとプログラムレビューを中核とする内部質保証の確立により教育の継続的な改善を推進します

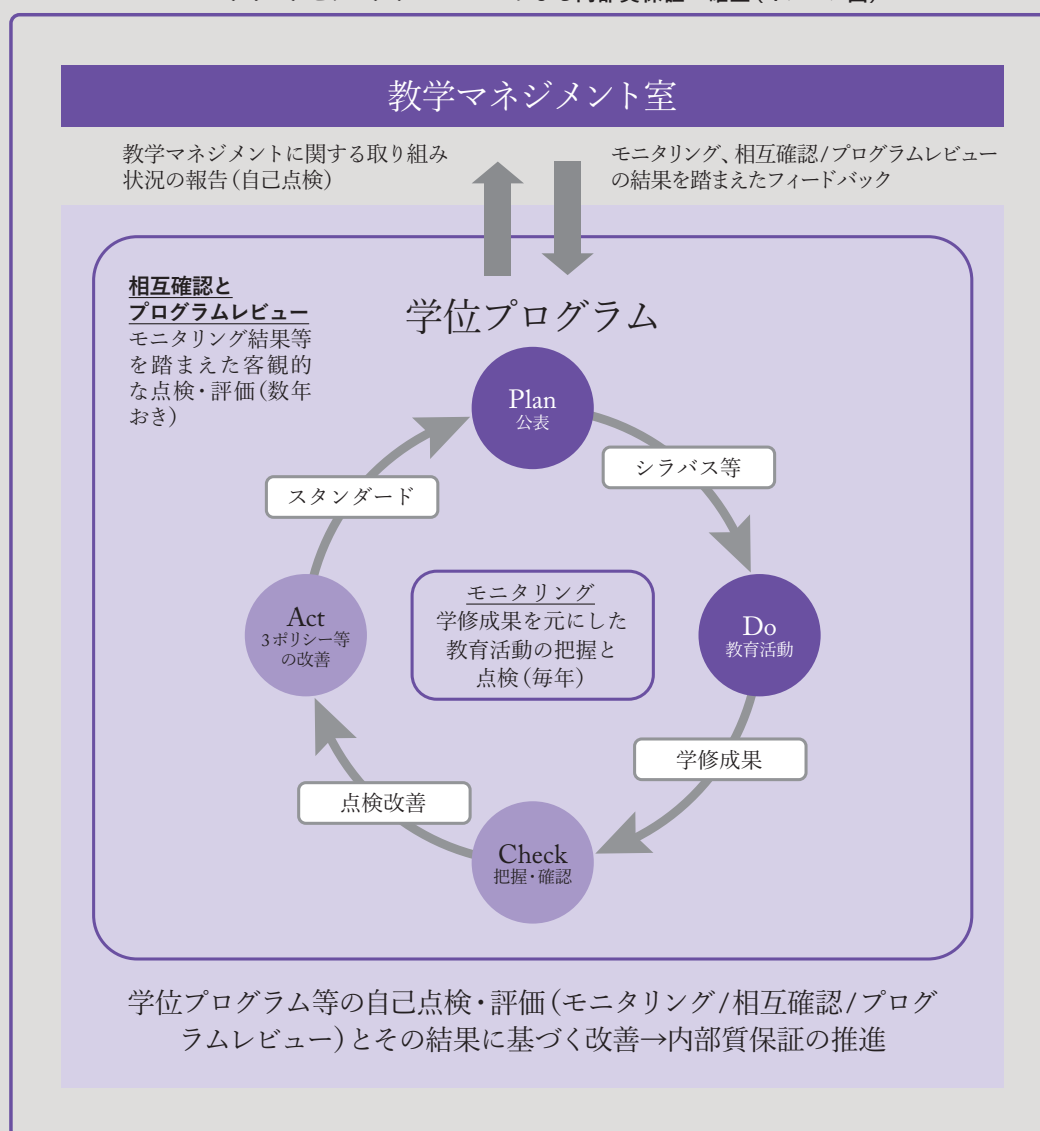
■ 全学的な教学マネジメントによる PDCA サイクルの推進

学位プログラムの教育の質を持続的に保証・向上させていくため、教学マネジメント室を設置し、全学的な教学マネジメントを実現します。

教学マネジメント室では、学位プログラムのモニタリ

ング(毎年の自己点検)とプログラムレビュー(数年おき
に実施する総合的な点検・評価)の取組を中核としつ
つ、学位プログラムの新設又は改組等に伴う質保証の
審査、体系的なファカルティ・ディベロップメントの推
進及び高等教育に関する調査研究などを行い、内部
質保証の確立と高度化を図ります。

モニタリングとプログラムレビューによる内部質保証の確立(イメージ図)



全体目次

| | |
|------------------------|---|
| 建学の理念 | 1 |
| 筑波大学教育倫理綱領／学位授与の方針について | 2 |
| 筑波スタンダードと学位プログラム | 3 |
| 学士課程の教育目標 | 4 |
| 教育目標の達成に向けた方針 | 5 |

教養教育

Liberal Arts Education

10

総合学域群

School of Comprehensive Studies

24

学群・学類

Undergraduate Schools and Colleges

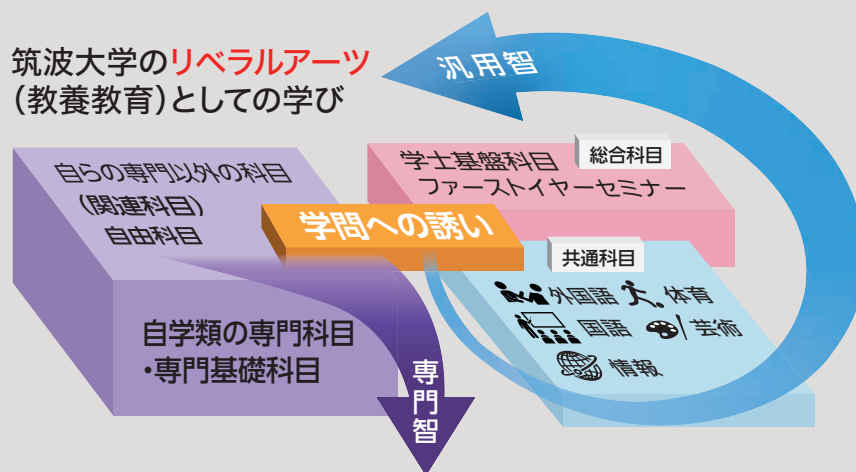
28

筑波大学の総合智教育と教養教育

本学は、高度に専門的な知識「専門智」と、それを活かす多様で学際的な知識の修得で得られる総合的な知的基盤に加え、倫理観や人間性、論理性、国際性、コミュニケーション力、豊かな心身基盤、マネジメント・企画調整力などの「汎用智」がバランスよく培われた高度な知的人材を育て上げるための教育体系を「総合智教育」と定めています。この体系による教育により、国際化や科学技術の進展など激しい変化に対応できる統合された智の基盤を涵養します。各自が専攻する専門分野にとらわれることなく、共通に求められる知識、思考法等の知的技法、人間としてのあり方や生き方に関する深い洞察、及び現実を正しく理解する力の獲得はまた、各自の専門分野を掘り下げる原動力となるはずです。

本学では、様々な学問分野への造詣や社会汎用的な問題を学問分野に還元してゆく視座を総合科目により醸成するとともに、自らの専門以外の専門科目の履修を促すしくみを全学的に組み込みます。これを本学におけるリベラルアーツの学びとしてとらえ、さらに、全学共通的に学ぶ外国語や情報、体育、国語、芸術を含めて本学の教養教育と位置付けます。各学類・専門学群で開設される専門基礎科目や専門科目の学びがその専門性への垂直的展開とすれば、本学におけるリベラルアーツの学びは教養教育の水平的展開といえます。この両者を車の両輪とするカリキュラムを全学的に構築しています。

学生一人ひとりの関心と必要に応じた、様々な学類・専門学群の開設科目の履修を含む学生自身による自由な履修設計を通して、専門性を深める教育と教養を育む教育により得られた知識が学生自身の内に融合され、総合智として広い学問的視野に基づく高度な問題解決能力を備えることができます。



教育の質を保証する仕組み

本学の総合智教育を推進し、その質を高めていくために、全学的組織として総合智教育推進委員会を設置しています。共通性の高い汎用智の醸成にかかわる学群共通科目や総合科目の企画・編成・継続的改善を行い、専門智の涵養をになう各学群・学類との有機的連携を強化しながら、バランスのとれた総合智の醸成を展開します。

教養教育の中の共通科目の位置付け

筑波大学における共通科目は、専門分野に関する知識の修得において基礎的な技能となる表現能力、構成能力、およびコミュニケーション能力の養成を通して、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的としています。とくに学問上の枠組みにとらわれない普遍的な内容の構成に配慮しながら、大学生として相応しい学術的・学際的な素養が身につくような科目体系を構築しています。

総合科目

Multidisciplinary Subjects

教育目標

初年次から高年次まで、大学という新しい学修環境に
適応し、協働しながら自律的にキャリアを形成すること
を目指します。さらに、自然と人間、多様な社会と文化
に関わる幅広い学問分野に触れて、既存の枠組みを超
えたこれからの社会に必要な知の基盤を学び、人間と
しての真のあり方や生き方に対する深い洞察力、世界
を正しく捉える能力の獲得を目指します。

教育内容

初年次生が、大学という新しい学修環境に適応し、自
律的にキャリア形成を始めることを支援する少人数編
成科目、さらに高年次にわたって、学問のあり方や自身
との関わりについて、幅広く多様な視点から考えること
により、専門分野へ進むための確かな知的基盤を整え
る多様な科目があります。

ファーストイヤーセミナー

20名前後の新生と担任教員1名で構成するクラス
を単位として、春ABモジュールに開講する科目です。
履修計画やキャリア形成、メンタルヘルスなど学修面・
生活面の両面から大学生活に適應できるよう支援する
とともに、学生と教員及び学生間のコミュニケーション
を図ります。

学問への誘い^{いざな}

大学における学問分野の成り立ちや広がり、他の学問
との関係性について具体的な問題から解き明かす科目
です。自ら専攻しようとする専門分野の意義や、それら
専門分野の学群・学類での位置付けについても理解を
深めます。

学士基盤科目

大学での自身の学びを、俯瞰的に捉えて動機づけられ

るように、広く社会や世界の視座からの多様な考え方・
生き方に触れる科目群です。この科目を履修すること
で、自らの学問的基盤を整えます。この科目群には、学
問に対する多様な考え方ができるように、キャリア支援
的な内容、分野横断的な内容、自己分析や自己の確立
を促す内容、社会生活への適應性を涵養する内容を
含みます。

教育方法の特徴

■ファーストイヤーセミナーでは、少人数クラスに分かれ、
担任教員を中心として初年次学生向けのガイダンス及
びケアを手厚く行っています。

■学問への誘い^{いざな}では、大学の学問の広さ深さが実感で
きて、学生の専門分野の選択や履修計画の参考になる
ように、本学独自に編集したガイドブックを使用します。

■学士基盤科目では、世界の第一線で活躍中の学内外
の研究者・著名人によるリレー講義科目、OB・OGを
招いて社会体験を踏まえじっくり語り合う科目、本学の
伝統に密着した科目など、多様なスタイルの科目群か
ら選択して履修することができます。

■manabaやティーチング・アシスタントを活用するなど
多様な授業方法を実践し、全学を先導する教育を行っ
ています。

達成すべき水準

協働性・主体性・自律性

ファーストイヤーセミナーを通じて学生と教員、学生間のコミュニケーションを図り、チームワークとリーダーシップの重要性を理解します。

広い視野と国際性

学問への^{いざな}誘い・学士基盤科目では、自然と人間、社会と文化にかかわる幅広い知識・考え方に触れることにより、自分が専攻する分野の相対的な位置づけを認識し、俯瞰的な視野と学際的なものの見方、国際性及び社会適応性を身につけます。

教育の質の保証

履修指導の充実

本学の教養教育の理念・目標を理解した上で履修できるように、履修指導を行います。具体的には、入学式後に開催される学類・学群ごとのオリエンテーションの中で総合科目について丁寧な履修ガイダンスを実施します。

「総合科目」専門部会

総合科目のあり方、科目の内容や成績評価のガイドラインについて検証します。

FDの実施

全学および部局FDの一環として、授業評価アンケートを実施し、その結果を各担当教員へフィードバックすることで、教育活動の自己点検を実施するとともに総合科目の改善等を図ります。

総合科目

合計3単位以上必修

ファーストイヤーセミナー

1単位必修

学問への^{いざな}誘い

1単位必修

学士基盤科目

1単位以上必修

体育

Physical Education

教育目標

本学の体育(筑波体育)は、最新のスポーツ科学を基にした多様なスポーツ実践を通して、生涯スポーツに向けたスポーツ技術の修得、健康・体力を維持増進するための知識と実践力、社会人としてのフェアな考え方、他者理解とコミュニケーションについて学ぶことにより、『健やかな身体・豊かな心・逞しい精神』の育成を目指します。修得される汎用コンピテンスとして、「心身の健康と人間性・倫理性」、また、「協働性・主体性・自律性」が挙げられます。

教育内容

カリキュラムは、基礎体育(1年)、応用体育(2年)、発展体育(3年)と学年に応じて学修目標を設定しています。授業は、実技を中心としていますが、健康、体力、スポーツの意義などについて講義も実施しています。

実技

実技は、個人スポーツ、球技スポーツ、武道、アウトドアスポーツ、ダンスなど多彩な科目を開講しています。

また、健康・体力づくりに関する実技として、フィットネストレーニング、リフレッシュ体操やジョグ&ウォークなどを開設しています。

講義

生涯にわたってスポーツを楽しむという観点から、健康・体力づくりに関する問題やスポーツの意義、及びスポーツを楽しむためのスポーツ技能の修得法などについて学びます。

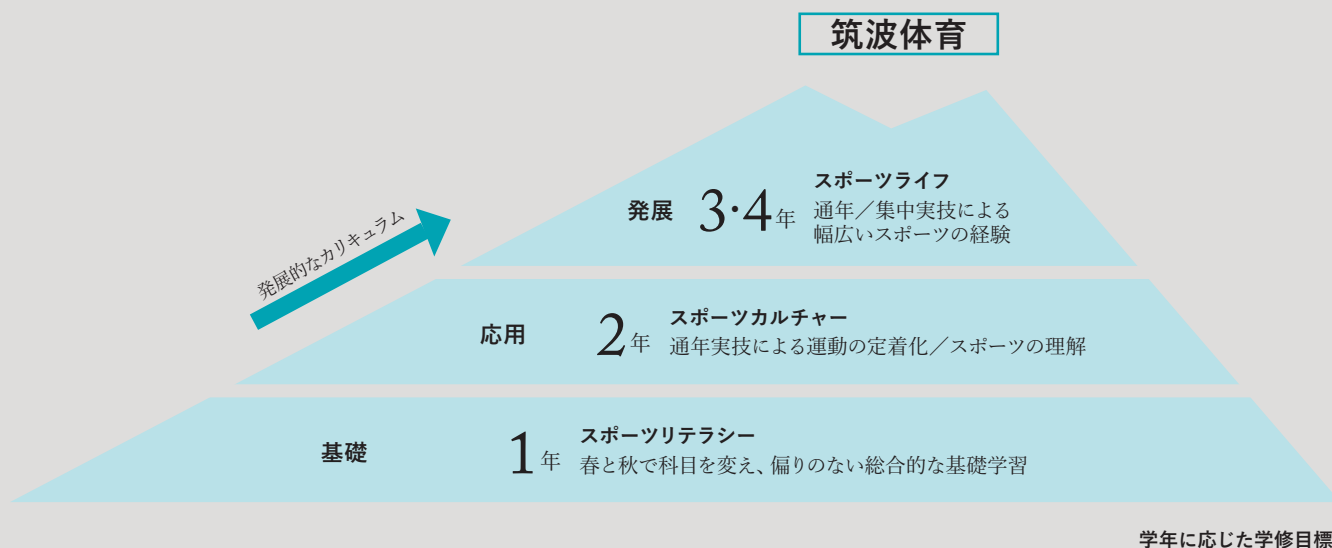
教育方法の特徴

本格的なスポーツ施設での授業

公式大会の開催が可能な陸上グラウンド、人工芝のサッカー場やテニスコート、学内を囲むように整備されたジョギングコースなどの16の屋外施設と中央体育館、温水プールなどの25の屋内施設を用いています。

多彩な授業科目

テニス、バレーボール、バスケットボール、サッカーなどのポピュラーなスポーツはもちろんのこと、トランポリン



などを行う器械運動、気功や呼吸法を学ぶボディ・ワーク、つくばマラソンで完走を目指すジョグ&ウォーク、けがなどを抱えた学生に対応したトリム運動、護身術としても活用できる柔道や空手など、科目数は30数種目に及びます。

豊富なシーズンスポーツ科目の展開

スノーボード、スキー、ウインドサーフィン、スキンドайビングなど、季節に応じた集中科目を開講しています。

スペシャリストによる授業

授業は科目に精通した専門家が担当しています。オリンピックや世界選手権などでメダルを獲得したスペシャリストをはじめ、それぞれのスポーツでトップクラスの専門家が授業を行います。

教育の質の保証

■ 学生による授業評価を体育科目独自に行っています。評価の高かった教員の授業について教員相互の研修を実施しています。

■ 学外の第三者による定期的な評価を受け、それに対する改善策を講じています。

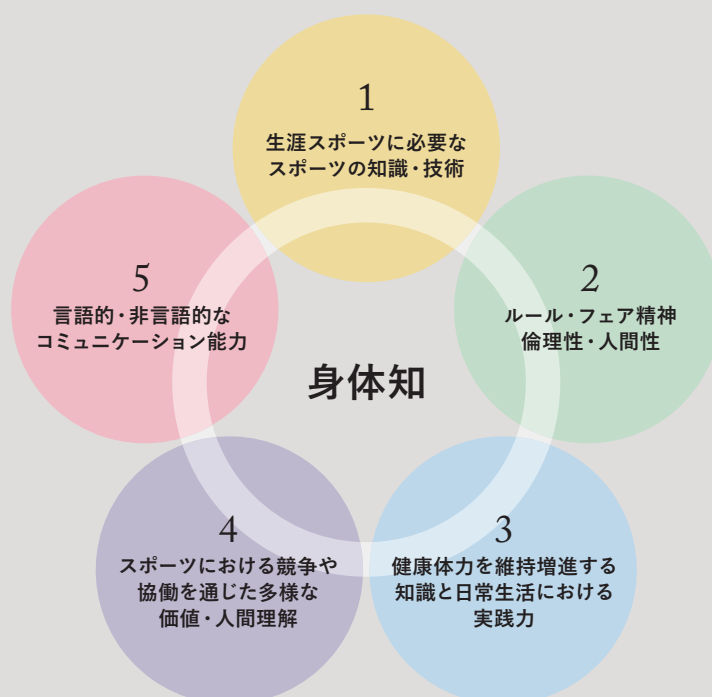
■ 安全配慮が必要な授業や補助を必要とする授業では、教員とティーチング・アシスタントが一体となって授業を実施しています。

■ 体育スポーツ局(旧体育センター) Webサイトでシラバスを公開し、学生がいつでも授業に関する情報を入手できるようにしています。

■ 大学体育のカリキュラムについて、国内外の調査などを行い、新たな視点からカリキュラムモデルに関する研究を積み重ねています。

達成すべき水準

筑波体育で修得する5つの身体知



外国語

Foreign Languages

教育目標

研究型大学である本学の理念に照らし、まず第1に、学術研究の活動で外国語を駆使できるようになることを目指します。2点目として、複数の外国語を学ぶことで、文化・社会・価値観の多様性を知り、複眼的な視点からの思考力を育てます。3点目として、外国語運用能力を総合的に伸ばすことで、実社会での活動に役立つコミュニケーション能力と異文化対応力の向上を図ります。

教育内容

第1外国語、第2外国語として「英語」、「初修外国語」（ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語）を学びます。また英語プログラム等で学ぶ留学生や帰国生のために「日本語」を開設しています。

英語

学術研究の活動で英語を駆使できるよう、英語「を」学ぶのではなく、英語「で」学ぶことを念頭に置いた教育が行われます。

必修科目

学群・学類の専門英語への橋渡しとなる「一般学術目的の英語 English for General Academic Purposes」として English Reading Skills と English Presentation Skills を受講します。前者では学術的な著作を精読し、学術英語の基本語彙や表現を学び、後者では学術的な発信活動に必要な英語運用能力の基礎を学びます。

選択・自由科目

学生の多様なニーズにあわせて、発信能力の向上を目的とする科目(English Academic Writing, English Academic Presentation 等)や留学等に関連する科目が設けられています。

初修外国語

未知の外国語学習を通じて世界の文化と社会の多様性を学びながら、複眼的思考力・異文化理解力の育成と当該外国語の運用能力の伸長に資する教育が行われます。

必修科目

「基礎〇〇語」では、当該初修外国語の基礎的な文法や表現を学び、「〇〇語圏の言語と文化」では、当該言語のしくみや特性のみならず、その社会的・文化的な側面についても学びます。

選択・自由科目

中上級レベルを目指す学生のための初修外国語科目（「応用〇〇語講読」、「応用〇〇語作文」等）が開設されています。

日本語

留学生や帰国生に対して習熟度別に日本語科目を開設しています。留学生の多様な学修ニーズに合った、外国語としての日本語教育が行われます。

入門・初級科目

日本で生活するための日本語を学びます。

中・上級科目

読む・書く・聞く・話す の4技能ごとに、学習目的に応じて履修ができます。

キャリア支援科目

学生が自身の進路を主体的に選択できるように支援するための日本語力を学びます。

教育方法の特徴

オンライン教材やeラーニング教材を活用した授業を積極的に展開しています。

■ アカデミックライティングサポートデスク (Academic Writing Support Desk) を設置し、英語のアカデミックライティングスキルの向上を支援しています。

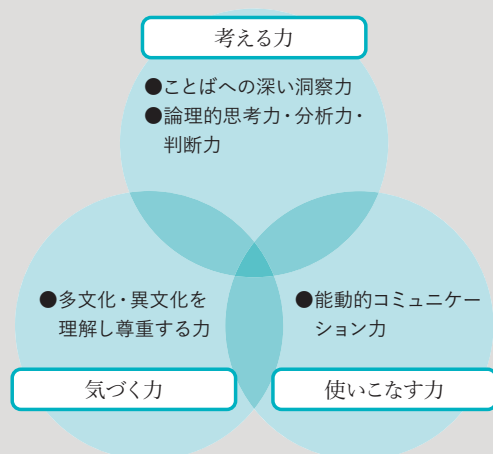
■ 英語と初修外国語では、海外の提携大学等において3～6週間程度の海外語学研修を実施し、現地での言語文化体験型の外国語教育にも力を入れています。

■ 留学や外国語検定試験の受験、外国語によるボランティア活動等に対して「優れた外国語活動」認定書を発行し、授業外の学生の自主的な外国語の学習や活動を支援しています。

■ 達成すべき水準 ■

英語

一般学術目的の英語を基盤として修得する3つの力



初修外国語

■ 必修科目の履修を通じて培う能力・資質

・基礎的な文法知識、発音や会話能力等の初歩的な言語運用能力

■ 2年次生以降の科目履修を通じて培う能力・資質

・4技能(読む・書く・聞く・話す)の基礎的な運用能力

・複眼的思考力、異文化理解力、言語や文化の多様性を尊重する態度

・学術研究の活動で当該初修外国語を活用する能力

日本語

■ 科目履修を通じて培う能力・資質

・日本語で専門的に研究するための日本語運用能力

・日常生活に必要な日本語運用能力

・日本での就職に要する日本語運用能力

■ 教育の質の保証 ■

■ シラバスを公開し、授業内容と成績評価の基準を明示しています。

■ 学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を教員にフィードバックし、授業の改善に役立てています。

■ 外国語教育FD研修会を毎年実施し、教育の質の向上に向けた取り組みを行っています。

■ 英語では、学群1年次と3年次にTOEIC® Listening & Reading IPテストを実施し、経年的に学生の英語力を把握するとともに、その分析結果をカリキュラム開発等に利用しています。

情報

Information Literacy

教育目標

情報社会に生きる社会人として必要な、コンピュータとインターネットに関する基礎知識と社会における位置づけを理解するとともに、情報社会を支えるデータの活用に関する基本的な考え方を修得するための以下の4項目を目標とします。

■ 情報社会において必要とされる倫理感を身につけ、インターネットサービスの利用に不可欠な情報リテラシーを修得すること

■ コンピュータやインターネットを用いた自分の行動に責任をもてる能力を養成すること

■ コンピュータ、アプリケーションソフト、インターネットサービスを使う状況になっても独力で使いこなせる能力を身につけること

■ データを適切に収集および管理し、収集したデータを、データ分析に役立てる能力を修得すること

教育内容

「情報」の授業は「情報リテラシー」講義・演習と「データサイエンス」の三科目から構成されます。

講義はコンピュータによる情報処理やインターネットの基本概念を、演習はコンピュータを利用した基礎的な情報利用・共有・発信技術の修得を通じて上記の教育目標を達成します。

「データサイエンス」では、講義による統計学・データ工学の基礎の修得と演習によるデータサイエンスの実践の反復を通じて上記の教育目標を達成します。

教育方法の特徴

■ 情報リテラシー（講義）および情報リテラシー（演習）は以下の項目を標準学修項目としています。各学群・学類のニーズに合わせて、以下の標準学修項目を基準に具体的な学修内容を調整しています。講義は情報の基礎概念を中心とした know-why を、演習は情報の利用・共有・発信技術を中心とした know-how を学びます。

情報リテラシーの標準学修項目

情報リテラシー（講義）

情報倫理・情報セキュリティ

情報の表現と計算

プログラムとアルゴリズム

コンピュータの仕組み

インターネットの仕組み

大規模データ処理

情報リテラシー（演習）

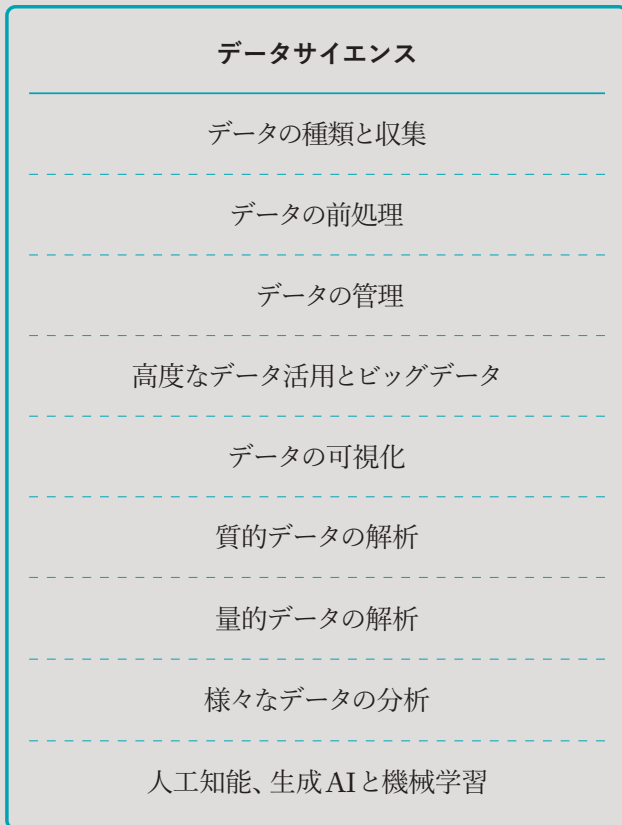
文書作成

情報発信・情報共有

プレゼンテーション

■ データサイエンス（演習）は以下の項目を標準学修項目としています。各学群・学類のニーズに合わせて、以下の標準学修項目を基準に具体的な学修内容を調整しています。

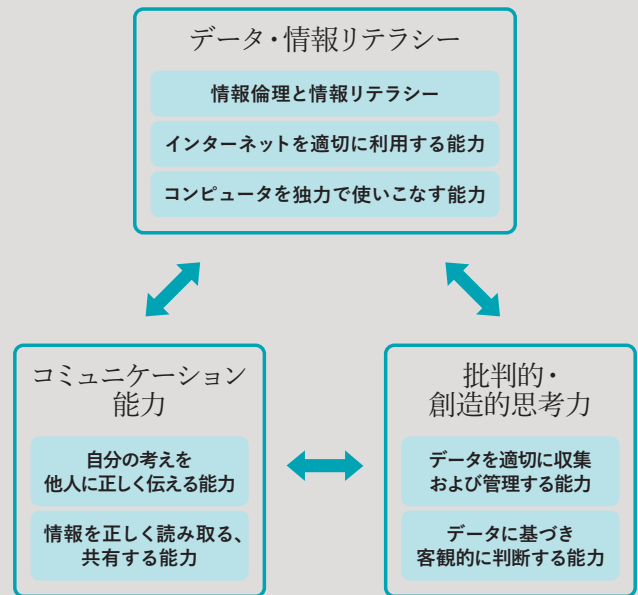
データサイエンスの標準学修項目



情報理工学位プログラム等の大学院生がティーチング・アシスタントとして授業に加わり、教員の指導の補助をきめ細やかに行います。

達成すべき水準

「情報リテラシー」および「データサイエンス」を通じて、「データ・情報リテラシー」、「批判的・創造的思考力」および「コミュニケーション能力」の三つの汎用コンピテンスに関わる基礎能力を修得します。



教育の質の保証

情報リテラシーとデータサイエンスの標準学修項目を基本として、各学類・学群のニーズに合わせて授業内容と進度を調整します。

授業アンケートを実施し、その結果を各教員にフィードバックし授業改善を行います。

教員懇談会を実施し、授業における問題点、課題を討議・共有することで授業改善を行います。

「情報」専門部会(各学群選出の代表教員から構成)において、授業改善について議論し、これを実際の授業にフィードバックします。

国語

Japanese

教育目標

国際化社会及び知識基盤社会を生きぬいていくためには、母語である日本語についての正しい知識を修得し、適切に用いて他者との意思の疎通を円滑にはかれる能力や、多様な情報を基に自己の考えを明確に表現し伝達する能力が必要です。共通科目「国語」では、大学での学修や社会人として活躍するために必須となる、このような日本語運用能力を修得することを目標としています。

教育内容

■ 基礎的な内容から発展的な課題に対応した「国語Ⅰ」「国語Ⅱ」を設けています。

■ 授業は、40人程度を1クラスとし、きめ細かな指導を行う配慮をしています。

■ 必修科目に指定する学群・学類では、その特色に配慮した授業を提供しています。(例) インフォームドコンセントにおけることば(医学・看護)・コーチとことば(体育)

■ 必修科目に指定していない学群・学類では、自由科目とし、専門分野の異なる学生同士が学べる環境を用意しています。

国語Ⅰレポート(論文)作成の基礎

レポート作成の出発点として、問題意識・独創性・書き手の心得・客観的に論述する姿勢・表現に必要な基礎的知識を学び、実践的トレーニングを行います。

■ 論文の発想、独創性、問題意識、主題の意義・価値などを理解する。

■ 資料の調査・収集・整理・検討を通して、問題点を整理する。

■ 推敲を行い、相互批評を通して、文章の善し悪しを学ぶ。

国語Ⅱ「国語Ⅰ」の応用・発展

「国語Ⅰ」を基に、自立的な書き手としての意識を高めます。

■ 問題意識を明確にして、仮説を設定する。

■ 目的に応じた文献の検索方法、情報整理の仕方を理解する。

■ 先行研究を批判的に読み、主題との関連性を検討し、論拠を検証する。

■ 対人関係を考慮した表現ができるよう、敬語・手紙文を学び、実践する。

教育方法の特徴

演習型の教育方法を取り入れています。

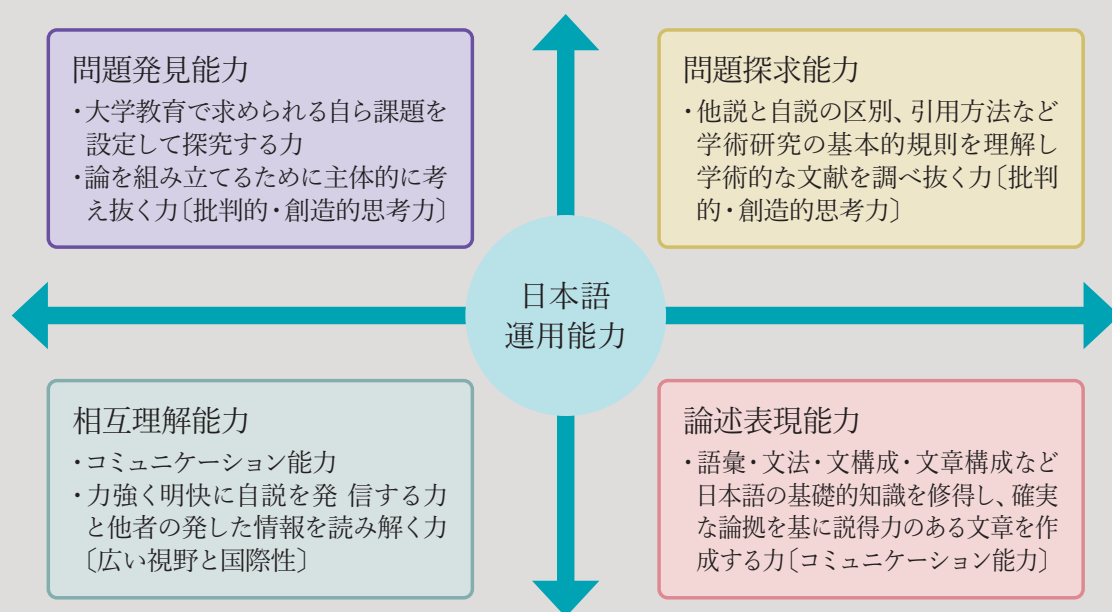
実際に文章を作成したり、スピーチしたり、学生同士が相互に批評し合いながら、日本語運用能力の向上を目指します。

教員の専門性を活かした教育を行っています。

日本語学・国語教育学など、日本語の専門家が授業を担当し、それぞれの専門性も活かした授業内容を工夫しています。

達成すべき水準

4つの能力達成



教育の質の保証

シラバスを公開し、各教員の専門性を活かした特色のある授業内容、成績評価の基準を明示しています。

学生による授業評価や教員が独自にアンケート調査を行うなど、授業改善へ向けてのフィードバック体制を十分に整えています。

学群・学類の特色などを考慮し、実態に応じた授業内容となるよう、定期的に話し合いの場を設定、前向きに授業の質の向上を目指しています。

芸術

Art and Design

教育目標

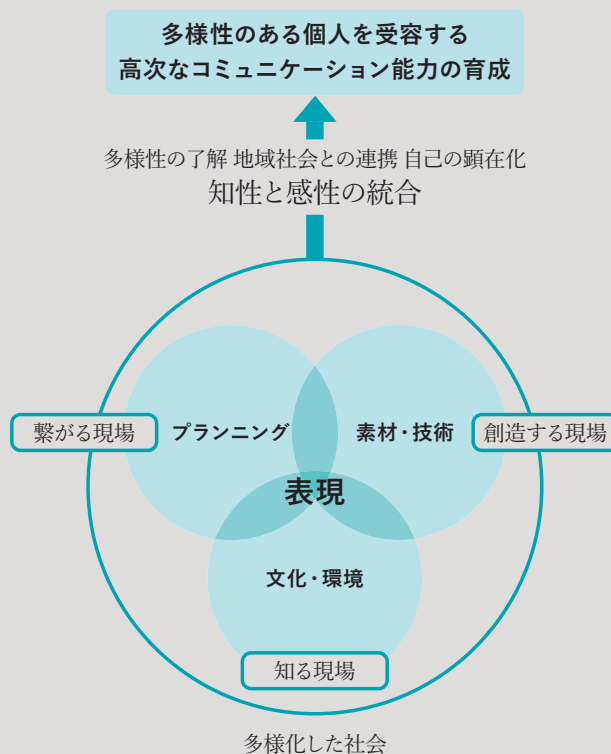
筑波大学は、芸術の専門家を育成する教育・研究組織を有する日本で唯一の国立大学法人の総合大学です。芸術専門学群が提供する教養教育は、この特色を活かして芸術に関する幅広い知識を学び、美的感性をみがき、表現する喜びを経験するだけでなく、グローバルな社会において多様性のある個人や価値観を受容し、自己の考えを発信することのできる高次なコミュニケーション力を育みます。知性と感性を統合して、自己を表現するとともに他者の考えを許容するバランス感覚の備わった人間力を育むことが共通科目「芸術」の教育目標です。

教育内容

教養教育としての芸術教育は、芸術表現に関する伝統や技術・素材を実践的に学ぶことで、異なる文化や社会的価値観の背景への理解を促します。

絵を描くことや美術館めぐりをするなど、芸術の制作や鑑賞の楽しさを自ら体験することが、人間が人間らしく生きる上でいかに大切なものであるかを理解し、その楽しさを生涯かけて探究する為の具体的方法や基礎知識を学びます。また、多様化した地域社会との関わりを模索し、あらゆる社会的基盤を整備する上での芸術の重要性を認識し、文化芸術振興のために行動する市民となることを目指します。

芸術の教育



教育方法の特徴

社会の一線で作家・研究者として活躍している教員が、芸術に関する「体験的知識」の授受や「作品創造」の為の技術や表現の指導、社会での「実地体験」とおして、受講生が自らの個性や資質を深く考える契機となるよう指導します。

芸術専門の学生が学ぶ環境と同じ工房・実習室で学びます。芸術の専門を学ぶ学生と共に制作やプロジェクトを行うことで、共に学びあうことによる相互教育効果が活かされます。

制作系科目…創造する現場での表現する喜び

美術・デザインに関する素材、技法、表現について学びます。作品を実際に制作するために必要な素材・画材や道具の基本的名称や取り扱い方、モチーフ・描く対象の選択やテーマ・作品の主題の設定、作品制作の開始から完成までの流れ、制作の各段階に応じて必要となる技法の特徴、造形感覚の練磨、形態把握や色彩表現、制作の心構え等、制作に必要な基礎的知識と基本概念について学びます。

油彩画実習、日本画実習、塑造実習、書(A・B・C)

絵本制作

問題解決型科目…繋がる現場としての社会での実地体験

地域社会での美術・デザインによる問題解決型授業を行います。アートとデザインによるプロジェクトを実際に組織し、社会に対してアートとデザインができることを学びます。

大学を開くアート・デザインプロデュース演習(1・2・3)

達成すべき水準

芸術文化の理解と深化

芸術表現は、それが生み出される時代と社会的背景に大きく影響されます。作家を受容する地域、人を育み芸術が育まれる土壌としての文化を理解し、感覚による評価だけでは得られない表現の奥行きを理解します。

技術・素材との実践的経験

対象の観察や素材の理解から表現の可能性を自ら発見することに取り組みます。表現活動を通して自己の内面にある考えや思いを表出させ、作品を媒体としたコミュニケーションが実現できることを理解します。

意思を具体化する方法の獲得

問題解決型授業では、社会での実地体験において表現や試みを実現させるためのプランニングを実践することが芸術の活用に繋がることを理解します。

教育の質の保証

自身の達成感とともに客観的・相対的な自己評価の場を提供することによって教育の質を保証します。授業の具体的成果である作品等に対して自己評価するとともに、講評会等において担当者が具体的に批評し、個々の持つ課題を明確にして次の目標を設定するように促します。

科目ごとに授業アンケート等を実施して現状把握に努めながら、学生個々の試行のプロセスにも目を向け、その疑問に応える場を提供します。

芸術専門学群のカリキュラム委員会において、アンケート等を参考に授業改善について議論し、授業担当者にフィードバックします。

総合学域群

School of Comprehensive Studies

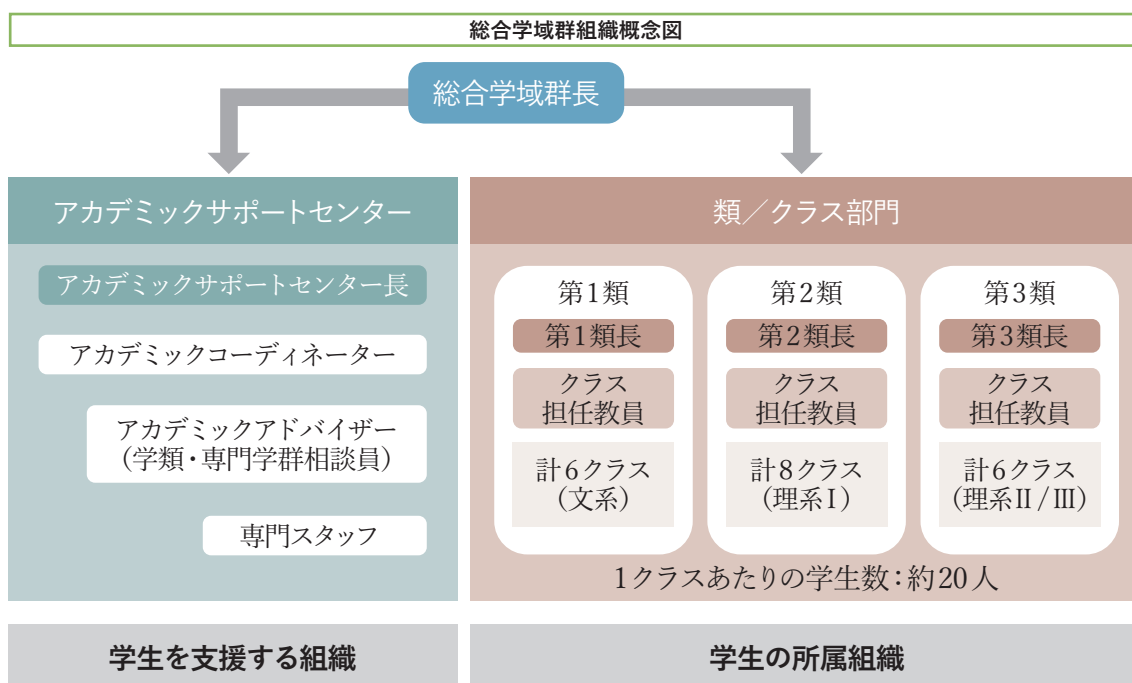
総合学域群とは

総合学域群には、総合選抜で入学した学生が所属します。総合選抜は、学類・専門学群の枠を越えて、文系、理系Ⅰ、理系Ⅱ、理系Ⅲという区分だけで選抜する、本学では新しい入試の方式です。

総合学域群には、選抜区分に対応した3つの類（第1類、第2類、第3類）があり、総合選抜により入学した学生は、いずれかの類に所属します。学生は1年次にさまざまな専門分野を学修した上で進みたい専門を見つけ、2年次以降は学類・専門学群に所属します。これを「移行」と呼びます。どの学類・専門学群に移行するかは、本人の志望と、入学後の成績や適性に基づいて決まります。文系、理系といった入試の際の選抜区分に関わらず、総合学域群からは、体育専門学群及び学際サイエンス・デザイン専門学群を除くどの学類・専門学群にも移行する道があります。

教育上の目的 / Educational Objectives

総合学域群は、文系又は理系の区分のみを定めて行う入学者の選抜（総合選抜）による入学者の移行までにおける修学支援を通じて、学生が幅広い学問分野から専門分野を選択することに資するとともに、キャリアを主体的に切り拓く力の涵養に資することを教育上の目的としています。



■ 入学後の履修 / Post-enrollment Studies ■

総合学域群の学生は、総合科目、外国語、情報などの共通科目と、学類・専門学群が開設する専門導入科目を中心に履修します。1年次はまだ学類・専門学群に所属していませんが、それらが編成する教育課程の一部を履修します。

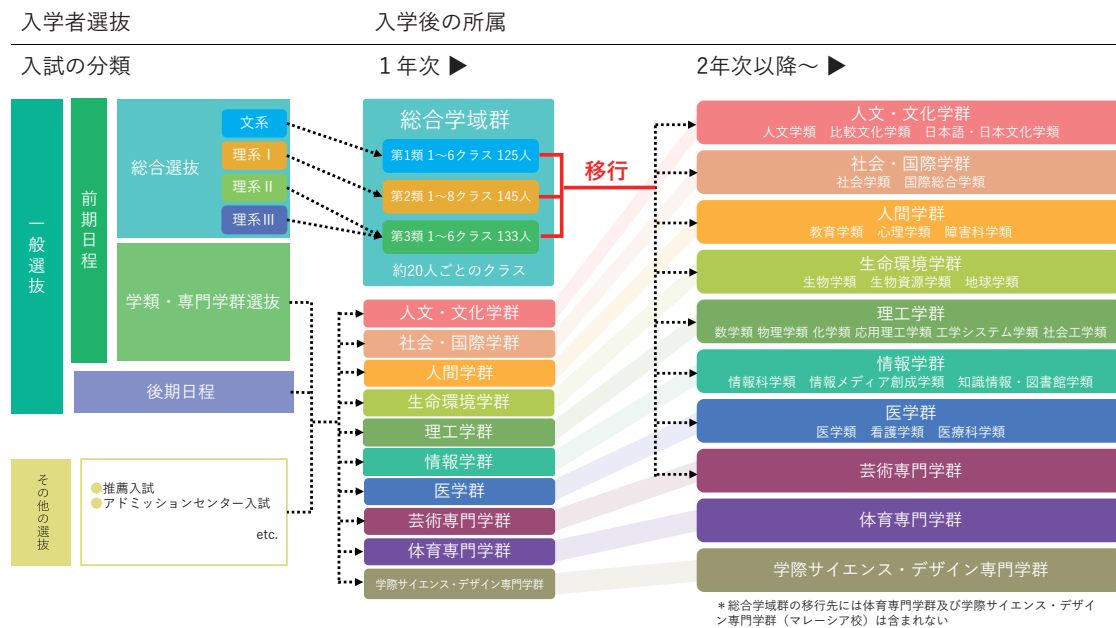
総合学域群の学生が全学共通の必修科目以外で具体的にどの科目を履修するかは、学生本人の関心や、どの学類・専門学群を2年次以降の移行志望先とするかにより大きく異なります。各学問分野の入門的な科目となっている専門導入科目は、移行志望先を決めるのに重要な役割を果たします。

■ 移行手続き / Transition Procedures ■

1年次の3月に、2年次以降に所属する学類・専門学群が決まります。移行先は、学生が設定する志望順位と、学類・専門学群ごとに設定される受入順位の組み合わせによって決定されます。

学生が志望できる学類・専門学群の数には制限がありませんが、志望先によって指定科目の履修が必要となる場合があります。

各学類・専門学群の受入順位は、各学生が履修した科目の成績を総合した成績点と、英語外部試験や適性試験といった成績点以外の要素も加味して決定されます。また、特定の選抜区分で入学した学生を優先して受け入れる学類もあります。



入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|---------|--|------------------------------------|
| 求める人材 | 総合選抜においては、大学において学問的な俯瞰をしながら専門分野を定め、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な基礎学力に裏打ちされた多様な知的な好奇心と旺盛な学習意欲を有する人材を求めます。そのために入学前に、高等学校までの基礎学力をまんべんなく身につけると共に、自分の知的な好奇心を自由に深めていく柔軟な知性と感性を備えた人材を求めます。 | |
| 入学者選抜方針 | 共通の選抜方針：外国語及び受験生が得意とする領域における思考力、判断力、表現力を重視しつつ、高等学校で学ぶ基礎・基本的な学力を全般的に評価します。 | |
| | 文系 | 入学の時点で、文科系志向の学生を選抜します。 |
| | 理系Ⅰ | 入学の時点で、物理学の素養を必須として理科系志向の学生を選抜します。 |
| | 理系Ⅱ | 入学の時点で、特定の分野にとらわれない理科系志向の学生を選抜します。 |
| 理系Ⅲ | 入学の時点で、数学に重点をおいて理科系志向の学生を選抜します。 | |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | | |
|-----------|--|--|
| 学修支援 | <p>総合学域群の学生を支援するアカデミックサポートセンターを設けています。クラス担任だけでなく、アカデミックサポートセンターの教員や専門スタッフが連携し、学修面や生活面に関する面談などを通して、学生一人ひとりの学修をきめ細かくサポートします。アカデミックサポートセンターで常時応じている個別履修相談では、学生の興味関心や志望に合わせた履修計画や科目選択を提案しています。</p> <p>また、学生の移行志望先の選択肢を広げることを目的として、数学、物理、化学、生物などの基礎的科目に関する個別の学修相談を担当するラーニングサポーターを配置しています。ラーニングサポーターは大学院生が担っており、学生の日常的な学びを後押しします。</p> | |
| 学生同士の交流機会 | <p>初年次学生向けのガイダンス及びケアを行うファーストイヤーセミナーにおいて、「新入生のための知的な好奇心マップ」を活用したグループワークや複数クラスでの合同授業を実施することにより、学生同士の交流を促進しています。互いの関心や視点に触れることで、自らの興味・関心をさらに深め、新しい学びの方向性を見出す契機になっています。</p> <p>また、夏季ガイダンスでは、移行した先輩学生との座談会を実施し、移行後の自身の姿を具体的に描く機会を設けています。さらに、3月には、新たな学びへ向かう節目として移行式を開催し、学生同士のつながりを深めるとともに、先輩学生との交流を通して移行後の学びを支えるコミュニティを育てています。</p> | |
| 教員との交流機会 | <p>キャリアや進路、各学類・専門学群の教育内容等に関する相談に応じる教員として、アカデミックコーディネーター及びアカデミックアドバイザーを配置しています。また、春季・夏季ガイダンスでは、各学類・専門学群の教員が自身の研究室や研究内容を紹介し、学問分野の広がりや研究の魅力を伝えることで、学生の学修意欲を高めています。</p> <p>さらに、広い学問的な視野からの学際的研究を行う基礎力を養う機会として、学生の自由な発案による「学際研究プロジェクト」を設けています。研究分野に関係する教員のサポートを受けながら研究を遂行し、発表することで、学生の問題意識を育てるとともに、移行後の学修及び研究活動等に主体的に取り組むための素地を形成しています。</p> | |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

クラス連絡会を年2回開催し、学生と教員が率直に意見交換を行うことで、要望等への対応や改善に努めています。

また、ガイダンスなどの各種取組の実施後や移行直前及び移行後の各年次に、アンケート調査を実施することで、継続的に学生の意見を収集しています。収集した意見及び分析結果は、総合学域群運営委員会において検討し、取組の質の保証と持続的な改善を組織的に図っています。

人文・文化学群

School of Humanities and Culture 1-1

人文学類

College of Humanities 1-2

比較文化学類

College of Comparative Culture 1-7

日本語・日本文化学類

College of Japanese Language and Culture 1-14

人間学群

School of Human Sciences 3-1

教育学類

College of Education 3-2

心理学類

College of Psychology 3-8

障害科学類

College of Disability Sciences 3-14

社会・国際学群

School of Social and International Studies 2-1

社会学類

College of Social Sciences 2-2

国際総合学類

College of International Studies 2-22

社会国際学教育プログラム

The Undergraduate Program of International Social Studies 2-33

生命環境学群

School of Life and Environmental Sciences 4-1

生物学類

College of Biological Sciences 4-2

生物資源学類

College of Agro-Biological Resource Sciences 4-8

地球学類

College of Geoscience 4-18

理工学群

School of Science and Engineering 5-1

数学類

College of Mathematics 5-2

物理学類

College of Physics 5-7

化学類

College of Chemistry 5-13

応用理工学類

College of Engineering Sciences 5-19

工学システム学類

College of Engineering Systems 5-24

社会工学類

College of Policy and Planning Sciences 5-32

総合理工学位プログラム

Bachelor's Program in Interdisciplinary Engineering 5-38

情報学群

School of Informatics 6-1

情報科学類

College of Information Science 6-2

情報メディア創成学類

College of Media Arts, Science and Technology 6-15

知識情報・図書館学類

College of Knowledge and Library Sciences 6-21

医学群

School of Medicine and Health Sciences 7-1

医学類

College of Medicine 7-2

看護学類

College of Nursing 7-8

医療科学類

College of Medical Sciences 7-18

体育専門学群

School of Physical Education,
Health and Sport Sciences 8-1

芸術専門学群

School of Art and Design 9-1

学際サイエンス・デザイン専門学群

School of Transdisciplinary Science and Design 10-1

グローバル教育院

School of Integrative and Global Majors 11-1

地球規模課題学位プログラム

Bachelor's Program in Global Issues 11-2

人文・文化学群

School of Humanities and Culture

人文学類

College of Humanities

- 学士（人文学）
 - Bachelor of Arts
-

比較文化学類

College of Comparative Culture

- 学士（比較文化）
 - Bachelor of Arts
-

日本語・日本文化学類

College of Japanese Language and Culture

- 学士（文学）
 - Bachelor of Arts
 - 学士（日本語教育）
 - Bachelor of Arts in Japanese Language Education
-

人材養成目的 / Educational Objectives

人文系と文化系の多様な学問領域における古今東西の高度な専門知識を受け継ぎ、豊かな教養、国際的視野、優れたコミュニケーション能力で新たな知を創出して人類の根源的な問題に取り組み、広く人類の文化と社会に貢献できる人材を養成します。

人文学類

College of Humanities

- 学士（人文学）
- Bachelor of Arts

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人間が引き起こすさまざまな社会問題や人類が直面する課題に対し、哲学、史学、考古学・民俗学、言語学などの人文学の知見を基盤にして想像力をもって主体的に応え、また、人文学をそれに耐えうる学問分野として維持し発展させることができる人材を養成します。

| | |
|----------------|---|
| 養成する人材像 | <ul style="list-style-type: none"> - 哲学、史学、考古学・民俗学、言語学などの人文学諸分野に関する専門知識と方法論を修得し、人文学的見地から調査・研究を行うことができる人材を養成します。 - 論理的かつ効果的に自分の考えを他者に伝え、広い視野から他者の考えを理解することができる人材を養成します。 - 人文学的知見を基盤とした想像力を働かせながら、人間社会の課題の把握とその解決に主体的かつ協同的に取り組むことができる人材を養成します。 - 地域社会から国際社会におけるさまざまな領域でリーダーや中核的な存在となれる人材を養成します。 |
| 卒業後の進路 | <p>研究者、国際公務員、国家公務員、地方公務員、教員、学芸員などの職を目指すことができます。起業したり、一般企業でリーダーとして活躍する道もあります。</p> |

学位授与の方針 / Diploma Policy

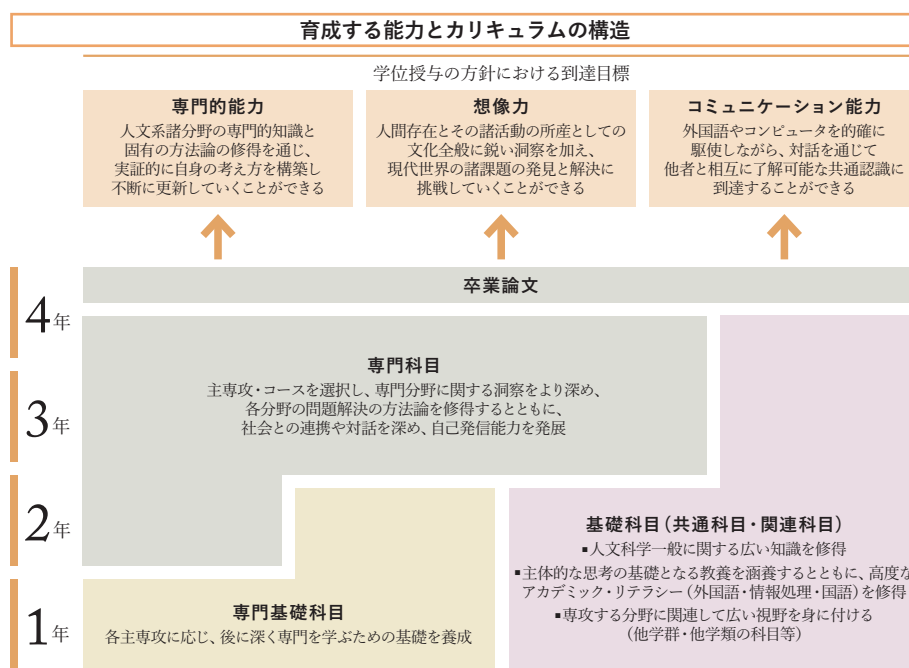
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（人文学）の学位を授与します。

| | | |
|---------------------|--|--|
| 知識・能力（専門 コンピテンス） | 1. 人文学の知識・ 研究手法 | 人文系学問分野の専門的知識と固有の方法論を修得し、文献や原資料、フィールドワークなどに基づいて調査や研究を行うことができる。 |
| | 2. 人文学的思考力 | 人文系学問分野の専門的知識と固有の方法論をもって「人間とは何か」という問いにアプローチし、得られた知見を発信することができる。 |
| | 3. ディスカッション力 | 外国語やコンピュータを的確に駆使しながら、他者に自らの考えを論理的に伝達するとともに、他者の考えを十分に理解し、対話を通じて相互に理解可能な共通認識に到達することができる。 |
| | 4. 想像力 | 人文学的思考を基盤とした想像力によって、人間社会の諸課題を把握し、その解決に取り組むことができる。 |
| 学修成果の評価に 関する方針 | <p>卒業論文を学修の集大成として位置付け、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかどうかを卒業論文、その執筆過程、最終口頭試問により総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 卒業論文の審査は指導教員のほか、当該分野を専門とする教員1名以上によって行い、学修成果の達成状況を確認します。 - コースごとに開講される授業科目「研究-a/-b」における卒業研究への取り組みを通じ、学修成果の達成状況を当該コースの複数の教員で評価します。 - コースごとに卒業論文に対する口頭試問を実施し、学修成果の達成状況を当該コースの複数の教員で評価します。 - 上記の結果を総合的に判断し、学修成果の最終的な評価を行います。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（人文学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | | |
|--------------------------------|---|---|
| <p>教育課程の編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>哲学、史学、考古学・民俗学、言語学という4つの主専攻を置き、各主専攻には専門分野毎にコース（全体として11コース）を設け、1年次から卒業まで段階的に専門知識を深く身につける学修カリキュラムを提供します。開設科目は専門基礎科目と専門科目に大別されます。専門基礎科目は概論・概説系の科目で、主に専門コンピテンスの中の「人文学の知識・研究手法」に関わる内容を学びます。専門科目は講義や演習・実習系の科目で構成され、4つの専門コンピテンスに関わる内容を学びます。特に、講義系の科目では「人文学の知識・研究手法」に焦点をあてる一方、演習・実習系の科目では「人文学的思考力」、「想像力」に重きをおき、あわせて「ディスカッション力」の向上にも注力します。そして、学修の集大成として卒業論文を執筆します。</p> <p>順次性に関する方針</p> <p>教育課程前半では、専門分野に関する基礎的な能力を養いつつ、「総合智教育」の理念に基づいて豊かな教養を涵養することを重視します。教育課程後半では専門分野に関する洞察をより深め、卒業研究につながる教育内容を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次から2年次にかけては、「専門基礎科目」などを通じて、人文学に関する広い知識と専門を学ぶための基礎力の獲得に重点をおきます。 - 3年次からはコースに所属し、「専門科目」の講義や演習・実習を通して各分野の研究手法を身に付け、「人間とは何か」という問題意識のもと、人文学に関する理解を深めます。また、人文学的視点から人間社会の諸問題を捉える視点を持ち、その解決に関心をはらうことを意識します。 - 4年次には3年次までに身につけた専門的能力や問題意識に基づき学びの集大成を行います。具体的には、各コースが開設する「研究-a/-b」という科目において卒業研究に取り組み、卒業論文を完成させます。 | <p>主専攻・コースの構成</p> <p>哲学主専攻 哲学・倫理学 宗教学</p> <p>史学主専攻 日本史学 ユーラシア史学 歴史地理学</p> <p>考古学・民俗学主専攻 先史学・考古学 民俗学・文化人類学</p> <p>言語学主専攻 一般言語学 応用言語学 日本語学 英語学</p> |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>人文学の知識や研究手法を体系的に学び、卒業研究につなげていけるよう、全員3年次からコースに所属して専門性を深めていくという教育体制をとっています。これにより、教員は学生の学修状況を詳しく把握し、学修の進展に応じて適切な課題を与えることが可能となっており、また、学生は常に教員や他の学生とディスカッションを活発に行う環境におかれています。さらに、一定の範囲内で他コースや他主専攻、他学類の授業を履修することも可能となっており、人文学的知見を応用することや社会に関心を持つことにつながる幅広い学びの機会が用意されています。</p> | |

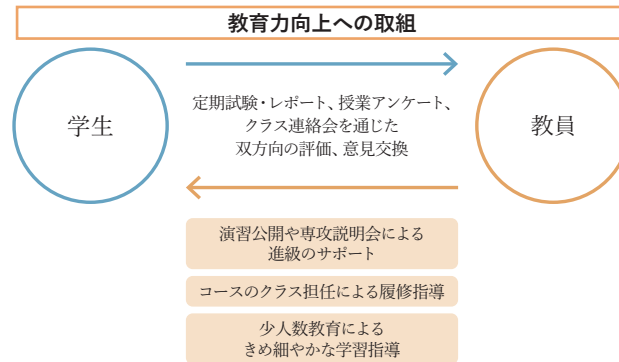


入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|----------------|--|--|
| 求める人材 | 人文系の学問に必要な論理的な思考力と表現力を十分に持つと同時に、世界の多様な文化や歴史に対して開かれた関心を持ち、自律的な学習と批判的な考察を通して問題を自ら発見し解決していく能力と意欲を有する人材。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 入学後の学習に必要な基礎学力と思考力を十分に持ち、人文系の学問に取り組むことのできる人材を選抜します。 |
| | 個別学力検査等後期日程 | 論理的な思考力と表現力を持つと同時に、旺盛な知識欲と探求心を有し、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校における学習の基礎をしっかりと身につけた志願者の中から、個性豊かな課題意識と向上心を持ち、人文系の学問への適応性を示す人材を選抜します。 |
| | AC入試 | 人文系の学問に関わる専門知識を主体的に吸収し、自己の判断力を磨いていく能力と創造的な問題解決能力を有する人材を選抜します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 人文系の学問に強い関心を抱くと同時に、旺盛な知識欲と探求心を持ち、よりグローバルな観点から新たな問題提起をなし得る発展性のある人材を選抜します。 |
| | 外国学校経験者特別入試（第1種） | 人文系の学問に関する強い関心と論理的思考力を持ち、入学後の学業遂行に必要な知識と日本語能力を備えている者を選抜します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-------------------------|---|
| <p>学修支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 1人の教員が1年次から4年次までを通して担当するクラス担任制と並行して、3年次以降は11コース毎にコースのクラス担任もつき、専攻に即した履修指導を行っています。 - 1・2年生のために、演習公開や専攻説明会を実施し、3年次での主専攻・コースへの進級が円滑に進むようサポートしています。 - 大学院進学などの勉学の動機付けになるように、3年次の成績優秀者を表彰しています。 |
| <p>学生同士の交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 学生主体の卒業論文発表会や卒業論文中間発表会を実施し、学年をまたいで学生同士が刺激しあう環境を整えています。 |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 年2回のクラス連絡会を通じて学生・教員間の意見交換を行うことにより、教育の質の持続的改善を図るシステムを確立しています。 |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 学修成果の集計結果、定期的な試験・レポートと授業アンケートの実施により、教育目標の達成度について教員と学生が双方向に評価し、教育力を向上するよう努めています。
- 演習授業や卒業論文指導では、少人数の学生を対象に、個々の学修の進展状況を十分に把握し、それに応じたきめ細かい指導を行っています。
- 実習授業では、報告書を作成するなどして成果を地域社会へ還元し、その評価を授業の改善に生かすことに努めています。

比較文化学類

College of Comparative Culture

- 学士（比較文化）
- Bachelor of Arts

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人類が築いてきた様々な文化を、「学際性」と「現代性」という問題意識のもとに比較・検討し、多様な学問的知識をもとに、社会的な課題についてそのコンテキストも含めて理解する力、様々なデータを読み解き、多様な知識と結びつけて批判的に検討する力、高度な外国語能力をもとに、多様な立場の人々と円滑にコミュニケーションする能力、そして自ら解決すべき課題を発見し、そこから現実的な解決策を導き出す能力を備えた人材を育成します。

| | |
|----------------|--|
| 養成する人材像 | 社会的な課題をそのコンテキストも含めて理解でき、様々なデータを読み解き、多様な知識と結びつけて批判的に検討できる力、高度な外国語能力をもとに多様な立場の人々と円滑にコミュニケーションできる力、自ら解決すべき課題を発見し、現実的な解決策を導き出すことのできる力を備えた人材。そうした力を備えて、地球規模課題に取り組む国際的な企業の社員や機関の職員、社会的な課題の解決に取り組む社会起業家、多様な人々の暮らしを支える公務員、知を探究しその成果を共有できる研究職や学芸員などの専門職や中高の教員、社会的な問題を言語化し共有するジャーナリストや編集者などとして多方面で活躍できる人材。 |
| 卒業後の進路 | <ul style="list-style-type: none"> - 地球規模課題に取り組むグローバル企業や国際機関の職員 - 社会的な課題の解決に取り組む社会起業家 - 多様な人々の暮らしを支える公務員 - 知を探究しその成果を共有できる研究職や学芸員などの専門職、中高の教員 - 社会的な問題を言語化し共有する、マスメディアや出版等に関わるジャーナリストや編集者 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（比較文化）の学位を授与します。

| | | |
|---------------------|---|---|
| 知識・能力（専門 コンピテンス） | 1. 文化事象の理解力 | 文化に関わる学問を中心に、多様な学問の基礎的な知識と方法、およびそれぞれの中心的な課題について、そのコンテキストも含めて理解する力 |
| | 2. 文化的現象の 分析力 | 文献や史資料、諸データの内容とロジックを分析的に理解し、多様な知識と結びつけて批判的に検討する力 |
| | 3. 文化的課題への 対応力 | 自ら解決すべき課題を発見し、それを適切にコンテキストに位置付け、多様なデータを収集したうえで、現実的な解決案を導き出す力 |
| | 4. 国際的なコミュニ ケーション能力 | 高度な外国語能力を身につけ、それを通じて自らの思考を言語化するとともに、他者の思考を理解し、両者を適切につなぐ能力 |
| | 5. 国際的な主体性 | 多様な多様な立場の人々と円滑にコミュニケーションし、協働を通じて課題解決を行う力 |
| 学修成果の評価に 関する方針 | <p>各授業科目、とりわけ語学等の必修科目では、担当教員がその科目を通して修得できるコンピテンスについて、修得状況进行评估します。</p> <p>4年次末には、単位取得を通じてコンピテンスの獲得状況を、卒業論文と口頭試問を通じて各コンピテンスが実際に身につけているかどうかを、それぞれ学修成果として総合的に評価します。卒業論文に関しては、中間発表会、および口頭試問をコース単位で丁寧に行うことで、学生が教育課程で目的とする能力を習得していることを確認します。</p> | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

教育課程の
編成方針**総合的な方針**

総合的な方針として、複数の学問領域を横断的に履修できる学際的で柔軟性に富む編成に留意し、学生ひとりひとりの問題意識とキャリア展望に対応する教育課程の構築を心がけます。また、国際的なコミュニケーション能力や異文化理解力を身につけるために、授業を含めた様々な機会を数多く提供するように努めます。

順次性に関する方針

また順次性に関する方針を以下のように定めます。1年次では主として入門的・概論的な科目や、共通科目の外国語を必修とし、複数の学問の基礎知識を広く身につけることを目指します。2年次では興味のあるいくつかの領域の専門導入基礎演習および専門科目を履修するとともに、国際コミュニケーション能力を確実に身に付けるために、中級の専門外国語科目を学び、領域やコースの選定に向けての指導を行います。3年次では領域・コースの所属を確定し、そこで提供されている専門科目や卒業論文基礎演習を本格的に履修します。4年次では卒業論文の制作を軸に、一つのテーマを巡って様々な文献の精読、フィールドワーク、ディスカッションを行い、教員との議論を通じて論理性を鍛えるとともに、学修の集大成である卒業論文を完成させます。コンピテンスと開設科目との対応については以下ようになります。

- 文化事象の理解力：文化に関わる学問を中心に、多様な学問の基礎的な知識と方法、およびそれぞれの中心的な課題について、そのコンテキストも含めて理解する力
科目区分：専門基礎科目（概論、専門導入科目）、専門科目（おもに講義、特講）
- 文化的現象の分析力：文献や史資料、諸データの内容とロジックを分析的に理解し、多様な知識と結びつけて批判的に検討する力
科目区分：専門科目（おもに演習、実習）
- 文化的課題への対応力：自ら解決すべき課題を発見し、それを適切にコンテキストに位置付け、多様なデータを収集したうえで、現実的な解決案を導き出す力
科目区分：専門科目（おもに実習、演習）
- 国際的なコミュニケーション能力：高度な外国語能力を身につけ、それを通じて自らの思考を言語化するとともに、他者の思考を理解し、両者を適切につなぐ能力
科目区分：専門科目（おもに語学科目、および海外諸地域を研究対象とした講義、演習）
- 国際的な主体性：多様な多様な立場の人々と円滑なコミュニケーションし、協働を通じて課題解決を行う力
科目区分：専門基礎科目、専門科目（学生の主体的参加、アイディアの共有、討論が求められる科目）

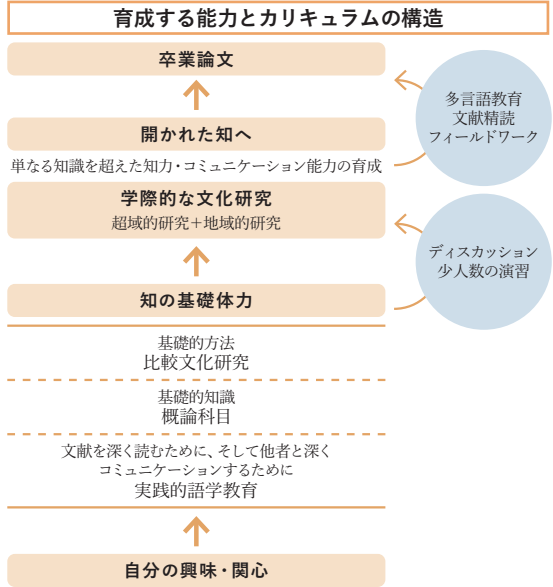
学修の方法
特色的な教育

教育方法

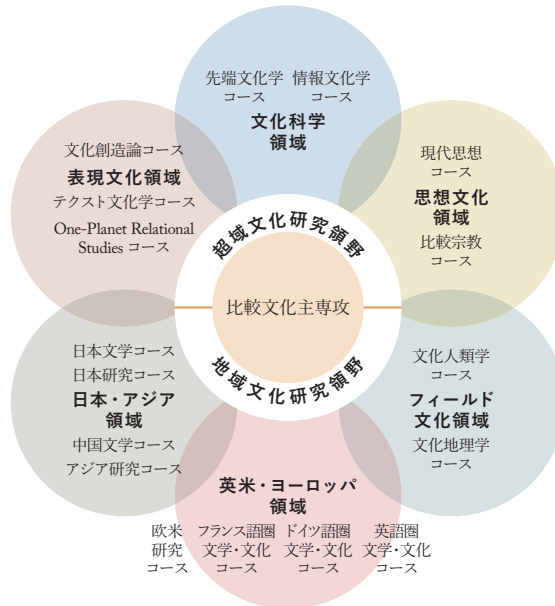
- 文化事象の理解力は、おもに講義科目を通じて修得します。
- 文化的現象の分析力は、講義科目に加え演習科目を通じて修得します。
- 文化的課題への対応力は、演習科目と実習科目を中心に修得します。
- 国際的なコミュニケーション能力は、おもに語学科目や講義科目、演習科目、および国際演習によって修得します。
- 国際的な主体性は、語学科目、演習科目、実習科目や国際研修、インターン関連科目によって修得します。

特色

- 大学院生の TA が積極的にアドバイスをすることで、学習意欲や研究の質向上に役立っています。
- 大学院留学生の TA が積極的に授業に参画することなどを通じて、留学生との交流、共同学習の場を設け、「国際性の日常化」に向けた努力をします。
- 授業中やオフィスアワー等授業外での学生と教員間の双方向でのやり取りを促進し、学習意欲や研究の質を向上させます。



比較文化学類のコスモス



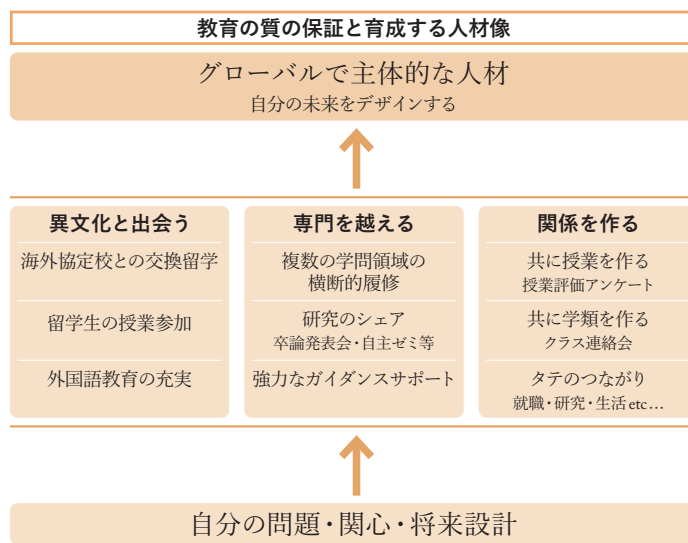
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|-----------------------|--|---|
| <p>求める人材</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 自らの問題意識を出発点として、さまざまな学問領域に関心を寄せながら、文化・社会について広く柔軟に学ぶ意欲を持つ人。 - 異文化理解に裏付けられたグローバル・コミュニケーション能力を身につけようとする人。 - 海外経験・社会経験などを通じて得た問題意識を学問的に深めたい人。 | |
| <p>入学者選抜方針</p> | <p>個別学力検査等前期日程</p> | <p>筆記試験（学力検査）を通して、文化・社会に強い関心と知識を持ち、学業遂行の上で必要な能力と知識を有する者を選抜します。特に勉学に対する意欲と論理的思考力、表現力を重視します。</p> |
| | <p>推薦入試</p> | <p>高校の評価書および筆記試験（小論文）・面接を通して、文化・社会に強い関心と知識を持ち、それを自分自身の言葉で表現する能力を重視して選抜します。</p> |
| | <p>AC 入試</p> | <p>書類審査および面接を通して、文化・社会に強い関心と知識を持ち、特定の専門分野について具体的で個性的なテーマを設定し、そのアプローチと内容に関して独自の研究成果を挙げている者を選抜します。</p> |
| | <p>国際バカロレア特別入試</p> | <p>書類審査および筆記試験（小論文）・面接を通して、自立して世界的に活躍できる人材を育成するため、本学類の教育を受けるのに必要な基礎学力を有し、探究心旺盛で積極性・主体性に富む人材を受け入れます。</p> |
| | <p>外国学校経験者入試</p> | <p>第1種）書類審査および筆記試験（小論文）・面接を通して、文化系の学問に関する強い関心と論理的思考力を持ち、入学後の学業遂行に必要な知識と日本語能力を備えている者を選抜します。</p> |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|--------------------|--|
| <p>学修支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 全学レベルの取り組み（ライティングサポート）等を紹介し、積極的な活用を勧めます。 - ファーストイヤーセミナーで、大学での学修に必要な基礎的な学修スキルや知識について紹介します。 - レポートや到達度テスト等を中心に、授業の達成度に関わるフィードバックを行います。 - 学年ごとのガイダンスで学修の進め方を説明するほか、1・2年次では必要に応じてクラス担任が、3・4年次ではコース教員が面談します。クラス担任・コース教員と学生委員会・学類長・支援室が継続的に学生について情報共有し、必要に応じてサポートします。 |
|--------------------|--|

| | |
|------------------------------|---|
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 新歓企画を通して、新入生や総合学域からの移行生が学類になじみ、学習意欲を高めるサポートをしています。 - 同様に、留学生に対して学類生をチューターとして雇用し、相互交流を促進し、学習意欲の向上に役立てています。 - オープンキャンパスや新歓行事を学生主体で企画・運営するものとする事で、主体的な参加を促し、学生間の交流を進め、学習意欲の向上に役立てています。 - 「比文プロジェクト」という学生主体の企画をサポートする仕組みを持っています。また学年ごとのガイダンスは学年全員が集まり、交流する機会となっています。 - 授業（演習・講義・卒論演習等）では積極的に学生間のディスカッションや協働作業を取り入れ、学年横断的な交流を促進し、研究の質の向上に役立てています。 - 大学院生を TA に雇用し、積極的に受講者にアドバイスをしてもらうことで、学習意欲や研究の質の向上に役立てています。 |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 1・2年次の学生に対してはクラス担任との積極的なコミュニケーションを通して、学習意欲や研究の質を高めます。 - 学問探究チュートリアルの履修を勧め、そこで教員や他の学生と関わることで、自らの関心を広げ、研究意欲を向上させます。 - 1・2年次を中心に、クラス連絡会を通して学生の抱える問題を教員と共有し、学習意欲や研究の質を高めるための手立てを共に考えます。 - 3・4年次では、領域・コースでの卒業論文に向けた指導を行うなかで、学生と教員間の交流を促進します。 - オフィスアワーを周知するとともに、通常の授業においても、比較的少人数授業が多いことを利用し、授業中や授業外での学生と教員間の双方向でのやり取りを促進し、学習意欲や研究の質を向上させます。 - 新歓やオープンキャンパス等の学類のイベントに学生に積極的に関わってもらう中で、学生と教員のコミュニケーションをより円滑にし、学習意欲を向上させます。 |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- カリキュラム・ガイダンス委員会において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証します。
- 毎年コンピテンス取得状況の確認を行うとともに、クラス連絡会を実施し、カリキュラムが教育課程目的や学生の状況にあっているかをチェックします。
- すべての授業に関して学生による授業評価アンケートを行い、これを確実に担当教員にフィードバックし、教育の質向上に反映させます。
- 全ての授業に対してコース・領域・カリキュラム委員と数段階でシラバスチェックを行うことで、授業内容が教育課程目的から見て適切か、学生に必要な情報を提供しているか、実情を反映しているかをチェックします。

日本語・日本文化学類

College of Japanese Language and Culture

- 学士（文学）
- Bachelor of Arts
- 学士（日本語教育）
- Bachelor of Arts in Japanese Language Education

人材養成目的 / Program Educational Objectives

日本における言語・文化事象を総合的に捉え、グローバルな視点で理解する力を養います。これにより、多文化共生社会を見据えたうえで、異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる文化の創造者たる人材を養成します。

| | |
|----------------|--|
| 養成する人材像 | <p>日本語・日本文化学類では、日本や世界の言語や文化に関する深い理解を備え、これからの日本社会・国際社会が直面する様々な課題を解決する能力をもった、以下のような多様な人材を養成します</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日本語や日本文化に対する専門的な知識を身につけ、国内外で日本語教員として活躍できる人材 - 中学校・高等学校における外国人児童生徒への日本語教育についても対応できる国語科教員として活躍できる人材 - 日本国内における外国人コミュニティ等を巡る問題に取り組み解決する知見を持ち、公務員、NPO等の職員として活躍できる人材 - 日本語や日本文化への深い理解を生かし、一般企業において言語、価値観、非言語コミュニケーションに由来する諸問題の解決に貢献できる人材 - 日本語・日本文化に関連する分野の研究者として活躍できる人材 |
| 卒業後の進路 | 日本語教員、国語科教員、公務員、NPO等の団体職員、一般企業、研究者 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（文学）の学位を授与します。

| | | |
|---------------------|---|--|
| 知識・能力（専門 コンピテンス） | 1. 言語事象 1 | グローバルな視点を前提に、言語事象を構造的に分析することができる |
| | 2. 言語事象 2 | グローバルな視点を前提に、日本における言語事象を社会・人間との関わりで捉えることができる |
| | 3. 文化事象 1 | グローバルな視点を前提に、文化事象をテキスト内在的に捉えることができる |
| | 4. 文化事象 2 | グローバルな視点を前提に、日本における文化事象を社会・人間との関わりで捉えることができる |
| | 5. 異文化間課題解決能力 | 言語や文化の異なりに由来する様々な課題を理解し、解決していくことができる |
| | 6. 社会的実践力 | 異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、実践的に解決していくことができる |
| 学修成果の評価に 関する方針 | 本学類での学修・研究活動の集大成としての卒業論文を重視した学修成果の評価を行います。卒業論文それ自体の評価と合わせて、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかを、卒業論文の主査・副査を中心とした指導体制により評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（文学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|---------------|---|
| 教育課程の 編成方針 | <p>総合的な方針</p> <p>すべての学生が言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関する知識を幅広く学ぶように一専攻制を採用しています。また、知識教育だけでなく、実習やインターンシップを通して学ぶ実践性を重視した授業科目を提供しています。さらに、海外で学ぶ国際研修、留学生とともに調査・研究を行う協働授業、留学生をサポートするためのチューター制度を通して、現地・現場はもちろん、日常の学習の場を通して多文化共生のあり方を理解できるよう教育課程を編成しています。</p> <p>AE13 で始まる科目群（日本語、多文化共生・日本語教育、日本文化）が主に言語事象 1・2、文化事象 1・2 のコンピテンスに、AE14 で始まる科目群（国際・協働）が主に異文化間課題解決能力、社会的実践力のコンピテンスに対応するように設計されています。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 年次…共通科目および他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。 - 2 年次…専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。さらに、実習、留学生との合同授業、国際研修などの実践的な科目を通して、異言語・異文化との接触の中で、自国語・自文化に対する問題意識を醸成します。同時に、専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力（特に英語力）を身につけます。 - 3 年次…演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究方法を身につけます。さらに、実習などの実践的な科目において、問題意識を深め、課題解決のための応用力・実践力を向上させます。 - 4 年次…卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。 <p>実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学年別説明会を開催し、カリキュラムに関して定期的な全体指導を行います。 - 3 年次に総合演習を設けて、専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となるような指導を行います。複数教員によるグループ指導によって各教員の専門性を生かしつつ総合的な研究指導を行うとともに、卒業論文作成で学生に求められる個別能力の強化を目指して、チュートリアル指導も提供します。 - 海外で実施する国際研修やインターンシップ、国内で行うフィールド実習、さらに情報リテラシーなどの授業を通して、実践的な場面でのコミュニケーション能力や課題解決能力の獲得をめざします。 |
|---------------|---|

| | |
|---------------------------------------|---|
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 2年次秋学期から卒業論文執筆に向けた総合演習導入・総合演習を開講し、言語事象や文化事象に関する分析能力や研究手法を確実に身につけられるよう支援します。 - 国内外における実習科目を開講し、異文化間やコミュニティにおける社会的な課題に関する実践的な能力を身につけられるよう支援します。 - 少人数という本学類の特色を活かして学生・教員間の緊密な交流を行い、実習や卒論ゼミなどにおいて、きめ細かい指導を実施しています。 |
|---------------------------------------|---|

| | | 育成する能力とカリキュラムの構造 | | | |
|--------|---|--|---|---|---|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
| 専門科目 | 総合的な分析能力と問題発見、解決能力の統合 多様な背景の人たちと課題を共有し、ともに解決していくことのできる能力 | | | 総合演習導入、総合演習I,II | 卒業論文演習I,II、卒業論文 |
| | グローバルな視点から日本における言語・文化事象を総合的に捉えるための専門知識 | | 国際・協働科目群 共同研究、対話実習、教育実習、フィールド実習、国際研修、インターンシップ、ほか | 日本語科目群 日本語の音声・音韻、日本語の文法、日本語の語彙、日本語の談話、日本語の語用論、言語と文化、ほか | 多文化共生・日本語教育科目群 日本語教育文法論、日本語技能指導論、日本語教育心理学、日本語教育史、海外の日本語教育と日本語学、多文化の中の日本、ほか |
| 専門基礎科目 | 日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方に対する基礎的な知識と明確な問題意識の醸成 | 日本語教育学特別演習、海外語学研修 | | | |
| | | 専門英語A,B,C | | | |
| 科目基礎 | 広い視野からの専門分野の発見と位置づけ | 日本語・日本文化研究法、概論科目、人文学類、比較文化学類、社会学類社会学主専攻の専門基礎科目 | | | |
| | | 学際科目（専門導入科目）： 共生のための社会言語学、共生のための日本語教育、共生のための人権学、共生のための歴史学、日本文学と文化 | | | |
| | | 共通科目 | | | 関連科目 |

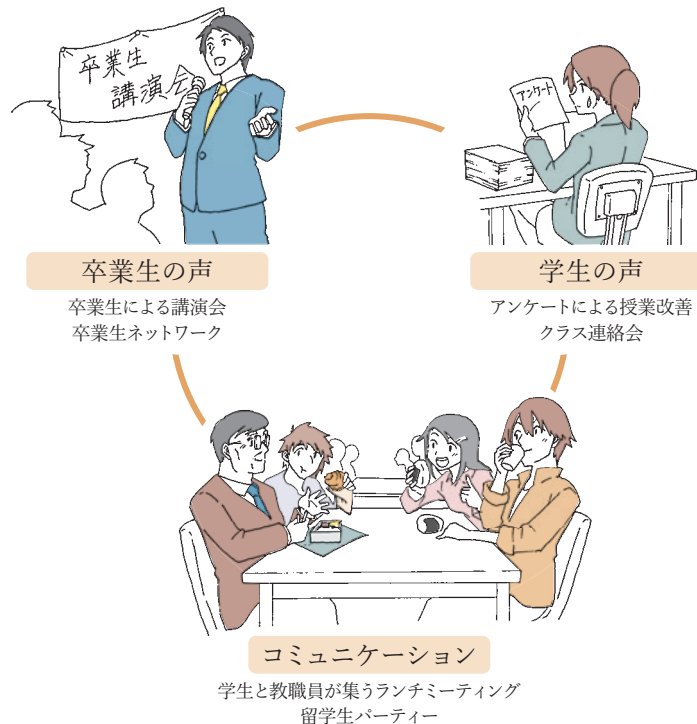
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|---------|--|---|
| 求める人材 | 旺盛な知的好奇心を持ち、日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に対する明確な問題意識とそれに対応した能力を有する人材を求めています。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に関する学問に取り組むための基礎学力を十分に持ち、それに基づく思考力・応用力を有する人材を選抜します。（共通テスト及び個別学力検査） |
| | 推薦入試 | 高等学校における平素の学習や活動の成果などを基に、志願者の能力・適性を総合的に評価します。明確な問題意識と勉学への意欲とを持ち、日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に関する専門領域に対する適応性を示す人材を選抜します。（小論文及び面接） |
| | AC入試 | 日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方について独自の視点を持ち、自ら問題を見出し、解決する能力を重視して選抜します。（第1次選考：書類審査、第2次選考：面接・口述試験） |
| | 国際バカロレア特別入試 | 国際バカロレア資格を取得した者を対象として、日本語や日本文化、多文化共生社会のあり方に対する旺盛な知的好奇心と明確な問題意識を持ち、国際的な視野に立って自ら問題を見出し、解決する能力を有する人材を選抜します。語学力を含めたコミュニケーション能力を重視し評価します。（書類審査、面接・口述試験及び小論文） |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-----------|--|
| 学修支援 | <ul style="list-style-type: none"> - 1人の教員が1年次から4年次までを一貫して担当するクラス担任制により、個々の学生の学業と生活を継続的に支援しています。 - 登録日本語教員資格取得に関する説明会を実施します。 |
| 学生同士の交流機会 | <ul style="list-style-type: none"> - 日本語・日本文化学類所属の留学生のためのチューター制度を学類として支援・推進しています。 - 留学生、海外からの訪問学生団等との交流会を学類の学生主体で実施しています。 - 総合学域群からの移行生との交流会を実施します。 |
| 教員との交流機会 | <ul style="list-style-type: none"> - 年に数回、教員を交えた「ランチミーティング」を実施しています。 - クラス連絡会において教員との意見交換を行います。 - 国内外での実習期間中に教員との授業科目の枠を超えた情報交換等もできます。 |

質の高い教育を支える学生・教職員間の緊密な交流



イラスト…橋元大野君(日本語・日本文化学類生)の原図をもとに一部改変

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 学生の学修成果とその達成度を適正に評価できるよう、学類では成績評価ガイドラインを定め、ウェブサイトで公開しています。成績評価基準を明確にして、学生と教員がともに学修の成果を振り返ることで、適切な指導につなげています。
- 学生による授業評価を行うとともに、それに基づき全教員が「授業改善計画書」を作成し、公開しています。この一連のプロセスにより、カリキュラムおよび授業内容の向上のための継続的なフィードバック体制を作っています。
- 学類の諸活動や教育成果などを、ホームページ、フェイスブック、エックスなどの媒体を通して、外部に向けて積極的に発信しています。
- 学類所属の教員による FD 活動を定期的に行い、つねに学類の教育の質の検証と改善をはかっています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（日本語教育）の学位を授与します。

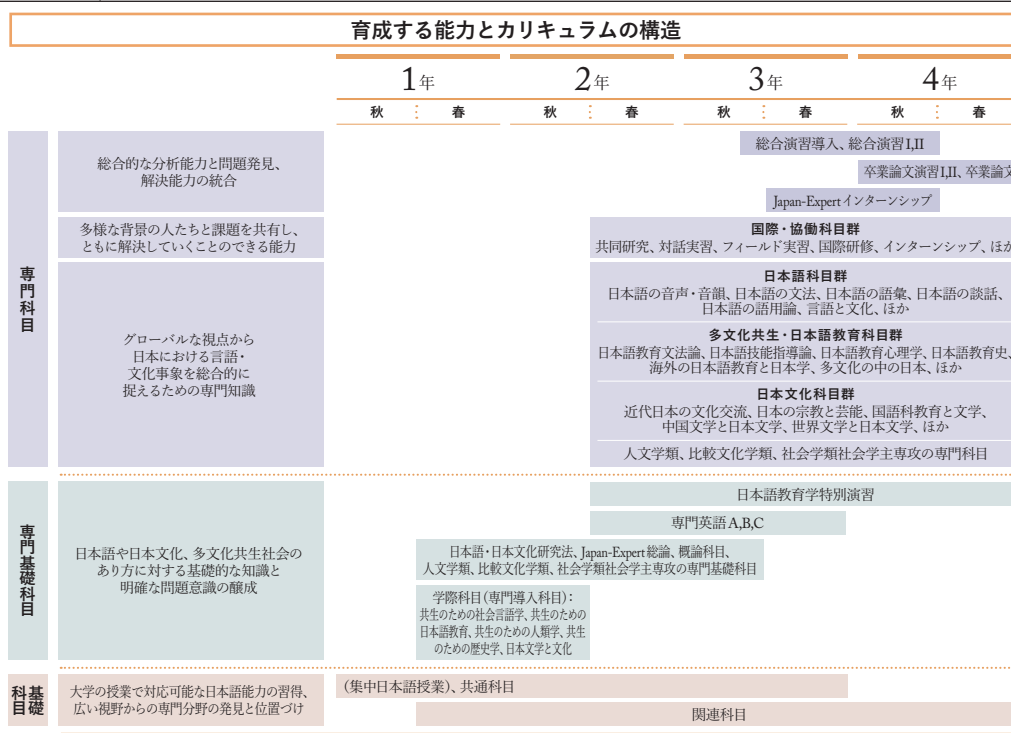
| | | |
|-----------------|---|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 言語事象 1 | グローバルな視点を前提に、言語事象を構造的に分析することができる |
| | 2. 言語事象 2 | グローバルな視点を前提に、日本における言語事象を社会・人間との関わりで捉えることができる |
| | 3. 文化事象 1 | グローバルな視点を前提に、文化事象をテキスト内在的に捉えることができる |
| | 4. 文化事象 2 | グローバルな視点を前提に、日本における文化事象を社会・人間との関わりで捉えることができる |
| | 5. 異文化間課題解決能力 | 言語や文化の異なりに由来する様々な課題を理解し、解決していくことができる |
| | 6. 社会的実践力 | 異言語・異文化を背景とする人たち、次世代の人たちと課題を共有し、実践的に解決していくことができる |
| | 7. リーダーシップ力 | 専門知識に基づき、地域社会のリーダーとなって、企業活動・市民活動をけん引することができる |
| 学修成果の評価に関する方針 | 本学類での学修・研究活動の集大成としての卒業論文を重視した学修成果の評価を行います。卒業論文それ自体の評価と合わせて、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかを、卒業論文の主査・副査を中心とした指導体制により評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（日本語教育）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|---------------|--|
| 教育課程の 編成方針 | <p>総合的な方針</p> <p>すべての学生が言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関する知識を幅広く学ぶように一専攻制を採用しています。また、知識教育だけでなく、実習やインターンシップを通して、実践力・リーダーシップ力を育成する授業科目を提供しています。</p> <p>さらに、海外で学ぶ国際研修や、多様な言語・文化的背景を持つ学生とともに調査・研究を行う協働授業を通して、多文化共生のあり方を理解できるよう教育課程を編成しています。</p> <p>AE13 で始まる科目群（日本語、多文化共生・日本語教育、日本文化）が主に言語事象 1・2、文化事象 1・2 のコンピテンスに、AE14・AE18 で始まる科目群（国際・協働、Japan-Expert インターンシップ）が主に異文化間課題解決能力、社会的実践力、リーダーシップ力のコンピテンスに対応するように設計されています。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 年次…入学後半年間は集中日本語教育を受け、その後は、共通科目および他学類のカリキュラムから幅広く専門基礎科目を履修することで、広い視野のなかで、自らの専門分野を発見し位置づけます。 - 2 年次…専門科目を通して、言語学、日本語教育学、文化人類学、歴史学、文学などに関するバランスのとれた知識の獲得を目指します。さらに、実習や国際研修などの国内外での学修活動を通して、より広い視野の中で、日本語・日本文化に対する問題意識を醸成します。同時に、専門英語などを通して、研究および発信ができる外国語力（特に英語力）を身につけます。 - 3 年次…演習などのより専門的な科目を履修しながら、卒業研究のテーマ設定に向けて、総合的かつより高度な知識と研究方法を身につけます。さらに、「Japan-Expert インターンシップ」等の実習を通して問題意識を深め、課題解決のための応用力・実践力・リーダーシップ力を向上させます。 - 4 年次…卒業論文執筆を通して、全人格的・総合的な分析能力を高め、問題発見、解決能力の統合をめざします。 <p>実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 日本語教育コーディネーターを配置し、学修等について支援します。さらに、学年別説明会を開催し、カリキュラムに関して定期的な全体指導を行います。 - 3 年次に総合演習を設けて、専門科目の学修から卒業論文作成への架け橋となるような指導を行います。複数教員によるグループ指導によって各教員の専門性を生かしつつ総合的な研究指導を行うとともに、卒業論文作成で学生に求められる個別能力の強化を目指して、チュートリアル指導も提供します。 - 実習やインターンシップの説明会を行うなど学生への情報提供に努め、参加費用のための奨学金の獲得にも力を入れています。 |
|---------------|--|

| | |
|-------------------------|--|
| 学修の方法 特色的な教育 | <ul style="list-style-type: none"> - 3年次から卒業論文執筆に向けた総合演習導入・総合演習を開講し、言語事象や文化事象に関する分析能力や研究手法を確実に身につけられるよう支援します。 - 国内外における実習科目やインターンシップ科目を開講し、異文化間やコミュニティにおける社会的な課題に関する実践的な能力やリーダーシップ力を身につけられるよう支援します。 - 少人数という本学類の特色を活かして学生・教員間の緊密な交流を行い、実習や卒論ゼミなどにおいて、きめ細かい指導を実施しています。 |
|-------------------------|--|



入学者受入れの方針 / Admission Policy

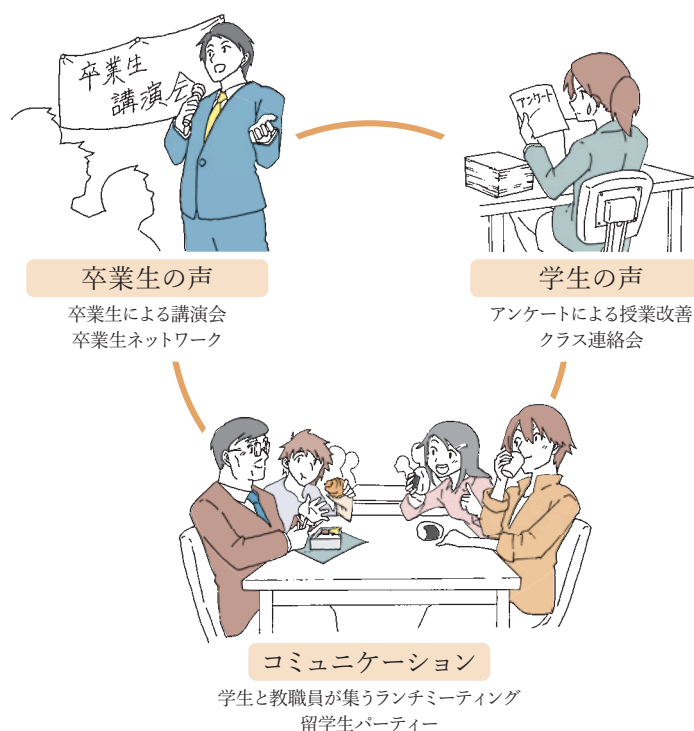
| | | |
|----------------|--|--|
| 求める人材 | 旺盛な知的好奇心を持ち、日本語や日本文化、さらに多文化共生社会のあり方に対する明確な問題意識とそれに対応した能力を有する人材を求めています。 | |
| 入学者選抜方針 | Japan-Expert（学士）プログラム | 日本語、日本文化に幅広い興味を有し、将来、国内外において日本での就学・就労や日系企業での就労を希望する者に日本語を教える日本語教師への適応性を有する人材を選抜します。（書類審査及び面接・口述試験） |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-------------|--|
| 学修支援 | <ul style="list-style-type: none"> - 1人の教員が1年次から4年次までを一貫して担当するクラス担任制により、個々の学生の学業と生活を継続的に支援しています。 - 登録日本語教員資格取得に関する説明会を実施します。 |
|-------------|--|

| | |
|------------------------------|--|
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 日本語・日本文化学類所属の留学生のためのチューター制度を学類として支援・推進しています。 - 留学生、海外からの訪問学生団等との交流会を学類の学生主体で実施しています。 - 総合学域群からの移行生との交流会を実施します。 |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 年に数回、教員を交えた「ランチミーティング」を実施しています。 - クラス連絡会において教員との意見交換を行います。 - 国内外での実習期間中に教員との授業科目の枠を超えた情報交換等もできます。 |

質の高い教育を支える学生・教職員間の緊密な交流



イラスト…橋元大野君(日本語・日本文化学類生)の原図をもとに一部改変

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 学生の学修成果とその達成度を適正に評価できるよう、学類では成績評価ガイドラインを定め、ウェブサイトで公開しています。成績評価基準を明確にして、学生と教員がともに学修の成果を振り返ることで、適切な指導につなげています。
- 学生による授業評価を行うとともに、それに基づき全教員が「授業改善計画書」を作成し、公開しています。この一連のプロセスにより、カリキュラムおよび授業内容の向上のための継続的なフィードバック体制を作っています。
- 学類の諸活動や教育成果などを、ホームページ、フェイスブック、エックスなどの媒体を通して、外部に向けて積極的に発信しています。
- 学類所属の教員による FD 活動を定期的に行い、つねに学類の教育の質の検証と改善をはかっています。

社会・国際学群

School of Social and International Studies

社会学類

College of Social Sciences

- 学士（社会学）
 - Bachelor of Arts in Sociology
 - 学士（法学）
 - Bachelor of Laws
 - 学士（政治学）
 - Bachelor of Arts in Political Science
 - 学士（経済学）
 - Bachelor of Arts in Economics
-

国際総合学類

College of International Studies

- 学士（国際関係学）
 - Bachelor of Arts in International Relations
 - 学士（国際開発学）
 - Bachelor of Arts in International Development
-

社会国際学教育プログラム

The Undergraduate Program of International Social Studies

- 学士（国際社会科学）
 - Bachelor of Arts in International Social Sciences
-

人材養成目的 / Educational Objectives

社会科学分野を基本としつつ環境学や情報学等の分野も加えた総合的な知の体系と、専門性に裏付けられた方法論を身に付け、グローバル化する社会で生起する複雑な諸問題を的確に理解し、分析する能力を備え、社会の要請に柔軟かつ独創的に対応できる人材を育成します。

社会学類

College of Social Sciences

- 学士（社会学）
- Bachelor of Arts in Sociology
- 学士（法学）
- Bachelor of Laws
- 学士（政治学）
- Bachelor of Arts in Political Science
- 学士（経済学）
- Bachelor of Arts in Economics

人材養成目的 / Program Educational Objectives

社会学・法学・政治学・経済学の専門知識を集中的に深める教育を提供するだけでなく、各分野の基礎知識を総合的に修得するための横断的な教育も併せて実施することで、社会科学全般のジェネラルな視点に裏打ちされた高い専門性を備えたグローバル（グローバル+ローカル）志向の人材養成を目指します。

| | |
|----------------|---|
| 養成する人材像 | 社会科学全般のジェネラルな視点に裏打ちされた高い専門性を備えたグローバル（グローバル+ローカル）志向の人材は、官庁や自治体での政策立案・実施、国内外の企業・団体での経営・組織運営・事業遂行、国内外の教育研究機関での研究・教育に従事し、従来の社会の要請に対応し、貢献することができます。加えて、国内外でのスタートアップ、ベンチャーといった企業価値創造に主導的に参画し、新たな社会の構築に向けて独創的に対応することも期待できます。 |
| 卒業後の進路 | 卒業生の約8割は、社会科学全般のジェネラルな視点に裏打ちされた高い専門性を備えたグローバル（グローバル+ローカル）志向の人材として、官庁や自治体、国内外の企業・団体、国内外の教育研究機関で広く活躍しています。その中には、国内外でのスタートアップ、ベンチャー企業も含まれます。約1割は、上記の専門性をさらに高めるために、大学院に進学しています。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

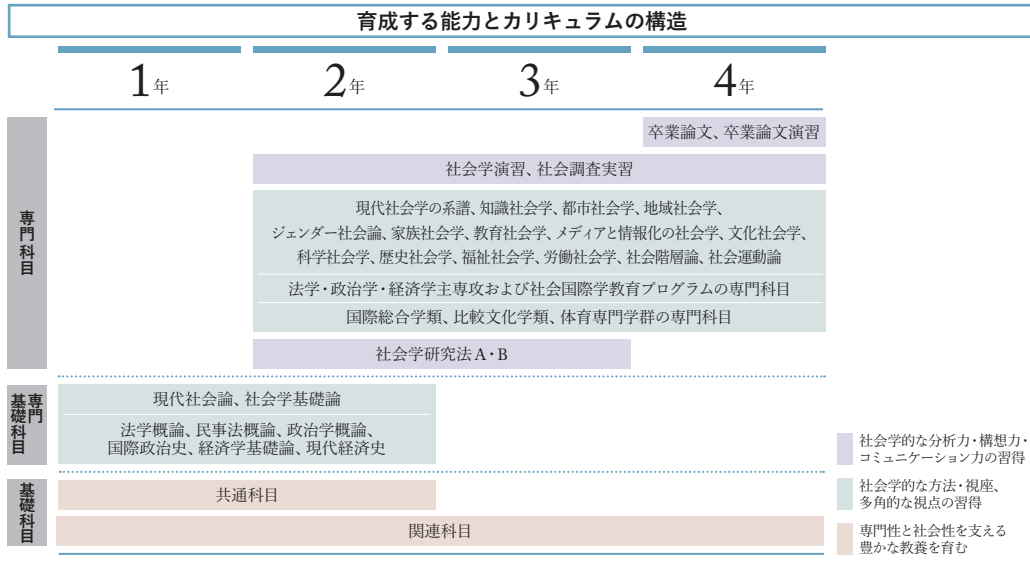
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（社会学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|-------------|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 社会学コンピテンス 1 | 社会学の素養と専門知識 |
| | 2. 社会学コンピテンス 2 | 社会学的分析能力 |
| | 3. 社会学コンピテンス 3 | 社会学的記述と表現力 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力を修得していることを、各専門科目における到達度確認テストや小テスト、授業における教員や他の学生とのディスカッションを通じて評価します。その上で、上記の専門コンピテンスを獲得していることを、卒業論文および卒業論文研究の過程の過程によって評価します。社会学主専攻では、学生が自主的な研究テーマ・課題を設定し、卒業論文を執筆する「卒業論文演習」科目が必修となっています。この、「卒業論文演習」科目の評価、及び論文の完成度の評価において、学位授与の方針で定められた学修の目標および水準に達しているかを評価します。卒業論文執筆の過程では、卒業論文の中間報告会を開催し、指導教員を含む複数教員による評価や助言を通して、論文の高い水準を保証するシステムを提供しています。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（社会学）に係る学修成果を基に、社会学の専門コンピテンスを獲得するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>社会学・法学・政治学・経済学が同じ学類の中に存在するという最大の特長を生かし、社会科学を総合的に学ぶことによって、広い視野と総合性を習得できるようにします。そのうえで、社会学に関する次のような力を育てることを方針とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 社会学的な関心や視座に関する知識の習得と、調査・分析する力や理論的な記述・表現する力など社会学的な実践力の習得をめざし、順序性に配慮して編成します。 - 学生の主体的な取り組みを促すために、各自の興味関心に即して問題意識を育み、それに基づく学習ができるよう、自由な科目選択の可能性に配慮します。 <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次では、社会学コンピテンス1を会得するために、社会学的知識の基礎に関する科目（専門基礎科目「社会学基礎論」「現代社会論」）を配置します。また社会科学に関する基礎的知識と広い視野を養うことができる法学・政治学・経済学の専門基礎科目を開設しています。 - 2～3年次では、社会学コンピテンス1に関連する専門基礎科目群に並行して、広範囲にわたる社会学的諸テーマのそれぞれに関する専門科目群、社会学の研究方法に関する科目群（「社会学研究法A」「社会学研究法B」）を配置します。これらに加えて、社会学コンピテンス2および3にかかる主要科目として、少人数による演習や実習（「社会学演習」「社会調査実習」）を配置します。いずれも学生の関心にあわせて選択できるように配慮します。 - 4年次には、社会学コンピテンス1に関する社会学的知識に関する専門科目群、社会学コンピテンス2および3に関する社会学的な実践に関わる演習や実習、卒業論文演習などの科目を配置し、卒業論文においてそれらを融合した集大成の作品にすることを目指します。 |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>教員が主体となって以下の特色ある教育方法を実践します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 社会制度や慣習をめぐる「常識」を相対化できる資料、教材の開発をします。 - 個人の関心を尊重した課題の設定や資料の収集、分析の実践を行います。 - 調査実習の実施や、講義におけるゲスト・スピーカーの招聘など地域や現場との連携を図るとともに、理論と社会事象の統合を行います。 |



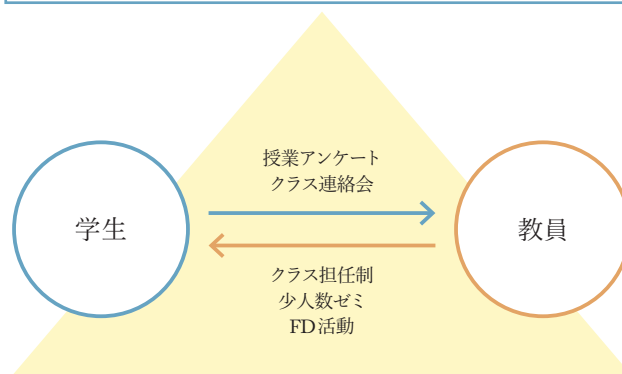
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|----------------|---|---|
| 求める人材 | 社会科学を総合的に学習するために必要な基礎学力と、グローバル化する社会の様々な事象への関心や洞察力・分析力を併せ持つ人材。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 入学後の学習に必要な基礎学力および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校における学習をしっかりと身につけたうえで、希望する主専攻分野（社会学、法学、政治学、経済学）に関連する分野について、明確な問題意識と優れた能力を有する者を評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 社会科学を学ぶために必要な高い基礎学力に加え、社会的な事象に対する深い関心と問題意識、明確な目標に向けて主体的に学ぶ力と積極性、語学力を含めた高いコミュニケーション能力などを総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 社会・国際学群社会学類では、社会科学系の学問に対する高い問題意識と意欲を持ち、希望する主専攻分野（社会学、法学、政治学、経済学）に関する初歩的な素養および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------------------|---|
| <p>学修支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 社会科学の理論と実務の相互関係を学ぶため、以下の取り組みを行っています。 - 演習・調査実習や社会調査法を開講することで、卒業論文作成上必要な社会調査の技法を習得する機会を確保しています。 - 法務の現場を見る機会として、裁判所、証券取引所、刑務所などの見学を毎年行っています。 - 模擬法廷を利用した実践的な授業や、経済理論の実験に重点をおく演習科目を開講しています。 - 経済の実務を学ぶため、地域の工場見学、日本銀行・証券取引所の見学を実施しています。 <p>- 英語学習機会の確保を促すための英語力向上支援プログラムを実施しています。</p> |
| <p>学生同士の交流機会</p> | <p>社会学類の学生が誰でも自由に利用できる学生室を開設し、学生相互の交流を促すとともに、社会学類担当教員の著書を配架して、学習や研究を深められるようにしています。学生室では、学修を促すために、学生が主体となって様々な図書資料を紹介・議論するイベント（社会学類ブッククラブ）を実施しています。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 教員はオフィスアワーを設け、学修・研究や進路に関する相談を気軽に受け付けています。 - 3・4年生を主な対象とする少人数ゼミでは、学生個別の問題関心を尊重し、教員との双方向的な討論を行う機会を設けています。 - 年1回、参加を希望する学生と教員との懇親会を開催し、学年や専門を超えた交流の場としています。 |

教育力向上への取組



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 社会学類における教育の質の保証としては、卒業生が取得したコンピテンスの内訳を教育会議等で確認し、その実績が当該学類における学修成果の評価、学位授与の方針、学類が養成する人材像などに適切に沿ったものであるかを学類教育会議等において検証します。この作業は各年実施し、必要に応じてカリキュラム編成を見直すことにより、学生に提供する教育機会の改善につなげます。
- カリキュラム、学習環境、就活・進学懇談会等について、クラス代表者委員を務める学生と、学類長・クラス担任・カリキュラム委員を中心とした教員とが出席するクラス連絡会を年2回行っています。クラス連絡会では、学生からの意見や要望は、教育会議の場で全教員に共有され、改善の必要性について検討されます。
- 新任教員 FD 研修会を定期開催し、学類の教育課程等についての説明と意見交換を行っています。
- 教育に係る FD 研修会を定期開催し、授業のデザインと方法の工夫についての説明と意見交換を行っています。
- 適切な教育内容であることの検証に役立つため、ほぼ全ての科目において、授業評価アンケートを実施しています。学類として統一的な評価項目による授業評価を行うとともに、その結果を担当教員にフィードバックし、各自の授業内容の改善に役立てています。また、統一的評価にそぐわない科目については、各教員が独自に受講学生のアンケートを行っています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

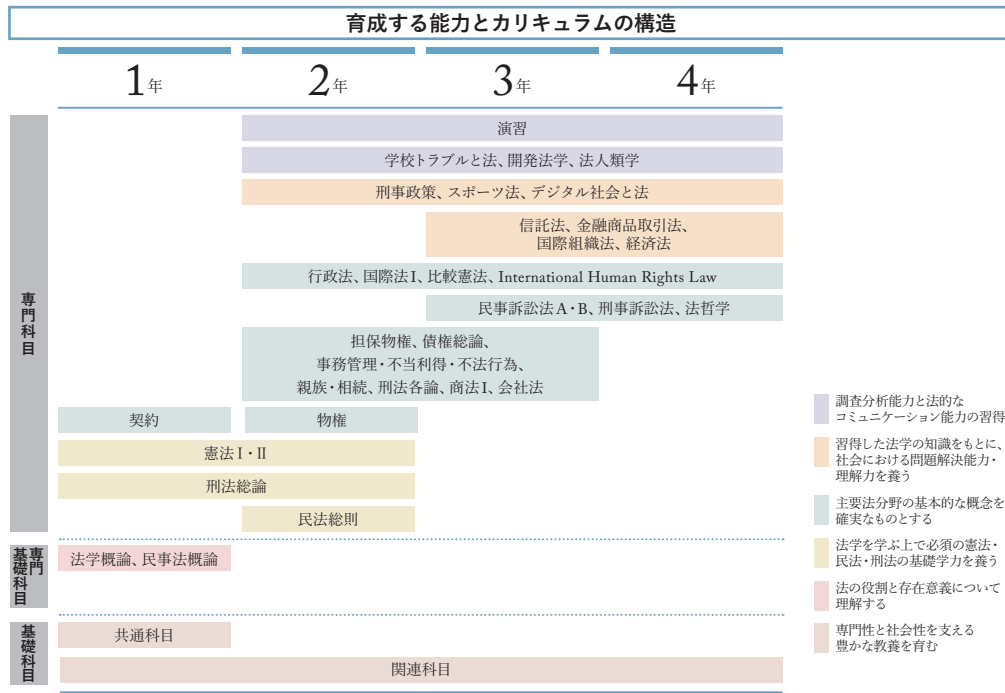
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（法学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|---|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 法学コンピテンス1 | 法の役割と存在意義に関する深い考察を通して、社会の在り方に対する関心を持ち続け、広い視野で問題を解決することができる。 |
| | 2. 法学コンピテンス2 | 法学の専門知識に関し、憲法・民法・刑法等に代表される基本的な法の概念から演繹して現実社会の事象を理解できる。 |
| | 3. 法学コンピテンス3 | 法的な問題とその解決策について自ら発信しまた受信することができる。 |
| | 4. 法学コンピテンス4 | 社会事象の中に法的な問題点を発見し、問題の核心を捉えることができる。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力を修得していることを、各専門科目における到達度確認テストや小テスト、授業における教員からの質問に対する学生の発言を通じて評価します。その上で、上記の専門コンピテンスを獲得していることを、選択必修科目である「演習科目」での課題提出、ディスカッションを通じて3段階で評価します。さらに、法学主専攻担当教員全員が出席する会議で、各学生が専門コンピテンスをどの程度獲得しているかを判断し、相互に確認します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（法学）に係る学修成果を基に、法学の専門コンピテンスを獲得するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>教育課程の編成方針</p> | <p>総合的な方針 法的な判断能力ーリーガルマインドーの基層となるべき、幅広い柔軟な社会科学的素養を身に付ける機会を提供するとともに、法学の学問的特性を踏まえた段階的な学習と、実践的な知識の習得を可能とするような教育課程とします。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次には、法学コンピテンス1を会得するために不可欠な専門基礎科目として法学概論と民事法概論を置き、必修としています。さらに、社会科学全般に関する幅広い知識と素養を得るための社会学・法学・政治学・経済学の「専門基礎科目」を開設します。 - 1年次・2年次には、3年次に法学主専攻に進学するために必要な法学コンピテンス2を修得するための基本科目として、主要3分野（憲法・民法・刑法）の中から「憲法Ⅰ・Ⅱ」「民法総則」「刑法総論」を配置します。 - 2年次・3年次には、法学コンピテンス3を修得するために、主要3分野のそれ以外の科目や、商法、会社法、行政法等の科目を配置します。 - 3年次・4年次には、民事訴訟法、刑事訴訟法、法哲学等の科目や、より専門性の高い科目、さらには、法学コンピテンス4を修得するために、少人数での討議や教員との対話を通じた学習に重点を置いた演習科目を配置し、それまでに培った法学の基本的な理解の上に、法的知識の応用力の獲得と、特定のテーマについての調査・分析の方法への習熟や法的なコミュニケーション能力の習得を目的とします。なお、卒業論文は必修科目ではありませんが、卒業論文提出希望者には、中間発表の場を設け、指導教員を含めた法学主専攻担当教員が立ち会い、大学での学びの集大成となる論文完成に向けた各種アドバイスや、多方面からの質疑応答を行ないます。 |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 学士（法学）として必須の基本的な法理論と知識の習得に加えて、現在および将来に想定される社会問題にも対処できる人材を養成するにあたり、学生が法学の学習に興味を抱くような手法を取り入れます。 - 模擬法廷を利用した具体的かつ臨場感のある授業、裁判所等の施設の見学、社会と法とのつながりを実感できる最新の資料や映像を用いた資料の利用や作成、そして特色ある演習の充実を図ることにより、上記方針の実現を目指します。 - 他大学との合同ゼミを通じて、習得した知識とコミュニケーション能力とを総合的に発揮する場を提供します。 |



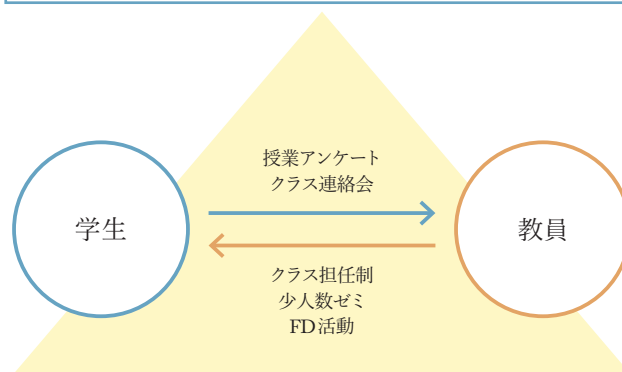
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|----------------|---|---|
| 求める人材 | 社会科学を総合的に学習するために必要な基礎学力と、グローバル化する社会の様々な事象への関心や洞察力・分析力を併せ持つ人材。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 入学後の学習に必要な基礎学力および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校における学習をしっかりと身につけたうえで、希望する主専攻分野（社会学、法学、政治学、経済学）に関連する分野について、明確な問題意識と優れた能力を有する者を評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 社会科学を学ぶために必要な高い基礎学力に加え、社会的な事象に対する深い関心と問題意識、明確な目標に向けて主体的に学ぶ力と積極性、語学力を含めた高いコミュニケーション能力などを総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 社会・国際学群社会学類では、社会科学系の学問に対する高い問題意識と意欲を持ち、希望する主専攻分野（社会学、法学、政治学、経済学）に関する初歩的な素養および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-------------------------|---|
| <p>学修支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 社会科学の理論と実務の相互関係を学ぶため、以下の取り組みを行っています。 - 演習・調査実習や社会調査法を開講することで、卒業論文作成上必要な社会調査の技法を習得する機会を確保しています。 - 法務の現場を見る機会として、裁判所、証券取引所、刑務所などの見学を毎年行っています。 - 模擬法廷を利用した実践的な授業や、経済理論の実験に重点をおく演習科目を開講しています。 - 経済の実務を学ぶため、地域の工場見学、日本銀行・証券取引所の見学を実施しています。 <p>- 英語学習機会の確保を促すための英語力向上支援プログラムを実施しています。</p> |
| <p>学生同士の交流機会</p> | <p>社会学類の学生が誰でも自由に利用できる学生室を開設し、学生相互の交流を促すとともに、社会学類担当教員の著書を配架して、学習や研究を深められるようにしています。学生室では、学修を促すために、学生が主体となって様々な図書資料を紹介・議論するイベント（社会学類ブッククラブ）を実施しています。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 教員はオフィスアワーを設け、学修・研究や進路に関する相談を気軽に受け付けています。 - 3・4年生を主な対象とする少人数ゼミでは、学生個別の問題関心を尊重し、教員との双方向的な討論を行う機会を設けています。 - 年1回、参加を希望する学生と教員との懇親会を開催し、学年や専門を超えた交流の場としています。 |

教育力向上への取組



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 社会学類における教育の質の保証としては、卒業生が取得したコンピテンスの内訳を教育会議等で確認し、その実績が当該学類における学修成果の評価、学位授与の方針、学類が養成する人材像などに適切に沿ったものであるかを学類教育会議等において検証します。この作業は各年実施し、必要に応じてカリキュラム編成を見直すことにより、学生に提供する教育機会の改善につなげます。
- カリキュラム、学習環境、就活・進学懇談会等について、クラス代表者委員を務める学生と、学類長・クラス担任・カリキュラム委員を中心とした教員とが出席するクラス連絡会を年2回行っています。クラス連絡会では、学生からの意見や要望は、教育会議の場で全教員に共有され、改善の必要性について検討されます。
- 新任教員 FD 研修会を定期開催し、学類の教育課程等についての説明と意見交換を行っています。
- 教育に係る FD 研修会を定期開催し、授業のデザインと方法の工夫についての説明と意見交換を行っています。
- 適切な教育内容であることの検証に役立つため、ほぼ全ての科目において、授業評価アンケートを実施しています。学類として統一的な評価項目による授業評価を行うとともに、その結果を担当教員にフィードバックし、各自の授業内容の改善に役立てています。また、統一的評価にそぐわない科目については、各教員が独自に受講学生のアンケートを行っています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（政治学）の学位を授与します。

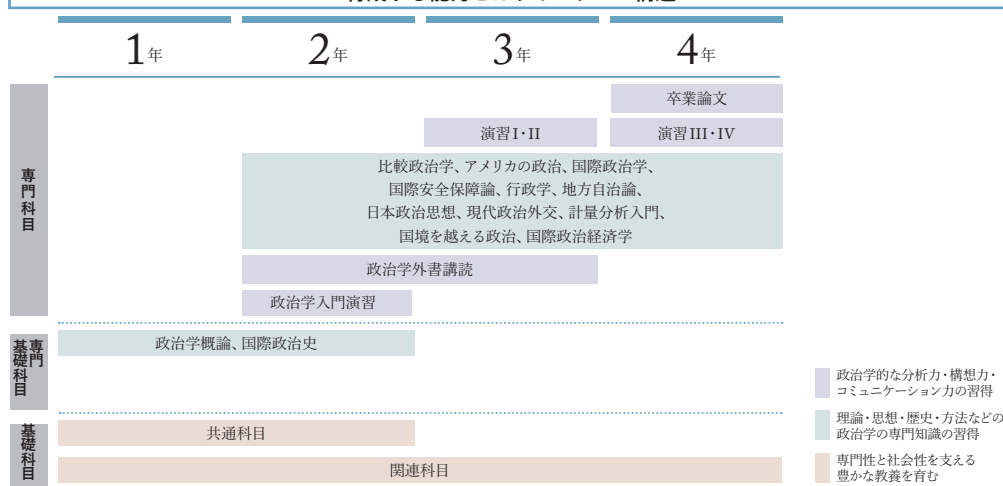
| | | |
|-----------------|---|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 政治学コンピテンス 1 | グローバル化・複雑化・多様化する政治現象を、それを取り巻く現代社会の諸現象と関連づけて学際的・総合的に理解することができる。 |
| | 2. 政治学コンピテンス 2 | 政治学の専門知識を体系的に理解し、政治現象を批判的・多角的に分析・考察する能力を身につけ、混迷する社会における政策課題を発見し、政治学の立場からその解決法を導き出すことができる。 |
| | 3. 政治学コンピテンス 3 | 政治学の専門知識に基づく分析・考察を文章・口頭によって論理的に表現し、相互に議論する能力を身に付け、社会各界や自己が所属する組織・集団をリードすることができる。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力を修得していることを、各専門科目における到達度確認テストや小テスト、授業における教員からの質問に対する学生の発言等を通じて評価します。その上で、上記の専門コンピテンスを獲得していることを、選択必修科目である「演習科目」での課題提出、ディスカッションを通じて3段階で評価します。さらに、政治学主専攻担当教員全員が出席する会議で、各学生が専門コンピテンスをどの程度獲得しているかを判断し、相互に確認します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（政治学）に係る学修成果を基に、政治学の専門コンピテンスを獲得するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-------------------------|--|
| <p>教育課程の編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>社会学類では、社会科学における学際性と各主専攻の持つ専門性をバランスよく修得することを求めています。政治学主専攻は、広い視野と総合性、政治学の高い専門性を兼ね備え、公共性を身に付けた自律した市民を育成するため、政治学の基礎から専門・応用に至る段階的な教育課程を編成します。</p> <p>具体的には、政治学コンピテンス1を修得するために、社会学・法学・経済学が同じ学類の中に存在するという最大の特長を生かし、社会科学を総合的に学ぶ教育課程として、社会学・法学・政治学・経済学の「専門基礎科目」を実施します。また政治学コンピテンス2を修得するために、「政治学概論」と「国際政治史」を基礎とし、政治学の諸領域をより専門的に扱う科目群を学ぶ教育課程を実施します。さらに、政治学コンピテンス3を身に付けるために、「政治学入門演習」「演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」を実施します。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次には、政治学を学ぶために不可欠な理論・思想・歴史を講義する専門基礎科目を置き、必修とします。また社会に対する基礎的知識と広い視野を養うことができる社会学・法学・政治学・経済学の専門基礎科目を開設します。 - 2年次は、政治学の諸領域についての専門的知識を修得します。また「政治学入門演習」で政治学の基礎を演習形式で学び、「政治学外書講読」で政治学を英語でも理解できるようにします。 - 3年次は、政治学の専門的知識をより深く修得し、「演習Ⅰ・Ⅱ」で自己の研究テーマを深めます。 4年次は、「演習Ⅲ・Ⅳ」で自己の研究テーマについて追究し、卒業論文またはゼミ論文として完成させます。なお、卒業論文は選択科目ですが、複数の教員の「演習科目」の履修を義務付け、卒業論文提出希望者には、「演習科目」において実質的な集団指導を行っています。 |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>社会学類政治学主専攻が提供する講義科目は、原則として2単位・学期完結で実施します。「演習Ⅰ～Ⅳ」は、少人数によって実施し、2人以上の教員の演習科目を履修します。</p> |

育成する能力とカリキュラムの構造

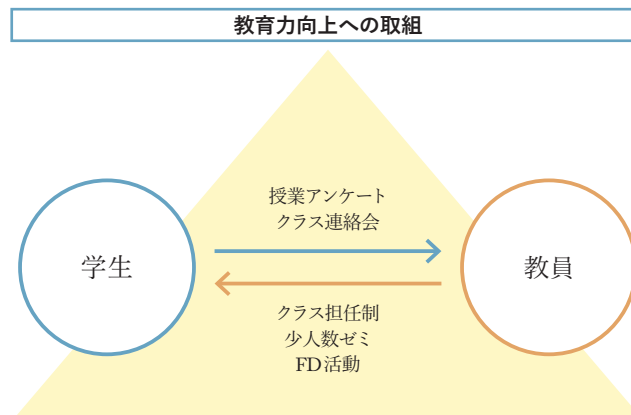


入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|----------------|---|---|
| 求める人材 | 社会科学を総合的に学習するために必要な基礎学力と、グローバル化する社会の様々な事象への関心や洞察力・分析力を併せ持つ人材。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 入学後の学習に必要な基礎学力および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校における学習をしっかりと身につけたうえで、希望する主専攻分野（社会学、法学、政治学、経済学）に関連する分野について、明確な問題意識と優れた能力を有する者を評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 社会科学を学ぶために必要な高い基礎学力に加え、社会的な事象に対する深い関心と問題意識、明確な目標に向けて主体的に学ぶ力と積極性、語学力を含めた高いコミュニケーション能力などを総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 社会・国際学群社会学類では、社会科学系の学問に対する高い問題意識と意欲を持ち、希望する主専攻分野（社会学、法学、政治学、経済学）に関する初歩的な素養および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------------------|---|
| 学修支援 | <ul style="list-style-type: none"> - 社会科学の理論と実務の相互関係を学ぶため、以下の取り組みを行っています。 - 演習・調査実習や社会調査法を開講することで、卒業論文作成に必要な社会調査の技法を習得する機会を確保しています。 - 法務の現場を見る機会として、裁判所、証券取引所、刑務所などの見学を毎年行っています。 - 模擬法廷を利用した実践的な授業や、経済理論の実験に重点をおく演習科目を開講しています。 - 経済の実務を学ぶため、地域の工場見学、日本銀行・証券取引所の見学を実施しています。 - 英語学習機会の確保を促すための英語力向上支援プログラムを実施しています。 |
| 学生同士の交流機会 | 社会学類の学生が誰でも自由に利用できる学生室を開設し、学生相互の交流を促すとともに、社会学類担当教員の著書を配架して、学習や研究を深められるようにしています。学生室では、学修を促すために、学生が主体となって様々な図書資料を紹介・議論するイベント（社会学類ブッククラブ）を実施しています。 |
| 教員との交流機会 | <ul style="list-style-type: none"> - 教員はオフィスアワーを設け、学修・研究や進路に関する相談を気軽に受け付けています。 - 3・4年生を主な対象とする少人数ゼミでは、学生個別の問題関心を尊重し、教員との双方向的な討論を行う機会を設けています。 - 年1回、参加を希望する学生と教員との懇親会を開催し、学年や専門を超えた交流の場としています。 |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 社会学類における教育の質の保証としては、卒業生が取得したコンピテンスの内訳を教育会議等で確認し、その実績が当該学類における学修成果の評価、学位授与の方針、学類が養成する人材像などに適切に沿ったものであるかを学類教育会議等において検証します。この作業は各年実施し、必要に応じてカリキュラム編成を見直すことにより、学生に提供する教育機会の改善につながります。
- カリキュラム、学習環境、就活・進学懇談会等について、クラス代表者委員を務める学生と、学類長・クラス担任・カリキュラム委員を中心とした教員とが出席するクラス連絡会を年2回行っています。クラス連絡会では、学生からの意見や要望は、教育会議の場で全教員に共有され、改善の必要性について検討されます。
- 新任教員 FD 研修会を定期開催し、学類の教育課程等についての説明と意見交換を行っています。
- 教育に係る FD 研修会を定期開催し、授業のデザインと方法の工夫についての説明と意見交換を行っています。
- 適切な教育内容であることの検証に役立てるため、ほぼ全ての科目において、授業評価アンケートを実施しています。学類として統一的な評価項目による授業評価を行うとともに、その結果を担当教員にフィードバックし、各自の授業内容の改善に役立てています。また、統一的評価にそぐわない科目については、各教員が独自に受講学生のアンケートを行っています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

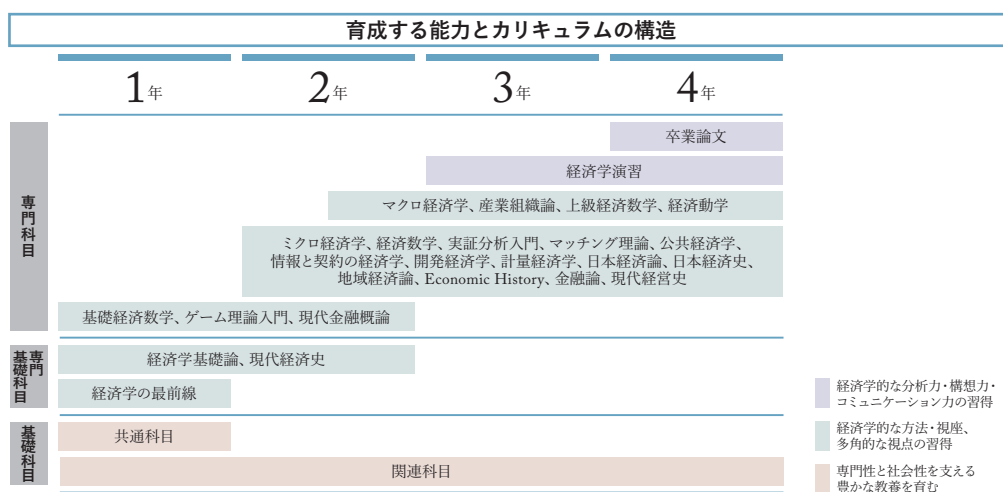
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（経済学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 経済学コンピテンス 1 | 経済分析に必要な技術的能力。 |
| | 2. 経済学コンピテンス 2 | 経済学の体系的な専門知識。 |
| | 3. 経済学コンピテンス 3 | 経済理論と歴史・現状に関する知識を合わせた総合的な分析能力。 |
| | 4. 経済学コンピテンス 4 | 経済問題、社会問題に対する広い関心と洞察力。経済学の知見を社会の諸問題に適用する能力。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力を修得していることを、各専門科目における到達度確認テストや小テスト、授業における教員からの質問に対する学生の発言を通じて評価します。その上で、上記の専門コンピテンスを獲得していることを、選択必修科目である「演習科目」での課題提出、ディスカッションを通じて3段階で評価します。さらに、経済学主専攻担当教員全員が出席する会議で、各学生が専門コンピテンスをどの程度獲得しているかを判断し、相互に確認します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（経済学）に係る学修成果を基に、経済学の専門コンピテンスを獲得するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-------------------------|---|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 経済学の対象となる社会科学諸分野の基礎的学習の上に、経済学の学問的特性を踏まえた経済理論の段階的学習、歴史的・地域的な経済現象に関する広範な知見と洞察力を育む学習、実証分析に必要な実践的技術の学習、これらすべてを有機的に結び付け、経済・社会の諸問題を総合的に考察して処方箋を与えることができる能力の習得を可能とする教育課程とします。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次には、経済学コンピテンス1と3を会得するために不可欠な「専門基礎科目」として「経済学基礎論」と「現代経済史」を置き、必修とします。経済学コンピテンス1と経済学コンピテンス2の会得に不可欠な数学の経済学への応用方法について、専門科目として「基礎経済数学」を開設します。経済学コンピテンス4を会得するための基礎力の育成として、広範な社会科学分野への経済学の応用手法を学ぶ「ゲーム理論入門」を開設します。さらに、社会科学全般に関する幅広い知識と素養を得るための社会学・法学・政治学の「専門基礎科目」を開設します。 - 2年次には、3年次に経済学主専攻に進学するために必要な経済学コンピテンス1と2を修得するための基本科目として、「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「実証分析入門」「経済数学」を配置します。さらに、経済学コンピテンス3の会得に必要な、歴史的・地域的な経済現象に関する専門科目「Economic History」「日本経済史」「現代経営史」「開発経済学」なども配置します。 - 2・3・4年次には、経済学コンピテンス3と4を修得するために、経済史・応用経済学の諸分野、そしてより抽象度の高い理論分野など、多様な専門科目を配置します。 - 3・4年次には、経済学コンピテンス4を修得するために、少人数での討議や教員との対話を通じた学習に重点を置いた演習科目を配置し、それまでに培った経済学の基本的な理解の上に、経済学知識の応用力の獲得と、特定のテーマについての調査・分析の方法への習熟や経済学的なコミュニケーション能力の習得を目的とします。なお、卒業論文は必修科目ではありませんが、卒業論文提出希望者には、指導教員を含めた経済学主専攻担当教員が立ち会い、大学での学びの集大成となる論文完成に向けた各種アドバイスや、多方面からの質疑応答を行ないます。 |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>学士（経済学）として必須の基本的な経済理論・実証技術と経済現象に関する歴史的・地域的知識の習得に加え、現在および将来に想定される社会問題にも対処できる人材を養成するにあたり、学生が経済学の学習に興味を抱くような手法を取り入れます。</p> <p>経済実験を利用した体験型の授業、工場や金融機関などの施設の見学、実証分析に必要となる実践的な情報処理技術の授業、社会と経済学とのつながりを実感できる最新資料の作成・利用、そして特色ある演習の充実を図ることにより、上記方針の実現を目指します。</p> <p>他大学との卒業研究発表合同ゼミなど、習得した知識とコミュニケーション能力とを総合的に発揮する場を提供します。</p> |



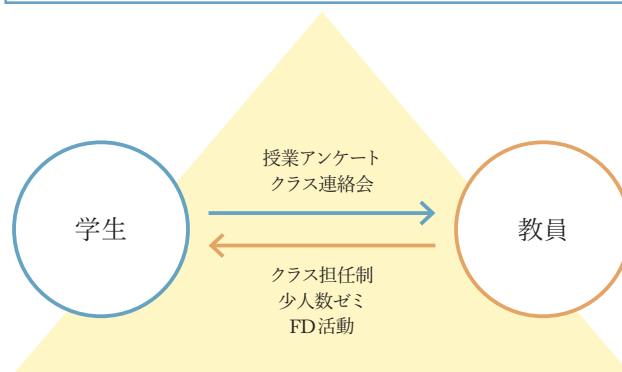
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|----------------|---|---|
| 求める人材 | 社会科学を総合的に学習するために必要な基礎学力と、グローバル化する社会の様々な事象への関心や洞察力・分析力を併せ持つ人材。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 入学後の学習に必要な基礎学力および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校における学習をしっかりと身につけたうえで、希望する主専攻分野（社会学、法学、政治学、経済学）に関連する分野について、明確な問題意識と優れた能力を有する者を評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 社会科学を学ぶために必要な高い基礎学力に加え、社会的な事象に対する深い関心と問題意識、明確な目標に向けて主体的に学ぶ力と積極性、語学力を含めた高いコミュニケーション能力などを総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 社会・国際学群社会学類では、社会科学系の学問に対する高い問題意識と意欲を持ち、希望する主専攻分野（社会学、法学、政治学、経済学）に関する初歩的な素養および論理的思考力を十分に備えている人材を評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------------------|--|
| <p>学修支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 社会科学の理論と実務の相互関係を学ぶため、以下の取り組みを行っています。 - 演習・調査実習や社会調査法を開講することで、卒業論文作成上必要な社会調査の技法を習得する機会を確保しています。 - 法務の現場を見る機会として、裁判所、証券取引所、刑務所などの見学を毎年行っています。 - 模擬法廷を利用した実践的な授業や、経済理論の実験に重点をおく演習科目を開講しています。 - 経済の実務を学ぶため、地域の工場見学、日本銀行・証券取引所の見学を実施しています。 <p>- 英語学習機会の確保を促すための英語力向上支援プログラムを実施しています。"</p> |
| <p>学生同士の交流機会</p> | <p>社会学類の学生が誰でも自由に利用できる学生室を開設し、学生相互の交流を促すとともに、社会学類担当教員の著書を配架して、学習や研究を深められるようにしています。学生室では、学修を促すために、学生が主体となって様々な図書資料を紹介・議論するイベント（社会学類ブッククラブ）を実施しています。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 教員はオフィスアワーを設け、学修・研究や進路に関する相談を気軽に受け付けています。 - 3・4年生を主な対象とする少人数ゼミでは、学生個別の問題関心を尊重し、教員との双方向的な討論を行う機会を設けています。 - 年1回、参加を希望する学生と教員との懇親会を開催し、学年や専門を超えた交流の場としています。 |

教育力向上への取組



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 社会学類における教育の質の保証としては、卒業生が取得したコンピテンスの内訳を教育会議等で確認し、その実績が当該学類における学修成果の評価、学位授与の方針、学類が養成する人材像などに適切に沿ったものであるかを学類教育会議等において検証します。この作業は各年実施し、必要に応じてカリキュラム編成を見直すことにより、学生に提供する教育機会の改善につなげます。
- カリキュラム、学習環境、就活・進学懇談会等について、クラス代表者委員を務める学生と、学類長・クラス担任・カリキュラム委員を中心とした教員とが出席するクラス連絡会を年2回行っています。クラス連絡会では、学生からの意見や要望は、教育会議の場で全教員に共有され、改善の必要性について検討されます。
- 新任教員 FD 研修会を定期開催し、学類の教育課程等についての説明と意見交換を行っています。
- 教育に係る FD 研修会を定期開催し、授業のデザインと方法の工夫についての説明と意見交換を行っています。
- 適切な教育内容であることの検証に役立つため、ほぼ全ての科目において、授業評価アンケートを実施しています。学類として統一的な評価項目による授業評価を行うとともに、その結果を担当教員にフィードバックし、各自の授業内容の改善に役立てています。また、統一的評価にそぐわない科目については、各教員が独自に受講学生のアンケートを行っています。

国際総合学類

College of International Studies

- 学士（国際関係学）
- Bachelor of Arts in International Relations
- 学士（国際開発学）
- Bachelor of Arts in International Development

人材養成目的 / Program Educational Objectives

グローバル化とともに複雑化する国際的な諸問題に対して、問題の本質を発見する洞察力と情報分析能力を身に付け、先見性と独自性に富む解決策を他者に伝えるコミュニケーション能力を備えた、文理融合型の実践的な人材を養成します。

| | |
|----------------|--|
| 養成する人材像 | 社会科学の基礎的能力を踏まえ、情報分析能力、コミュニケーション能力を習得するとともに、文理融合の総合智を「国際学」として蓄積し、国際関係と国際開発の分野で地球規模の社会的課題の解決に資することができる人材を養成します。 |
| 卒業後の進路 | 卒業生の約7割は民間企業、約1割は公務員・独立行政法人に就職し、国内外で広く活躍しています。約2割は大学院に進学しています。また、海外の大学院進学も実績があり、国際総合学類の卒業生が世界各地で活躍しています。就職先の業種・職種は、「航空・運輸・物流」「金融・証券・保険」「マスコミ・出版」「調査・コンサル」「官庁・自治体」等です。国際関係の知識を踏まえ、日本市場のとどまらず、欧州や成長するアジアの市場をはじめ、グローバルな世界で卒業生が活躍することを期待します。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力 (汎用コンピテンス)、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力 (専門コンピテンス) を修得した者に、学士 (国際関係学) の学位を授与します。

| | | |
|------------------|--|---|
| 知識・能力 (専門コンピテンス) | 1. 国際学〔国際関係〕の理解 | 社会科学の基礎知識を基に、複雑化する国際関係を歴史的・制度的・文化的背景を踏まえつつ、国際関係に関する幅広い知識と多様な研究手法について理解している。 |
| | 2. 国際学〔国際関係〕の分析能力 | 国際関係学を軸にして、国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、環境・情報のいずれかの分野の専門知識を深めつつ、ICTの基礎的スキルに基づく多角的な方法論を活用し、多様な価値観と高度な論理的思考力を身につけ、国際関係に関する諸問題について適切な手法により分析し、批判的に評価できる。 |
| | 3. 国際学〔国際関係〕の論理的表現能力 | 多様な価値観と高度な論理的思考力を前提として、ICTを活用した分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを用い、国際関係に関する諸問題について論理的に表現することができる。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 学修成果の評価は、学位授与の方針に掲げた知識・能力 (コンピテンス) が修得できているかを、卒業研究において主査と副査による卒業論文の査読を通じて行います。評価の対象には、卒業論文、卒業論文中間発表、卒業研究への取り組み等が含まれます。 | |

| 学修成果の評価 | | | |
|-------------------------|---------------------------------------|--|--|
| 専門コンピテンス | コンピテンスの内容 | 主な修得科目の科目区分、科目群、科目名等 | 評価方法 |
| 国際学 (国際関係) の理解 | 国際関係に関する幅広い知識と多様な研究手法についての理解 | 専門基礎科目 (国際学I、国際関係論、比較政治学、国際法概論、国際経済論等)、専門科目 (国際関係学)、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など | 講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒業中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。 |
| 国際学 (国際関係) についての分析能力 | 国際関係に関する諸問題について適切な手法により分析し、批判的に評価する能力 | 専門基礎科目 (国際学I、国際関係論、比較政治学、国際法概論、国際経済論等)、専門科目 (国際関係学)、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など | 講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒業中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。 |
| 国際学 (国際関係) についての論理的表現能力 | 国際関係に関する諸問題について論理的に表現する能力 | 専門基礎科目 (比較政治学、国際法概論、EDS、ED等)、専門科目 (国際関係学)、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など | 講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒業中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。 |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（国際関係学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

教育課程の
編成方針**総合的な方針**

複雑かつ変動する現代の国際問題は、経済や文化と深く結びついており、その解明には政治学や国際関係論だけでなく学際的視点が求められます。「国際関係学主専攻」では、政治学、国際法、経済学、文化人類学等の社会科学の様々な分野を基礎とし、分野を横断する学際的教育を通じて、国際社会の課題を解決する能力を備えたグローバル人材の育成を目指します。特に、国際関係を中心に学際的側面から国際社会の諸課題を分析します。教育課程は、国際開発学主専攻と共通点の多い専門基礎科目から始まり、高年次に向けてより高度な国際関係学の固有の科目やゼミナールへと発展し、国際学（国際関係）の理解、国際学（国際関係）の分析能力、国際学（国際関係）の論理的表現能力の3つのコンピテンスを修得しつつ、段階的に知見を深めていく構成となっています。

順次性に関する方針**[1 年次：基礎的学習]**

必修の専門導入科目「国際学Ⅰ～Ⅳ」を通じて、国際関係の基礎、グローバルな視野、幅広い教養を習得します。国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、環境・情報といった複数分野を俯瞰し、自らの適性に基づいて将来の専攻や専門分野を選択する基盤を築きます。同時に、英語を中心とした語学力とコミュニケーション能力を強化します。これにより、国際学（国際関係）の理解を深めます。

[2 年次：国際関係分野の学際的分析力の習得]

国際学（国際関係学）を基盤に、専門基礎科目の選択履修を通じて、国際比較や歴史的・制度的背景を考察するとともに、環境・情報分野との融合領域に関する知識と分析手法を学びます。これにより学際的素養と国際関係への洞察力を涵養します。また、語学をコミュニケーションの手段として位置づけ、多様な価値観を前提とした真の国際的コミュニケーション能力を高めます。これにより、国際学（国際関係）の分析能力と論理的表現能力を養います。

[3 年次：国際関係における課題解決的・理論的研究]

国際関係学主専攻の専門科目を中心に学修し、国際学（国際関係学）の専門性を深めます。隣接分野の動向を踏まえつつ、国際関係の具体的な課題解決に資する理論的知見を習得し、国際学（国際関係）の分析能力を深めます。特に、複雑化する国際状況の中で「何が問題か」を的確に見極め、鋭い問題意識と均衡のとれた国際感覚を養います。

[4 年次：国際関係に関する政策研究と実践]

国際関係学主専攻の専門科目を中心に学修するとともに卒業研究を進め、国際学（国際関係学）の専門性を更に深めます。少人数ゼミナールへの参加と卒業論文の執筆を通じて、国際関係に関する独創的な問題設定、論理的な分析・実証を行います。これにより、国際学（国際関係）の分析能力と論理的表現能力を強化します。これによりガバナンス力を高め、国際的に通用する説得力ある政策提言を行える人材を育成します。

| | |
|-------------------------|---|
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 社会科学分野と情報科学分野が中心となり、文理融合のカリキュラムを提供しています。 - 英語によるコミュニケーション能力を育成・強化するために、English Discussion Seminar や English Debate を必須科目としています。また、専門科目の中で英語による開講科目も多く、英語により専門の学びを深める機会があります。 - 社会国際学教育プログラム [社会・国際学群英語プログラム：Tsukuba International and Social Studies (TISS)] とカリキュラムを共有しており、日本人学生と外国人留学生在が共に学ぶ多文化共修 (国際共修) による学びの場を提供し、「国際性の日常化」を実現しています。 |
|-------------------------|---|

| 育成する能力 (コンピテンス) と教育課程の構造 | | | | |
|--------------------------|---|--|--|---|
| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
| 科目礎 | 総合科目、外国語、情報、体育等の教養科目の学修により、汎用コンピテンスを獲得します。 | | | |
| 専門基礎科目 | <p>国際学 I-IV により、国際学の基礎を学びます (国際学の理解)。</p> <p>国際関係学や国際開発学の専門基礎科目を通じて、国際学の専門の基礎を学びます (国際学の理解、分析能力)。</p> <p>English Discussion Seminar、English Debate 等を通じてコミュニケーション能力を獲得します (国際学の論理的表現能力)。</p> | | | |
| 専門科目 | <p>○アジアの国際関係、ヨーロッパの国際関係、国際政治学、アジア政治、ヨーロッパ政治、日本政治等の学修を通じて、国際関係学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。</p> <p>○国際開発論、計量経済学、社会開発論、開発人類学、地域開発論等の学修を通じて、国際開発学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。</p> <p>○国際学ゼミナールと卒業研究を通じて、国際関係学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。</p> | | | |
| 科目関連 | 他学群・他学類の科目を履修し、幅広い教養と学際性による汎用コンピテンスを獲得します。 | | | |
| | <p>1年: 国際学 (国際関係) の基礎となるグローバルな視野と広範な教養を身につけるとともに、語学力・コミュニケーション能力を強化</p> | <p>2年: 国際学 (国際関係) を基盤に、学際的素養と国際関係の課題に対する洞察力を涵養、コミュニケーション能力を一層強化</p> | <p>3年: 国際学 (国際関係) を深めつつ、国際関係の具体的解決策の構築に寄与する理論的知見の習得</p> | <p>4年: 国際学 (国際関係) を更に深めつつ、国際関係の独創的問題設定を行い、論理立てて分析・検証</p> |

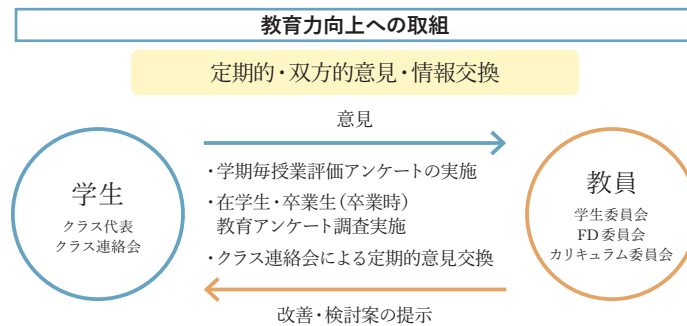
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|--------------|---|
| <p>求める人材</p> | <p>経済活動や環境問題は国境を越えて展開します。そこには、絶対的に正しいものはありません。既成観念にとらわれず、多様な価値観の存在を想像しながら、ものごとを観察し、何が問題かを見分け、何をどうすればいいのか、筋道をたてて考え、それを周りに説明でき、理解者を増やしていく意欲・チャレンジ精神をもつ人材が望まれます。</p> |
|--------------|---|

| | | |
|---------|---------------|---|
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等(前期日程) | 高い基礎学力と優れた語学能力に加えて、国語、地理歴史、数学、理科のいずれかの学力を総合的に評価します。 |
| | 推薦入試 | 基礎学力とコミュニケーション能力に加えて、国際関係や国際開発への幅広い関心と強い学習意欲を有する人材を選抜します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、国際関係や国際開発の諸問題を主体的に学ぶための知識や思考力、問題意識、明確な目標をもって学ぶ意欲、語学力を含めたコミュニケーション能力を総合的に評価し選抜します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-----------|---|
| 学修支援 | <ul style="list-style-type: none"> - 学群3年次生対象 TOEIC IP テストの受講を必須とするとともに、英語学習支援事業 (TOEFL-TOEIC 受験対策支援事業) を実施しており、学生の英語によるコミュニケーション能力向上を図っています。 - 専門基礎科目で「数理科学」「社会科学のためのデータサイエンス」を開講するとともに、国際学ゼミナールに関連して、大学レベルの数学や力学の学習や復習を進めており、文系を含む幅広い分野の学生に対して理工系基礎科目の学修をサポートしています。 - 国際協定校への派遣 (海外留学) をサポートする体制を整えており、毎年約 25 名の学生が留学しています。 - 国際学ゼミナールにて、ゼミ説明会や卒業論文中間発表会を実施し、卒業研究にて、3年次に独立論文の執筆を求めるとともに、4年次で卒業論文作成を必須としています。卒業論文は、評価基準を公表し、査読体制による評価制度を導入しており、学生の卒業研究の質の向上に務めています。 - 「国際総合特別賞」「国際総合学類優秀賞」を設け、成績優秀者や優れた課外活動を遂げた学生を表彰する制度を取り入れており、効果的な学修を推進するためのインセンティブを付与する体制を整えています。 |
| 学生同士の交流機会 | <ul style="list-style-type: none"> - 学生自習室・資料室、学類サテライト室、学生控室、学生用ラウンジ等を整備し、日本人同士や日本人と外国人留学生が交流できる多文化共修の学習環境を提供しています。 - 毎年、国際協定校から多くの短期留学生を受け入れており、チューター制度や授業履修等を通して、日本人学生と外国人留学生の交流が積極的に行われています。 - 留学経験者とこれから留学する学生が知識と経験を共有する機会があり、学生同士による留学支援が積極的に行われています。 |
| 教員との交流機会 | <ul style="list-style-type: none"> - 少人数ゼミ体制をとり、卒業研究を必須としており、学群3-4年次の2年間で教員との綿密な交流機会があります。 - クラス制をとり、クラス連絡会を定期的 to開催し、履修やカリキュラム、学生生活全般、学習環境に関して、教員と学生の積極的な交流と意見交換の場を提供し、教育内容・環境の改善に務めています。 - 学類同窓会と連携して在学生の支援や進路相談を行い、卒業生と定期的に意見交換する機会を設けるとともに、SNS等を通じて在学生と卒業生が迅速に情報・意見交換する場を整備しています。 |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 卒業研究によるコンピテンスの修得状況を基に、教育会議等にて学生の学修成果に関する評価を行い、教育活動に対する点検と改善を実施します。
- 授業評価として、毎学期末にすべての授業について授業評価アンケートを実施しています。
- 成績評価分布の目標を定め、成績評価の分布を毎年確認し、教育の質の保証と改善につなげています。
- 毎年、在学生および卒業時の学生を対象に教育アンケート調査を実施するとともに、定期的に卒業生（卒業後）にも同様の調査を行っています。これらの調査を通じて、在学生や卒業生によるコンピテンス評価や学類教育に関する改善提案を受け取り、教育の質の保証と継続的な改善に活用しています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（国際開発学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 国際学〔国際開発〕の理解 | 社会科学の基礎知識を基に、最新の国際開発の潮流を歴史的・制度的・文化的背景を踏まえつつ、国際開発に関する幅広い知識と多様な研究手法について理解している。 |
| | 2. 国際学〔国際開発〕の分析能力 | 国際開発学を軸にして、国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、環境・情報のいずれかの分野の専門知識を深めつつ、ICTの基礎的スキルに基づく多角的な方法論を活用し、多様な価値観と高度の数理的・論理的思考力を身につけ、国際開発に関する諸問題について適切な手法により分析し、批判的に評価できる。 |
| | 3. 国際学〔国際開発〕の論理的表現能力 | 多様な価値観と高度の数理的・論理的思考力を前提として、ICTを活用した分析・表現・プレゼンテーションのテクニカル・スキルを用い、国際開発に関する諸問題について論理的に表現することができる。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 学修成果の評価は、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかを、卒業研究において主査と副査による卒業論文の査読を通じて行います。評価の対象には、卒業論文、卒業論文中間発表、卒業研究への取り組み等が含まれます。 | |

| 学修成果の評価 | | | |
|-----------------------|---------------------------------------|---|--|
| 専門コンピテンス | コンピテンスの内容 | 主な修得科目の科目区分、科目群、科目名等 | 評価方法 |
| 国際学（国際開発）の理解 | 国際開発に関する幅広い知識と多様な研究手法についての理解 | 専門基礎科目（国際学 II-IV、初級マイクロ経済学等）、専門科目（国際開発学）、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など | 講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒論中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。 |
| 国際学（国際開発）についての分析能力 | 国際開発に関する諸問題について適切な手法により分析し、批判的に評価する能力 | 専門基礎科目（国際学 II-IV、初級マイクロ経済学等）、専門科目（国際開発学）、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など | 講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒論中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。 |
| 国際学（国際開発）についての論理的表現能力 | 国際開発に関する諸問題について論理的に表現する能力 | 専門基礎科目（初級マイクロ経済学、EDS、ED等）、専門科目（国際開発学）、国際学ゼミナール、独立論文、卒業論文など | 講義・演習科目は、確認テスト、レポート等により評価する。国際学ゼミナールは、ゼミでの発表や卒論中間発表により総合的に評価する。独立論文は指導教員1名による査読により、卒業論文は指導教員を含む2名の査読体制により評価する。 |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（国際開発学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|---------------|---|
| 教育課程の 編成方針 | <p>総合的な方針</p> <p>複雑かつ変動する現代の国際問題は、経済や文化と深く結びついており、その解明には学際的視点が求められます。「国際開発学専攻」では、経済学、政治学、国際法、文化人類学等の社会科学の様々な分野を基礎とし、より数理科学的側面から国際社会における様々な開発の課題を捉えて分析します。開発の在り方に関する様々な視点を踏まえ、分野を横断する学際的教育を通じて、国際開発を巡る実践的な知識と技術を身に付けることにより、課題解決能力を備えたグローバル人材の育成を目指します。教育課程は、国際関係学専攻と共通点の多い専門基礎科目から始まり、高年次に向けてより高度な国際開発学の固有の科目やゼミナールへと発展し、国際学（国際開発）の理解、国際学（国際開発）の分析能力、国際学（国際開発）の論理的表現能力の3つのコンピテンスを修得しつつ、段階的に知見を深めていく構成となっています。</p> <p>順次性に関する方針</p> <p>[1 年次：基礎的学習]</p> <p>必修の専門導入科目「国際学Ⅰ～Ⅳ」を通じて、国際開発の基礎、経済学、環境・情報、工学、都市計画分野を含む広範な教養を身につけます。国際政治・国際法、経済学、文化・社会開発、環境・情報といった複数分野を俯瞰し、自らの適性に基づいて将来の専攻や専門分野を選択する基盤を築きます。同時に、英語を中心とした語学力とコミュニケーション能力を強化します。これにより、国際学（国際開発）の理解を深めます。</p> <p>[2 年次：国際開発分野の学際的分析力の習得]</p> <p>国際学（国際開発）を基盤に、専門基礎科目の選択履修を通じて、現代社会の開発に関わる諸現象を分析・評価する手法を習得するとともに、環境・情報分野との融合領域に関する知識と分析手法を学びます。これにより学際的素養と国際関係への洞察力を涵養します。また、語学をコミュニケーションの手段として位置づけ、多様な価値観を前提とした真の国際的コミュニケーション能力を高めます。これにより、国際学（国際開発）の分析能力と論理的表現能力を養います。</p> <p>[3 年次：国際開発における課題解決的・理論的研究]</p> <p>国際開発学専攻の専門科目を中心に学修し、国際学（国際開発）の専門性を深めます。開発学的なアプローチに基づくモデル化の手法を習得し、国際開発の具体的な課題解決に資する理論的知見を習得します。特に、国際交流や異文化理解を踏まえ、国際開発における課題を的確に見極め、鋭い問題意識と均衡のとれた国際感覚を養います。これにより、国際学（国際開発）の分析能力を深めます。</p> <p>[4 年次：国際開発に関する政策研究と実践]</p> <p>国際開発学専攻の専門科目を中心に学修するとともに卒業研究を進め、国際学（国際開発）の専門性を更に深めます。少人数ゼミナールへの参加と卒業論文の執筆を通じて、国際開発に関する独創的な問題設定、論理的な分析・実証を行い、国際学（国際開発）の分析能力とともに論理的表現能力を強化します。これによりガバナンス力高め、国際的に通用する説得力ある政策提言を行える人材を育成します。</p> |
|---------------|---|

| | |
|-------------------------|--|
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 社会科学分野と情報科学分野が中心となり、文理融合のカリキュラムを提供しています。 - 英語によるコミュニケーション能力を育成・強化するために、English Discussion Seminar や English Debate を必須科目としています。また、専門科目の中で英語による開講科目も多く、英語により専門の学びを深める機会があります。 - 社会国際学教育プログラム [社会・国際学群英語プログラム：Tsukuba International and Social Studies (TISS)] とカリキュラムを共有しており、日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ多文化共修（国際共修）による学びの場を提供し、「国際性の日常化」を実現しています。 |
|-------------------------|--|

| 育成する能力（コンピテンス）と教育課程の構造 | | | | |
|------------------------|--|--|---|---|
| | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
| 科目礎 | 総合科目、外国語、情報、体育等の教養科目の学修により、汎用コンピテンスを獲得します。 | | | |
| 専門基礎科目 | 国際学 I-IV により、国際学の基礎を学びます (国際学の理解)。 | | | |
| | 国際関係学や国際開発学の専門基礎科目を通じて、国際学の専門の基礎を学びます (国際学の理解、分析能力)。 | | | |
| | English Discussion Seminar, English Debate 等を通じてコミュニケーション能力を獲得します (国際学の論理的表現能力)。 | | | |
| 専門科目 | <ul style="list-style-type: none"> ○アジアの国際関係、ヨーロッパの国際関係、国際政治学、アジア政治、ヨーロッパ政治、日本政治等の学修を通じて、国際関係学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。 ○国際開発論、計量経済学、社会開発論、開発人類学、地域開発論等の学修を通じて、国際開発学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。 ○国際学ゼミナールと卒業研究を通じて、国際開発学の専門性を深めます (国際学の理解、分析能力、論理的表現力)。 | | | |
| | | | 国際学ゼミナール I | 国際学ゼミナール II |
| | | | 卒業研究 独立論文提出 | 卒業研究 (卒業論文提出) |
| | | | | |
| 科目関連 | 他学群・他学類の科目を履修し、幅広い教養と学際性による汎用コンピテンスを獲得します。 | | | |
| | <p>1年: 国際学 (国際開発) の基礎となるグローバルな視野と広範な教養を身につけるとともに、語学力・コミュニケーション能力を強化</p> | <p>2年: 国際学 (国際開発) を基盤に、学際的素養と国際開発の課題に対する洞察力を涵養、コミュニケーション能力を一層強化</p> | <p>3年: 国際学 (国際開発) を深めつつ、国際開発の具体的な解決策の構築に寄与する理論的知見の習得</p> | <p>4年: 国際学 (国際開発) を更に深めつつ、国際開発の独創的問題設定を行い、論理立てて分析・検証</p> |

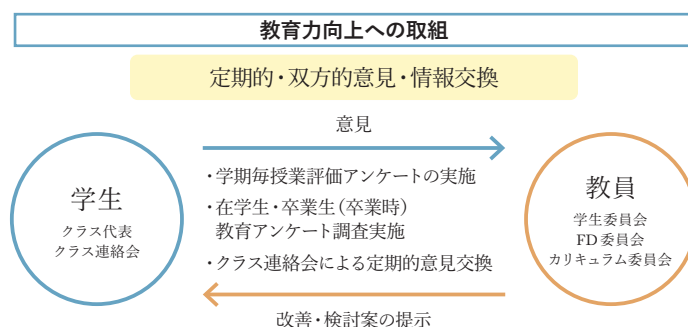
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|--------------|---|
| <p>求める人材</p> | <p>経済活動や環境問題は国境を越えて展開します。そこには、絶対的に正しいものはありません。既成観念にとらわれず、多様な価値観の存在を想像しながら、ものごとを観察し、何が問題かを見分け、何をどうすればいいのか、筋道をたてて考え、それを周りに説明でき、理解者を増やしていく意欲・チャレンジ精神をもつ人材が望まれます。</p> |
|--------------|---|

| | | |
|---------|---------------|---|
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等(前期日程) | 高い基礎学力と優れた語学能力に加えて、国語、地理歴史、数学、理科のいずれかの学力を総合的に評価します。 |
| | 推薦入試 | 基礎学力とコミュニケーション能力に加えて、国際関係や国際開発への幅広い関心と強い学習意欲を有する人材を選抜します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、国際関係や国際開発の諸問題を主体的に学ぶための知識や思考力、問題意識、明確な目標をもって学ぶ意欲、語学力を含めたコミュニケーション能力を総合的に評価し選抜します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-----------|---|
| 学修支援 | <ul style="list-style-type: none"> - 学群3年次生対象 TOEIC IP テストの受講を必須とするとともに、英語学習支援事業 (TOEFL-TOEIC 受験対策支援事業) を実施しており、学生の英語によるコミュニケーション能力向上を図っています。 - 専門基礎科目で「数理科学」「社会科学のためのデータサイエンス」を開講するとともに、国際学ゼミナールに関連して、大学レベルの数学や力学の学習や復習を進めており、文系を含む幅広い分野の学生に対して理工系基礎科目の学修をサポートしています。 - 国際協定校への派遣 (海外留学) をサポートする体制を整えており、毎年約 25 名の学生が留学しています。 - 国際学ゼミナールにて、ゼミ説明会や卒業論文中間発表会を実施し、卒業研究にて、3年次に独立論文の執筆を求めるとともに、4年次で卒業論文作成を必須としています。卒業論文は、評価基準を公表し、査読体制による評価制度を導入しており、学生の卒業研究の質の向上に務めています。 - 「国際総合特別賞」「国際総合学類優秀賞」を設け、成績優秀者や優れた課外活動を遂げた学生を表彰する制度を取り入れており、効果的な学修を推進するためのインセンティブを付与する体制を整えています。 |
| 学生同士の交流機会 | <ul style="list-style-type: none"> - 学生自習室・資料室、学類サテライト室、学生控室、学生用ラウンジ等を整備し、日本人同士や日本人と外国人留学生在が交流できる多文化共修の学習環境を提供しています。 - 毎年、国際協定校から多くの短期留學生を受け入れており、チューター制度や授業履修等を通して、日本人学生と外国人留學生の交流が積極的に行われています。 - 留学経験者とこれから留学する学生が知識と経験を共有する機会があり、学生同士による留学支援が積極的に行われています。 |
| 教員との交流機会 | <ul style="list-style-type: none"> - 少人数ゼミ体制をとり、卒業研究を必須としており、学群3-4年次の2年間で教員との綿密な交流機会があります。 - クラス制をとり、クラス連絡会を定期的開催し、履修やカリキュラム、学生生活全般、学習環境に関して、教員と学生の積極的な交流と意見交換の場を提供し、教育内容・環境の改善に務めています。 - 学類同窓会と連携して在学生の支援や進路相談を行い、卒業生と定期的に意見交換する機会を設けるとともに、SNS等を通じて在学生と卒業生が迅速に情報・意見交換する場を整備しています。 |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 卒業研究によるコンピテンスの修得状況を基に、教育会議等にて学生の学修成果に関する評価を行い、教育活動に対する点検と改善を実施します。
- 授業評価として、毎学期末にすべての授業について授業評価アンケートを実施しています。
- 成績評価分布の目標を定め、成績評価の分布を毎年確認し、教育の質の保証と改善につなげています。
- 毎年、在学生および卒業時の学生を対象に教育アンケート調査を実施するとともに、定期的に卒業生（卒業後）にも同様の調査を行っています。これらの調査を通じて、在学生や卒業生によるコンピテンス評価や学類教育に関する改善提案を受け取り、教育の質の保証と継続的な改善に活用しています。

社会国際学教育プログラム

The Undergraduate Program of International Social Studies

- 学士（国際社会科学）
- Bachelor of Arts in International Social Sciences

人材養成目的 / Program Educational Objectives

社会学、政治学、経済学、法学といった社会科学の学際的基盤に立脚し、さらに情報学の視点を補完的に取り入れた社会国際学教育プログラムは、グローバル社会における複雑かつ急速に変化する諸課題を理解し、分析し、的確に対応できる人材の育成を目的としています。学生は、各分野の専門性に支えられた体系的な知識と方法論的技能を修得し、多様な国際的文脈において、柔軟で創造的かつ社会的要請に応答する問題解決に取り組む力を身につけます。

| | |
|-----------------------|---|
| <p>養成する人材像</p> | <p>本プログラムは、確かな専門分野における能力と、社会科学を横断的・統合的に理解する広い視野を兼ね備えた、次世代のグローバル人材の育成を目指しています。学生は、国際的および異文化的な視点から社会現象を考察し、エビデンスを批判的に評価するとともに、理論的知見を現実社会の課題に応用する力を養います。</p> <p>社会科学分野における学際的な教育および研究能力の育成を通じて、本プログラムは、政策立案、組織運営、国際協力、学術研究といった多様な分野において貢献できる卒業生の輩出を目的としています。さらに本プログラムは、社会的・文化的多様性への理解と認識を涵養し、多角的な視点からグローバル化した世界を理解する能力を学生に身につけさせることも目的としています。</p> |
| <p>卒業後の進路</p> | <p>国際社会科学プログラムの卒業生には、社会科学分野にまたがる総合的な視点と高度な専門知識とを併せ持つ人材となることが期待されています。卒業生は、グローバルおよびローカルな社会課題を的確に言語化し分析するとともに、エビデンスに基づく解決策を提示し、多言語・多文化環境において効果的にコミュニケーションを行うことができます。</p> <p>グローバル化した社会に不可欠な能力を身につけた卒業生は、官公庁、国際機関、多国籍企業、非営利団体、研究機関、教育機関など、幅広い分野で活躍することが期待されます。また、起業や新たな社会的価値の創出といった分野においても貢献することが可能です。</p> <p>卒業生は、国内外の機関、NGO、シンクタンク、教育機関・研究機関などでキャリアを築いています。さらに、一部の卒業生は、日本または海外の大学院へ進学し、専門分野における知識と研究力を一層深めています。このほか、国際社会科学の知見が求められるスタートアップやイノベーション志向の分野に進む卒業生もいます。</p> |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（国際社会科学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. Understanding International Relations | In addition to its specialized fields, students will gain broad knowledge on international studies in general and various research methods. |
| | 2. Multidisciplinary Knowledge | Students are provided with skills and knowledge through the perspectives from different fields of social sciences, mainly economics, political science, sociology, and law. |
| | 3. Data analysis & application for social science research | Students are trained to mobilize, organize, analyze, and interpret data and information in social science research. |
| | 4. Fundamentals of negotiation skills | Students are given opportunities to develop the skills to engage in mutually beneficial negotiation on issues of local and international importance and context. |
| | 5. Policy-related fundamental skills | These courses are oriented towards practices of policy making, design and implementation. |
| | 6. Cross-cultural awareness skills | These courses offer fundamental knowledge to raise students' awareness on different cultures and perspectives that will encourage a broader understanding of local and global cultural landscapes. |
| | 7. Project analysis and completion skills | Students engage in research projects and seminars to identify, examine, and present key issues in social sciences. In the process, they create and present their graduation thesis to contribute to the production of socially relevant and meaningful knowledge. |
| | 8. Host culture integrative skills | By living and studying in Japan, students obtain a unique opportunity to engage, understand and contextualize the Japanese culture and its contribution to global welfare and society. |
| | 9. Interactive applied competence | Courses that provide opportunities for students to apply their skills and knowledge in practical contexts, allowing them to shape their capacity to solve and prevent problems in society. |

| | |
|-----------------------------|---|
| <p>学修成果の評価に関する方針</p> | <p>学修成果は、試験、小テスト、レポート、授業内での討議等を通じて評価され、大学の適切な能力評価に関する方針に基づき、汎用コンピテンスおよび専門コンピテンスの双方について、学生の達成度が確認されます。専門コンピテンスの達成状況については、理論的知見と実証的研究を統合した卒業論文によって、さらに評価が行われます。</p> <p>研究の過程においては、演習、中間発表、ならびに教員との個別相談等を通じて、指導およびフィードバックが提供されます。最終的な卒業論文の質および学術的厳密性は、ディプロマ・ポリシーの達成度を示す主要な指標となります。</p> |
|-----------------------------|---|

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

本カリキュラムは、以下の方針に基づいて編成されています。

| | |
|-------------------------|--|
| <p>教育課程の編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>本プログラムの総合的な方針は、経済学、政治学、社会学、法学などの分野を包含する学際的な視点を通じて、グローバル化した世界における国際的課題を理解するための知識と手法を学生に提供することにあります。</p> <p>順次性に関する方針</p> <p>本カリキュラムでは、基礎科目から専門基礎科目、さらに専門科目へと段階的かつ体系的に学修を進めることにより、学生が知識を着実に修得できる構成となっています。最終段階では、これまでの学修成果を総合するものとして、卒業論文を作成します。</p> <p>実施に関する方針</p> <p>本プログラムの教育理念は、グローバルな課題を幅広い視野から捉え、理論的観点と実証的データに基づく実践的課題解決の双方において、学際的に思考する力を学生に養うことを目的としています。</p> <p>この目的を達成するため、経済学、社会学、法学、政治学を中心とした学際的カリキュラムを編成するとともに、意見交換や議論を促進する授業を実施しています。また、米国ワシントンD.C.で開催される全米模擬国連への参加や、日本国内の高等学校と連携した合同ワークショップなどの活動を通じて、国際問題について議論する能力を高めるとともに、国際化の文脈における地域社会との連携を促進しています。</p> <p>さらに、インターンシップを通じて、学生は日本国内およびインド、モンゴル、中国、エチオピアなどの国々において、国際機関から民間企業に至る多様な組織で実践的な経験を積んでいます。これらの活動では、児童福祉の推進、食料安全保障、財務管理、マーケティング、グリーンエネルギーなど、幅広い課題が扱われています。</p> <p>これらすべての取組は、現在および将来の国際的課題の解決に積極的に貢献できるグローバル人材を育成することを目的としています。</p> |
|-------------------------|--|

| | |
|--------------------------------|---|
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>本プログラムでは、批判的思考力、実証的探究力、ならびにグローバルな視野を育成することを目的とした、特色ある教育方法を採用しています。教員は、学生が前提や通念を問い直し、社会現象を比較的・国際的な視点から分析することを促す教材を開発しています。</p> <p>カリキュラムでは、フィールドワーク、協働型プロジェクト、ケーススタディ、データ分析などのアクティブ・ラーニングを重視するとともに、国際機関、NGO、日本および海外の企業等におけるインターンシップを通じて、実務家との交流を促進しています。</p> <p>さらに、研究プロジェクトを通じた体験的学修や、国際的・多文化的な環境における地域連携活動を推進しており、その一環として、高等学校と大学の連携プロジェクトや、米国ワシントンD.C. で毎年開催される全米模擬国連への学生の参加を行っています。</p> |
|--------------------------------|---|

入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|-----------------------|---|
| <p>求める人材</p> | <p>本プログラムでは、基礎的な学力を備え、グローバルな社会課題に対する知的好奇心を有し、論理的に思考し表現する力を持つ者を求めています。志願者には、国際的な視点から社会現象を分析することへの関心を示すとともに、主として英語で行われる学修に対応できる学習意欲と準備が期待されます。</p> |
| <p>入学者選抜方針</p> | <p>志願者は、学修の基礎力、論理的思考力、コミュニケーション能力、ならびに国際社会科学を学ぶ意欲を基準として総合的に評価されます。選抜方法には、書類審査、標準化された評価試験および面接が含まれます。特に本プログラムでは、明確な学修・研究目標を有し、グローバルな課題に対する問題意識を持つとともに、自律的に学ぶ姿勢を備えた志願者を重視しています。</p> |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------------------------------|--|
| <p>学修支援</p> | <p>効果的な学修を確保するため、履修指導、研究指導、語学支援、ならびに国際的な活動への参加機会など、多様な学修支援を提供しています。研究方法および実証的研究に関する科目を通じて、学生はキャップストーン・プロジェクトを遂行するために不可欠な技能を身につけます。</p> |
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <p>演習、スタディ・グループ、学生主体の学術イベント、ならびに共用の学修スペースを通じて、ピア・ラーニングを促進しています。学生は、リーディング・グループや学際的なディスカッションなどの活動を自ら企画・運営し、学術的な協働と知的コミュニティの形成を図っています。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>教員がオフィスアワー、履修・学修相談、ならびに個別のフィードバックを通じて、学生の研究活動および学修の進展を支援しています。少人数制の授業や演習により、学生と教員との密接な対話と指導が可能となっています。</p> <p>また、授業の枠を超えた交流を促進するため、“students, professors and staff liaison meetings”などの教員・学生交流行事を毎年実施し、相互理解と意見交換の機会を設けています。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

教員会議および質保証のための取組を通じて、学生の学修到達状況、学修成果、ならびにカリキュラムの有効性について体系的な点検・評価を行っています。授業評価アンケートの結果や、学生・教員間の意見交換を通じて得られたフィードバックは、カリキュラム、教育方法、学修環境の改善に活用されています。

また、ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する協議や定期的なカリキュラムの見直しを通じて、プログラムの目的に沿った質の高い教育の提供を確保しています。

人間学群

School of Human Sciences

教育学類

College of Education

- 学士（教育学）
 - Bachelor of Arts in Education
-

心理学類

College of Psychology

- 学士（心理学）
 - Bachelor of Arts in Psychology
-

障害科学類

College of Disability Sciences

- 学士（障害科学）
 - Bachelor of Arts in Disability Sciences
 - 学士（特別支援教育学）
 - Bachelor of Arts in Special Education
 - 学士（社会福祉学）
 - Bachelor of Science in Social Work
-

人材養成目的 / Educational Objectives

人間と人間がかかわる社会・自然に対する幅広い興味と関心を基盤に、人間の発達や共生に関わる事象を学際的かつ科学的に分析・理解する力を身につけます。さらに、多様な他者と対話し協働しながら、人が抱える様々な問題を探究・解決する姿勢と実践力を備え、人間と社会のよりよい関係の構築に主体的かつ創造的に貢献できる人材を養成します。

教育学類

College of Education

- 学士（教育学）
- Bachelor of Arts in Education

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人間形成、学校教育開発、教育計画・設計、地域・国際教育にかかわる教育学の専門的知識・技能を活用し、様々な分野で貢献できる人材、研究能力を有する人材を養成します。

| | |
|---------|---|
| 養成する人材像 | 人間社会が形成してきた文化や教育・学習活動に対する幅広い関心と高い問題意識を抱き、学問的に深めたいという志を持ちながら、自主的に学び、考え、科学的、論理的、かつ実践的な問題解決能力を有し、学校、自治体、民間機関、国際機関など様々な分野で貢献できる人材、研究能力を有する人材を養成します。 |
| 卒業後の進路 | 卒業生の約6割は企業や教員、官公庁など国内外で広く活躍しています。約4割は大学院に進学しています。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

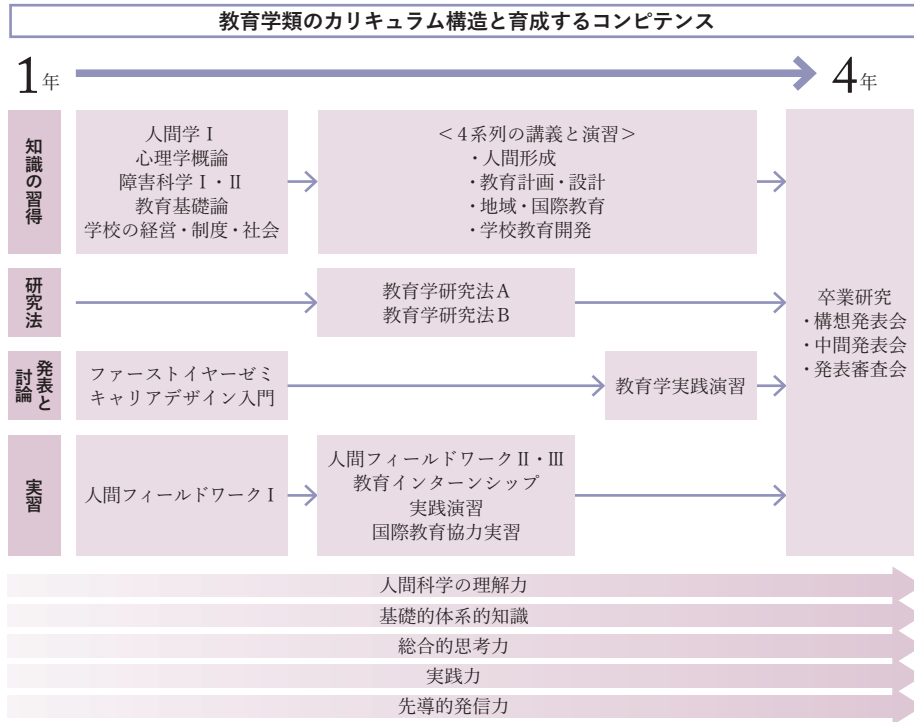
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（教育学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|---|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 人間科学の理解力 | 教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を備えている。 |
| | 2. 教育学の基礎的体系的知識 | 教育に対する幅広い学識を修得し、体系的な見方・考え方ができる。 |
| | 3. 教育学における総合的思考力 | 教育に対する知識や技能、判断を段階的に修得し、総合的な思考力を備えている。 |
| | 4. 教育学的実践力 | 教職などの専門職に採用される水準の教育専門家の資質・能力を備えている。 |
| | 5. 教育学に関する先導的発信力 | 教育学の理論と実践に関して、大学院に進学できる水準の基礎的研究能力を備えている。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>学修成果の集大成として卒業研究を重視し、2回の卒業研究指導会、卒業論文および最終発表を通じて、学位授与の方針に掲げた知識・能力（専門コンピテンス）が修得できているかを評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 卒業論文は、学類担当教員2名による査読を通じて、学修成果の達成状況を評価します。 - 学類全体で行われる3回の公開発表会では、口頭による概要説明と質疑応答を基に、学修成果の達成状況を当該領域の教員で評価します。 - これらの結果を総合的に判断し、学修成果の最終的な評価を行います。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（教育学）に関する学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|--------------------------------|---|
| <p>教育課程の編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>授業科目を教育学の総合性に対応した4つの系列（人間形成系列、教育計画・設計系列、学校教育開発系列、地域・国際教育系列）に分類した上で、教育学の代表的な分野をすべて網羅した幅広い教育学教育を基礎から行い、卒業研究の完成へと導きます。各科目は、カリキュラム・ポリシーに基づいて、体系的に編成しています。学生はこれらの4系列を指針としながら、将来の目的や関心に応じて様々な授業を履修することができます。また、2年次になると、小学校教員免許状の取得を希望する学生は「初等教育学コース」の科目を履修し、そうでない学生は「教育学コース」の科目を履修することになります。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次…「基礎科目（共通科目・関連科目）」と「人間学群コア・カリキュラム」を履修し、教育学に加えて心理学と障害科学の基礎を学び、人間・社会・自然に関する幅広い興味と関心を育てながら、教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を培います。 - 2年次…研究力を高めるために、「教育学研究法」を履修します。また各系列科目の概論的な講義を受講し専門性の幅を広げるとともに、「教育インターンシップ基礎論」「教育インターンシップ実践演習」を履修します。 - 3年次…系列ごとに設けられた「演習」及び「探究」を履修して専門知識の体系性を完成させるとともに、「教育学実践演習」を履修し、「卒業研究」の準備段階とします。それによって、教育に対する幅広い学識と体系的な見方・考え方を培います。 - 4年次…原則として5月と10月に開催される2回の卒業研究指導会（構想発表会と中間発表会）で発表し、そこでの指導を踏まえて、4年間の学習の成果を「卒業論文」としてまとめます。 |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 学校の教員や社会教育施設の専門家を招聘するとともに教育現場を訪問することで、「教育的実践力」「教育学における総合的思考力」を獲得するとともに、教育現場との連携・協力を行います。 - 海外の教育現場で学ぶことができる授業も複数あり、「教育学の基礎的体系的知識」や「教育学に関する先導的発信力」をさらに高めることができます。 - 定期的な卒業研究指導と厳格な評価を行うために、年間を通して卒業研究のための2回の卒業研究指導会、卒業研究発表会を全教員の参加の下に開催し、学修成果の評価を行っています。 - 毎年3月に、学士課程の学生と教員、大学院生が一堂に会して「ペスタロッチ祭」に参加し、「人間科学の理解力」や「教育学に関する先導的発信力」の獲得を行うとともに、教育学関係のさまざまな学生と教員との人間的なつながりを確認する場に行っています。 - 学生の「専門コンピテンス」獲得を促進するための教育活動を継続的に行うために、学生の学習指導・生活指導にかかわる情報を教員間で幅広く共有するとともに、FD委員会の活動を充実させて改善を継続的行います。 |



入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|---------|--|--|
| 求める人材 | 人間社会が形成してきた文化や教育・学習活動に対する幅広い関心と高い問題意識を抱き、学問的に深めたいという志を持ちながら、自主的に学び、考え、科学的、論理的、かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科のいずれかの学力を総合的に評価します。 |
| | 個別学力検査等後期日程 | 広い基礎学力を評価します。また、論述において、応答性、論理性等を評価します。 |
| | 推薦入試 | 一定レベルの学力を有し、教育学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、教育学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。あるいは、教育学について明確な問題意識を持ち、その問題意識に関連した優れた活動実績を有するかどうかを評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、教育学類の学習について明確な目的意識を持ち、教育に関する領域で国際的視野に基づく活動を志しているかどうかを評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 教育的な事象に対する強い関心と問題意識を持ち、入学後の授業に適應できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を総合的に評価します。 第2種) 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、教育的な事象に対する強い関心と問題意識を持ち、入学後の授業に適應できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を総合的に評価します。 |

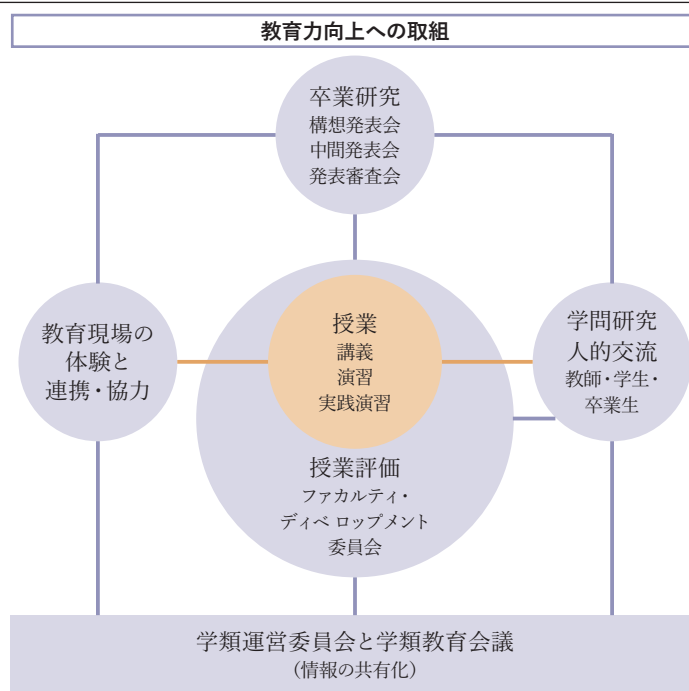
学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-----------|--|
| 学修支援 | <ul style="list-style-type: none"> - 学修状況の確認と支援：学生はコンピテンスの達成状況の自己評価および今後の履修計画に関するコメントを記載した「達成度評価セルフチェック・コメント」を年に1回提出します。これを基に、クラス担任は学生の履修科目や単位取得状況、コンピテンスの達成度を把握し、進級や卒業に向けて学修が適切に進んでいるかを確認します。その上で、学生が自身の関心や目標に応じて効果的に学修を深められるよう、履修計画に関する個別の助言・指導を行います。 - 生活状況の確認と支援：学業面に加え、生活面での困りごとや悩みにも対応し、学生が安心して学修を継続できるよう支援体制を整えています。クラス担任や学生支援担当部署が連携し、必要に応じて適切なサポートを提供します。 |
| 学生同士の交流機会 | <ul style="list-style-type: none"> - 「教育学研究法 A・B」では、教員の指導の下、グループで協力しながら授業を進めます。資料の読み方やデータの分析を通じて教育学の研究手法を学ぶとともに、発表や意見交換を通じて学生同士の交流を深める重要な機会となっています。 - 「教育インターンシップ実践演習」では、グループに分かれて、学校や社会教育施設に行き、そこでの活動に参加するだけでなく、参加学生同士の交流も深めています。 - 学類として宿舍祭の参加を例年行っており、神輿つくりや物品販売などで学生同士の交流を深める機会となっています。 |

| | |
|------------------------|--|
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 定員 35 人に対して 2 人の教員を担任として配置しています。担任教員は、学生ひとり一人の状況に配慮しながら、個別の相談に応じ、継続的な指導と支援を行っています。 - 3 年次に開講される「教育学実践演習」では、指導教員の下で卒業論文作成に向けたゼミ（研究活動）を行っています。ゼミによっては教員だけでなく大学院生も交えて研究のアイデアを出し合い、議論しながら研究を進めています。こうした過程を通じて、学びを深めるとともに、異なる視点や考え方に触れる貴重な交流の機会をとらえています。こうした協同的な学びを通じて、主体的に自己の研究に取り組む力や教育学的な探究活動に対する姿勢を育てています。 |
|------------------------|--|

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 教育課程委員会やファカルティ・ディベロップメント委員会が主導して学修成果の評価の集計と分析を実施し、教員全体で共有して、教育の質保証と改善の方策を行っています
- 年に 2 回実施される学群でのランチタイムミーティングや学類のクラス連絡会において、学生と教員が授業や日常生活についての話し合いを行っています。その内容を教員全体で共有した後、学類の教育課程や行事など教育の改善に取り組んでいます。
- 「キャリアデザイン入門」の授業後、卒業生から学生時代に学んだ内容が現在の実社会でどのように活かされているかについての意見を教員が聴取しています。また、定期的に卒業生に対して学類時代の学びを振り返るアンケートを実施しています。その内容を教員全体で共有し、教育課程の改善や発展につなげることを目指しています。
- 教育学域の同窓会組織である「ペスタロッツ祭」では、卒業生から社会について話を聞く機会を設けています。これにより、カリキュラムや教育内容、方法の見直しに活かすための貴重なフィードバックを得ています。



心理学類

College of Psychology

- 学士（心理学）
- Bachelor of Arts in Psychology

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人間のこころと行動に関する幅広い興味や関心を基盤とし、それらを科学的・実証的に分析し理解する姿勢を育みます。そして、専門的な知識や技能を備え、実践的な課題に主体的または他者と協同して創造的に取り組む力を養い、国際的に通用する知性、人間性、そして柔軟性と逞しさを兼ね備えた人材の育成を目指します。

| | |
|---------|--|
| 養成する人材像 | <p>「人材養成目的」に掲げた人材は、「人間のこころと行動に対する幅広い関心を土台に、科学的かつ実証的に対象を分析し理解する姿勢」を身に着け、「保健医療・福祉」、「教育」、「司法・矯正」、「産業・労働」、「国際的・多文化的環境」の方面で、社会の中で生じる多様かつ複雑な人間の行動の課題に対し、心理学的知見と実証的アプローチをもって取り組み、個人や集団の心理的支援とケア、エビデンスに基づいた介入やプログラムの設計・実施、社会問題に対する多角的な分析と解決策の提案、他者との協働による創造的な問題解決と価値創出などの貢献が可能です。</p> |
| 卒業後の進路 | <p>科学的根拠に基づく「人間理解」と、問題解決・協働・コミュニケーションの力を活かし、多様な領域で活躍できる人材の育成を想定しています。</p> <p>心理学の専門性を活かす領域</p> <ul style="list-style-type: none"> - 公認心理師や臨床心理士等の心理専門職への進学（大学院進学を含む） - 医療機関・教育現場・福祉施設・自治体等での心理支援業務 - 司法・矯正領域（家庭裁判所調査官補、矯正・保護施設職員等） - 産業・組織心理領域（人事・労務、働き方支援、メンタルヘルス対策等） <p>データ分析・調査設計・研究職</p> <ul style="list-style-type: none"> - 民間企業の調査部門、マーケティングリサーチ、ユーザーリサーチ - 行動データ分析、UXリサーチ、製品開発における心理データの活用 - シンクタンク・研究機関・行政機関での社会調査・政策立案補助 - 大学院進学による研究者（心理学・認知科学・行動科学など）への道 <p>教育・人材育成分野</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学校教育（心理学の知識を活かした教育支援） - 大学・専門学校での教育職（大学院進学を前提） - 企業の研修・人材育成・キャリア支援に関わる業務 <p>コミュニケーション・企画・創造的業務</p> <ul style="list-style-type: none"> - 広報、広告、メディア、デザイン分野における「人間理解」を基盤とした企画 - NPO・国際機関等での社会課題解決プロジェクト - 市民活動・地域活性化・コミュニティ支援に関する業務 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（心理学）の学位を授与します。

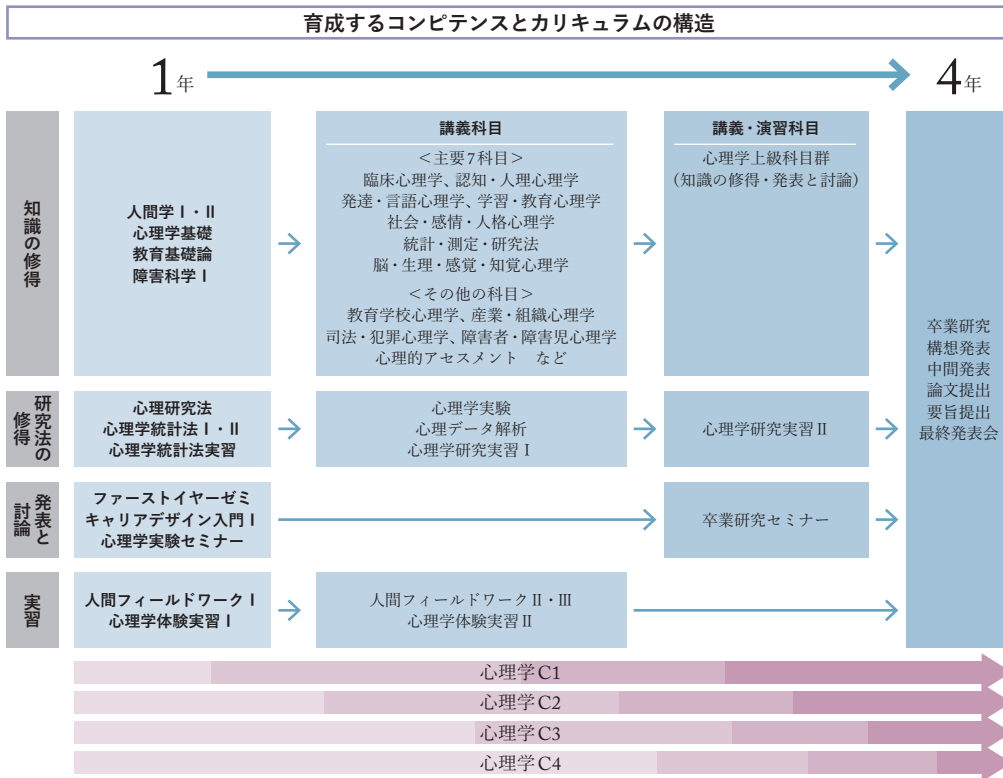
| | | |
|---------------------|--|--|
| 知識・能力（専門 コンピテンス） | 1. 心理学 C1 | 心理学に関する専門的知識と心理学の方法論を活用して適切にデータを収集し、科学的に分析することができる。 |
| | 2. 心理学 C2 | 自己理解と他者理解に基づき、他者と協同して、課題解決を図ることができる。 |
| | 3. 心理学 C3 | 人間と社会の多様な現象を実証的に探求し、問題に対処していく実践的な志向性が身についている。 |
| | 4. 心理学 C4 | 国際社会における多様性と多文化共生について心理学的視点から理解し、相互互恵的関係を形成できるコミュニケーション能力を備えている。 |
| 学修成果の評価に 関する方針 | <p>学修成果の集大成として卒業研究を重視し、構想発表・中間発表、卒業論文および最終発表を通じて、学位授与方針に基づく学修成果を評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 卒業論文は、学類担当教員 3 名による査読を通じて、学修成果の達成状況を評価します。 - 領域ごとに実施される 3 回の公開発表会では、口頭による概要説明と質疑応答を基に、学修成果の達成状況を当該領域の教員で評価します。 - これらの結果を総合的に判断し、学修成果の最終的な評価を行います。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（心理学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成します。

| | |
|---------------|---|
| 教育課程の 編成方針 | <p>総合的な方針</p> <p>授業科目を心理学に関する知識の獲得、研究方法の習得、発表と討論、実習という4カテゴリに分類した上で、心理学の代表的な分野をすべて網羅した幅広い心理学教育を基礎から行い、卒業研究の完成へと導きます。各科目は、カリキュラムポリシーに基づいて、体系的に編成しています。</p> <p>順次性に関する方針</p> <p>以下のステップを踏んで基礎的分野から応用・実践的分野まで幅広い心理学教育を行います。図の矢印は想定されるコンピテンスの習得の程度を表し、色が濃いほど深い習得であることをイメージしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次には、汎用智の醸成を目的とした科目や、専門智の涵養を担う他学類の専門科目を履修することで、総合智の形成を図ります。また、「心理学概論」および「心理学研究法」を通じて心理学の基本的知識を学び、「心理学統計法Ⅰ・Ⅱ」およびその実習を通じて心理学の基礎的分析技法を習得します。これにより、心理学C1・C2を培います。 - 2年次には、基幹となる専門科目群を幅広く学修し、心理学の専門的知識の深化をはかります。「心理学実験」では基礎的研究技法を習得します。「心理学英語セミナー」では英語論文の講読を通して心理学研究の専門知識や方法論、心理学論文執筆の基本的なルールなどを習得します。「臨床心理学概論」では、心理学の知識や技能を活用して支援活動ができる力や、こころの健康に関する知識や情報を他者に提供する力を獲得します。これにより、心理学C2・C3を育成します。 - 3年次には、講義・演習科目を中心として心理学に関する高度な専門知識を修得します。また、「心理学研究実習Ⅰ」では十分な先行研究の理解に基づいて実験・調査研究を行い、データ収集能力と科学的分析能力、そして討論ができる能力を実践的に身につけます。3年次の終わりには「卒業研究セミナー」を履修し、本格的に卒業研究の準備を始めます。これにより、心理学C3・C4を養います。 - 4年次には、「卒業研究」を通じて、論理的思考力、洞察力、創造力を培います。特に、卒業論文の制作過程では、自らの研究を論理的に構築し、課題を深く探究する力を養います。また、最終発表会における発表や質疑応答を通じて、応答力や議論を深める能力を熟成させ、効果的なコミュニケーション力を身につけます。卒業研究完成に至る過程の中で、全ての専門コンピテンス（心理学C1～C4）の総合的な修得を目指します。 |
|---------------|---|

| | |
|---------------------------------------|---|
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 心理学研究実習Ⅰ・Ⅱにより、教員や大学院生と共にグループワークとして実際の心理学研究を遂行する機会を通じて、心理学C1の修得を目指します。 - 専門導入科目「心理学概論」では、心理学C2の敷衍のため、世界的に評価の高いスタンダードな英文テキストの最新版を用いて心理学教育の国際基準に配慮した授業を行います。 - 心理学体験実習Ⅰにより、実際の心理学実験等に参加することで、研究参加者の立場を体験したり、座学に加えておおよび様々な実習を通して実践力・応用力を向上させ、知識の定着化・有用化の機会を与えることにより、心理学C3の養成に繋がります。 - 学修の集大成である卒業研究に向けて、3年次後半から卒業研究セミナーを通じて取り組みます。1教員あたり2名程度の学生を指導する少人数体制により、きめ細やかな指導を受けることができます。これらにより、心理学C1から心理学C4までの最終修得を目指します。 |
|---------------------------------------|---|



入学者受入れの方針 / Admission Policy

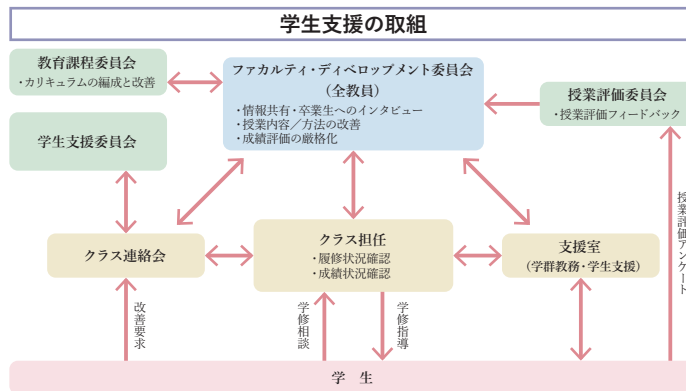
| | |
|---------------------|--|
| <p>求める人材</p> | <p>人間のこころと行動に高い関心と興味を持ち、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。</p> |
|---------------------|--|

| | | |
|----------------|-------------------|--|
| 入学者選抜方針 | 前期入試 | 広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科のいずれかの学力を筆記試験で総合的に評価します。 |
| | 後期入試 | 広い基礎学力を筆記試験で評価します。また、論述試験において、応答性、論理性等を評価します。 |
| | 推薦入試 | 一定レベルの学力を有し、人間のこころと行動について明確な目的意識を持つ人材で、心理学類の教育に適応性があるかどうかを筆記試験ならびに口述試験で評価します。また、人間のこころと行動について、旺盛な知的好奇心を持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会活動等において優れた実績を有するかどうかを提出書類で評価します。 |
| | 国際バカロレア (IB) 特別入試 | 国際バカロレア試験において一定レベルの成績をおさめ、心理学類の学修に関して明確な目的意識を持ち、心理学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材であるのかを提出書類ならびに口述試験で評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、心理学類の学修に高い関心を有し、入学後の授業に適應できる理解力・思考力・日本語能力を有する人材であるのかを筆記試験ならびに口述試験で評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

- 学修状況の確認と支援：クラス担任は学生の履修科目や単位取得状況を把握し、進級や卒業に向けて学修が適切に進んでいるかを確認します。その上で、学生が自身の関心や目標に応じて効果的に学修を深められるよう、履修計画に関する個別の助言・指導を行います。
- 生活状況の確認と支援：学業面に加え、生活面での困りごとや悩みにも対応し、学生が安心して学修を継続できるよう支援体制を整えています。クラス担任や学生支援担当部署が連携し、必要に応じて適切なサポートを提供します。

学修支援



| | |
|-------------------------|--|
| <p>学生同士の交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 1班 10名程度のグループで協力しながら実験を進める「心理学実験」では、データの収集や分析を通じて、心理学の研究手法を学ぶとともに、意見交換や役割分担を通じて学生同士の交流を深める機会にもなっています。 - 学生が2～3人のグループで社会で活躍する卒業生にインタビューを行う「心理学体験実習Ⅱ」では、キャリア形成に関する知見を深めるとともに、学生時代に取り組むべき学びについての理解を広げます。あわせて、卒業生が学生時代の学びを現在の仕事にどのように活かしているかを共有してもらい、そのやり取りを通じて、教育内容やカリキュラムの改善につなげることを目指しています。 |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 1学年の定員50名を2クラスに分け、同一の教員が4年間クラス担任を務めます。担任教員は、学生一人ひとりの状況に配慮しながら、個別の相談に応じ、継続的な指導と支援を行っています。 - 3年次に開講される『心理学研究実習Ⅰ・Ⅱ』では、学生が1～2名の少人数グループで教員や大学院生から個別指導を受けながら、研究の進め方や実施方法を学びます。学生同士でアイデアを出し合い、議論しながら研究を進める過程は、学びを深めると同時に、互いの視点や考え方に触れる交流の機会にもなっています。こうした協働的な学びを通じて、主体的に研究に取り組む力や、心理学的探究に対する姿勢が育まれます。 |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 「授業評価委員会」は、授業評価アンケート等を通じて得られた学修成果の評価結果を体系的に集計・分析し、その結果に基づくフィードバックを行っています。これを踏まえ、「ファカルティ・ディベロップメント委員会（全教員）」において、当該学修成果の評価結果を組織的に検討し、教育方針および教育実践の妥当性について検証を行うとともに、必要に応じた改善方策の検討・策定を行っています。これらの取り組みにより、各授業の内容や教育方針の継続的な見直しと改善が促進され、教育の質の保証および向上が図られています。
- 「心理学体験実習Ⅱ」では、学生が卒業生（卒業後10年以内）にインタビューを行い、その後、卒業生からフィードバックを受けます。あわせて、卒業生が学生時代に学んだ内容が現在の実社会でどのように活かされているかについて意見を聴取し、それらの知見をもとに、カリキュラムの改善や発展につなげることを目的としています。
- 1929年に開学した東京文理科大学の第1期生以来の歴史をもつ同窓会組織「心友会」の会員を中心に、毎年、社会で活躍する卒業生から意見を聴取する機会を設けています。これにより、教育内容やカリキュラムの見直しに活かすためのフィードバックを得ています。

障害科学類

College of Disability Sciences

- 学士（障害科学）
- Bachelor of Arts in Disability Sciences
- 学士（特別支援教育学）
- Bachelor of Arts in Special Education
- 学士（社会福祉学）
- Bachelor of Science in Social Work

人材養成目的 / Program Educational Objectives

乳児から高齢者までの感覚、運動、認知、言語などの機能の障害、健康や高齢・発達に関わる障害、障害をめぐる環境や社会・文化的課題に関する基礎的知識と支援方法を、教育・心理・福祉・医療などの領域から総合的にかつ実践的に身につけ、共生社会の創造に貢献する、国際的に活躍し先導的に発信できる能力をもつ人材を養成します。

| | |
|----------------|---|
| 養成する人材像 | <p>人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探究心を身につけ、自主的に学び、考え、科学的、論理的、かつ実践的問題解決能力をもつ人材の育成を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 障害と社会に関する基礎的研究力のある人材 - 障害のある人々へのサポートスキルのある人材 - 教育と研究の成果を国内外に発信できる人材 - 人類と社会に貢献できる人材 |
| 卒業後の進路 | <p>企業（サービス、金融・保険、情報・通信、流通、運輸などの業種）・団体（障害者職業センターなどの福祉分野）、教員（各地の小・中学校、高等学校、特別支援教育学校）・公務員（中央省庁・外局・地方自治体などの官公庁）など国内外での幅広い活躍が想定されます。</p> <p>4割以上の学生が、障害科学類の上位となる大学院（「障害科学学位プログラム」）に進学することを期待しています。</p> |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（障害科学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|---|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 障害科学コンピテンス 1 | 教育学、心理学、障害科学といった人間を対象とする領域の学際性を踏まえて、障害科学の基礎知識を理解する能力 |
| | 2. 障害科学コンピテンス 2 | 障害領域別の生理病理、障害児者の心理、教育、社会福祉など、各種障害関連分野を理解し、それらの知識を体系化して整理する能力 |
| | 3. 障害科学コンピテンス 3 | 障害科学に関する臨床研究、実験や調査、文献研究などの多様な研究方法とともに、それぞれの方法により得られたデータの科学的評価法やアセスメント方法に基づき、分析的に思考する能力 |
| | 4. 障害科学コンピテンス 4 | 障害科学における様々な支援技術や指導法を知り、多様なニーズを有する障害科学の対象者のニーズを見極め、専門家、実践家、保護者等と協働するための実践能力 |
| | 5. 障害科学コンピテンス 5 | 障害科学に関する知識や技術などの現状や課題について認識し、障害科学の知識や技術を日本と世界の様々な地域に発信できるプレゼンテーション力や言語力（日本語・外国語） |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>4年間の学修成果の集大成として卒業研究を重視し、構想発表・中間発表、卒業論文および最終発表を通じて、学位授与方針に基づく学修成果を評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 卒業論文は、指導教員以外の障害科学類担当教員2名による査読を通じて評価し、学修成果の達成状況に反映します。 - 三回の公開発表会では、口頭による概要説明と質疑応答を基に、学修成果の達成状況を複数の教員で評価します。 - これらの結果を総合的に判断し、学修成果の最終的な評価を行います。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

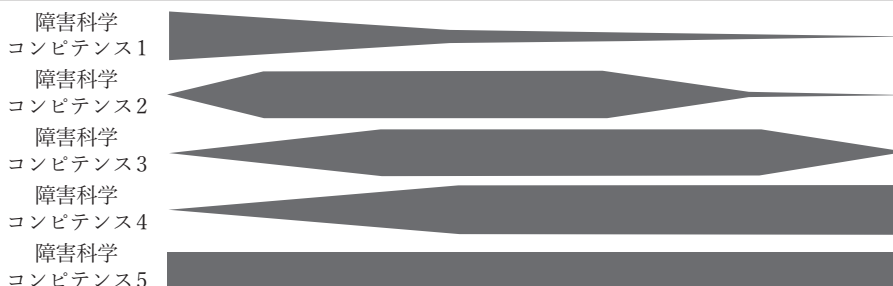
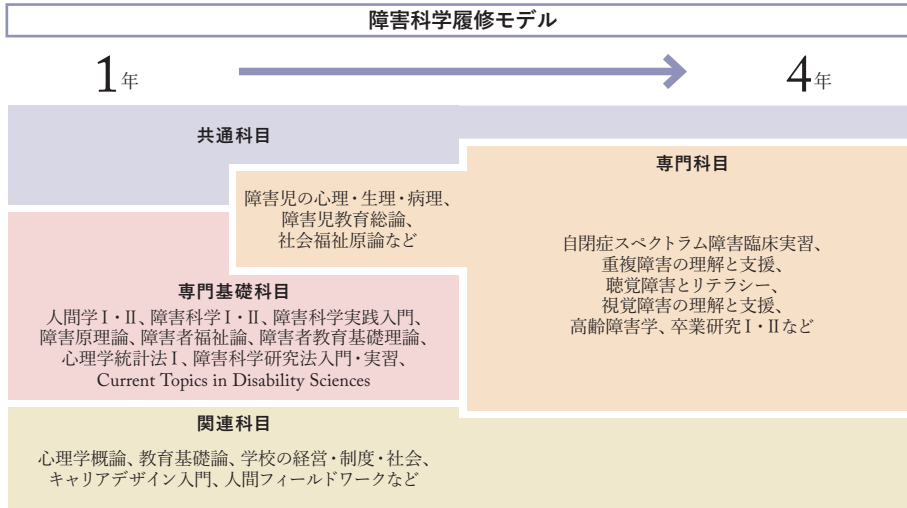
学士（障害科学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-----------------------|---|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>学類の基本的な履修形態として、障害や障害者に関する幅広い知識を身につける「障害科学履修モデル」を設定しています。障害科学の全体的な理念・概念の理解を基に、障害科学が包含する特別支援教育、障害心理・生理、障害福祉等の全領域に関して、視覚障害学、聴覚障害学、言語障害学、運動障害学、健康・高齢障害学、知的・発達・行動・情緒障害学の基礎的な知識や技能を修得します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎の修得を図り、卒業研究の完成を目指します。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える <p>「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により障害科学の基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」において実践現場を見学・参観し、障害科学探求のモチベーションを高めます。また、「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解します。これにより、障害科学C1を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える <p>障害別の「障害児の心理・生理・病理」、「障害児教育総論」、「社会福祉原論」等で各専門の基礎を学び、「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じて、自らの学修の方向性と卒業後の進路を考えます。これにより、障害科学C2・C3を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 3～4年次…障害科学の研究・実践技術の修得 <p>障害科学に関する専門知識や技能を修得し、大学院進学に備えます。「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害科学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。卒業研究完成に至る過程の中で、全ての専門コンピテンズ（障害科学C1～C5）の総合的な修得を目指します。</p> <p>実施に関する方針</p> <p>障害科学履修モデルに基づいて、履修規程で卒業に必要なとされる単位を修得することにより、障害科学を幅広く学修します。演習・実習の活動内容を含む授業では、主体的な学修のために参加型の形態をとる一方、附属特別支援学校教員・福祉施設などの現職専門家や大学院生の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。</p> |
|-----------------------|---|

学修の方法
特色的な教育

- 「障害科学実践入門」では特別支援学校の見学・授業参観をとおして、障害のある子どもとその支援の実際について「人間科学の理解力」を深めます。これにより、障害科学 C1 の修得を目指します。
- 「障害者教育基礎理論 I・II」では障害のある子どもの教育に関わる基礎的事項の学びを通して「障害科学の基礎的知識」の習得を行うことより、障害科学 C1 の修得を目指します。
- 「障害科学セミナー」では、障害と人間・社会についての考察を目的として、比較的易しいテキストを使用し、演習形式を取り入れた学習を行うことで、「知識の体系化・整理」を目指します。これにより、障害科学 C2 の修得を目指します。
- 「障害科学研究法入門」「障害科学研究法実習」では障害科学研究にかかわる講義、実験、実習を通して、「障害科学における分析的思考力」に必要な基礎知識と技術の体系的な習得を図ります。これにより、障害科学 C3 の修得を目指します。
- 「障害学生支援技術」等では障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加することで、専門家、実践家、保護者等との協同に必要な様々な支援技術や指導方法、リーダーシップを身につけます。これにより、障害科学 C4 の修得を目指します。
- 「Current Topics in Disability Sciences」ではディスカッションを通してプレゼンテーション力や言語力を高め、「障害科学に関する先導的発信力」を身につけます。これにより、障害科学 C5 の修得を目指します。
- 海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定とし、障害科学の知識や技術を国内外で発信できる先導的発信力を身につけます。これにより、障害科学 C5 の修得を目指します。

障害科学履修モデル



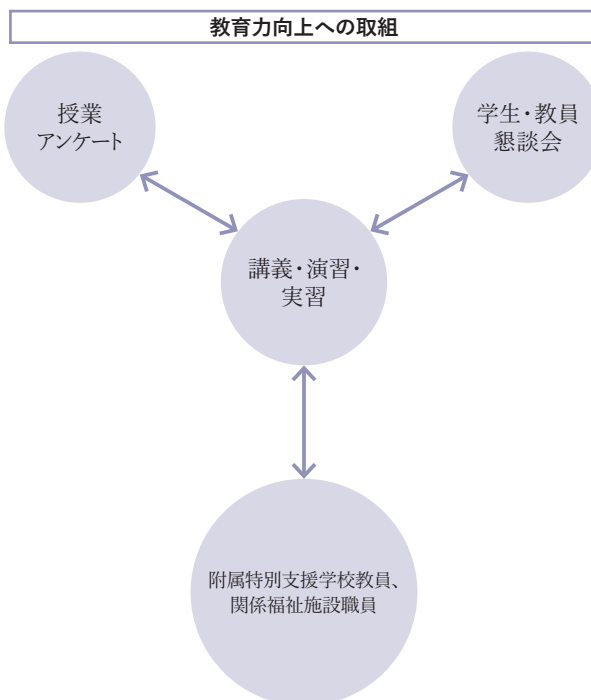
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|-----------------------|--|--|
| <p>求める人材</p> | <p>人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。</p> | |
| <p>入学者選抜方針</p> | <p>個別学力検査等前期日程</p> | <p>広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科いずれかの学力を総合的に評価します。</p> |
| | <p>個別学力検査等後期日程</p> | <p>広い基礎学力を評価します。また、論述において、応答性、論理性等を評価します。</p> |
| | <p>推薦入試</p> | <p>一定のレベル（高等学校の上位10%以内）の学力を有する者、または筑波大学の個別学力試験等に合格できる程度以上の学力を有する者で、障害科学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、障害科学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。または、障害科学類についての問題意識を明確に持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会的活動等において優れた実績を有するかどうかを評価します。そのほかに、外国語能力や問題解決能力等において国際的素養を有し、将来、障害科学の分野において国際的に活躍する資質を十分に有しているかどうかを評価します。</p> |
| | <p>国際バカロレア特別入試</p> | <p>障害科学類の学習に関して明確な問題意識と勉学への意欲を持ち、障害科学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材を選抜します。</p> |
| | <p>外国学校経験者特別入試</p> | <p>第1種) 人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。 第2種) 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。</p> |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|--------------------|--|
| <p>学修支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> - クラス担任は学生の履修科目や単位取得状況を把握し、卒業に向けて学修が適切に進んでいるかを確認します。その上で、学生が自身の関心や目標に応じて効果的に学修を深められるよう、履修計画、時間管理に関する個別の助言・指導を行います。 - 生活状況の確認と支援：学業面に加え、生活面での困りごとや悩みにも対応し、学生が安心して学修を継続できるよう支援体制を整えています。クラス担任や学生支援担当部署が連携し、必要に応じて適切なサポートを提供します。 - 授業の中で、ライティングサポート、プレゼンテーション指導を行います。 |
|--------------------|--|

| | |
|------------------------------|--|
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 授業において、グループに分かれて研究法の基礎について学ぶ際に、学生同士での話し合いの場を設け、議論をしながら学びを深めることにより、互いの考え方に触れることで、仲間意識や協調性が培われています。 - 主に3年次生を対象とする「障害科学域新入生歓迎会」では、障害科学類生、障害科学学位プログラムの大学院生、障害科学域の教員が親睦を行い、今後の研究活動に向けた学生同士の交流の機会としています。 |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 1学年の定員35名を2クラスに分け、同一の教員が4年間クラス担任を務めます。担任教員は、学生一人一人の状況に配慮しながら、個別の相談に応じ、継続的な指導と支援を行なっています。 - 授業の中で個別・グループ活動において研究の進め方や実施方法を説明し指導します。 - 学生が、卒業研究の指導を希望する教員の研究室や研究会を訪問し、個別指導を受けながら、教員の研究内容について学び、自身が興味のある分野についての理解を深めます。 - オフィスアワー以外の時間においても、いつでも教員に相談できるよう機会を設けています。 |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 4年間の学修成果の集大成である卒業研究について、各コンピテンスについて教員が評価した平均得点を算出します。比較的、平均得点が低いコンピテンスについて、授業内容が適切だったかどうかの振り返りを各教員が行い、「障害科学類教育会議」において共有し、意見交換を行います。さらに、平均得点の経年変化についても分析し、同会議で検討を行います。
- 「教育課程専門委員会」が成績分布を確認し、その妥当性について議論します。その結果を「障害科学類教育会議」においても共有し、意見交換をしながら適切な評価の仕方についての検討を行い、成績評価の方法の改善に努めています。
- 授業評価アンケートを行い、結果を教員にフィードバックしています。その結果を踏まえて、「ファカルティ・ディベロップメント委員会（全教員）」が授業内容や評価方法を見直し、次年度の方針の策定を行います。
- 毎年、実習先の指導者や社会で活躍する卒業生から意見を聴取する機会を得ています。聴取した内容を障害科学類教育会議で報告し、ステークホルダーからの意見を共有しながら、教育的な将来構想を計画する機会を持っています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（特別支援教育学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|---|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 障害科学（特別支援教育）コンピテンス 1 | 教育学、心理学、障害科学といった人間を対象とする領域の学際性を踏まえて、特別支援教育の基礎知識を理解する能力 |
| | 2. 障害科学（特別支援教育）コンピテンス 2 | 障害領域別の生理病理、障害児者の心理、教育など、各種障害関連分野を理解し、それらの知識を体系化して整理する能力 |
| | 3. 障害科学（特別支援教育）コンピテンス 3 | 特別支援教育学に関する臨床研究、実験や調査、文献研究などの多様な研究方法とともに、それぞれの方法により得られたデータの科学的評価法やアセスメント方法に基づき、分析的に思考する能力 |
| | 4. 障害科学（特別支援教育）コンピテンス 4 | 特別支援教育学における様々な支援技術や指導法を知り、多様なニーズを有する障害科学の対象者のニーズを見極め、専門家、実践家、保護者等と協働するための実践能力 |
| | 5. 障害科学（特別支援教育）コンピテンス 5 | 特別支援教育学に関する知識や技術などの現状や課題について認識し、障害科学の知識や技術を日本と世界の様々な地域に発信できるプレゼンテーション力や言語力（日本語・外国語） |
| 学修成果の評価に関する方針 | 4年間の学修成果の集大成として卒業研究（「卒業研究Ⅱ」）を重視し、卒業論文およびその公開発表を通じて、学位授与の方針に基づく学修成果の到達度を総合的に評価します。卒業論文は指導教員と副指導教員が論文の指導と審査を行います。学際的領域としての障害科学の基礎知識を有しているか、障害科学の全体的な理念・概念ならびに障害心理・生理、障害福祉についての基礎的知識や技能を有しているか、これらの一般的・専門的内容に批判的・創造的に研究疑問が投げかけられているか、自律的に研究が進められているか、適切に専門家等との協働が図られているか、障害科学に係る様々な事象が適切に解析・処理されているか、倫理的観点から適切にデータが処理されているか、等の観点から評価します。公開発表会では口頭での概要説明及び質疑応答を行います。プレゼンテーションを通して適切に研究概要を説明できるコミュニケーション能力があること、研究の学術的・社会的意義を先導的に発信できる言語力を有していること、自身の専門分野に対して広い視座から障害科学を理解する力を有していること、等の観点から評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

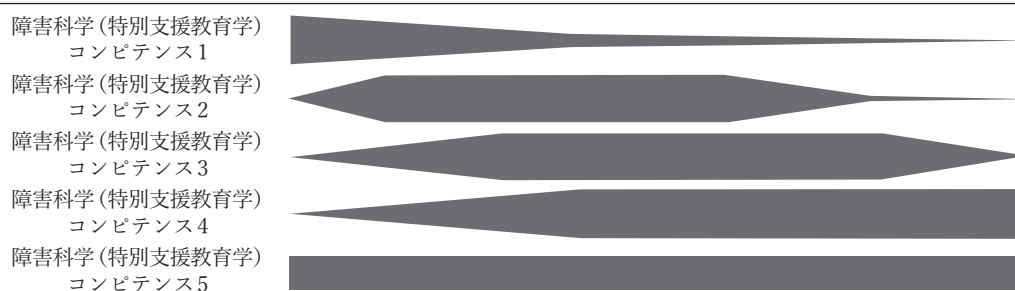
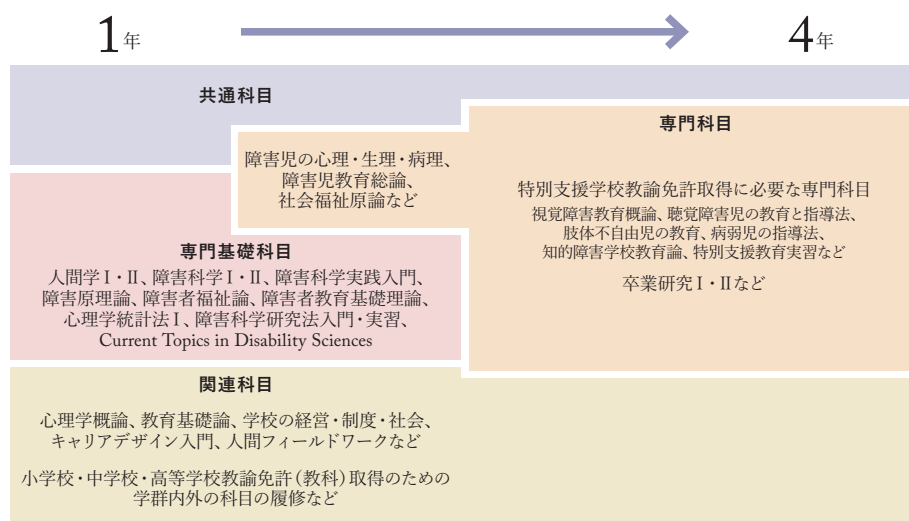
学士（特別支援教育学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|------------------------------|---|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>特別支援教育に関わる先導的な研究・教育を担う専門家の養成を目指す「特別支援教育学履修モデル」を設定しています。特別支援学校教諭一種免許状に対応した豊富な科目群を設け、広い教養と深い専門性を身につけます。5つの教育領域（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）の全てを担当できる特別支援学校教諭免許状を取得することもできます。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、臨床研究、実験や調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎の修得を図り、卒業研究の完成を目指します。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える <p>「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により社会福祉学の基礎をなす基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」では実践現場を見学・参観し、モチベーションを高めます。「障害原理論」「障害者福祉論」「障害者教育基礎理論」を通して社会福祉学の基礎を理解します。これにより、障害科学C1を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える <p>社会福祉士国家試験受験資格に対応した指定科目を中心に「社会福祉原論」「医学概論」「高齢者福祉論」等で専門基礎を、「相談援助の理論と方法」「相談援助の基盤と専門職」で基礎的方法論を学びます。「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」「社会福祉調査論」では研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」「人間フィールドワーク」等を通じ、学修の方向性と卒業後の進路を考えます。これにより、障害科学C2・C3を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 3～4年次…研究・実践技術の修得 <p>「ソーシャルワーク演習」等の専門科目において、専門的な知識と実践技術、技能を演習形式で学びます。「ソーシャルワーク実習」等において基礎的実践能力を身につける一方、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害福祉学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。卒業研究完成に至る過程の中で、全ての専門コンピテンス（障害科学C1～C5）の総合的な修得を目指します。</p> <p>実施に関する方針</p> <p>社会福祉学履修モデルに基づき、履修規程で卒業に必要とされる単位を修得することにより、社会福祉士国家試験受験資格取得が可能です。授業は参加型の形態をとる一方、福祉施設などの現職専門家等の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。</p> |
|------------------------------|---|

学修の方法
特色的な教育

- 「障害科学実践入門」では様々な障害種の特別支援学校の見学・授業参観をとおして、障害のある子どもとその支援の実際について「人間科学の理解力」を深めます。これにより、障害科学（特別支援教育学）C1の修得を目指します。
- 「障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ」では障害のある子どもの教育に関わる基礎的事項の学びを通して「障害科学の基礎的知識」の習得を行うことより、障害科学C1の修得を目指します。
- 「障害科学セミナー」では、障害と人間・社会についての考察を目的として、比較的易しいテキストを使用し、演習形式を取り入れた学習を行うことで、「障害科学における実践力」を身につけます。これにより、障害科学（特別支援教育学）C2の修得を目指します。
- 「障害科学研究法入門」「障害科学研究法実習」では障害科学研究にかかわる講義、実験、実習を通して、「障害科学における分析的思考力」に必要な基礎知識と技術の体系的な習得を図ります。これにより、障害科学（特別支援教育学）C3の修得を目指します。
- 「障害学生支援技術」等では障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加することで、専門家、実践家、保護者等との協同に必要な様々な支援技術や指導方法、リーダーシップを身につけます。これにより、障害科学（特別支援教育学）C4の修得を目指します。
- 「Current Topics in Disability Sciences」ではディスカッションを通してプレゼンテーション力や言語力を高め、「障害科学に関する先導的発信力」を身につけます。これにより、障害科学（特別支援教育学）C5の修得を目指します。
- 海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定とし、障害科学の知識や技術を国内外で発信できる先導的発信力を身に着けます。これにより、障害科学（特別支援教育学）C5の修得を目指します。

特別支援教育学履修モデル



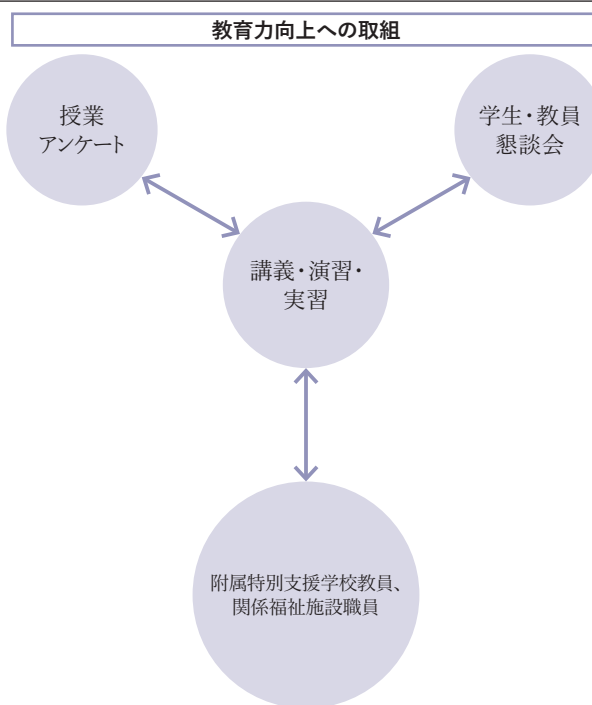
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|-----------------------|--|--|
| <p>求める人材</p> | <p>人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。</p> | |
| <p>入学者選抜方針</p> | <p>個別学力検査等前期日程</p> | <p>広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科いずれかの学力を総合的に評価します。</p> |
| | <p>個別学力検査等後期日程</p> | <p>広い基礎学力を評価します。また、論述において、応答性、論理性等を評価します。</p> |
| | <p>推薦入試</p> | <p>一定のレベル（高等学校の上位10%以内）の学力を有する者、または筑波大学の個別学力試験等に合格できる程度以上の学力を有する者で、障害科学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、障害科学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。または、障害科学類についての問題意識を明確に持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会的活動等において優れた実績を有するかどうかを評価します。そのほかに、外国語能力や問題解決能力等において国際的素養を有し、将来、障害科学の分野において国際的に活躍する資質を十分に有しているかどうかを評価します。</p> |
| | <p>国際バカロレア特別入試</p> | <p>障害科学類の学習に関して明確な問題意識と勉学への意欲を持ち、障害科学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材を選抜します。</p> |
| | <p>外国学校経験者特別入試</p> | <p>第1種) 人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。 第2種) 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。</p> |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|--------------------|--|
| <p>学修支援</p> | <ul style="list-style-type: none"> - クラス担任は学生の履修科目や単位取得状況を把握し、卒業に向けて学修が適切に進んでいるかを確認します。その上で、学生が自身の関心や目標に応じて効果的に学修を深められるよう、履修計画、時間管理に関する個別の助言・指導を行います。 - 生活状況の確認と支援：学業面に加え、生活面での困りごとや悩みにも対応し、学生が安心して学修を継続できるよう支援体制を整えています。クラス担任や学生支援担当部署が連携し、必要に応じて適切なサポートを提供します。 - 授業の中で、ライティングサポート、プレゼンテーション指導を行います。 |
|--------------------|--|

| | |
|------------------------------|--|
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 授業において、グループに分かれて研究法の基礎について学ぶ際に、学生同士での話し合いの場を設け、議論をしながら学びを深めることにより、互いの考え方に触れることで、仲間意識や協調性が培われています。 - 主に3年次生を対象とする「障害科学域新入生歓迎会」では、障害科学類生、障害科学学位プログラムの大学院生、障害科学域の教員が親睦を行い、今後の研究活動に向けた学生同士の交流の機会としています。 |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 1学年の定員35名を2クラスに分け、同一の教員が4年間クラス担任を務めます。担任教員は、学生一人一人の状況に配慮しながら、個別の相談に応じ、継続的な指導と支援を行なっています。 - 授業の中で個別・グループ活動において研究の進め方や実施方法を説明し指導します。 - 学生が、卒業研究の指導を希望する教員の研究室や研究会を訪問し、個別指導を受けながら、教員の研究内容について学び、自身が興味のある分野についての理解を深めます。 - オフィスアワー以外の時間においても、いつでも教員に相談できるよう機会を設けています。 |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 4年間の学修成果の集大成である卒業研究について、各コンピテンスについて教員が評価した平均得点を算出します。比較的、平均得点が低いコンピテンスについて、授業内容が適切だったかどうかの振り返りを各教員が行い、「障害科学類教育会議」において共有し、意見交換を行います。さらに、平均得点の経年変化についても分析し、同会議で検討を行います。
- 「教育課程専門委員会」が成績分布を確認し、その妥当性について議論します。その結果を「障害科学類教育会議」においても共有し、意見交換をしながら適切な評価の仕方についての検討を行い、成績評価の方法の改善に努めています。
- 授業評価アンケートを行い、結果を教員にフィードバックしています。その結果を踏まえて、「ファカルティ・ディベロップメント委員会（全教員）」が授業内容や評価方法を見直し、次年度の方針の策定を行います。
- 毎年、実習先の指導者や社会で活躍する卒業生から意見を聴取する機会を得ています。聴取した内容を障害科学類教育会議で報告し、ステークホルダーからの意見を共有しながら、教育的な将来構想を計画する機会を持っています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（社会福祉学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|---|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 障害科学（社会福祉）コンピテンス 1 | 教育学、心理学、障害科学といった人間を対象とする領域の学際性を踏まえて、社会福祉学の基礎知識を理解する能力 |
| | 2. 障害科学（社会福祉）コンピテンス 2 | 社会福祉を理解し、そ知識を体系化して整理する能力 |
| | 3. 障害科学（社会福祉）コンピテンス 3 | 社会福祉学に関する臨床研究、実験や調査、文献研究などの多様な研究方法とともに、それぞれの方法により得られたデータの科学的評価法やアセスメント方法に基づき、分析的に思考する能力 |
| | 4. 障害科学（社会福祉）コンピテンス 4 | 社会福祉学における様々な支援技術や指導法を知り、多様なニーズを有する障害科学の対象者のニーズを見極め、専門家、実践家、保護者等と協働するための実践能力 |
| | 5. 障害科学（社会福祉）コンピテンス 5 | 社会福祉学に関する知識や技術などの現状や課題について認識し、障害科学の知識や技術を日本と世界の様々な地域に発信できるプレゼンテーション力や言語力（日本語・外国語） |
| 学修成果の評価に関する方針 | 4年間の学修成果の集大成として卒業研究（「卒業研究Ⅱ」）を重視し、卒業論文およびその公开发表を通じて、学位授与の方針に基づく学修成果の到達度を総合的に評価します。卒業論文は指導教員と副指導教員が論文の指導と審査を行います。学際的領域としての障害科学の基礎知識を有しているか、障害科学の全体的な理念・概念ならびに障害心理・生理、福祉についての基礎的知識や技能を有しているか、これらの一般的・専門的内容に批判的・創造的に研究疑問が投げかけられているか、自律的に研究が進められているか、適切に専門家等との協働が図られているか、障害科学に係る様々な事象が適切に解析・処理されているか、倫理的観点から適切にデータが処理されているか、等の観点から評価します。公开发表会では口頭での概要説明及び質疑応答を行います。プレゼンテーションを通して適切に研究概要を説明できるコミュニケーション能力があること、研究の学術的・社会的意義を先導的に発信できる言語力を有していること、自身の専門分野に対して広い視座から障害科学を理解する力を有していること、等の観点から評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

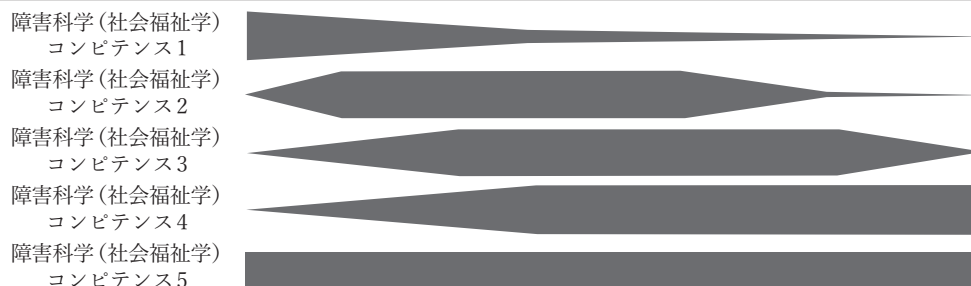
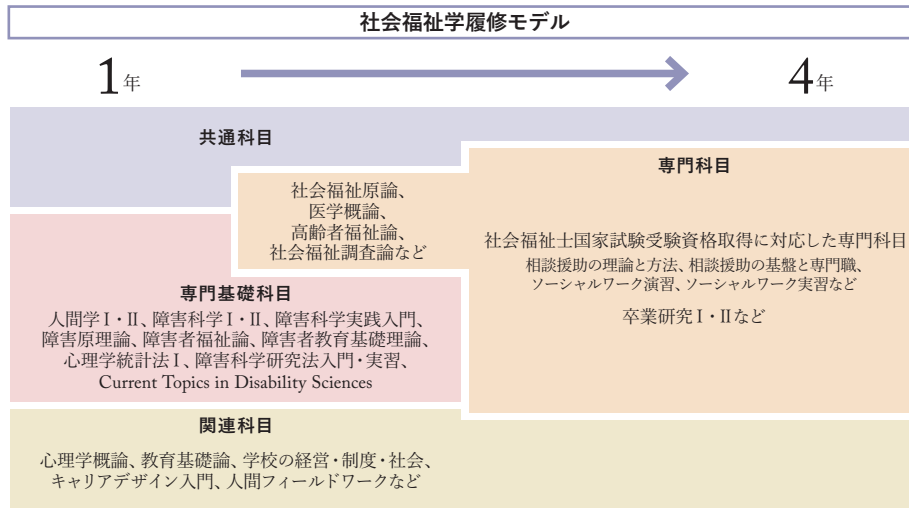
学士（社会福祉学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-----------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>社会福祉学を探究するとともに、社会福祉士を目指す「社会福祉学履修モデル」を設定しています。現代の社会福祉が対象とする高齢者、障害児者、及び、家庭養育環境や発達に伴う生活問題を抱えた子どもたちについて共生社会を実現するための施策や援助方法を、包括的かつ科学的に学修します。また、従来の社会福祉学の枠組を越えて、「障害」をめぐる教育や医療・リハビリテーションとの連携について、実習を含めて融合的に学修します。さらに、この分野を新たに開拓していくための研究方法の学修として、質的及び量的調査、文献研究等で用いられる多様な技術の基礎の修得を図り、卒業研究の完成を目指します。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次…モチベーションを高め、学びの基礎を整える <p>「障害科学Ⅰ・Ⅱ」により障害科学の基本的な原理を学び、「障害科学実践入門」において実践現場を見学・参観し、障害科学探究のモチベーションを高めます。また、「障害原理論」・「障害者福祉論」・「障害者教育基礎理論」を通して専門分野を知ること、障害科学を全体的に理解します。これにより、障害科学（社会福祉学）C1を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1～2年次…基礎的能力を培い、進路を考える <p>障害別の「障害児の心理・生理・病理」、「障害児教育総論」、「社会福祉原論」等で各専門の基礎を学び、「心理学統計法Ⅰ」と「障害科学研究法入門・実習」を通して研究方法の基礎を学びます。「キャリアデザイン入門」、「人間フィールドワーク」等を通じて、自らの学修の方向性と卒業後の進路を考えます。これにより、障害科学（社会福祉学）C2・C3を養います。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 3～4年次…障害科学の研究・実践技術の修得 <p>障害科学に関する専門知識や技能を修得し、大学院進学に備えます。「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において、研究手法の修得や障害科学に関する研究を計画・実行し、卒業研究をまとめるとともに、大学院進学に向けた学習も行います。卒業研究完成に至る過程の中で、全ての専門コンピテンズ（障害科学（社会福祉学）C1～C5）の総合的な修得を目指します。</p> <p>実施に関する方針</p> <p>社会福祉学履修モデルに基づいて、履修規程で卒業に必要なとされる単位を修得することにより、障害科学を幅広く学修します。演習・実習の活動内容を含む授業では、主体的な学修のために参加型の形態をとる一方、附属特別支援学校教員・福祉施設などの現職専門家や大学院生の参加を図り、先端的・実践的な知識・技能を修得します。国際化を志向し、英語による授業「Current Topics in Disability Sciences」を開講しています。</p> |
|-----------------------|--|

学修の方法
特色的な教育

- 「障害科学実践入門」では様々な障害種の特別支援学校の見学・授業参観をとおして、障害のある子どもとその支援の実際について「人間科学の理解力」を深めます。これにより、障害科学（社会福祉学）C1の修得を目指します。
- 「障害者教育基礎理論Ⅰ・Ⅱ」では障害のある子どもの教育に関わる基礎的事項の学びを通して「障害科学の基礎的知識」の習得を行うことより、障害科学（社会福祉学）C1の修得を目指します。
- 「障害科学セミナー」では、障害と人間・社会についての考察を目的として、比較的易しいテキストを使用し、演習形式を取り入れた学習を行うことで、「障害科学における実践力」を身につけます。これにより、障害科学（社会福祉学）C2の修得を目指します。
- 「障害科学研究法入門」「障害科学研究法実習」では障害科学研究にかかわる講義、実験、実習を通して、「障害科学における分析的思考力」に必要な基礎知識と技術の体系的な習得を図ります。これにより、障害科学（社会福祉学）C3の修得を目指します。
- 「障害学生支援技術」等では障害のある学生の支援方法を学び、大学の障害学生支援の活動に参加することで、専門家、実践家、保護者等との協同に必要な様々な支援技術や指導方法、リーダーシップを身につけます。これにより、障害科学（社会福祉）C4の修得を目指します。
- 「Current Topics in Disability Sciences」ではディスカッションを通してプレゼンテーション力や言語力を高め、「障害科学に関する先導的発信力」を身につけます。これにより、障害科学（社会福祉学）C5の修得を目指します。
- 海外の大学等の取得単位やボランティア活動・学内外の研究活動を卒業単位認定とし、障害科学の知識や技術を国内外で発信できる先導的発信力を身に着けます。これにより、障害科学（社会福祉学）C5の修得を目指します。

社会福祉学履修モデル



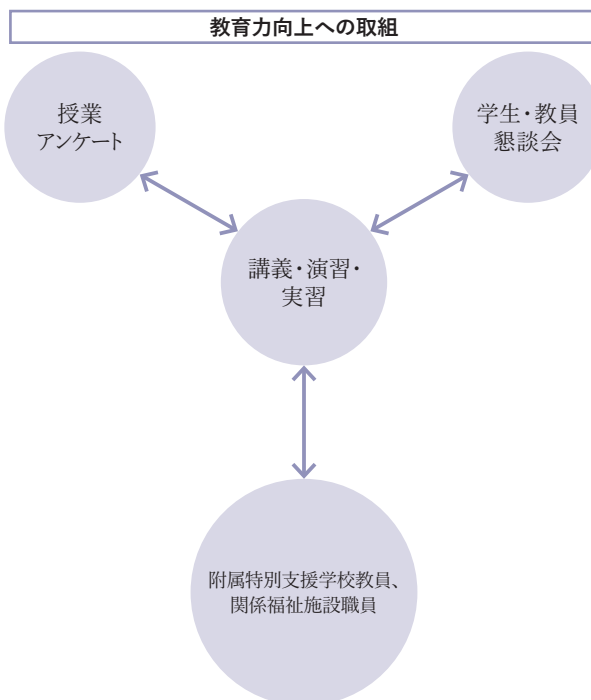
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|----------------|---|---|
| 求める人材 | 人の障害や障害をめぐる様々な事象についての関心と問題意識、さらには、人間を深く理解しようとする探求心を持ち、自主的に学び、考え、科学的、論理的かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 広い基礎学力と外国語に加えて、国語、数学、地理歴史、公民、理科いずれかの学力を総合的に評価します。 |
| | 個別学力検査等後期日程 | 広い基礎学力を評価します。また、論述において、応答性、論理性等を評価します。 |
| | 推薦入試 | 一定のレベル（高等学校の上位10%以内）の学力を有する者、または筑波大学の個別学力試験等に合格できる程度以上の学力を有する者で、障害科学について明確な目的意識と勉学への意欲を持ち、障害科学類の教育に適応性があるかどうかを評価します。または、障害科学類についての問題意識を明確に持ち、それに関連する自主研究や部活動、社会的活動等において優れた実績を有するかどうかを評価します。そのほかに、外国語能力や問題解決能力等において国際的素養を有し、将来、障害科学の分野において国際的に活躍する資質を十分に有しているかどうかを評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 障害科学類の学習に関して明確な問題意識と勉学への意欲を持ち、障害科学の領域において国際的視野に基づく活動を志す人材を選抜します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。 第2種) 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から、人の障害や障害をめぐる様々な事象に対する関心と明確な問題意識を持ち、入学後の授業に適応できる理解力・思考力・日本語能力を有する者を選抜します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-------------|--|
| 学修支援 | <ul style="list-style-type: none"> - クラス担任は学生の履修科目や単位取得状況を把握し、卒業に向けて学修が適切に進んでいるかを確認します。その上で、学生が自身の関心や目標に応じて効果的に学修を深められるよう、履修計画、時間管理に関する個別の助言・指導を行います。 - 生活状況の確認と支援：学業面に加え、生活面での困りごとや悩みにも対応し、学生が安心して学修を継続できるよう支援体制を整えています。クラス担任や学生支援担当部署が連携し、必要に応じて適切なサポートを提供します。 - 授業の中で、ライティングサポート、プレゼンテーション指導を行います。 |
|-------------|--|

| | |
|------------------------------|--|
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 授業において、グループに分かれて研究法の基礎について学ぶ際に、学生同士での話し合いの場を設け、議論をしながら学びを深めることにより、互いの考え方に触れることで、仲間意識や協調性が培われています。 - 主に3年次生を対象とする「障害科学域新入生歓迎会」では、障害科学類生、障害科学学位プログラムの大学院生、障害科学域の教員が親睦を行い、今後の研究活動に向けた学生同士の交流の機会としています。 |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 1学年の定員35名を2クラスに分け、同一の教員が4年間クラス担任を務めます。担任教員は、学生一人一人の状況に配慮しながら、個別の相談に応じ、継続的な指導と支援を行なっています。 - 授業の中で個別・グループ活動において研究の進め方や実施方法を説明し指導します。 - 学生が、卒業研究の指導を希望する教員の研究室や研究会を訪問し、個別指導を受けながら、教員の研究内容について学び、自身が興味のある分野についての理解を深めます。 - オフィスアワー以外の時間においても、いつでも教員に相談できるよう機会を設けています。 |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 4年間の学修成果の集大成である卒業研究について、各コンピテンスについて教員が評価した平均得点を算出します。比較的、平均得点が低いコンピテンスについて、授業内容が適切だったかどうかの振り返りを各教員が行い、「障害科学類教育会議」において共有し、意見交換を行います。さらに、平均得点の経年変化についても分析し、同会議で検討を行います。
- 「教育課程専門委員会」が成績分布を確認し、その妥当性について議論します。その結果を「障害科学類教育会議」においても共有し、意見交換をしながら適切な評価の仕方についての検討を行い、成績評価の方法の改善に努めています。
- 授業評価アンケートを行い、結果を教員にフィードバックしています。その結果を踏まえて、「ファカルティ・ディベロップメント委員会（全教員）」が授業内容や評価方法を見直し、次年度の方針の策定を行います。
- 毎年、実習先の指導者や社会で活躍する卒業生から意見を聴取する機会を得ています。聴取した内容を障害科学類教育会議で報告し、ステークホルダーからの意見を共有しながら、教育的な将来構想を計画する機会を持っています。

生命環境学群

School of Life and Environmental Sciences

生物学類

College of Biological Sciences

- 学士（理学）
 - Bachelor of Science
-

生物資源学類

College of Agro-Biological Resource Sciences

- 学士（生物資源学）
 - Bachelor of Bioresource Science
 - 学士（農学）
 - Bachelor of Agricultural Science
-

地球学類

College of Geoscience

- 学士（理学）
 - Bachelor of Science
-

人材養成目的 / Educational Objectives

人間を含む多様な生物の生命現象、それを支える地球環境、さらには生物資源の保全や持続的活用の方法を総合的に理解し、豊かな人間性と問題発見・解決能力を有する、国際的視野に立って活躍できる未来創造型の人材を育成します。

生物学類

College of Biological Sciences

- 学士（理学）
- Bachelor of Science

人材養成目的 / Program Educational Objectives

生物世界のシステム、生体機能のメカニズム、生命現象の本質、生物学の研究方法及び先端研究の意義を理解し、生物と関わる幅広い学問分野でグローバルに活躍する研究者、教育者、技術者、企業人など、先端科学と社会の接点となる人材を育成します。

| | |
|-----------------------|---|
| <p>養成する人材像</p> | <p>生物科学に関わる諸問題を理解し、以下に掲げるような教養と専門知識・技術を身につけ、人類の智のフロンティアを切り拓くことができる人材、及び、例えば地球環境の保全と人類の持続的発展などの未来社会に向けての諸課題を見出し、課題解決に向け遂行できる人材を育成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 一般的・専門的知識の体系的理解をベースに批判的・創造的に思考する能力 - 様々な事象や情報を数量的手法やコンピュータ等を用いて適切に解析・処理する能力 - 自身の専門に留まらず文化・社会と自然・物質に関して幅広く理解し、異文化を理解・尊重する能力 - 芸術やスポーツへの理解と実践等を通して心と身体の健康を保ち、人間性と倫理性を有する市民としての責任を自覚して実践する能力 - チームワークやリーダーシップを通して様々な物事に対処し自己を管理しながら自律的に学び続け行動する能力 - バイオ IT 技術を駆使してデータ収集、分析を行い、知識発見ができる能力 - 自然科学の知識や科学的思考法、コミュニケーション能力を身につけ、社会への情報発信ができる能力 - 母語や外国語を適切に用いるとともに、各種メディアを利用したプレゼンテーション等を行うコミュニケーションができる能力 |
| <p>卒業後の進路</p> | <p>生物学の発展を推進する人材はもとより、生物学を基礎として他の諸科学との学際的領域で活躍する人材を輩出しています。卒業生の約 8 割が生命地球科学研究群等の大学院に進学し、その後、研究者、教育者、企業人、理科教員、先端科学と社会の接点となる人材として活躍しています。</p> |

学位授与の方針 / Diploma Policy

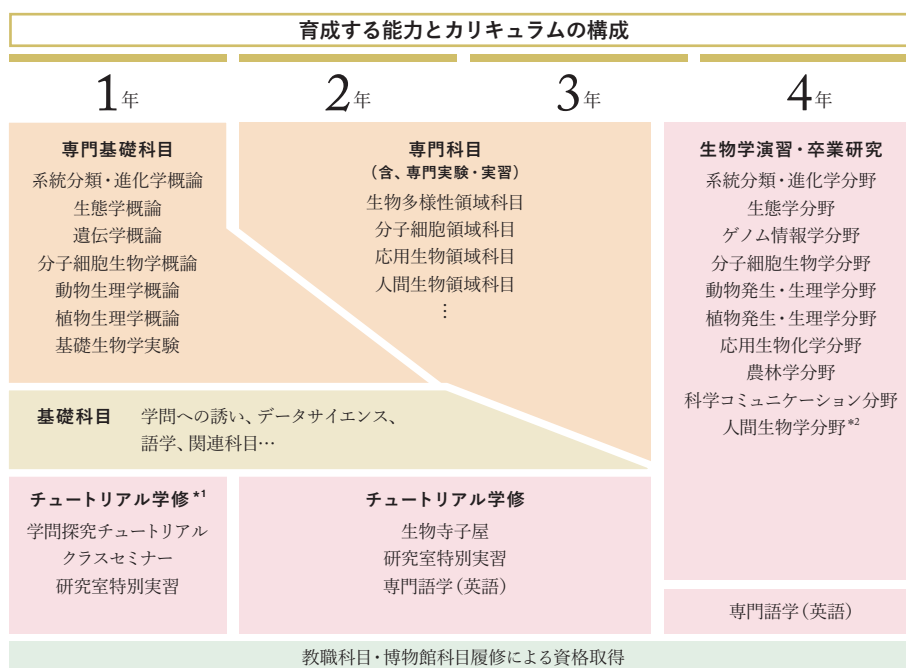
筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力、即ち、コミュニケーション能力、批判的・創造的思考力、データ・情報リテラシー、広い視野と国際性、心身の健康と人間性・論理性、協働性・主体性・自律性について修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（理学）の学位を授与します。

| | | |
|---------------------|--|---|
| 知識・能力（専門 コンピテンス） | 1. 自然科学の理解 | 自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身に付けている。 |
| | 2. 生物学の理解 | 専門とする分野にとどまらず、生物学一般に関する幅広い理解を深めるとともに、多様な生物学の研究手法を身に付けている。 |
| | 3. 生物現象の分析 能力 | 生物現象について実験・観察で得られたデータや膨大な生物情報を適切な手法により分析し、適確に記述し批判的に評価する能力を身に付けている。 |
| | 4. 国際的コミュニ ケーション能力 | 国際的に活躍するために必須となる英語力、及び自分の考えや意見を正しく分かりやすく表現するコミュニケーション能力を身に付けている。 |
| | 5. 論理的表現能力 | 国際的学術論文等を論理的に読み解き、批判的に考え、その内容を文章やプレゼンテーションを通じて表現する身に付けている。 |
| | 6. 問題発見・解決 型能力と自己表 現能力 | 最終年次に卒業研究を行うことにより、主体的に問題を発見し、自ら行動し解決する能力を身に付けている。また、研究成果とその意義をプレゼンテーションや文章として発信できる表現能力を身に付けている。 |
| 学修成果の評価に 関する方針 | 生物学類では、履修すべき科目群と学位授与の方針に掲げたコンピテンスとの対応関係をカリキュラム・マップとして公開し、卒業要件を満たすことでコンピテンスを修得したことを確認できるように、教育課程を設計しています。各コンピテンスに対応する授業についての、各科目の成績によりコンピテンスを直接評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

本学の共通科目の履修を通じて、主に1・2年次にコミュニケーション能力、批判的・創造的思考力、データ・情報リテラシー、広い視野と国際性、心身の健康と人間性・論理性、協働性・主体性・自律性等のコンピテンスを修得します。さらに、学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>教育課程の編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>基礎科目：共通科目以外の基礎科目を関連科目 A, B, C の3つの科目群に区分しています。関連科目 A は、生物学以外の物理学、化学、地学、数学、プログラミング、統計学などを学ぶことで、自然科学の理解に必要なコンピテンスの修得を促します。関連科目 B では、人間社会の歴史や営みと生物学や自然科学のつながり等を意識し、学士（理学）の学位の授与に必要なコンピテンスを豊かにするための学びを促します。関連科目 C では、専門科目に掲げた科学コミュニケーションなどの授業で修得する国際的コミュニケーション能力の幅を広げるための学びを促します。</p> <p>専門基礎科目：生物学全般にわたる基礎的知識と技術を概論科目と基礎生物学実験により身に付けさせます。</p> <p>専門科目：個々の学生の関心の高い専門分野をチュートリアル学修等を通じて意識させ、それを中心に、多様な生物学の諸分野を学習させることにより、幅広い生物学の理解を基礎として卒業研究に取り組むことができる専門知識と技術を身に付けさせます。また、およそ30科目の授業を英語で実施し、国際的に活躍できる能力を涵養します。その上で、卒業研究を各研究室で行うことで、主体的に問題を発見し、解決する能力や、科学的表現能力を実践を通じて定着させます。</p> |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>生物学を理解し、生物現象を分析する能力を涵養するため、講義や演習などの座学に加え、多くの実験実習科目を配置したカリキュラムを設けています。また、国際的コミュニケーション能力強化のため、2・3年次の科学コミュニケーションの授業に加え、3・4年次に少人数での専門外国語の授業を必修としています。毎年数名の学類生を選抜し、1年間マンチェスター大学等に留学させ、国際的コミュニケーション能力の特に秀でた人材を育成します。</p> |



▲ 研究室選択

^{*1} 主に教員がチューターとなり、学生の学問的な問題意識を議論を重ねて育む環境を提供し、学生の自発的で学際的な学びを促します。

^{*2} 人間生物学分野は主に3年次で指定された専門科目の受講が必要です。また、定員(15名)があります。

入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|--------------|---|
| 求める人材 | 生き物や生物学が好きで、自然科学と語学の基礎学力をもち、広範で多様な生命現象に対して強い好奇心と探究心をもつ、創造的能力が豊かな人材。 |
|--------------|---|

| | | |
|---------------|--|---|
| 入学者選抜方針 | 以下は入学者選抜要項に記されたアドミッションポリシーを引用したものです。 | |
| | 個別学力検査等前期日程 | 文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、自然科学系科目の高度な理解力、高度な思考力、そしてその応用力を総合的に評価します。 |
| | 個別学力検査等後期日程 | 文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と高い学習意欲、高度な思考力、そして理解力を総合的に評価します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校における学習及び課外活動の成果やそれらを通じて培われた生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と理解度、そしてそれらを学ぶ意欲、さらには人間性も含めて総合的に評価します。 |
| | AC入試 | 生物界や生き物の仕組みに対する強い興味を持ち、自ら設定したテーマに関してユニークな研究をし、その結果を分析して、独善的な考えに陥ることなく、科学的及び論理的にレポートにまとめ、それを具体的に発表する能力を評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 国際バカロレア資格を取得した者を対象として、生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と理解度、それらを主体的に学ぶための知識や思考力、明確な目標を持って学ぶ意欲、さらには語学力を含めたコミュニケーション能力を重視して、総合的に評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 外国学校での修学を通じて得た視点や思考法、生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と学習意欲、生物学類の授業を理解するために必要な基礎学力及び日本語能力等を総合的に評価します。 第2種) 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から生命現象をとらえ、生き物の多様性や生きる仕組みに関する広い興味をベースに優れた思考力や理解力を発揮できる能力を評価します。併せて、生物学類の授業を理解するために必要な基礎学力等を総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 生物界や生き物の仕組みに対する広い興味と高い学習意欲、高い語学力、専門的な生物学教育を受容できる基礎的な学力、高度な思考力と理解力を総合的に評価します。 |
| 学群英語プログラム特別入試 | The university will make a comprehensive evaluation of applicants based on each student's English proficiency and basic academic ability to acquire knowledge in their major fields of study. In addition, their own unique perspective and analytical ability to resolve various problems in life and environmental sciences, based on the submitted documents and individual interviews, will be considered. | |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-----------|--|
| 学修支援 | 全学的な共通科目や学修支援のほか、生物学類では授業と結びつけて、レポート作成指導、プレゼンテーション指導、批判的思考法の研鑽などの学修支援を行います。さらに、生物寺子屋プロジェクトや研究マインド応援プログラムなどの学生の学修・研究への意欲を引き出す取り組みを実施しています。 |
| 学生同士の交流機会 | クラスセミナーや学生実験・実習などを通じたグループワーク、専門語学（英語）や生物寺子屋などの授業における学生による発表と意見交換などを通じて、学生同士が相互に刺激し合い、学修意欲を高める機会を設けています。特に、下田臨海実験センターや菅平高原実験所などで開講される合宿形式の実験・実習は、これらの効果が大きいと期待される授業です。さらに、学生実験・実習などの授業では大学院生の TA を登用し、学類生が大学院生の活躍を目の当たりにすることで大学院進学というキャリアを意識させることに繋がっています。 |
| 教員との交流機会 | オンラインコミュニケーションツールを用いて、学生と教員が双方向に、随時、授業や研究、教職や学芸員などの資格取得、留学、進路・進学、学生生活一般に関する意見等をやりとりできる環境を整備しています。また、毎年度、クラス連絡会を開催し、学生と教職員が交流する機会を設けています。クラス連絡会には多数の教員が自主的に参加しています。学生の学修や研究への意欲を高めるために、生物寺子屋や研究マインド応援プログラム（研究室特別実習）などのチュートリアル授業を実施しています。最終学年の学生全員が卒業研究の成果を発表し、教員や他の生物学類生と質疑応答する機会を設けています。 |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

学類教育企画室を中心に、次のような取り組みを通じて教育活動全体に対する点検と改善を継続的に実施することで、教育の質を保証し、学位プログラムの目的達成に向けた体制を強化する。

- 成績評価基準ガイドラインとシラバスをあらかじめ全学生に周知させることにより、学生の学習意欲向上を図ると同時に、達成すべき水準の向上を目指しています。ガイドラインでは達成目標に到達した学生を B 評価とし、特に優れた者を A・A+ 評価としています。
- 各科目の成績分布を、その授業による学修成果を直接的に評価する指標として用います。そのため、成績評価基準ガイドラインを念頭に置き、授業の内容や課題の設定について適宜見直します。また、ガイドラインに合わない科目に関しては担当者から理由・意見を聴取することで、学類全体として適切な成績評価体制を確立しています。
- 生物学類開設の全科目に関して、学生による授業評価を、全学および生物学類の選択式設問に加え、自由記述の充実した内容で実施し、学生の意見を授業に反映させます。

生物資源学類

College of Agro-Biological Resource Sciences

- 学士（生物資源学）
- Bachelor of Bioresource Science
- 学士（農学）
- Bachelor of Agricultural Science

人材養成目的 / Program Educational Objectives

生物資源学類は、人類の生存、安全で豊かな生活の基本である生物資源に関する総合的な知識を有し、地域的かつ地球的視野をもって、我が国及び世界の食料の確保、環境と調和した生物資源の開発・保全と持続的利用に貢献できる人材を育成します。

| | |
|----------------|---|
| 養成する人材像 | 生物資源学の考え方、すなわち、農学や森林科学、応用生命化学、環境工学、社会経済学など多面的アプローチ能力を有し、狭い意味での農学分野だけでなく社会の様々な場面で地域レベルから地球規模までの課題解決に取り組み、リーダーシップを発揮し活躍することが可能な広い視野と高い専門性を持つ人材を養成します。 |
| 卒業後の進路 | 生物資源学を推進していく人材はもとより、生物資源学の持つ学際的側面に対応し様々な分野で活躍できる人材を輩出しています。卒業生の約7割が大学院に進んでおり、大学院修了者も含め、一般企業、公務員、教員、自営業など、国内外で広く活躍しています。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

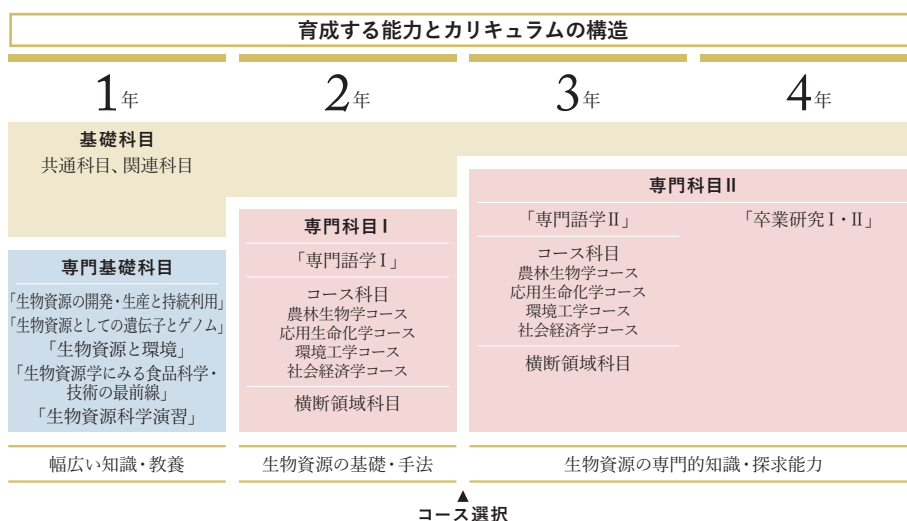
筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力、即ち、コミュニケーション能力、批判的・創造的思考力、データ・情報リテラシー、広い視野と国際性、心身の健康と人間性・論理性、協働性・主体性・自律性について修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（生物資源学）の学位を授与します。

| | | |
|---------------------|---|---|
| 知識・能力（専門 コンピテンス） | 1. 生物資源学に関する体系的な専門知識 | 多様な生物資源利用に関する体系的な専門的知識 |
| | 2. 生物資源学に関する専門の基礎となる教養 | 自然・人間・文化の本質を理解できる幅広い知識 |
| | 3. 生物資源学に関する国際的な専門知識 | 生物資源の開発・利用分野における海外協力に必要な異文化理解能力とコミュニケーション能力 |
| | 4. 生物資源学に関するICTの活用力 | 情報通信技術（ICT）を駆使して生物資源利用に関する情報や知識を分析し、それらを内外に受発信できる能力 |
| | 5. 生物資源に関する問題意識の醸成力 | 農林業の発展や食料・環境問題に対する貢献意欲を持ち続ける能力 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 生物資源学類では、卒業時に卒業要件を満たすことでコンピテンスを修得したことが明示されるよう履修すべき科目群と学位授与の方針を掲げています。各授業・実験・実習・演習はそれぞれ対応する専門コンピテンスの修得度合いについてTWINSの情報に基づいて判断します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（生物資源学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-------------------------|---|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 生物資源科学主専攻の中に農林生物学、応用生命化学、環境工学、社会経済学の4つのコースを置き、教育課程の前半では専門分野の区分のないクラスで、幅広い教養的科目を修得するとともに、生物資源学の基礎となる共通の専門科目を学びます。後半ではコースに所属してそれぞれのコースの専門的な知識と分野横断的な知識を学び、それらの知識をまとめて卒業研究を行って専門性を深めます。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次では、基礎科目及び専門基礎科目を履修することによって、幅広い能力を持つ専門家としての基礎を築きます。特に、生物資源学の幅広い分野への興味を涵養するとともに、学類の必修科目を学んで生物資源学に対する理解を深め、課題解決のための問題意識を醸成します。 - 2年次では、専門基礎科目と、基礎的専門科目である各コースの専門科目Ⅰを履修することによって、専門を深めるための手法を身につけます。3年次に選択するコースの科目を中心としますが、横断領域科目の専門科目Ⅰによって学際的視野を広げます。 - 3年次では、4つの中から1つのコースを選び、選んだコースの専門科目Ⅱを履修することによって専門性を深めます。所属するコースの科目を中心としますが、横断領域科目の専門科目Ⅱによって関連分野の知識を広げます。 - 4年次では、引き続き専門科目Ⅱを履修すると同時に必修科目の卒業研究（Ⅰ,Ⅱ）を実施し、一つの研究課題に対して、これまでに修得した専門的知識や手法を総合的に適用することにより、生物資源学をより深く理解します。 <p>実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次に「生物資源の開発・生産と持続利用」、「生物資源としての遺伝子とゲノム」、「生物資源と環境」、「生物資源学にみる食品科学・技術の最前線」、「生物資源科学演習」により生物資源学の基礎を学んだうえで専門科目を履修します。 - 4つのコースでは、専門科目を体系的に履修して専門性を深めるとともに、実験・実習・演習を履修することにより、問題発見・解決能力を養うことができます。 - 「食料」、「環境」、「国際」をキーワードとした横断領域科目を履修することにより、学際的視野を深めることができます。 |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>多様な分野から構成される生物資源学を十分に理解できるように、農林生物学、応用生命化学、環境工学、社会経済学を柱とした授業・実験・実習・演習を積み上げ方式で提供する体制を整えています。また、国際的なコミュニケーション能力や社会貢献意欲を高められるよう、海外協定校での実地体験、国際協力機構筑波国際センター等で研修する「国際インターンシップ科目」、地域の企業や団体に活動する「食と緑のインターンシップ科目」を開設しています。</p> |



入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|----------------|---|--|
| 求める人材 | 生物資源、農林業、環境保全に関心が強く、広範な学問を学ぶことができる柔軟な思考力を持ち、自ら問題を発見し解決に取り組むとともに、それを内外に伝え論理的に説明することができる意欲のある人材を望んでいます。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 全般的な基礎学力と語学力に加え、生物資源に関連する学問を学ぶのに必要な理解力・思考力・応用力を総合的に評価します。 |
| | 個別学力検査等後期日程 | 全般的な基礎学力と語学力に加え、生物資源に関する理解度や学習意欲、論理的に表現する能力を総合的に評価して選抜します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校において優秀な成績を修め、あるいは課外活動などで優れた実績を有し、生物資源に関する学習意欲や適性、論理的表現力ならびに基礎学力と語学力を総合的に評価して選抜します。 * 専門高校・総合学科特別入試枠を含みます。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 生物資源に関する学問分野について主体的に目標をもって学ぶための知識、思考力に加えて、語学力を含めたコミュニケーション能力などを重視して人材を選抜します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 人類の生存と安全で豊かな生活の基盤である生物資源に興味を持ち、日本語で授業を理解するために必要な基礎学力等を有する人材を、生物資源に関する理解度や学習意欲、論理的に表現する能力の観点から総合的に評価して選抜します。 |
| | 編入学試験 | 基礎科目・専門科目に関する学力や語学力に加え、生物資源に関する理解度や学習意欲、論理的に表現する能力を総合的に評価して、本学類で発展できる人材を選抜します。原則として、3年次への編入学ですが、場合によっては2年次への編入学となることもあります。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-------------------------|---|
| <p>学修支援</p> | <p>推薦入学予定者及び他の入試合格者の希望者を対象に、入学前教育を実施し大学入学後の学習マインドの転換を促す働きかけを行い、入学後のギャップ解消のサポートを行っている。1年次秋学期の必修科目「生物資源科学演習」において、個人またはグループで課題発見、調査、プレゼンテーションまでの一連の学習を当該学年クラス担任他の指導により行っている。また、学期ごとに開催されるクラス連絡会において、授業・支援内容の改善を図っています。</p> |
| <p>学生同士の交流機会</p> | <p>1年次春学期のファーストイヤーセミナー、秋学期の生物資源科学演習、2年次春・秋学期の専門語学Iをクラス単位で担任の指導のもと実施することで、クラス内の学生間交流の場を整えている他、全クラスが集まる授業回も設けることで学年内の交流機会を形成している。クラスセミナーや合同授業で得られた学生間交流の成果や要望は、学期ごとのクラス連絡会で報告され、学類の教育内容や支援体制の改善に反映させています。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>クラス担任および3年次各コースの主任が各学年の学生を担当する授業を設置することで、教員との交流・問い合わせ窓口の機能を設けている。また、各学期にクラス連絡会を実施し、学生側との意見交換および交流の場としている。また、1・2年次クラス担任と授業担当・FD委員・クラス代表者によるクラス連絡会を学期ごとに開催し、継続的なカリキュラム改善を実行しています。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

1、2年次クラス担任と授業担当者ならびに学類ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員とクラス代表者によるクラス連絡会を学期ごとに開催し、継続的なカリキュラム改善を実行します。

科目ごとに学生による授業評価を行い、その結果を授業担当教員に通知することにより、授業内容や教授法の改善を実行します。

FD活動の一環として、教員間の授業参観、授業資料の共有、授業間連携強化、授業改善の勉強会や打ち合わせを実施します。

3年次コースへの進級及び4年次卒業研究の開始に必要な履修要件を設定し、厳格な成績評価に基づいて進級、卒業を認定します。

学類FD委員会を設置し、教育活動全体に対する点検と改善を継続的に実施することで、教育の質を保証し、学位プログラムの目的達成に向けた体制強化を継続的に行います。

| 授業・カリキュラムの評価および改善体制 | | | |
|---------------------|------------------|--------------|------------------------|
| 項目 | 学生 | 教員 | 学類 |
| カリキュラム | カリキュラムに関する意見収集 | カリキュラムの検討 | |
| | クラス連絡会 | | |
| 授業 | 授業評価アンケートの提出 | 授業内容・方法の検討 | 授業評価結果、教員対応のとりまとめ・学内公開 |
| | 授業の実施 | | |
| コース・研究室選択 | コース、研究室選択と関連科目履修 | 研究内容の説明、履修指導 | コース進級、卒業研究要件の設定 |
| | コース説明会、研究室説明会 | | |

学位授与の方針 / Diploma Policy

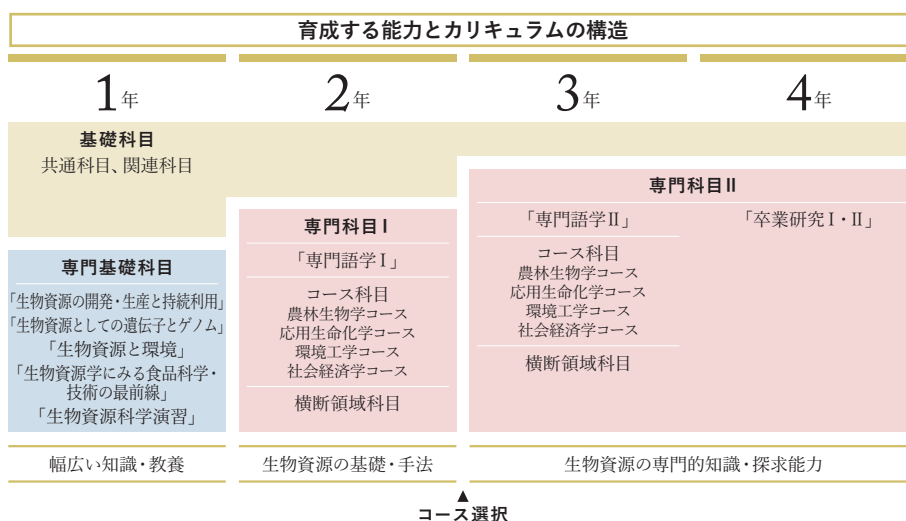
筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力、即ち、コミュニケーション能力、批判的・創造的思考力、データ・情報リテラシー、広い視野と国際性、心身の健康と人間性・論理性、協働性・主体性・自律性について修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（農学）の学位を授与します。

| | | |
|---------------------|---|--|
| 知識・能力（専門 コンピテンス） | 1. 農学に関する体系的な専門知識 | 多様な生物資源利用に関する体系的な専門知識 |
| | 2. 農学に関する専門の基礎となる教養 | 自然・人間・文化の本質を理解できる幅広い知識 |
| | 3. 農学に関する国際的な専門知識 | 生物資源の開発・利用分野における海外協力に必要な異文化理解能力とコミュニケーション能力 |
| | 4. 農学に関するICTの活用力 | 情報通信技術（ICT）を駆使して生物資源利用に関する情報や知識を分析し、それらを内外に発信できる能力 |
| | 5. 農学に関する問題意識の醸成力 | 農林業の発展や食料・環境問題に対する貢献意欲を持ち続ける能力 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 生物資源学類では、卒業時に卒業要件を満たすことでコンピテンスを修得したことが明示されるよう履修すべき科目群と学位授与の方針を掲げています。各授業・実験・実習・演習はそれぞれ対応する専門コンピテンスの修得度合いについてTWINSの情報に基づいて判断します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（農学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|--------------------------------|---|
| <p>教育課程の編成方針</p> | <p>総合的な方針 農学主専攻の中に農林生物学、応用生命化学、環境工学、社会経済学の4つのコースを置き、教育課程の前半では専門分野の区分のないクラスで、幅広い教養的科目を修得するとともに、農学の基礎となる共通の専門科目を学びます。後半ではコースに所属してそれぞれのコースの専門的な知識と分野横断的な知識を学び、それらの知識をまとめて卒業研究を行って専門性を深めます。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次では、基礎科目及び専門基礎科目を履修することによって、幅広い能力を持つ専門家としての基礎を築きます。特に、農学の幅広い分野への興味を涵養するとともに、学類の必修科目を学んで農学に対する理解を深め、課題解決のための問題意識を醸成します。 - 2年次では、専門基礎科目と、基礎的専門科目である各コースの専門科目Ⅰを履修することによって、専門を深めるための手法を身につけます。3年次に選択するコースの科目を中心としますが、横断領域科目の専門科目Ⅰによって学際的視野を広げます。 - 3年次では、4つの中から1つのコースを選び、選んだコースの専門科目Ⅱを履修することによって専門性を深めます。所属するコースの科目を中心としますが、横断領域科目の専門科目Ⅱによって関連分野の知識を広げます。 - 4年次では、引き続き専門科目Ⅱを履修すると同時に必修科目の卒業研究（Ⅰ,Ⅱ）を実施し、一つの研究課題に対して、これまでに修得した専門的知識や手法を総合的に適用することにより、農学をより深く理解します。 <p>実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次に「生物資源の開発・生産と持続利用」、「生物資源としての遺伝子とゲノム」、「生物資源と環境」、「生物資源学にみる食品科学・技術の最前線」、「生物資源科学演習」により農学の基礎を学んだうえで専門科目を履修します。 - 4つのコースでは、専門科目を体系的に履修して専門性を深めるとともに、実験・実習・演習を履修することにより、問題発見・解決能力を養うことができます。 - 「食料」、「環境」、「国際」をキーワードとした横断領域科目を履修することにより、学際的視野を深めることができます。 |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>多様な分野から構成される農学を十分に理解できるように、農林生物学、応用生命化学、環境工学、社会経済学を柱とした授業・実験・実習・演習を積み上げ方式で提供する体制を整えています。また、国際的なコミュニケーション能力や社会貢献意欲を高められるよう、海外協定校での実地体験、国際協力機構筑波国際センター等で研修する「国際インターンシップ科目」、地域の企業や団体に活動する「食と緑のインターンシップ科目」を開設しています。</p> |



入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | | |
|-----------------------|---|-----------------------|--|
| 求める人材 | 生物資源、農林業、環境保全に関心が強く、広範な学問を学ぶことができる柔軟な思考力を持ち、自ら問題を発見し解決に取り組むとともに、それを内外に伝え論理的に説明することができる意欲のある人材を望んでいます。 | | |
| 入学者選抜方針 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">Japan-Expert（学士）プログラム</td> <td>人類の生存と安全で豊かな生活の基盤である生物資源に興味を持ち、日本の農林業研究・技術に関心がある、及び日本の農林業研究・技術を活用し、将来、国内外の農林業に関する研究機関や企業等でアグロノミストとして貢献したい、などの動機や日本語での学習能力、社会的適応性について総合的に評価します。</td> </tr> </table> | Japan-Expert（学士）プログラム | 人類の生存と安全で豊かな生活の基盤である生物資源に興味を持ち、日本の農林業研究・技術に関心がある、及び日本の農林業研究・技術を活用し、将来、国内外の農林業に関する研究機関や企業等でアグロノミストとして貢献したい、などの動機や日本語での学習能力、社会的適応性について総合的に評価します。 |
| Japan-Expert（学士）プログラム | 人類の生存と安全で豊かな生活の基盤である生物資源に興味を持ち、日本の農林業研究・技術に関心がある、及び日本の農林業研究・技術を活用し、将来、国内外の農林業に関する研究機関や企業等でアグロノミストとして貢献したい、などの動機や日本語での学習能力、社会的適応性について総合的に評価します。 | | |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------------------|--|
| 学修支援 | 推薦入学予定者及び他の入試合格者の希望者を対象に、入学前教育を実施し大学入学後の学習マインドの転換を促す働きかけを行い、入学後のギャップ解消のサポートを行っている。1年次秋学期の必修科目「生物資源科学演習」において、個人またはグループで課題発見、調査、プレゼンテーションまでの一連の学習を当該学年クラス担任他の指導により行っている。また、学期ごとに開催されるクラス連絡会において、授業・支援内容の改善を図っています。 |
| 学生同士の交流機会 | 1年次春学期のファーストイヤーセミナー、秋学期の生物資源科学演習、2年次春・秋学期の専門語学 I をクラス単位で担任の指導のもと実施することで、クラス内の学生間交流の場を整えている他、全クラスが集まる授業回も設けることで学年内の交流機会を形成している。クラスセミナーや合同授業で得られた学生間交流の成果や要望は、学期ごとのクラス連絡会で報告され、学類の教育内容や支援体制の改善に反映させています。 |

| | |
|-----------------|---|
| 教員との交流機会 | クラス担任および3年次各コースの主任が各学年の学生を担当する授業を設置することで、教員との交流・問い合わせ窓口の機能を設けている。また、各学期にクラス連絡会を実施し、学生側との意見交換および交流の場としている。また、1・2年次クラス担任と授業担当・FD委員・クラス代表者によるクラス連絡会を学期ごとに開催し、継続的なカリキュラム改善を実行しています。 |
|-----------------|---|

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

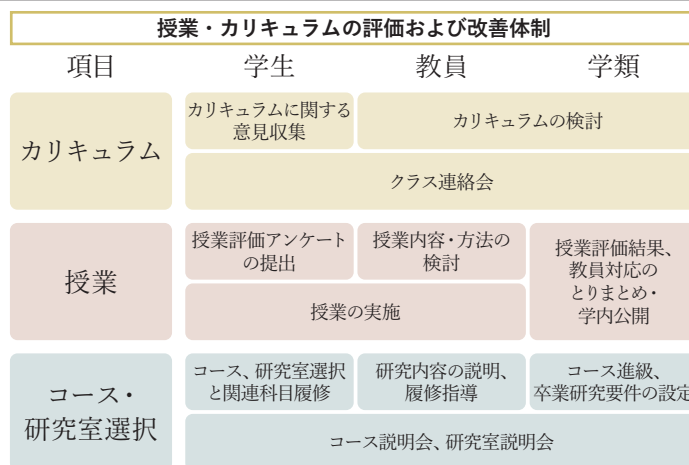
1、2年次クラス担任と授業担当者ならびに学類ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員とクラス代表者によるクラス連絡会を学期ごとに開催し、継続的なカリキュラム改善を実行します。

科目ごとに学生による授業評価を行い、その結果を授業担当教員に通知することにより、授業内容や教授法の改善を実行します。

FD活動の一環として、教員間の授業参観、授業資料の共有、授業間連携強化、授業改善の勉強会や打ち合わせを実施します。

3年次コースへの進級及び4年次卒業研究の開始に必要な履修要件を設定し、厳格な成績評価に基づいて進級、卒業を認定します。

学類FD委員会を設置し、教育活動全体に対する点検と改善を継続的に実施することで、教育の質を保証し、学位プログラムの目的達成に向けた体制強化を継続的に進めます。



地球学類

College of Geoscience

- 学士（理学）
- Bachelor of Science

人材養成目的 / Program Educational Objectives

地球の誕生から現在に至る地球の進化、大気圏・水圏・岩石圏で起こる様々な現象とそのプロセス、そして地球環境を舞台に展開される人間活動についての総合的な知識と思考力を有する、社会の諸分野で国際的な視野に立って活躍できる人材を養成します。

| | |
|----------------|--|
| 養成する人材像 | 汎用コンピテンスとして、コミュニケーション能力、批判的・創造的思考力、データ・情報リテラシー・広い視野と国際性、心身の健康と人間性・倫理性、協調性・主体性・自律性を持ち、専門コンピテンスとして、自然科学一般の理解、地球学に関する専門的素養、科学的思考能力、室内実験・分析技能、フィールドワーク能力、研究企画・遂行・総括能力を有し、気象・環境・地質・防災・エネルギー・建設・情報通信・旅行・金融など多様な分野において、国際的な視野と科学的知見を活かして社会に貢献できる人材を育成します。 |
| 卒業後の進路 | 卒業生の約7割は大学院に進学しています。就職先としては、気象・環境・地質・防災・エネルギー・建設・情報通信・旅行・金融など幅広い産業分野が進路として想定されます。また、官公庁や自治体、独立行政法人における防災・環境行政、教育機関や博物館での教育・普及活動など、多様な領域で国際的視野と科学的知見を活かして活躍している卒業生もいます。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

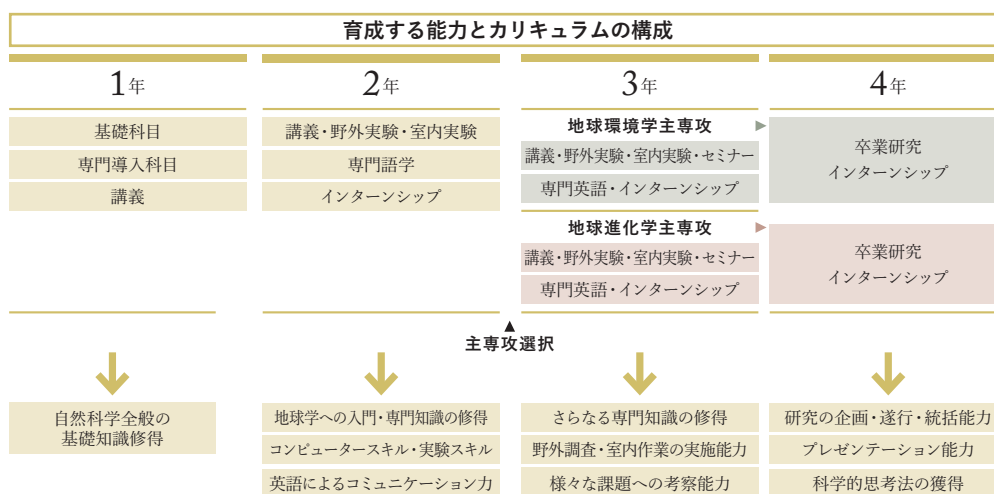
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（理学）の学位を授与します。

| | | |
|---------------------|--|---|
| 知識・能力（専門 コンピテンス） | 1. 自然科学一般の理解 | 専門とする分野にとどまらない、自然科学一般に関する幅広い知識について理解している。 |
| | 2. 地球学に関する専門的素養 | 地球学に関する高度な専門知識と多様な研究手法について理解している。 |
| | 3. 科学的思考能力 | 科学的なデータ・情報を適切な手法で解析し、合理的な推論を導く能力を修得している。 |
| | 4. 室内実験・分析能力 | 安全確保上の注意点を踏まえ、室内における実験機器や分析装置を使用する技能を習得している。 |
| | 5. フィールドワーク能力 | 安全確保や個人情報保護などに配慮しつつ、野外での観察・観測やデータ収集を遂行する能力を修得している。 |
| | 6. 研究企画・遂行・総括能力 | 研究・調査を企画・遂行し、その成果を卒業研究論文・レポート等としての確にまとめ発表する能力を修得している。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 学位授与の方針に掲げるコンピテンスについて、科目ごとに対応関係、評価基準と成績評価方法をシラバスにおいて示しています。これらの科目の単位取得状況に基づき、コンピテンスの達成状況を測定しています。学位授与の評価は学修成果の集大成として卒業研究を重視し、卒業論文および最終発表とその質疑応答を通じて、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかを指導教員を含む複数の教員が審査する体制により評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>教育課程の編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>地球学類は、現在の地球環境を扱う「地球環境学主専攻」と、地球の変遷史を扱う「地球進化学主専攻」の二つの主専攻を設けています。各主専攻では、人文地理学、地誌学、大気科学、水文科学、地形学、環境動態解析学（以上、地球環境学主専攻）、地史・古生物学、地層学、地球変動科学、岩石学、鉱物学、地球資源科学（以上、地球進化学主専攻）の学問分野を学びます。</p> <p>順次性に関する方針</p> <p>1年次では、自然科学を中心に人文・社会科学を含む学問全般に関する基礎的知識を習得するとともに、地球学に関する専門導入科目の履修により、2年次以降に必要な基礎的な能力を身につけます。2年次では、地球学入門を意図した専門科目とともに、専門基礎科目として地球学に必要な数学、物理学、化学、英語などを学ぶことで、計算・資料整理・発表等にかかわるコンピュータや実験機器の利用能力を高めます。さらに、英文の読解能力や英語コミュニケーション能力を修得するための専門英語を受講します。3年次からは、主専攻に分かれ、それぞれの専門科目を中心に履修します。講義、セミナー、室内実験、野外実験で構成された専門科目を受講することで、専門知識を深めます。また、現地での観察・測定・資料収集を通して、フィールドの様々な課題を考察する野外実験を数多く開講しており、野外調査と室内作業を行う能力を修得します。また、主専攻の他に生命環境学際主専攻（留学生コース）を含めた副専攻を選択することができます。4年次では卒業研究が中心となり、教員や大学院生と議論をしながら調査・実験を進めることで、研究の企画・遂行・総括能力や研究成果の内容を第三者に的確に伝達する能力を高めていきます。</p> <p>実施に関する方針</p> <p>学生の主体的な学修を促すために、学類担当教員による教科書を準備するとともに、e-learningシステムを活用しています。産業界や地域との連携およびキャリアパス教育の一環としてインターンシップ科目を設けています。また、学類独自に、また学群や関連学類と共同で、実験室やコンピュータなど学修を支援する環境の整備を行っています。さらに、国際化の推進のために、少人数制の専門語学や国際野外実験の開講、生命環境学際主専攻の英語講義の受講を推奨しています。</p> |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>本学類の特徴である野外実験は、本学附属研究センター、附属研修施設などと連携・協力して実施されており、大型水路や熱収支・水収支観測圃場などが研究教育目標を達成できるように整備されています。また、地学・地理オリンピックやジオパーク設立に向けた活動に協力することで、地球学類生が地球学を通じた社会との接点を持つ機会を設けています。</p> |



入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|---------|--|---|
| 求める人材 | 地球環境や地球進化に高い関心と探究心を持ち、問題解決に向けて自主的かつ積極的に取り組み、広い視野から事象を分析することができる人材。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、自然科学系科目の高度な理解力、高度な思考力、そしてその応用力を大学入学共通テストと筆記試験で総合評価して選抜します。 |
| | 個別学力検査等後期日程 | 文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力、地球環境や地球進化に対する広い興味と高い学習意欲を持ち、論理的に思考・表現する能力を持つ人材を大学入学共通テストと口述試験で選抜します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校において高度な基礎学力を身に付けた志願者から、地球環境や地球進化を学ぶ意欲と目的意識が明確であり、論理的に思考・表現する能力のある人材を書類選抜します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 文科系・理科系にわたる全般的な基礎学力、高い語学力を持ち、地球環境や地球進化を学ぶ意欲と目的意識が明確で、学習に取り組む意欲のある人材を筆記試験と口述試験で選抜します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 海外生活での経験を活かしたグローバルな視点から地球をとらえ、地球環境、地球史に関する幅広い興味をベースに優れた思考力や理解力を発揮できる能力と地球学類の授業を理解するために必要な基礎学力等を筆記試験と口述試験で総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 自然科学や社会科学に関係する高度な基礎学力を身に付けた志願者から、地球環境や地球進化を学ぶ意欲と目的意識が明確で、論理的な思考力・表現力を持つ人材を筆記試験と口述試験で選抜します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-----------|---|
| 学修支援 | クラス担任制度を設け、きめ細かな学修支援を行っています。担任教員は、学修上の悩みや進路選択の相談に応じ、学修方法の指導を通じて学生一人ひとりの成長を継続的にサポートします。入学後にオリエンテーションを行い、履修計画の作成をサポートしています。2年生向けに分野説明会を開催し、学生が適切に専門分野を選択できるようサポートしています。 |
| 学生同士の交流機会 | 複数のクラス活動を通じて学生同士が主体的にイベントを企画・参画できるようにしています。また野外巡検等で、学生が共同で調査する機会を設けています。 |
| 教員との交流機会 | クラス連絡会を開催し、学生の意見を教員に伝え、共に教育環境を改善する場を設けています。教員と学生が交流する場を随時設けることで、学生と教員の交流を促進しています。 |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

教育指導体制の充実

入学時、進級時ごとに、適切な履修指導、進路指導を行っています。また、シラバスの内容を充実させ、学生への積極的な学習支援を図っています。学類の運営委員会で学修成果の評価結果を点検し、教育の質が適切に保たれているかどうかを検討し、改善点が生じた場合はカリキュラム委員会を主体としてカリキュラム等の改善を行います。

少人数授業体制

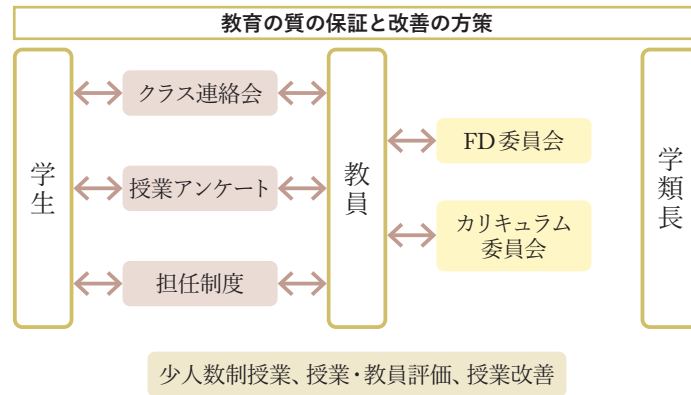
専門語学、セミナー、演習等は少人数制を実施しています。個々の学生に対して教員がマンツーマンで対応し、きめの細かい親身な指導を行っています。

教員の研究教育能力の保証

教員のピアレビューにより高度な専門的能力を備えた教員を配置し、学生の様々な要望に応じたきめ細かい教育研究活動を展開しています。また、学生による授業評価、筑波大学の大学教員評価など、多様な観点から教員の教育・研究成果を評価検証し、継続的に質の高い教育の提供に取り組んでいます。

授業改善への取り組み

ファカルティ・ディベロップメント活動を組織的に実施し、授業内容の改善に向けて個々の教員や教員グループによる教材や教育指導法の主体的開発を行っています。



理工学群

School of Science and Engineering

数学類

College of Mathematics

- 学士（理学）
- Bachelor of Science

物理学類

College of Physics

- 学士（理学）
- Bachelor of Science

化学類

College of Chemistry

- 学士（理学）
- Bachelor of Science

応用理工学類

College of Engineering Sciences

- 学士（工学）
- Bachelor of Engineering

工学システム学類

College of Engineering Systems

- 学士（工学）
- Bachelor of Engineering

社会工学類

College of Policy and Planning Sciences

- 学士（社会工学）
- Bachelor of Policy and Planning Sciences

総合理工学位プログラム

Bachelor's Program in Interdisciplinary Engineering

- 学士（工学）
- Bachelor of Engineering

人材養成目的 / Educational Objectives

持続可能な社会に必要な幅広い教養、科学・技術の基礎から応用に至る専門性、柔軟な思考、知的創造及び問題発見・解決の能力を修得し、広い視野及び豊かな人間性を持ち、チームで仕事をするための協働能力を備え、国際社会に貢献できるグローバル人材を養成します。

数学類

College of Mathematics

- 学士（理学）
- Bachelor of Science

人材養成目的 / Program Educational Objectives

現代社会においては、さまざまな分野で高い数学的能力を持つ人材の需要が高まっています。数学類の人材養成目的は、数学の理解を深めることを通じて、社会で求められる数理的な問題解決能力を備えた人材を育成することです。

| | |
|----------------|--|
| 養成する人材像 | <p>純粋数学から応用数学まで現代数学の基礎について幅広い知識を習得することにより、高度な論理性を身につけると同時に、問題を分析しその構造を読み取って解決するという数学的思考能力を身につけた、社会の様々な分野でグローバルに活躍できる人材</p> |
| 卒業後の進路 | <p>卒業生の約半数は大学院に進学しています。</p> <p>一方で、就職する卒業生については</p> <ul style="list-style-type: none"> - 情報・通信 - 金融・保険 - 中学・高校教員、教育 - 公務員 - SE - アウトソーシング <p>などの業界に進みます。</p> |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（理学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|---|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 自然科学の基礎知識 | 自然科学の基礎的な知識を習得し、科学的な思考法を身につけている。また、数学の基礎である「微分積分」と「線形代数」を自在に駆使できる。 |
| | 2. 数学の専門知識（代数学の理解） | 数学的な論理展開の方法を理解し、数学的思考力・論理力と応用力を身につけることで、代数学における専門知識を修得している。 |
| | 3. 数学の専門知識（解析学の理解） | 数学的な論理展開の方法を理解し、数学的思考力・論理力と応用力を身につけることで、解析学における専門知識を修得している。 |
| | 4. 数学の専門知識（幾何学の理解） | 数学的な論理展開の方法を理解し、数学的思考力・論理力と応用力を身につけることで、幾何学における専門知識を修得している。 |
| | 5. 数学の専門知識（情報数学の理解） | 数学的な論理展開の方法を理解し、数学的思考力・論理力と応用力を身につけることで、情報数学における専門知識を修得している。 |
| | 6. 数学英語力の養成 | 専門分野に関する基礎的な英語能力および発表能力がある。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 「学位授与の方針」に掲げる知識・能力（コンピテンス）は、当該コンピテンスに対応づけられた科目の単位取得により評価します。各科目の成績は、授業計画に基づく確認テスト、小テスト、レポート等を適切に組み合わせ、シラバスに公表されたコンピテンスの評価基準に従った成績評価方法により判定します。合否基準は原則として総合点の60%以上を単位認定の目安とし、科目の特性に応じてシラバスであらかじめ明示しています。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 数学は非常に体系化された国際的普遍性のある学問であり、先進国の主要大学においてはどこでもほぼ同様なカリキュラムとなります。これに沿って、基礎から専門、発展・応用へと順を追ってスムーズに進行出来るよう教育課程を編成・実施します。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1 年次においては、自然科学全般に関する基礎的知識を習得するとともに、専門数学を学ぶための基礎として、全ての数学の土台である微分積分学と線形代数学を専門基礎科目として学びます。これらには講義のほか演習の時間が付随し、実際に問題を解いてみます。また、共通科目、関連科目として語学など専門外の分野を広く履修します。（コンピテンス「自然科学の基礎知識」はここで獲得されます。） - 2 年次は基礎からの発展の時期です。微分積分と線形代数のより深い理論と、集合と位相、曲線・曲面など、専門分野への準備を行います。語学力と発表能力のアップのため、セミナー形式の数学外書輪講Ⅰもあります。 - 3 年次は専門分野の基礎科目を学びます。代数・幾何・解析・情報の4つの分野における基幹的知識を得るための講義と演習を行います。セミナー形式の数学外書輪講Ⅱもあり、また4年次の卒業研究へのスムーズな移行のための卒業予備研究があります。 - 4 年次では研究室に分かれて、研究室あたり数名の少人数セミナー形式による卒業研究を行います。同時に、専門的な話題に関する講義も開講されます。（コンピテンス「数学の専門知識（代数学・解析学・幾何学・情報数学の理解）」「数学英語力の養成」は、2 から 4 年次で獲得されます。） |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 主要科目には演習の時間をつけ、学生自ら例題や発展問題を解くことにより講義の理解を深めます。 - 数学概論や数学外書輪講など、興味や関心を促す科目を用意します。 - 幾つかの授業やセミナーにてテキストに洋書を用い、表現力や語学力アップを図るとともに、国際性に配慮します。 - 教育職員免許状（数学）がとりやすいカリキュラム設定がなされています。 - 数学類キャリアパスセミナーでは、社会における数学のニーズの高さや、数学類卒業後の進路について幅広く学ぶために、企業の担当者に「数学専攻の強み」などを解説してもらいます。 |

| 育成する能力とカリキュラムの構造 | | | |
|---|---|--|------------------|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
| 専門基礎科目 | 専門科目 | 卒業予備研究 数学外書輪講Ⅱ | 卒業研究 |
| 数学概論 数学リテラシー1・2・3 微積分1・2・3 線形代数1・2・3 | 線形代数統論 ベクトル解析と幾何 微分方程式入門 集合入門 代数入門 トポロジー入門 曲面論 関数論 計算機演習 統計学 数学外書輪講Ⅰ 数学類キャリアパスセミナー | 代数学の主な科目 代数学ⅠA・ⅠB | 代数学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |
| | | 幾何学の主な科目 トポロジーA・B 多様体入門 | トポロジーC 微分幾何学 |
| | | 解析学の主な科目 ルベーグ積分 関数解析入門 確率論Ⅰ・Ⅱ | 関数解析 複素解析 |
| 基礎科目 | | 情報数学の主な科目 数理論理学Ⅰ・Ⅱ 数理統計学Ⅰ・Ⅱ 計算機数学Ⅰ・Ⅱ | |
| 共通科目 関連科目 | | | |
| 自然科学全般に関する基礎的知識 | より深い理論の習得 専門分野への準備 | 代数・幾何・解析・情報の4分野における基幹的知識 | 少人数セミナー形式による卒業研究 |
| 専門数学を学ぶための基礎力 | 語学力と発表能力の向上 | 語学力と発表能力の向上 卒業研究の準備 | より専門的な知識 |

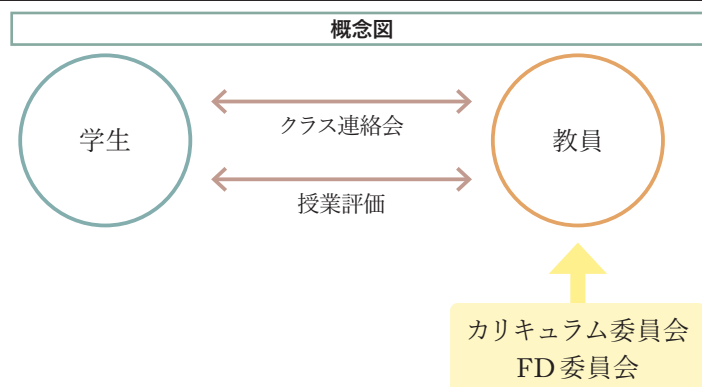
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|---------|--|--|
| 求める人材 | 数学が好きであり、分からないことがあれば、答えが出るまで根気強く考えることができる人材。また、論理的（数学的）思考能力を身につけたいと願っている人材を求めています。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 全般的な基礎学力と、数学を学ぶ上で必要な論理的思考力・数学的思考力・応用力を総合的に評価します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校で優秀な成績を修めており、数学を学ぶ目的意識が明確であること、数学という学問に取り組む意欲等を総合的に評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 自然科学に対する強い好奇心と国際的な広い視野を持っていること、数学に関連する基礎学力、および数学への学習意欲等を総合的に評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 第2種) 数学に対する高い関心、入学後に数学を学ぶために必要な語学力、基礎学力を総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 専門的な数学教育を受容できる基礎的な学力を有していること、数学に対する強い関心と思考力を有していること等を総合的に評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------|--|
| 学修支援 | - 「数学手習い塾」を定期的に関講し、1年次の重要科目である微積分と線形代数に関することをはじめ、学生からの様々な疑問に答えられるようにしています。 |
|------|--|

| | |
|------------------------------|---|
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <p>- 総合学域群から移行してきた学生との交流会を実施し、移行後の学修がスムーズに進むように配慮しています。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>- 研究室あたり数名の少人数による卒業研究だけでなく、2年次からも少人数のセミナー形式の授業があります。そこでは学生が準備し発表することによって、理解度を自ら確認するとともに、学生と教員との直接対話による理解度の深化を図っています。</p> <p>- 学生と教員との間の意思の疎通をはかるため、数学類クラス連絡会をおこなっています。</p> |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 数学類運営委員会において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証します。
- 学生による授業アンケート等に基づき、春と秋の年2回「学生と教員との懇談会（クラス連絡会）」を開催し、率直な意見交換を通して教育改善に努めています。
- 微分積分や線形代数など複数クラスがある講義においては、科目連絡会を置くことにより、担当教員間で内容等について調整するほか、講義技術の改善に努めています。

物理学類

College of Physics

- 学士（理学）
- Bachelor of Science

人材養成目的 / Program Educational Objectives

素粒子・原子核・宇宙・物性・生命に代表される基礎科学の探究、脱炭素とエネルギー転換、量子・情報技術、先端材料、医療、地球環境、科学技術の信頼性・倫理といった現代社会の最先端分野の重要課題の解決に対して、物理学に立脚した新たな知の創出と健全な社会実装を通して貢献することにより、「知の探究が文化として根つき知的好奇心が満たされる社会」、「持続可能で安全・公正な社会」の形成に寄与できる、国際的視野を持つ人材を養成します。

| | |
|---------|---|
| 養成する人材像 | <p>基礎から応用にわたる数学・物理学の確かな素養と高度な専門知識に裏付けられた研究力、物理学の真理探究で培った論理的思考力、課題を自ら設定し統合的に解決する力、幅広い教養と健全な倫理観・道徳観・社会観を兼ね備える人材を養成します。このような人材は、素粒子・原子核・宇宙・生命等の基礎科学、量子・情報、エネルギー、先端材料・医療、地球環境・防災等の最先端分野で新たな知を創出し、産学官連携と国際協働を通じて成果の社会実装と標準化・知財化を主導し、科学コミュニケーションと理科教育に貢献し、持続可能で安全・公正かつ文化的に豊かな社会の形成を牽引できる人材となります。</p> |
| 卒業後の進路 | <p>物理学の学修を通じて培われる「現象を数式で捉えてモデル化し、筋道立てて論理的に考える力」「自ら課題を発見し解決に導く力」は分野を超えて価値を発揮します。卒業後は、研究・産業・政策・教育など多様な領域での活躍が期待されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大学教員・研究職：大学・研究所・企業等で最先端研究に従事。 - 量子・半導体・電子デバイス：量子計測／アルゴリズム、プロセス開発、信頼性評価。 - エネルギー・脱炭素：再生可能エネルギー・蓄電池・水素、LCA／ESG。 - 先端材料・計測：材料設計・マテリアルズ・インフォマティクス、物性評価、品質保証、知財。 - 医療・医工連携：医用画像、放射線物理、診断装置、データ解析。 - 宇宙・防災・地球科学：衛星観測、気象・地震モデリング、データ同化。 - データサイエンス・AI：データ解析、機械学習、数値計算、アルゴリズム開発。 - 金融・コンサル・政策：クオンツ、R&D 戦略、技術政策。 - 行政・規制・標準化：計量標準、安全・品質、国際標準化。 - 教育・科学コミュニケーション：中高教員、学芸員、サイエンスライター。 - 起業・事業創出：ディープテック創業、大学発ベンチャー。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、本学群・学類の人材養成目的に基づき、以下の知識・能力（専門コンピテンス）を修得したものに、学士（理学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|-------------------------------------|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 自然科学の理解 | 自然科学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力 |
| | 2. 古典物理学の理解 | 古典物理学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力 |
| | 3. 現代物理学の理解 | 現代物理学の基礎となる概念や考え方を理解し、問題を解く能力 |
| | 4. 専門物理学の理解 | 各分野の専門的な物理学の概念や考え方を理解し、問題を解く能力 |
| | 5. 計算分析能力 | 計算プログラムを理解・実装し、その結果を物理学的に正しく考察できる能力 |
| | 6. 実験分析能力 | 実験の原理および操作を理解し、その結果を物理学的に正しく考察できる能力 |
| | 7. 専門的対話能力 | 物理学の内容を英語で表現および議論する能力 |
| | 8. 課題解決能力 | 自ら物理学における課題を探求し、その課題を解く能力 |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>「学位授与の方針」に掲げる知識・能力（コンピテンス）は、科目における学修成果と、卒業研究による総合的な学修成果の両面から評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 各科目では、シラバスに示したコンピテンスの直接評価基準に基づき、テスト・小テスト・レポート等を適切に組み合わせてコンピテンス獲得状況を評価します。 - 卒業研究を学修の集大成と位置づけ、卒業研究発表会における発表・質疑応答を通じて当該分野および他分野の複数教員がコンピテンスの達成状況を総合的に評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（理学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|---------------|--|
| 教育課程の 編成方針 | <p>総合的な方針</p> <p>自然科学の基礎から高度に専門的な現代物理学へ段階的かつ効果的にコンピテンスを獲得できるように、体系的なカリキュラムを編成しています。教育方法は、講義・演習・実験等を適切に組み合わせ、課題探究型学修、オンライン（オンデマンド）授業や少人数指導を取り入れて、主体的・対話的な深い学びができるように配慮しています。さらに、評価基準の明示と学修成果の可視化を行い、学生からのフィードバックを通じて教育方法・内容を継続的に改善しています。</p> <p>順次性に関する方針</p> <p>物理学は、先人が築き上げたものを元に、新たに見いだされたものを積み上げて行くという過程を繰り返して発展してきました。高度に発展し、様々な分野に関する専門性の高い現代物理学においても、基本的な概念が普遍的に用いられています。学群の4年間では、古典物理学を基盤として、現代物理学の骨格を成す基礎科目群へ、さらに専門性の高い発展的科目群へと順次的に学修できるよう、各科目に標準履修年次を設定し、到達目標をシラバスに明示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次…物理学を理解する上で必要不可欠な線形代数・微積分等の数学の基礎を修得し、同時に古典物理学の中核をなす力学・電磁気学を質点と場の観点から理解します。また、化学・生物学・地球科学などの自然科学を幅広く学修し、幅広い知識と教養を身に付けます。 - 2年次…解析力学、熱物理学や専門電磁気学などの学修を通して古典物理学をさらに深く学ぶとともに、現代物理学の骨格を成す量子力学・相対性理論などの基礎を習得します。また、物理学実験の基礎的な手法について学びます。 - 3年次…量子力学・統計力学等の学修を通してより発展的な現代物理学を学ぶとともに、素粒子・原子核・プラズマ・物性・宇宙の各分野の専門物理学の基礎を学びます。また、各分野の物理学実験を通して、実験と理論が両輪をなす物理学の成り立ちについての理解を深めます。 - 4年次…専門物理学を学ぶとともに、研究室に所属して卒業研究を行います。 <p>実施に関する方針</p> <p>各科目は通常、複数のコンピテンスに対応しており、単位取得により獲得されるコンピテンス値は、当該科目に割り当てられた各コンピテンス値を合算した値がその科目の単位数と一致するように数値化されています。これにより、学生は獲得したコンピテンスを定量的かつ累積的に把握し、学位授与の方針に照らした到達度を体系的に確認することができます。</p> |
|---------------|--|

学修の方法
特色的な教育

講義・演習・実験を基本とし、基礎から専門に至る物理学を段階的かつ体系的に修得し、主体的・対話的な学びを重視した教育を展開しています。

- 1年次「物理学概論」

現代物理学を俯瞰的に位置づけ、学修の見通しを与える専門導入科目を開設し、以降の学修で何を・なぜ学ぶかを早期に明確化します。

- 課題探究実習セミナー (2・3年次)

学生の興味に沿った多様なテーマで、年間を通じた少人数チュートリアル学修を実施しています。教員の伴走のもと、文献講読・実験・数値計算・発表を行い、課題設定力と探究力を育成します。

- 講義×演習の一体化

主要科目では講義と演習を同一設計で連続的に実施し、丁寧な解説と十分な演習時間、即時フィードバックにより、理解の定着と応用力の強化を図ります。

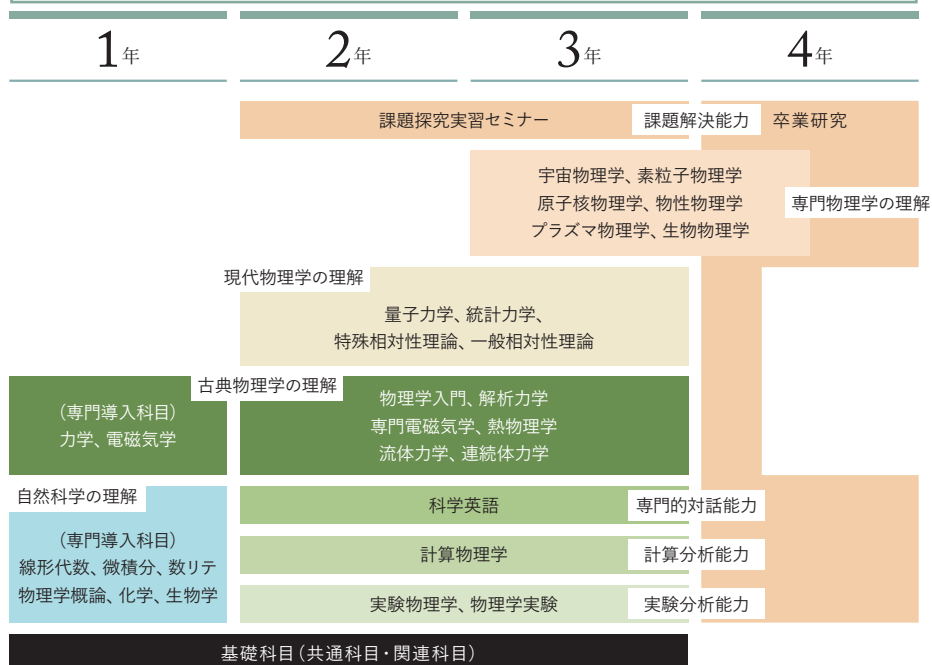
- 専門英語・国際性の涵養

eラーニングと外国人教員による授業を組み合わせ、研究発表・技術文書の読解・作成・討論など、国際的に通用するコミュニケーション能力を養います。

- 実験科目の基礎徹底

レポートの書き方、データ処理、誤差評価、図表作成等を基礎から系統的に指導し、科学的記述力と再現性のある実験技法を身につけます。

育成する能力とカリキュラムの構造



入学受入れの方針 / Admission Policy

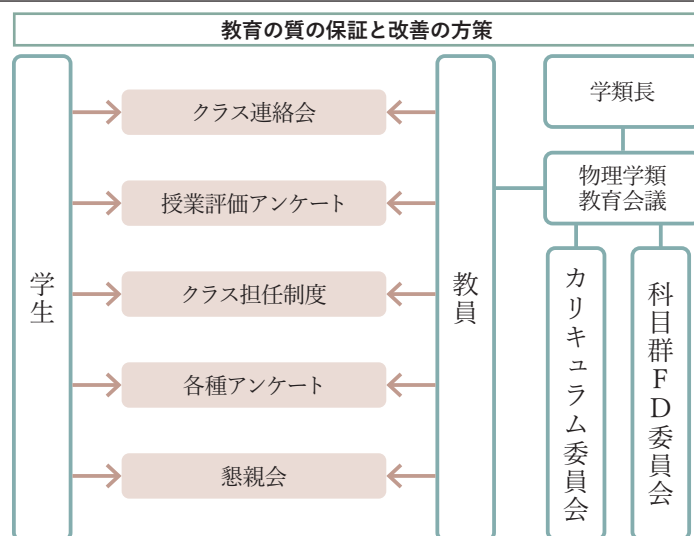
| | | |
|----------------|---|--|
| 求める人材 | 高等学校のさまざまな科目についての基礎学力を有し、大学において物理学を学んでゆく能力を持った人材を求めます。また、広い視野を持ち、自ら学び、未知の物事に対して柔軟に対応できることが要求されます。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 全般的な基礎学力と、物理学を学ぶ上で必要な論理力・思考力・応用力を総合的に評価します。 |
| | 個別学力検査等後期日程 | 全般的な基礎学力の評価に加えて、物理学を学ぶ上で必要な論理力・思考力・応用力、ならびに物理学における広い興味と高い学習意欲を総合的に評価します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校において優秀な成績を修めていることに加え、物理に関する高い関心と目的意識、学習に取り組む意欲等を総合的に評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 自然科学に対する強い好奇心と国際的な広い視野、物理学に関連する基礎学力、物理学への学習意欲を総合的に評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 第2種) 物理学に対する高い関心、入学後に物理学を学ぶために必要な語学力、基礎学力を総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 大学2年生程度の基礎学力と物理学を学び修得するために必要な論理力・思考力・応用力を総合的に評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------------------|---|
| 学修支援 | クラス担任による面談や履修指導、基礎的な学修内容（物理数学等）に関する授業資料の提供、実験レポートの執筆指導、物理学実験Ⅱや卒業研究におけるプレゼンテーション指導。 |
| 学生同士の交流機会 | ファーストイヤーセミナーやクラス代表者会議等の活動における学生交流、物理学実験におけるグループ学修、学生・教員との懇親会（ニュートン祭）。 |
| 教員との交流機会 | クラス連絡会における授業内容や学修環境等に関する意見交換、学生と教員の懇親会（ニュートン祭）、課題探究実習セミナーにおける少人数教育、各科目ごとのオフィスアワーの設定、クラス担任との面談 |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- カリキュラム委員会の常設…約 10 名の教員からなるカリキュラム委員会を毎月開催し、教育活動全体に対する点検と改善を継続的に実施し、かつ、学修成果の評価の結果に基づく点検を通して教育の質を保証し、学位プログラムの目的達成に向けた体制を強化しています。
- 主要科目群 FD の実施…「力学」「電磁気学」「量子力学」「統計力学」「物理学実験」の各科目群ごとに担当教員が年数回ミーティングを実施し、授業の報告や改善点についての議論を行っています。
- 厳格な成績評価…各科目の成績は、授業計画に基づく確認テスト、小テスト、レポート等を適切に組み合わせ、公表された成績評価方法により厳格に評価します。
- 授業評価アンケートとクラス連絡会…全ての専門基礎科目・専門科目について、学生が主体となって作成したアンケートを実施し、その結果を公表しています。学生と教員が参加するクラス連絡会を年 2 回実施し、アンケートの結果を基にした授業改善に取り組んでいます。
- 卒業生アンケートの実施…卒業直後、卒後 5 年、10 年の卒業生に対してアンケートを実施し、カリキュラム等の改善に役立てています。
- 在学生アンケートの実施…様々なテーマに関するアンケートを適宜実施し、カリキュラム等の改善に役立てています。



化学類

College of Chemistry

- 学士（理学）
- Bachelor of Science

人材養成目的 / Program Educational Objectives

自然界における普遍的な法則と未知物質・未知現象の探求、機能性物質の創製と材料開発、環境問題やエネルギー問題の解決、生命現象の分子レベルでの解明などに必要な基礎的で幅広い化学の知識を有する人材を育成します。その上で、本質を極める確かな基礎知識と柔軟な思考力に裏打ちされた創造性と、国際的に活躍できる能力を有する人材を育成します。

| | |
|----------------|---|
| 養成する人材像 | 化学に関する多様な専門基礎力を十分に修得し、自ら課題を設定しその解決のための方法を立案し、新たな真理の発見や価値の創造をもたらす主体的な研究力を有するとともに、研究成果を基に社会の発展と環境・資源・エネルギー問題の解決に寄与する知の活用能力をもった人材。 |
| 卒業後の進路 | <p>卒業生の約9割は大学院に進学しています。</p> <p>また、卒業もしくは大学院修了後の進路は、以下のような分野において国内外で広く活躍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 企業・団体：化学・ゴム、電機・金属、製紙・繊維、エネルギー、食品・医薬品、情報・通信、サービス、金融・保険、運輸、機械・自動車 - 学校教員：公立・私立中学高校 - 教育・研究機関：国立大学、国立研究所、海外大学 - 自治体・独立行政法人等 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、本学群・学類の人材養成目的に基づき、以下の知識・能力（専門コンピテンス）を修得したものに、学士（理学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|---|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 基礎化学の知識と理解力 | 基礎化学に関連する概念や理論を正しく理解し、応用できる能力 |
| | 2. 無機・分析化学分野の知識と理解力、応用力 | 無機・分析化学分野の知識を身につけ、化学現象を定性的および定量的に分析できる能力、無機化合物の物性や分子構造を正しく理解できる能力 |
| | 3. 熱力学・統計力学分野の知識と理解力、応用力 | 熱力学・統計力学分野の知識を身につけ、化学現象や概念を数学的、物理的に表現できる能力 |
| | 4. 量子化学・分光学分野の知識と理解力、応用力 | 量子化学・分光学分野の知識を身につけ、化学結合の様式を量子力学的に記述する能力、分子構造を分光学的情報から正しく理解できる能力 |
| | 5. 有機化学分野の知識と理解力、応用力 | 有機化学分野の知識を身につけ、化学反応機構を理解し、有機合成に応用できる能力 |
| | 6. 生物化学分野の知識と理解力、応用力 | 生物化学分野の知識を身につけ、化学の法則や概念を生物領域へ応用できる能力 |
| | 7. 化学実験の遂行能力 | 化学実験の原理および操作を理解し、その結果を正しく解析し、考察できる能力 |
| | 8. 化学英語の理解力、表現力 | 化学研究に関連した英文の内容を正しく読み取り、英語で表現および議論する能力 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 学位授与の方針に掲げるコンピテンスについて、科目ごとに対応関係、評価基準と成績評価方法をシラバスにおいて示しています。講義では確認テストとフィードバック、レポート、プレゼンテーション等により、実習ではレポートや実験に取り組む姿勢・質疑応答等により、コンピテンスの修得状況进行评估します。さらに、卒業研究発表を複数の教員で審査することで、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）の修得状況进行评估します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

| | |
|-------------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>知識・能力（コンピテンス）に対応する主要科目例</p> <ul style="list-style-type: none"> - 基礎化学の知識と理解力：化学 1,2,3、化学概論 - 無機・分析化学分野の知識と理解力、応用力：無機化学 I,II、分析化学、無機元素化学 - 熱力学・統計力学分野の知識と理解力、応用力：物理化学 I,IV - 量子化学・分光学分野の知識と理解力、応用力：物理化学 II,III,IV、計算化学 - 有機化学分野の知識と理解力、応用力：有機化学 I,II,III,IV - 生物化学分野の知識と理解力、応用力：生物化学、生物分子化学 - 化学実験の遂行能力：化学実験、化学実験 II、無機・分析化学専門実験、物理化学専門実験、有機化学専門実験 - 化学英語の理解力、表現力：基礎化学外書講読、先端化学外書講読 <p>総合的な方針</p> <p>4年間で化学の専門性を養うために、基礎から専門への積み上げ型の教育課程を編成・実施します。講義と実験を中心とした授業科目を設置するとともに、学生が能動的に学習に取り組めるようにするための実習・演習科目や、化学に関する総合能力を養うための卒業研究を設置しています。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1年次においては、自然科学全般に関する基礎的知識を修得するとともに、専門化学を学ぶための基礎を修得するために、講義を中心とした教育を行います。 - 2、3年次においては、基礎から専門までの幅広い化学の知識や技術を身につけるために、専門化学の体系的な講義および講義の進行に合わせた実習、演習を行います。また、グローバルな化学情報の読解能力を修得するために、化学英語に関する講義を行います。 - 4年次には、先端的化学の知識を学ぶとともに、真理を探究する方法およびグローバルな化学情報を探索する手法を修得させるために、卒業研究が課されます。 <p>実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 年次に合わせて化学のレベルが順次上がるように、基礎化学と専門化学のバランスを取った講義を実施します。 - 自然現象を理解するための実験手法を修得するために、各種実習を実施します。 - 自然の真理、未知現象の解明を行うための研究手法を修得するために、卒業研究を実施します。 - 化学分野で国際的に活躍するためにも必要不可欠な英語を習得するために、化学英語の講義を実施します。 |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>演習授業を通じて、講義で習った理論を活用するための技術を養います。また、演習講義で習った内容をより深く理解するために、3年次において通年の専門化学実験を開講し、講義で修得した基礎知識を活かす実験技術の修得にも力を入れています。</p> |

| 教育計画 | | | | |
|------|-----------------|----------------------|----------|-----------------------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
| 専門科目 | | 化学実験 | 専門化学実験 | 卒業研究 |
| 専門基礎 | | 基礎化学外書講読 | 専門化学外書講読 | |
| 科目基礎 | 共通科目、関連科目 | | | |
| | 自然科学全般に関する基礎的知識 | 基礎から専門までの幅広い化学の知識や技術 | | 先端的化学の知識 |
| | 専門化学を学ぶための基礎 | グローバルな化学情報の読解能力 | | 化学研究とグローバルな化学情報の探索の手法 |

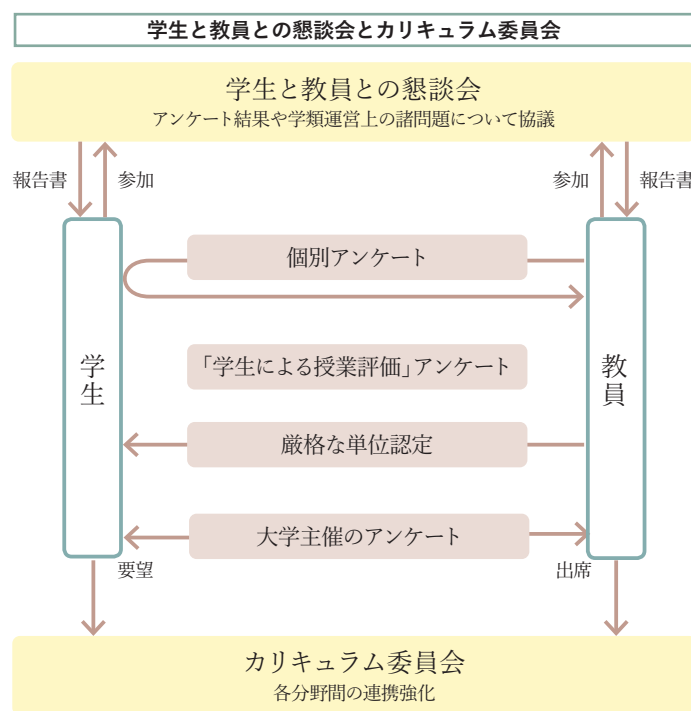
| 化学類授業科目 | | | | |
|---------|---------------------------------------|---|--|---|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
| | 化学概論 化学1 化学2 化学3 化学基礎セミナー | 無機化学I 分析化学 物理化学I・II 有機化学I・II 生物化学 基礎化学外書講読 化学実験 化学実験II 無機物質化学 応用分析化学 | 無機化学II 無機元素化学 放射化学 有機分子構造解析 物理化学III・IV 有機化学III・IV 物理化学演習 専門化学実験I・II 先端化学外書講読 | 卒業研究 無機・分析化学特論 物理化学特論 有機化学特論 生体関連化学特論 |
| 共通科目 | 総合科目 英語 情報 体育 | 共通科目 総合科目 体育 | 計算化学 生物分子化学 | |

入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|----------------|--|---|
| 求める人材 | 化学に関する十分な学力と、関連する分野の基礎学力を有し、自然界における普遍的な法則の追求と、新規物質や未知現象を探索する意欲を有する人材を求めます。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 全般的な基礎学力と、化学を学ぶ上で必要となる高度な理解力・思考力・応用力を総合的に評価します。 |
| | 個別学力検査等後期日程 | 全般的な基礎学力と、化学を学ぶ上で必要となる理解力・思考力・応用力、化学に関する興味と意欲・表現力等を総合的に評価します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校において優秀な成績を修めており、化学に関する高い関心、目的意識、学習に取り組む意欲等を総合的に評価します。 |
| | 国際科学オリンピック特別入試 | 国際化学オリンピックに出場した者、またはその代表者選考会等において一定の成績を収めた者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ意欲を評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 自然科学に対する強い好奇心と国際的な広い視野を持ち、化学に関連する基礎学力、そして化学への学習意欲を総合的に評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 第2種) 協調性、化学に対する高い関心、そして入学後に日本語で化学を学ぶために必要な語学力、基礎学力を総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 専門的な化学教育を受容できる基礎的な学力、化学に対する強い関心、論理力、思考力、応用力を総合的に評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------------------|--|
| 学修支援 | 化学類では各学年に2名のクラス担任をおき、授業履修や学習スキル・時間管理の支援など、学生が効果的に学修できるよう、多様なサポート体制を整えています。 |
| 学生同士の交流機会 | 1年次の「ファーストイヤーセミナー」、および2年次の「化学基礎セミナー」を開講し、学生同士が交流する機会を設けることで学修意欲の向上を図っています。 |
| 教員との交流機会 | 1年に2回のクラス連絡会を開催し、教員と学生が忌憚のない意見交換をする場を設けることで、学修意欲の向上を図っています。 |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

カリキュラム委員会において、学修成果の評価の結果に基づく点検を通して教育課程の妥当性や適切性を検証するとともに、教育活動全体の改善を継続的に実施することで教育の質を保証します。

1年に2回開催するクラス連絡会では、学生による自主的な授業評価アンケートの結果を基に教育の質向上のための様々な意見交換を行っています。また、その内容は、報告書の形で毎年公開しています。

また、各科目の担当教員は、大学で取りまとめている授業評価を教育効果の向上に役立てています。

さらに、上記アンケート等をもとに、教育内容や科目間の連携などについてカリキュラム委員会を中心に随時確認・見直しをおこなっています。

応用理工学類

College of Engineering Sciences

- 学士（工学）
- Bachelor of Engineering

人材養成目的 / Program Educational Objectives

われわれの社会を維持・発展させ続けるために必要な最先端工学の基盤となる科学・技術を原理から理解し、さらに発展させることができる、創造力豊かな技術者・研究者を養成します。

| | |
|----------------|--|
| 養成する人材像 | <ul style="list-style-type: none"> - 最先端科学技術を原子・分子レベルで原理から理解できる基礎学力を備え、さらに発展・創造できる専門知識を身につけている - 科学技術で直面するさまざまな課題を物理、化学、生物の学際的で幅広い視点から論理的に思考できる - チームのなかで活躍できる協調性や異分野の人とコミュニケーションして自己表現できる能力を身に付けている - 国際的に活躍することができる語学力やプレゼンテーション能力を備えている <p>これらの能力を持って、数学×物理学×化学×生物学で表されるように、各分野の経験・知識を相乗的に融合させることで、特に素材や計測技術など日常生活では直接目には触れなくとも工業の基礎となる分野において、現在の問題から将来の未知なる課題にも対応可能な工学士を育成することを目標としています。</p> |
| 卒業後の進路 | <p>卒業生の約9割が大学院に進学し、その約1.5割が博士後期課程に進んでいます。大学院修了者も含め、国内外で広く活躍しています。</p> <p>就職先業種・職種（大学院修了者を含む）</p> <p>機械・電機・化学、金属・素材、情報・通信、医療・医薬品、食品、金融・保険、学校教員、官庁・自治体</p> |

学位授与の方針 / Diploma Policy

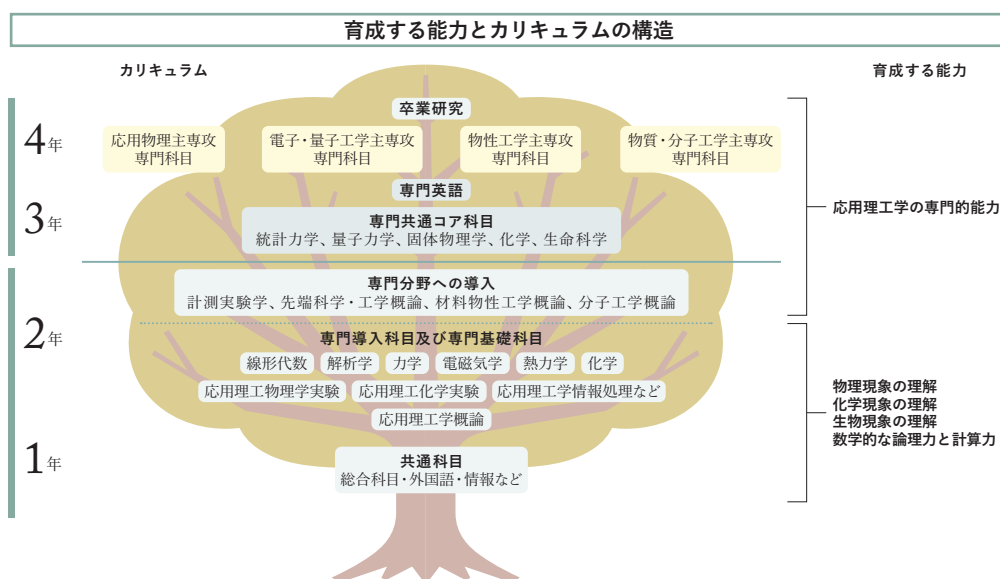
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（工学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 物理現象の理解 | 量子力学から電磁気学、熱力学にいたる広範な物理現象の理解 |
| | 2. 化学現象の理解 | 無機化学や有機化学など現代化学の基盤となる化学の理解 |
| | 3. 生物現象の理解 | 生物を構成する分子の理解と、分子が生み出す生命の現象の理解 |
| | 4. 数学的な論理力と計算力 | 線形代数や解析学を基盤とした数学的な思考と演算の能力 |
| | 5. 応用理工学の専門的能力 | 最先端の計測法、電子や量子のナノテクノロジー、多様な物質の物性、複合化学と分子工学に関する理解と応用の能力 |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>学修成果の集大成として卒業研究を重視し、卒業論文および卒業研究発表を通じて、学位授与方針に基づく学修成果を評価します。卒業論文は指導教員および主専攻内の複数の教員による査読を通じて評価し、学修成果の達成状況に反映します。主専攻ごとに実施される卒業研究発表会では、口頭による概要説明と質疑応答を基に、学修成果の達成状況を当該主専攻の複数の教員で評価します。これらの結果を総合的に判断し、学修成果の最終的な評価を行います。</p> | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修成果が学士（工学）の到達目標に達するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-------------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 高度に進化した現代社会において、自然科学の成果を技術面から社会に還元して貢献することを学類教育の使命とします。そのためには、最先端科学技術を原理に立ち返って理解、発展させるのに必須の基礎学力と、最先端科学技術の専門的知識や国際性を身につけるための教育カリキュラムを提供します。</p> <p>順次性に関する方針 2年次までに、最先端科学技術を理解するための基礎的・論理的思考力を養成するため、数学と物理と化学を重点化した教育を実施します。特に、2年次では演習を十分に行い、論理的思考力に加えて計算能力や処理能力の養成を目標としています。基礎科学の体験的・実験的学習に加えて協調性を涵養する場として、物理学系と化学系の必修の実験を2年次に開講します。さらに、各専門分野の入門的・概論的講義を通じて、3年次以降の専門分野への導入教育も行います。3年次では、高度に発展し続ける科学技術に対応するために、4つの主専攻（応用物理、電子・量子工学、物性工学、物質・分子工学）への振り分けを行い、専門性の高い講義と実験科目を提供します。主専攻振り分けは、学生の希望を最大限配慮して行います。4年次では、すべての学生が学類教員のいずれかの研究室に配属され、授業に加えて、卒業研究を行います。自ら新しい価値を見出すための研究という能動的学習の遂行能力を養成します。そして、問題提起・解決能力に加えて、研究発表等を通して情報発信力の養成を行います。</p> <p>実施に関する方針 専門分野教育においては、各分野で基礎となる共通性の高い科目（物理・化学・生物）を専門共通コア科目とすることで、分野横断的に俯瞰できる広い視野を有する学生を養成します。また、専門英語教育を3年次まで継続的に行うことで学生の語学力と国際性を高める教育をしています。</p> |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>低学年からのアクティブラーニングの一環として、研究に興味ある3年次までの学生を支援する先導的研究者体験プログラム（ARE）への参加を促します</p> |



入学者受入れの方針 / Admission Policy

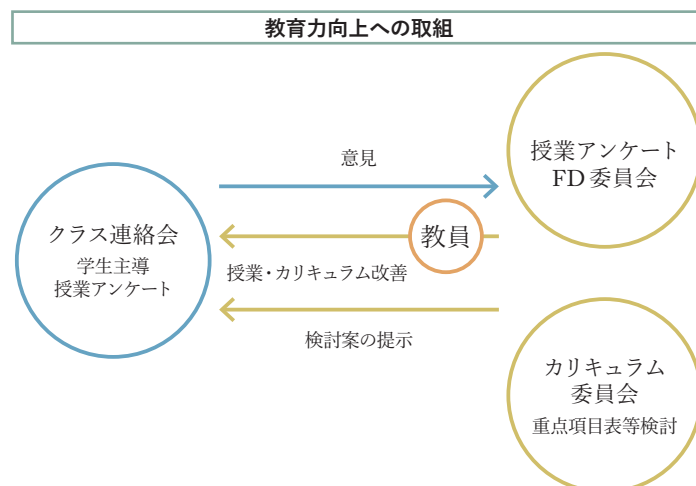
| | | |
|----------------|--|---|
| 求める人材 | 先端科学技術を原理から理解するための基盤となる数学的・論理的思考力を有し、物理学・化学などの科学的基礎知識を備えたうえで、それらの先端的工学応用に興味を持つ人材を求めます。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 科学の技術分野への応用やミクロな自然法則に基づく科学・技術の習得に必要なとされる数学や理科の学力を中心に判断します。基礎学力と進学後の勉学に対する適性を評価します。 |
| | 個別学力検査等後期日程 | 先端技術を科学の視点から本質的に理解する基礎学力を持ち、かつ大学進学後の勉学の目的を明確に示すことができ、物理・化学法則に基づく工学分野へ進む意欲を持つ人材を選抜します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校において優秀な成績を修めていることに加え、自然科学の技術分野への応用を理解し、自然法則や物質、材料に関連する事柄について自分の興味や進路を適切に表現できる能力を持ち、かつ考察能力、分析能力を有する人材を選抜します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 先端科学技術を科学の視点から理解し発展させるために必要な強い意欲と数学や物理に関する基礎学力を有し、これを学ぶに必要な日本語および英語の語学力を有する人材を選抜します。 |
| | 編入学試験 | 専門的な工学教育を受容できる大学2年生程度の基礎学力と勉学意欲、工学に対する強い関心と論理的思考力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-----------|--|
| 学修支援 | 4クラス制をとり、クラス担任を中心とした学修支援をしています。学修不振者への支援としては寺子屋相談室シニアプロフェッサーによるきめ細かなフォローをしています。 |
| 学生同士の交流機会 | 入学時のオリエンテーションにて、学外研修を通じて学生同士の交流を促進するとともに、女子学生向けオリエンテーションによる女子学生の交流も支援しています。 |
| 教員との交流機会 | 年2回のクラス連絡会を通して、学習意欲や教育の質の向上に関する意見交換するなど、学生と教員の交流を促進しています。卒業研究では、教員1名あたり約2名の学生が配属され、手厚い体制で研究指導が行われます。 |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

急速に進化し続ける先端技術を理解するためには、教育内容を随時見直すことが必須です。そこで、以下の方策により教育力の向上に努めています。あらゆる工学分野の共通基盤となる数学・物理・化学の専門基礎科目と専門共通コア科目については、授業アンケートを実施し、カリキュラム委員会やFD委員会にて教育改善に取り組んでいます。また、学生からのコメントをもとに議論し、アンケート結果を授業改善にフィードバックさせるとともに、教員の教育力向上に活用します。専門基礎科目から専門科目まですべての授業科目に対して、各授業で履修すべき重点項目表を作成し、この重点項目表に基づいて、授業間の連続性や授業内容の見直しをカリキュラム委員会にて随時、検討します。カリキュラム委員会やFD委員会において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証します。また、学生主導授業アンケートの結果も参考にすることで、学生の視点に立った講義内容の充実を図っています。



工学システム学類

College of Engineering Systems

- 学士（工学）
- Bachelor of Engineering

人材養成目的 / Program Educational Objectives

安全で安心であり、快適で豊か、かつ持続可能な人間生活を工学面から支え牽引できる人材、すなわち、

- 1 広い分野に応用できる基礎能力、
- 2 広い視野を持った仕事の遂行能力、
- 3 社会人・職業人としての人間基本力

を身につけた技術者・研究者を養成することを目的としています。

| | |
|----------------|--|
| 養成する人材像 | 上記に掲げた能力を持ち合わせ、人工知能、通信、電気電子、制御・システム、ロボット、機械、建築、土木、航空宇宙、リスク、材料、エネルギーなどの産業分野で広く国際的に活躍できるグローバル人材を養成します。 |
| 卒業後の進路 | 卒業生の約 15% は就職し、約 85% はより高度で幅広い専門知識の修得と応用力の涵養を求めて、筑波大学大学院 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 博士前期課程へ進学しています。博士前期課程修了後は、就職して産業界で活躍していますが、さらに高度で創造的な研究活動を求めて、引き続き博士後期課程へ進学する学生も多くいます。大学院進学以外の進路としては、自動車製造業、建設業、重工業、輸送業、機械製造業、情報機器製造業、ソフトウェア会社、商事会社、鉄鋼業、電力業、飲食業、コンサルタント業、IT 業など多岐に渡る産業分野に就職しています。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学群・本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（工学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 広い分野に応用できる基礎能力 | <ul style="list-style-type: none"> - 論理的・数学的な思考力と解析力を身につけている - 物理的な自然現象について理解している - コンピュータを利用して情報を取得・処理する能力を身につけている |
| | 2. 広い視野を持った仕事の遂行能力 | <ul style="list-style-type: none"> - 科学技術と社会・全世界・地球全体との関連について理解している - 新たな技術を企画し、具体的なシステムを設計・運用できる - 問題点に対する具体的な解決策を考案し、計画的に仕事を進められる |
| | 3. 社会人・職業人としての人間基本力 | <ul style="list-style-type: none"> - 国際的にも活躍できるコミュニケーション能力を身につけている - 自分の考えを筋道を立てて第三者へわかりやすく表現できるプレゼンテーション能力を身につけている - 工学者としての社会性と責任感・倫理観を身につけている |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>最終年次にまとめる卒業研究を発表する場において、指導教員およびセッション参加教員による協議により、上記に掲げた知識・能力（専門コンピテンス）のうち、広い分野に応用できる基礎能力、および広い視野を持った仕事の遂行能力については卒業論文の内容で評価し、社会人・職業人としての人間基本力については卒業論文の発表で評価します。</p> | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

工学分野の様々な問題に対応するための基礎能力と論理的思考能力を獲得し、学修成果が学士（工学）の到達目標に達するためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-----------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>対応する科目区分・科目群など</p> <ul style="list-style-type: none"> - 広い分野に応用できる基礎能力については、数学・物理学・コンピュータなどに係る専門基礎科目を修め、これらの知識を応用して工学的な諸問題を分析する能力を身につけます。 - 広い視野を持った仕事の遂行能力については、各主専攻の専門科目を修め、科学技術と社会・全世界・地球全体との関連を理解した上で、技術を企画し、システムを設計・運用する能力を身につけます。また、実験・卒業研究指導を通じて、問題の解決策を考案し、計画的に遂行する能力を身につけます。 - 社会人・職業人としての人間基本力については、外国語・実験・卒業研究などの科目を修め、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけます。また、工学者のための倫理、実務系の専門科目を修め、技術者としての社会性と責任感・倫理観を修得します。 <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1・2年次は様々な専門分野を横断的に学ばせるカリキュラム体系により、工学システム学類のどちらの主専攻にも対応できる基礎能力を養うとともに、横断的に工学分野を捉えた「工学システム」の概念を学習します。 - 2年次秋学期からは二つの主専攻に分かれ、様々な専門分野の特色ある科目を選択し、深い専門知識を習得します。 - 2年次および3年次は各主専攻における基礎実験・専門実験・応用実験と関連の専門科目の履修を通して、様々なシステムの設計を行うために必要な統合・創造・解決能力を養います。また、全ての実験は数名の班を単位として実施されるため、チームワーク力の涵養にも役立ちます。 - 4年次は、主専攻分野に限定することなく学類内の希望する研究室の一つに配属させ、修得した基礎能力と幅広い専門知識を活かして、卒業研究を完成させます。これにより人々の生活に役立つ工学的なシステムを構築する能力をもった技術者を育成します。また、2年次までの成績が優秀な学生は、3年次に特別卒業研究を実施して早期卒業も可能です。 |
|-----------------------|--|

学修の方法
特色的な教育

きわめて広い工学分野をカバーしている本学類は、知的・機能工学システム主専攻とエネルギー・メカニクス主専攻の2主専攻（右図）で構成されています。各主専攻で学ぶ内容に多少の違いはありますが、他主専攻の科目の履修は容易であり、また最終学年における研究室配属において主専攻の壁は設けません。主専攻による専門性の違いをある程度は保ちながら、できる限り分野横断性を重視するカリキュラムを用意することで、広い分野の基礎知識と広い視野に基づいた思考力、判断力を修得させます。

本学類では社会が要請する教育水準を確保するため、実務系などの複数の専門科目において産業界からの非常勤講師を積極的に任用し、また外国人教員による専門英語科目を開設しています。さらに、各学年で実施する実験・演習科目のために十分な数の実験室と装置、ならびに多数の学生が同時に利用可能な大規模なプログラミング演習室を用意しています。以上の教育方法により、工学者に求められる表現力とコミュニケーション能力、および、社会職業人としての人間基本力を修得させます。なお、学生はコンピテンスごとに項目分けされた達成度評価表（下図）に取得単位を記入することにより、各自の達成度を随時確認することができます。

主専攻の構成

知的・機能工学システム

情報学
人工知能
リスク工学
電気電子工学
通信工学
制御工学
機械工学
システム工学
サイバニクス
ロボット工学

エネルギー・メカニクス

建築学
機械工学
土木工学
材料工学
航空宇宙工学
情報学
リスク工学
エネルギー学
電気電子工学
原子力工学

カリキュラムの構造

知的・機能工学システム主専攻

エネルギー・メカニクス主専攻

人工知能 通信 電気電子 制御・システム ロボット 機械 建築 土木 航空宇宙 リスク 材料 エネルギー

4年

卒業研究

工学者のための倫理

パターン認識 情報理論 数値解析 メカトロニクス機能要素概論 燃焼工学 鋼構造学 気体力学 防災工学 地圏気圏の環境論 電力工学
画像処理 情報通信システム論II 研究・開発原論 機械学習 信頼性工学 建築設備 地盤工学 環境リモートセンシング エネルギー機器学
知的情報処理 システムダイナミクス 応用プログラミング 計測工学 鉄筋コンクリート構造学 機器運動学 水素エネルギー工学

3年

知的・機能工学システム実験

エネルギー・メカニクス専門実験/応用実験

人工知能 通信工学 システム最適化 線形システム制御 フィードバック制御 伝熱工学 建築環境工学 設計計画論 複合材料学
情報通信システム論I ヒューマンインタフェース ロボット工学 工学システムをつくる 建築設計製図 土質力学 水環境論 パワーエレクトロニクス
デジタル信号処理 データ構造とアルゴリズム 専門英語演習 電子回路 流体工学 コンクリート工学 専門英語演習 エネルギー学入門
離散数学 プログラミング序論C,D コンピュータとネットワーク 電気回路 応用熱力学 熱工学 応用材料力学 物理化学概論
論理回路 バイオシステム基礎 メカトロニクス機構解析 機械設計 応用流体力学 電磁材料学 電磁力学 数値計算法
専門英語B 応用数学B 振動工学 構造力学 専門英語B

2年

工学システム基礎実験

| 数学科目 | 物理科目 | プログラミング・他 | 確率統計 材料学基礎 |
|------------|-----------|--------------|-----------------|
| 複素解析 | 材料力学基礎 | プログラミング序論A,B | 応用数学A 専門英語A |
| 常微分方程式 | 流体力学基礎 | 工学システム原論 | |
| 解析学総論 | 熱力学基礎 | | |
| 線形代数総論A,B | 力学総論 | | コンテンツ工学システム |
| 微積分1,2,3 | 電磁気学総論 | | 宇宙工学 |
| 線形代数1,2,3 | 力学1,2,3 | | つくばロボットコンテスト |
| 数学リテラシー1,2 | 電磁気学1,2,3 | 専門基礎科目 | コンテンツ表現工学 |
| | | | 巨大プロジェクトエンジニア入門 |

情報リテラシー（講義・演習）
データサイエンス
工学システム概論
学問への誘い
英語、体育（3年まで）
他学群・他学類の専門導入科目
共通科目・関連科目

1年

エネ・メカ専攻(2021年以降入学用)

学籍番号 20xx12345

氏名 知的 次郎

| 学習・教育到達目標 | 区分 | 必修 単位数 | 科目名 | 単位数 | 標準 履修 単位数 | 科目番号 | 達成 率(%) | 状態 | 修得 単位数 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 達成 率 | | | | | |
|---|----------|-----------|------------------------------------|-----|-----------------|---------------------------------|------------|-----|-----------|------|------|------|------|------|------|---------|--|--|--|--|--|
| 1.1 論理的・数学的な思考力と解析力 | 必修 | 16 | 線形代数1 | 1 | 1 | FA01831 FA01841 FA01801 FA01801 | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 線形代数2 | 1 | 1 | FA01831 FA01841 FA01801 FA01801 | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 線形代数3 | 1 | 1 | FA01831 FA01841 FA01801 FA01801 | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 数学リテラシー1 | 1 | 1 | FA01231 FA01241 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 数学リテラシー2 | 1 | 1 | FA01231 FA01241 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 微積分1 | 1 | 1 | FA01331 FA01341 FA01301 FA01301 | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 微積分2 | 1 | 1 | FA01431 FA01441 FA01401 FA01401 | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 微積分3 | 1 | 1 | FA01531 FA01541 FA01501 FA01501 | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 線形代数総論A | 1 | 2 | FG10304 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 線形代数総論B | 2 | 2 | FG10724 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 1.2 物理的な自然現象に対する理解 | 必修 | 11 | 力学物理学 | 2 | 2 | FG10744 FG10774 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 結晶学総論 | 1 | 2 | FG10744 FG10754 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 力学総論 | 2 | 2 | FG10784 FG10794 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 力学1 | 1 | 1 | FC01241 FC01261 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 力学2 | 1 | 1 | FC01241 FC01261 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 力学3 | 1 | 1 | FC01241 FC01261 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 電気力学1 | 1 | 1 | FC01291 FC01281 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 電気力学2 | 1 | 1 | FC01361 FC01351 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 電気力学3 | 1 | 1 | FC01361 FC01351 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 電気力学総論 | 1 | 2 | FG10854 FG05554 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 1.3 コンピュータを利用し情報を取得・処理する能力 | 必修 | 10 | 力学総論 | 1 | 2 | FG10814 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 応用力学基礎 | 1 | 2 | FG10854 FG05571 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 電気力学総論 | 1 | 2 | FG10834 FG10844 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 情報リテラシー(基礎) | 1 | 1 | EA18101 EA18201 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 情報リテラシー(応用) | 1 | 1 | EA18102 EA18202 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | データベース | 2 | 1 | EA18102 EA18202 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | プログラミング基礎A | 2 | 2 | FG05184 FG05184 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | プログラミング基礎B | 2 | 2 | FG05184 FG05184 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 数値計算法 | 3 | 2 | FG05354 FG05354 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 工学システム基礎 | 1 | 2 | FG10651 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 2.1 科学技術と社会・全世界・地球全体との関連を理解する能力 | 選択 必修 | 3 | 学問への関心/専門への関心 | 0 | 1 | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 基礎体育(専)/基礎体育(専) | 0 | 1 | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 基礎体育(社)/基礎体育(社) | 0 | 1 | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 応用体育(専)/応用体育(専) | 0 | 2 | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 応用体育(社)/応用体育(社) | 0 | 2 | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 発達体育(専)/発達体育(専) | 0 | 3 | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 発達体育(社)/発達体育(社) | 0 | 3 | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 体育(専中)/体育(専中) | 0 | 1-4 | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 体育(専中)/体育(専中) | 0 | 1-4 | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 体育(専中)/体育(専中) | 0 | 1-4 | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 2.2 広範囲な工学知識を基に、専門分野における最新知識を獲得する能力 | 選択 必修 | 1 | 材料科学 | 1 | 2 | FG42301 FG05221 FG12021 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 環境材料学 | 1 | 2 | FG42311 FG05231 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | コンピュータ工学(基礎) | 2 | 3 | FG42321 FG05241 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 環境材料学(応用) | 1 | 3 | FG05231 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 2.3 計画的に仕事を進め、まとめる能力 | 必修 | 4 | 企業研究 | 4 | 4 | FG48958 FG09958 FG18348 FG18218 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 社会工学 | 2 | 2 | FG41221 FG01221 FG11011 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 2.4 具体的なシステムを設計し運用する能力 (0)問題解決能力 | 選択 必修 | 1 | 機械設計 | 2 | 2 | FG41841 FG01841 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | システムソフトウェア制御 | 2 | 2 | FG41851 FG01851 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 線形システム制御 | 2 | 2 | FG41861 FG01861 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 機械運動学 | 2 | 2 | FG41871 FG01871 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 2.4 具体的なシステムを設計し運用する能力 (0)エンジニアリング・デザイン能力 | 必修 | 7 | 応用基礎 | 3 | 3 | FG48883 FG08883 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 企業研究 | 4 | 4 | FG48958 FG09958 FG18348 FG18218 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 2.4 具体的なシステムを設計し運用する能力 (0)チームワーク力 | 必修 | 3 | 企業研究 | 3 | 3 | FG48958 FG09958 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 産業技術総論 | 1 | 3 | FG43651 FG05651 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 2.5 業務において新たな技術を開発・立案する能力 | 選択 必修 | 1 | 産業技術総論 | 1 | 3 | FG43651 FG05651 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 設計技術総論(基礎) | 2 | 2 | FG43811 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | インターンシップ | 1 | 3 | FG13403 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 3.1 国際的にも活躍できるコミュニケーション能力 | 必修 | 7 | フレキシブル・セミナー/ファーストインターンシップ | 1 | 1 | | | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 専門英語A | 1 | 3 | FG18102 FG18112 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 専門英語B | 1 | 3 | FG46232 FG05232 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 英語(English Reading Skills I) | 1 | 1 | 312* | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 英語(English Reading Skills II) | 1 | 1 | 313* | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 英語(English Presentation Skills I) | 1 | 2 | 314* | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 3.2 プレゼンテーション能力 | 必修 | 12 | 英語(English Presentation Skills II) | 1 | 2 | 314* | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 英語総論 | 2 | 2 | FG28193 FG09193 FG18193 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 基礎英語B | 2 | 2 | FG28203 FG09203 FG18193 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 3.3 自主性と行動力 | 必修 | 3 | 企業研究 | 4 | 4 | FG48958 FG09958 FG18348 FG18218 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 専門英語 | 3 | 3 | FG48873 FG08873 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| 3.4 社会性と責任感・倫理観 | 必修 | 2 | 工学システム基礎 | 1 | 2 | FG10651 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 工学系のための倫理 | 1 | 4 | FG18131 | X | 100 | 0 | | | | | | | | | | | | |

黄色のセルに、履修した科目の科目番号を自分で入力してください。

入学受入れの方針 / Admission Policy

求める人材

- 工学システム学類の入学者には以下のことを求めます：
- (1) 工学系に必要な基礎学力とセンスがあること。
 - (2) 好奇心と学習意欲に溢れていること。
 - (3) 技術者になるという明確な目的意識があること。
 - (4) 優れた思考力、判断力、表現力とコミュニケーション能力を身につけていること。

| | | |
|---------|-------------|--|
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 自然科学、数学における基本的な概念や原理・法則への理解の深さ、事象を自然科学的に考察して理解するとともに数学的に処理する能力の高さを評価します。 |
| | 個別学力検査等後期日程 | 基礎学力の評価に加えて、工学的システムに対する関心の高さと、自然科学や数学における基本的な概念の理解の深さ、並びに、勉学への意欲を評価します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校在学中における、授業科目の学習と生徒会やスポーツなどの課外活動への取り組みの両立を評価するとともに、数学など工学系に必要な基礎学力と科学的思考姿勢と工学センス、並びに、思考力、判断力、コミュニケーション能力などを評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 自然科学や数学の基礎学力に加えて、主体的に学び考える力およびコミュニケーション能力、工学を積極的に学ぶ強い学習意欲を評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 工学に対する関心や理解力、日本語能力に加え、入学後の学修に必要な基礎学力を総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 専門的な工学教育を受容できる基礎学力と勉学意欲、工学に対する強い関心と論理的思考力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。 |

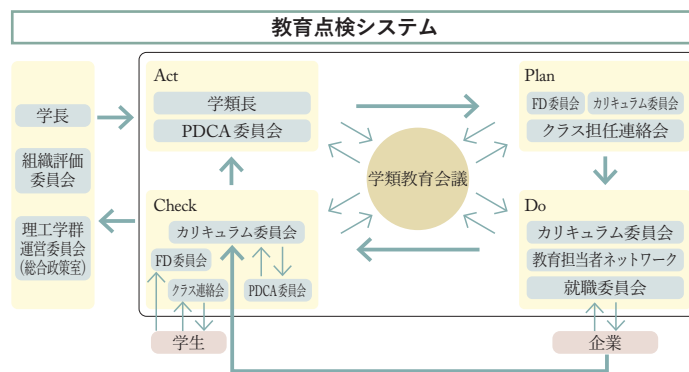
学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------|---|
| 学修支援 | <ul style="list-style-type: none"> - 本学類教育目標に基づく取得すべき知識・能力（コンピテンス）の習得状況の把握とそれを踏まえた学修計画の構築を学生自身が効率的に行えるよう、コンピテンスごとに項目分けされた達成度評価表を本学類独自で整備しています。また、学生には達成度評価表を埋めたものを年度末に教員点検改善委員会に提出してもらい、個々の学生の達成度状況を教員も確認できる環境を整備しています。なお、特にケアが必要な学生はクラス担任が面談を行うことで、達成度状況の改善を支援しています。 - 2年次および3年次の必修科目である学生実験（2年次：基礎実験、3年次：専門実験・応用実験）でのTA（大学院生）および担当教員によるレポート指導を介して、科学技術分野で必要となるライティング技術の基礎を身につける教育体制を整備しています。また、2年次必修科目である専門英語AおよびB、3年次必修科目である専門英語演習の履修を通して、ライティングを含めた科学技術英語の運用能力を身につける場を提供しています。4年次には、卒業論文作成を通して、3年次までに身につけてきたライティング技術をさらに高度化するための教育が指導教員から与えられます。 - つくばロボコンや宇宙開発工学演習などのPBL科目の中で、プレゼンテーション技術を実践的に身につける場が提供されています。また、4年次の卒業研究において、研究室内での進捗状況の報告や学類全体で実施する卒業研究成果発表会を介して、論理的かつわかりやすく説明するためのプレゼンテーション技術を指導教員や大学院生から学ぶことができます。 - 理工系基礎科目の理解不足や大学での勉強方法に悩む学生の相談場所として「つまずき相談寺子屋」が理工学群内に整備されています。 |
|------|---|

| | |
|-------------------------|---|
| <p>学生同士の交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 入学時オリエンテーションの一部を、上級生を含めた学外合宿形式で実施し、ファーストイヤーセミナーなどの新生生の学修を含めた大学活動全般に関する不安を上級生との交流から緩和する取り組みを行っています。 - つくばロボコンや宇宙開発工学演習などの PBL 科目、また学生実験では、上級生や大学院生 TA のサポートの下、複数の学生がチームとして課題に取り組み、その協働を通じて学習意欲を高める教育がなされます。 - 4 年次には、配属研究室にて、定期的なゼミ（輪講・文献紹介・進捗報告など）が実施され、大学院生を含めた学生間での議論・フィードバックを介して卒業研究の完成度を高める協働の場が整備されています。 |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - クラス代表者（学生）と教員で集まるクラス連絡者会議を定期的に行い、講義内容や学習環境の改善について意見交換を行う場を整備しています。 - 学修状況・学生生活について学生が教員に相談できる場を本学のクラス担任制度の下で整備しています。なお、成績状況等で特にケアが必要な学生には、学類長・クラス担任から該当学生に声をかけ面談を実施し、学生・教員が協力して問題の解決を図ります。 - 4 年次の卒業研究では、通年にわたる指導教員による個人指導を通じて、卒業研究の課題を完遂するとともに、本学類の教育目標に即した学びを完成させます。 |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- PDCA サイクル・FD 活動の実践…教育目標を達成するカリキュラムを編成し（Plan）、シラバスに基づき授業を実施しています（Do）。講義終了時には授業アンケートを実施し（Check）、講義の効果の確認と内容の充実を検討します（Act）。このような教育点検システム（下図）を実現する PDCA 委員会を組織し、PDCA サイクルを循環させ、さらに授業方法向上を目指す学類ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動も加えて、絶えず教育全体の点検・改善を行っています。
- 教育環境及び学習支援環境の改善…教育環境・学習支援環境改善システム（下図）を構築し、教育の実施及び履修生の学習支援のために、学生の意見も参考にして必要な施設、設備、体制を保有するとともに、それを維持・運用・更新するために必要な取り組みを行っています。
- 年一回、学修成果の評価結果を集計し、それに基づいてカリキュラム委員会や教育会議等で教育活動の見直しを行っています。



社会工学類

College of Policy and Planning Sciences

- 学士（社会工学）
- Bachelor of Policy and Planning Sciences

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人間行動が複雑に絡み合う社会的諸問題を工学的・実践的・戦略的に分析するために必要な文理融合型思考能力とデータ分析・活用能力を持ち、総合的な問題解決のためのシステムを設計できる人材を養成します。

| | |
|----------------|--|
| 養成する人材像 | 金融・保険、情報・通信、商社・流通、建設・不動産、製造、エネルギー、システム、リスクなどの多様な分野で、「社会問題×数理的アプローチ=ソリューション力」をコンセプトに、複雑化・多様化する世界において社会問題のメカニズムを科学的・客観的に理解し、新たなより良い社会システムを提案できる人材 |
| 卒業後の進路 | <p>卒業生の約 2/3 が大学院に進学し、その約 6%が博士後期課程に進んでいます。大学院修了者も含め、企業・団体、公務員、教員など、国内外で広く活躍しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 筑波大学大学院（システム情報工学研究群） - 他大学大学院 - 金融・保険 - 商社・流通 - 調査・コンサルティング - 情報・通信 - 建設・不動産 - サービス - 製造 - 化学 - エネルギー - 官庁・自治体 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（社会工学）の学位を授与します。

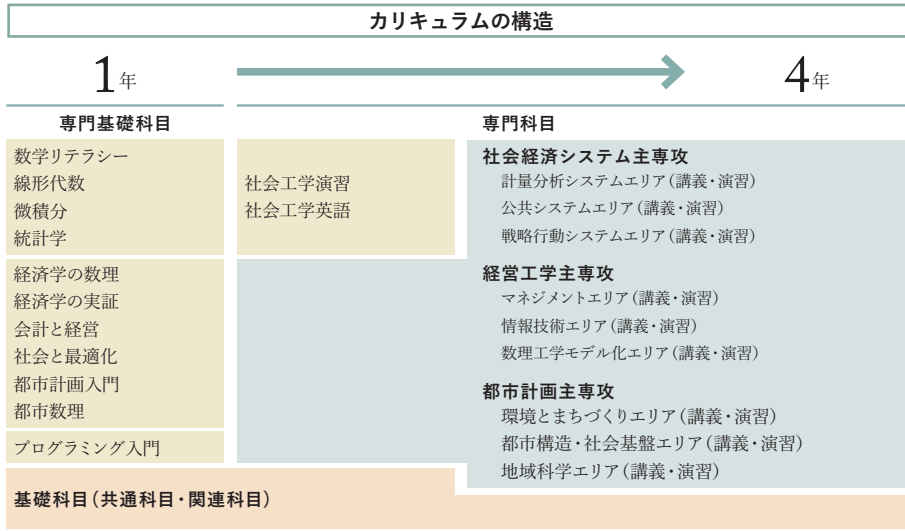
| | | |
|-----------------|---|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 社会システムの基礎的理解と洞察力 | 経済・企業・都市などの社会システムに関する基礎的理解と洞察力を有し、社会環境における不確実性を縮減するためにエビデンスに基づいた具体的政策を提言することができる。 |
| | 2. 複雑な社会問題解決のための数学・統計学・情報技術 | 複雑な社会が直面する諸問題を解決するために、数学（微積分・線形代数）・統計学（データ解析）・情報技術（プログラミング）に関する知識をツールとして用いることができる。 |
| | 3. グローバル課題の分析能力 | 現代社会が直面するグローバルな問題の本質を見極めることができる。 |
| | 4. 社会的要請への対応力 | 経済学・経営工学・都市計画等の多面的な視点から社会的要請に柔軟に対応できる。経済学・経営工学・都市計画分野における専門家・技術者としての職業倫理を遵守できる。 |
| | 5. コミュニケーション・スキル | 客観的で説得力のあるコミュニケーション・スキルを持つ。英語を用いた基礎的なコミュニケーション・スキルを持つ。チームによる協働が必要な場合は、その一員として協調的に行動できる。 |
| | 6. 課題探求能力 | 主体的に課題を探求し、自主的・継続的に学習することができる。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>学位授与の方針に掲げるコンピテンスについて、科目ごとに対応関係、評価基準と成績評価方法をシラバスにおいて示しています。これらの科目の単位取得状況に基づき、コンピテンスの達成状況を達成度を測定しています。</p> <p>学位授与の評価は学修成果の集大成として卒業研究を重視し、卒業論文および最終発表等を通じて、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかを複数の教員により評価します。</p> | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（社会工学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|------------------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>現代社会が直面する複雑・多様な諸問題は、もはや伝統的な学問の個別領域が単独で解決することが困難となってきています。このような現状に対処するため、社会経済システム・経営工学・都市計画の3つの主専攻分野を設け、政府・地方自治体・企業組織・地域社会が策定する政策や計画の決定過程における科学性・実証性を重視し、専門性と学際性の両面に優れた能力を身に付けられることを目標としています。このため、入学時には主専攻を決めず、2年次春学期の履修を踏まえた上で、2年次秋学期に自己の専門性を高めるための主専攻を決める仕組みとしています。また主専攻に加えて副専攻の選択も可能としています。</p> <p>コンピテンスと対応する科目区分や科目群、主要科目等</p> <p>社会システムの基礎的理解と洞察力については、数学・プログラミングなどに係る専門基礎科目や様々な専門科目を修め、これらの知識を応用して社会システムの基礎的理解と洞察力を身につけます。複雑な社会問題解決のための数学・統計学・情報技術については、数学・プログラミングなどに係る専門基礎科目の他、各主専攻の様々な演習科目を修めることを通じて、複雑な社会が直面する諸問題を解決するための数学・統計学・情報技術に関する知識を身につけます。</p> <p>グローバル課題の分析能力については、現在の社会経済状況や経営問題、環境問題を扱う各主専攻の専門科目を修め、これらの知識を応用して、現代社会が直面するグローバルな問題の本質を見極める力を身につけます。</p> <p>社会的要請への対応力については、実践的課題を扱う各主専攻の専門科目や、様々な演習科目を修めることで、多面的な視点から社会的要請に柔軟に対応する力を身につけます。</p> <p>コミュニケーション・スキルについては、社会工学英語や各主専攻の様々な演習科目を修めることで、客観的で説得力のあるコミュニケーション・スキルを身につけます。</p> <p>課題探求能力については、社会工学演習や他の問題解決型の演習、卒業研究に取り組むことで、主体的に課題を探求し、自主的・継続的に学習する力を身につけます。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 2年次春学期までは主として当学類の専門科目を学ぶために必要な専門基礎科目を履修します。その中には3主専攻の専門科目への入門的な性格を持つものも含まれています。 - 2年次秋学期から主専攻に所属し、専門科目を履修します。専門領域の構造を分かり易く示すために、各主専攻の専門科目をエリアという科目群に分けて、学生が学際的な専門性を身につけることを奨励しています。さらに、成績優秀者の場合、3年次で卒業が可能なプログラムとなっています。 - 4年次進級後、1年間を通して卒業研究を行います。工学、経済学、経営学、統計学、心理学、社会学など多彩な専門分野の研究者の中から指導教員を選び、理論的・実践的な研究を行います。 <p>実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 各主専攻の全エリアに演習を開設し、学生が主体的に理論と実践の学習に取り組めるように工夫しています。また、プレゼンテーションやディスカッションのスキルを演習を通じて徹底的に訓練することにより、実社会で生起する諸問題を工学的・実践的・戦略的に解決するために必要なスキルを身に付けられるようにしています。 |
|------------------------------|--|

| | |
|-------------------------|--|
| 学修の方法 特色的な教育 | <p>－ 実社会が直面する諸問題について政府・地方自治体・企業組織・地域社会と連携した問題解決型の学修機会を設けています。また、各主専攻の特性に応じたデータ分析・活用の演習を設けており、実践的なデータ活用人材を育成するための基盤が整っています。</p> |
|-------------------------|--|



入学者受入れの方針 / Admission Policy

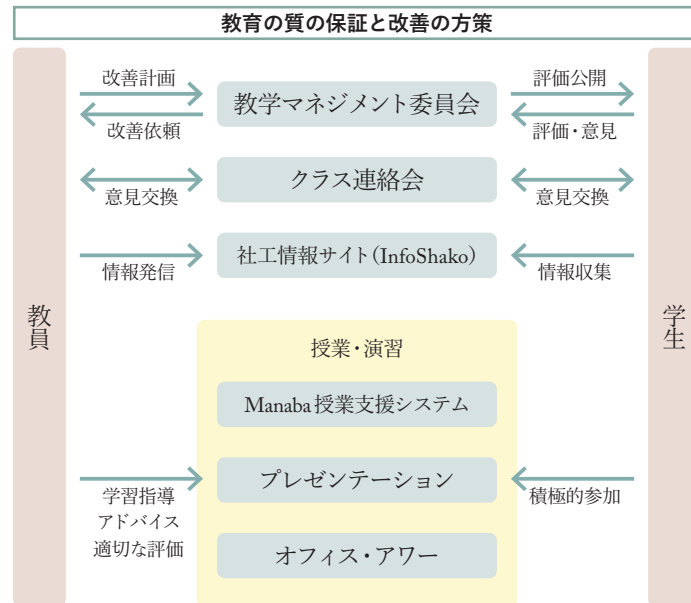
| | | |
|----------------|--|--|
| 求める人材 | <p>社会・経済、企業・経営、都市・地域において生起する多種多様な社会問題を認識し対処するために必要な学際的思考力を修得し、国際社会に貢献できることを希望する人材。</p> | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | <p>数学と外国語の基礎学力とともに、高等学校における国語・社会・理科の学習内容の理解度を評価して選抜します。</p> |
| | 個別学力検査等後期日程 | <p>高等学校における学習内容の理解度とともに、現代社会の課題や動きについての関心度、論理的・数理的的分析力、自分の言葉で表現する能力を評価して選抜します。</p> |
| | 推薦入試 | <p>高等学校における学習習慣と、入学後の学習に必要な基礎学力を備えた志望者の中から、問題意識の高い人材を選抜します。現代社会の課題や動きについての関心度、論理的・数理的的分析力、自分の言葉で表現する能力を評価します。</p> |
| | 国際バカロレア特別入試 | <p>数学の基礎学力を有し、国際的な経験を通して広い視野を持ち、一連の学習活動を主体的に行うことのできる明確な目的意識と勉学意欲を持つ人材を選抜します。</p> |
| | 外国学校経験者特別入試 | <p>第1種) 広い視野を持ち、入学後の学習に必要な基礎学力・日本語能力を備えた志望者の中から、問題意識の高い人材を選抜します。社会の出来事や課題についての関心度、論理的・数理的的分析力、表現能力を総合的に評価します。 第2種) 高等学校における学習習慣と、入学後の学習に必要な基礎学力を備えた志望者の中から、問題意識の高い人材を選抜します。現代社会の課題や動きについての関心度、論理的・数理的的分析力、自分の言葉で表現する能力を評価します。</p> |
| | 編入学試験 | <p>社会工学における専門的知識を修得できる基礎学力と勉学意欲、社会工学に対する強い関心と論理的・数理的的思考力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。</p> |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-------------------------|---|
| <p>学修支援</p> | <p>クラス担任、クラス連絡委員、主専攻ごとのカリキュラム委員が積極的に学生の支援を行っています。数学については基礎的な内容を教授するリメディアル科目を提供して、学修支援を行っています。コンピテンスの達成度評価を主専攻配属時や卒業研究着手時に行っており、評価結果をもとに適切な学修支援を行っています。様々な講義、演習を通じてプレゼンテーションやディスカッションのスキルを訓練することにより、実社会で生起する諸問題を工学的・実践的・戦略的に解決するために必要なスキルを身に付けられるようにしています。</p> |
| <p>学生同士の交流機会</p> | <p>1・2年次は主にクラスでの活動を通して学生同士の交流を深めています。3・4年次は主専攻ごとに学生同士の交流を深めています。また多くの演習科目でグループワークを導入しています。社会工学演習では分野の異なる教員が社会工学の基礎となる考え方を教授するとともに、グループワークを行うことで学生通しの結びつきも強くなっています。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>学生と教員との意見交換会を学期ごとに1回程度開催しています。他にも主専攻ごとに教員との交流機会を設けています。また卒業生との交流も盛んであり、毎年開催している筑波社会工学会は学生、教員、卒業生が交流する場になっています。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 各授業科目のシラバスにて、授業概要・学修成果目標・コンピテンスとの関連・授業計画などを明示し、修得できる知識・能力を学生が意識できるようにしています。成績評価方法についてもシラバスにて公開し、客観的な成績評価により、卒業時まで習得する専門性と学際性の水準を保証しています。
- 全学共通の内容に加え独自の内容を含む授業評価アンケートをすべての科目に対して実施し、アンケート結果や学生のコメントをフィードバックするなどにより、教育の質を改善する機会を設けています。
- 授業の内容充実と方法改善のために、全学でのファカルティディベロップメント (FD) 活動の利用に加え、学生との意見交換会の定期的な開催、同窓会のイベントなどを利用した卒業研究へ社会人の目線からフィードバックを受ける機会の設定など、FDに努めています。
- カリキュラム委員会において学修成果の評価結果を分析・検討し、教育の質の継続的な向上に努めています。
- 教学マネジメント委員会において、教育活動全体に対する点検と改善を継続的に実施し、研修会を開催するなどして教育の質を保証し、社会工学類の目的達成に向けた体制を強化しています。
- 学生と教員が直接意見を交わす場としてクラス連絡会を実施し、全教員が参加する教育会議において、学生からの要望や意見への対応方針を検討し、改善に取り組んでいます。



総合理工学位プログラム

Bachelor's Program in Interdisciplinary Engineering

- 学士（工学）
- Bachelor of Engineering

人材養成目的 / Program Educational Objectives

工学教育の基盤となる数学と物理の確固たる基礎学力を備えて、物質を扱うマイクロからマクロスケールにわたる分野横断的工学分野の課題を原理的な視点から理解・分析し、創造的解決に結びつけることのできるグローバル人材を育成します。

| | |
|----------------|---|
| 養成する人材像 | 分野横断的工学分野の課題を解決する知識を持ち、多文化・多分野のチームの中で新たな価値を創造する力を備えています。こうした能力をもって、分野横断的工学分野において、持続可能な社会の実現や産業の高度化、地域・国際社会の課題解決に貢献することができます。 |
| 卒業後の進路 | 卒業生は、より高度で幅広い専門知識の修得と応用力の涵養を目的に、国内および海外の大学院に進学します。 または、自動車および航空宇宙、ロボット、建設関連、電気・電子、医療機器、材料開発等のグローバル企業に就職し、工学の分野横断的課題に挑む技術者として活躍します。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（工学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 数学的な論理力と計算力 | 解析学や線形代数を基礎とした数学的な思考力と物理的課題の解決に向けた計算力 |
| | 2. 物理現象の理解 | 量子力学から電磁気学、熱力学にいたる広範な物理現象の理解 |
| | 3. 化学・生物現象の理解 物理学実験・システム工学実験の分析力 | 物理学・工学実験を分析かつ批判的に評価する能力、多文化・異分野の人の中での協調性 |
| | 4. ミクロ工学・ナノ科学の能力 | ミクロ工学・ナノ科学に関する幅広い知識と多様な研究手法についての理解 |
| | 5. マクロ工学・システム工学の能力 | マクロ工学・システム工学に関する幅広い知識と多様な研究手法についての理解 |
| | 6. 課題探求・解決能力 | 分野横断的課題を探求して原理的視点で解決、意思疎通・プレゼンする能力 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 学修の集大成として、2年間におよぶPBLの研究成果を卒業論文としてまとめます。その成果を公開の卒業論文発表会において発表し、指導教員および他の教員が参加する中で口頭試問を行い、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているか主査および運営委員会委員を含めた体制により卒業論文審査と併せて審査します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

| | |
|--------------------------------|---|
| | <p>総合的な方針</p> <p>広範の異分野に渡って学際化している現代工学分野で活躍できるためには、これらの分野で共通基盤となる数学と物理の確固たる基礎学力と、最先端科学技術において分野横断的な視野をもって自発的かつ創造的に課題解決できる能力が必要です。本学位プログラムではこれらの能力を養成するためのカリキュラムを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 数学的な論理力と計算力については、解析学や線形代数を基礎とした数学および物理学を修得し、数学的な思考力と物理的課題の解決に向けた計算力を身につけます。 - 物理現象の理解については、量子力学から電磁気学、熱力学に係る専門基礎科目を修得し、広範な物理現象の理解を深めます。 - 化学・生物現象の理解 物理学実験・システム工学実験の分析力については、物理学・工学実験を通して分析かつ批判的に評価する能力を身につけ、多文化・異分野の人の中での協調性を身につけます。 - ミクロ工学・ナノ科学の能力については専門科目を修め、ミクロ工学・ナノ科学に関する幅広い知識と多様な研究手法についての理解を深めます。 - マクロ工学・システム工学の能力については専門科目を修め、マクロ工学・システム工学に関する幅広い知識と多様な研究手法についての理解を深めます。 - 課題探求・解決能力については、PBLに係る科目を修め、分野横断的課題を探求して原理的視点で解決して意思疎通し、プレゼンする能力を身につけます。 <p>順次性に関する方針</p> <p>1、2年次では理工系のすべての分野で基礎となる数学と物理を重点化した教育を実施します。特に、コンピュータを併用した演習を十分に行うことで、論理的思考力に加えて、基礎概念を実際に使える能力にまで昇華することを目標としています。また、基礎実験・専門実験を通して実験的学習と協調性を涵養します。3年次からは、ミクロ工学とマクロ工学の共通コアを形成する重要な専門科目を学修するとともに、すべての学生が2つの研究室に配属されて研究（PBL）を能動的に行うことで、より深い専門性と創造的能力、分野横断的能力をを養います。</p> <p>実施に関する方針</p> <p>数学および物理の専門基礎科目および専門科目の多くで、世界標準の教科書を使用することで教育内容の世界水準を確保するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで情報処理能力やプログラミング能力の養成にも配慮しています。3年次と4年次のPBLでは2つの研究室に所属して、ミクロ工学とマクロ工学の両分野で研究を遂行し分野横断的能力を養成します。さらに、学生自身の専門分野の意義や、他分野との関連における専門分野の位置づけについての理解を深めるために、他学群・他学類の授業の履修を必修としています。</p> |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>日本人学生との交流や国際的協調性、日本語能力涵養のために、実験および実習科目は応用理工学類および工学システム学類の当該科目との共同開講にしています。最先端分野の研究に興味ある2年次までの学生には先導的研究者体験プログラム（ARE）の参加を促し、完了した学生には単位を認定します。国内大学院への進学のための早期卒業も可能です。</p> |

入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|-----------------------|---|
| <p>求める人材</p> | <p>総合理工学位プログラムの入学者には以下のことを求めます。</p> <p>(1) 超スマート社会における次世代のモノづくりを牽引するための志があること。</p> <p>(2) 工学分野の学修に専念するために必要な英語能力があること。</p> <p>(3) 広範な工学分野の学修を行うための数学の基礎学力があること。</p> <p>(4) 工学分野の勉学に対する適性と意欲があること。</p> |
| <p>入学者選抜方針</p> | <p>書類審査は、SAT 等の各国統一試験スコアおよび、エッセイによって、総合理工学位プログラムが求める人材に適しているのかを評価します。書類審査に合格した者は、対面またはオンラインによる、英語での口述・論述試験で評価します。</p> |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-------------------------|---|
| <p>学修支援</p> | <p>入学生全員への学生チューターを配置し、先輩学生が学修の進め方や履修相談に応じるなど、学生同士の支援によって学びの定着を促進します。3年次から研究室に配属し、教員との少人数の指導を通し、アクティブ・ラーニングやグループワークの機会を設けます。学修内容と社会的実践との接続を意識し、インターンシップを単位化し、学びの動機づけを高めます。</p> |
| <p>学生同士の交流機会</p> | <p>入学者全員への学生チューターを配置します。また、総合理工学位プログラム学生が集まって学修できる居室を提供し、共に学習しやすい環境になるよう整備します。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>全学生を対象としたクラス連絡会による教職員との会合の場を設けます。1年生および2年生には、クラス担任制度を設け、学生と教員の交流を促進します。3年生および4年生には、PBLの研究室配属により、教員とマンツーマンで指導を受ける機会を設けます。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

カリキュラム委員会において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証します。クラス連絡会を開催して学生からの意見を集め、運営委員会において教育活動全体に対する点検と改善を継続的に実施することで、教育の質を保証し、学位プログラムの目的達成に向けた体制を強化します。

情報学群

School of Informatics

情報科学類

College of Information Science

- 学士（情報科学）
 - Bachelor of Information Science
 - 学士（情報工学）
 - Bachelor of Information Engineering
-

情報メディア創成学類

College of Media Arts, Science and Technology

- 学士（情報メディア科学）
 - Bachelor of Science in Media Sciences and Engineering
-

知識情報・図書館学類

College of Knowledge and Library Sciences

- 学士（図書館情報学）
 - Bachelor of Arts in Library and Information Science
-

人材養成目的 / Educational Objectives

人間の知的行動やその社会的・文化的基盤についての十分な知見を養うとともに、知識と情報の記録・蓄積・共有・加工・利用といった諸活動に関わる多様な情報技術や、その原理となる科学を理解・活用できる力を育みます。こうした学びを通じて、未来の情報環境の創造を担う人材を養成します。

情報科学類

College of Information Science

- 学士（情報科学）
- Bachelor of Information Science
- 学士（情報工学）
- Bachelor of Information Engineering

人材養成目的 / Program Educational Objectives

急速に変化する情報社会における学問的・社会的課題に主体的に取り組み、新たな価値を創造できる人材の養成を目的とします。現代社会の基盤である情報を的確に収集・分析・理解・表現・活用する能力を涵養し、汎用性に根ざした幅広い視野と、情報科学の高度な専門知を融合させる教育を通じて、情報社会の持続的発展と変革を牽引する創造的・実践的な人材を育成します。

| | |
|---------|---|
| 養成する人材像 | 現代社会を支える情報技術の基盤となる情報システムやソフトウェア、数理等を体系的に修得し、現代社会を支える情報技術の根幹を深く理解する能力を有する人材を養成します。これらの知識を基盤に、実社会の多様な課題に対して情報科学的アプローチを用い、説明可能で説得力のある方法により解決へ導く実践力を涵養します。さらに論理的思考力や高度なデータリテラシーを身に付けるとともに、情報倫理と社会的責任を自覚し、グローバルかつ協働的に活躍できる人材を育成します。 |
| 卒業後の進路 | 卒業後には、大学院に進学し、情報理工学、人工知能、データサイエンス、量子コンピューティングなど最先端分野の研究に挑戦し、研究者や高度専門職として学術・産業の発展に寄与する道が開かれています。さらには、情報通信、ソフトウェア、製造、金融、医療、教育、行政など、情報技術を必要とする幅広い分野において活躍することが期待されます。想定される職種には、システムエンジニア、ソフトウェア開発者、データサイエンティスト、AI・IoT 開発者、UX デザイナー、IT コンサルタント、さらには革新的スタートアップの創業者などが含まれます。卒業生は、国内外の産官学の多様な場で、技術的リーダーシップと協働力を発揮し、社会の持続的発展と課題解決に貢献する中核的人材となります。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、本学群・学類の人材養成目的に基づき、以下の知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（情報科学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 情報科学の基礎 | 情報の表現、モデル化、抽象化の手法と基礎となる数学を理解し活用する能力 |
| | 2. ソフトウェアサイエンス分野の専門能力 | 数理モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解し、質の高いソフトウェアを作り出す能力 |
| | 3. 情報システム分野の専門能力 | ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術を体系的に把握し、情報システムをデザインすることができる能力 |
| | 4. 知能情報メディア分野の専門能力 | 多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解・応用できる能力 |
| | 5. 専門英語コミュニケーション力 | 情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力 |
| | 6. 実践的技術力と問題解決能力 | 情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力 |
| | 7. 専門技術者としての情報倫理 | 情報化社会をリードする専門技術者・研究者としての情報倫理、セキュリティ、知的所有権の理解 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 学修の集大成として卒業研究を重視し、卒業論文およびその最終発表を通じて指導教員に加えて複数の教員により客観的に学修成果と達成状況を確認します。加えて、学生の成績および卒業要件達成状況、アンケート調査、卒業論文などの成果物を通じて、教育プログラム全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（情報科学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-----------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 ハードウェア・ネットワークからソフトウェア・知能メディアまで、情報分野における国際標準のカリキュラムを包含し、最新の技術動向を反映した質の高いカリキュラムを提供します。情報科学・工学に関する幅広い知識とともに、プログラム理論・プログラム言語論や数理モデリング・アルゴリズム、ソフトウェア科学、知能インタフェースなどの情報科学分野における高度な専門性を身につけることができるようバランスのとれた教育を実施するとともに、学生が自ら選択し学ぶことを重視します。</p> <p>対応する科目区分・科目群など</p> <ul style="list-style-type: none"> - 情報科学の基礎能力については、数学・コンピュータなどに係る専門基礎科目を修め、これらの知識を応用して情報科学の諸問題を分析する能力を身につけます。 - ソフトウェアサイエンス分野の専門能力については、ソフトウェアサイエンス実験などを含む専門科目を修め、数理モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解したうえで、質の高いソフトウェアを作り出す能力を身に付けます。 - 情報システム分野の専門能力については、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術などに係る専門科目を修め、これらを体系的に把握し理解したうえで、情報システムをデザインすることができる能力を身に付けます。 - 知能情報メディア分野の専門能力については、多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術などに係る専門科目を修め、これらを体系的に理解したうえで、応用できる能力を身に付けます。 - 専門英語コミュニケーション力については、専門英語に係る専門基礎科目、専門科目を修め、情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力を身に付けます。 - 実践的技術力と問題解決能力については、演習科目や卒業研究を通して情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力を身に付けます。 - 専門技術者としての情報倫理については、情報倫理に係る専門基礎科目を納め、情報化社会をリードする専門技術者・研究者としての情報倫理、セキュリティ、知的所有権に対する理解を身に付けます。 <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1・2年次には、英語を含む外国語、幅広い分野から自ら選択して学習する科目、体育などを通じて、社会人として活躍するための教養を身につけます。また、数学など情報科学・工学の基礎となる科目群を修得するとともに、ハードウェア、プログラミング、アルゴリズムなど基盤となる事項を実習や実験を交えて学習することで、情報科学の基礎能力を獲得します。 - 3年次には、ソフトウェアサイエンス主専攻のカリキュラムのもとで、数理モデリング・アルゴリズムやソフトウェア科学などを中心とした授業により、情報科学分野に関する知識と高い専門能力を獲得します。さらに、ソフトウェアサイエンス実験により、実践的技術力と問題解決能力を獲得します。また、情報システムや知能情報メディア分野を含めた広範な情報科学・工学における専門的学修により、幅広い専門知識と専門技術を獲得します。 - 4年次においては、上記の学修に加えて、卒業研究・専門語学により情報科学における革新的技術を生み出せる創造力とチャレンジ精神を滋養するとともに、国際的な視点からの発想力とコミュニケーション能力、協調性を身につけ、実社会で通用する実践的技術力と問題解決能力を獲得します。 <p>実施に関する方針 情報科学・工学の専門科目のみならず、数学、英語などの基礎となる科目においても、演習やコンピュータによる実習・実験を多く取り入れ、講義で得た知識や技術への理解を深める教育を実施します。また、学生が自らテーマ設定・計画立案をして学習する科目など、学生の自主性を引き出すための科目群を用意します。</p> |
|-----------------------|--|

学修の方法
特色的な教育

理論と実践を往還しながら学ぶ教育方法を重視し、専門知識と応用力を兼ね備えた人材を育成します。特に、以下の特色ある教育を展開しています。

「組み込み技術キャンパス OJT プログラム」では、企業で実際に製品開発に携わる講師による指導を通じて、現場に直結した実践的な知識と技能を修得します。「プログラミングチャレンジ」では、競技プログラミングを題材に、アルゴリズムの深い理解とプログラミング能力の向上を図ります。「主専攻実験」では、情報科学の多様な専門領域における実験や演習を通じて、実践的技術力と問題解決能力を養います。「情報科学特別演習」や「情報特別演習 I・II」では、自主的なテーマ設定と解法設計を重視し、発案力・実現力・表現力を育成することで、創造的な問題解決能力を涵養します。さらに、インターンシップ科目を通じて企業や研究機関における実習を経験することで、専門的知識の社会的応用を理解するとともに、実践力やコミュニケーション能力を高め、社会で主体的に活躍できる素地を培います。

育成する能力とカリキュラムの構造

| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|---|--|--|---|
| <p>専門基礎科目</p> <p>数学、専門英語基礎など、情報学の基礎能力を獲得します。</p> | <p>専門基礎科目(学類共通)</p> <p>情報科学・工学の基盤となる理論と技術を学び、豊かな情報学的素養と高い社会的倫理感を身につけます。</p> | <p>専門科目 (ソフトウェアサイエンス主専攻)</p> <p>プログラム理論・プログラム言語論や数理モデリング・アルゴリズム、ソフトウェア科学、知能インタフェースなどの情報科学分野に関する専門的授業と実験により、高度な専門性、実践的技術力、問題解決能力等を獲得します。</p> | <p>卒業研究・専門語学</p> <p>創造力、問題解決能力、コミュニケーション能力等を修得します。</p> |
| <p>共通科目</p> <p>外国語、体育、情報など社会人として活躍する素養を身につけます。</p> | | | |
| <p>関連科目</p> <p>他学群・学類科目から自由に選択し、幅広い教養を獲得します。</p> | | | |

入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|-----------------------|--|--|
| <p>求める人材</p> | <p>情報技術や自然科学・工学に強い好奇心と探究心を持ち、その学習のために必要な基礎学力を有し、修得した知識を創造的に活用・発展させて新しい課題に積極的に取り組み、情報化社会の中核を担う意欲のある人材を求めます。</p> | |
| <p>入学者選抜方針</p> | <p>個別学力検査等前期日程</p> | <p>数学、理科、外国語の基礎学力に加えて、高等学校等における主体性をもった活動の状況を評価します。</p> |
| | <p>推薦入試</p> | <p>高等学校における学習状況と課外活動への取組みとともに、情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、自己表現能力、論理的に思考しその結果を的確に説明するコミュニケーション能力等を総合的に評価します。</p> |
| | <p>AC入試</p> | <p>情報科学や情報技術、または関連する分野に強い関心を持ち、自ら研究課題と明確な目標を設定して問題の分析や解決を創造的に図る意欲と能力を有し、その過程と結果を論理的に説明することのできる人材を選抜します。</p> |
| | <p>国際科学オリンピック特別入試</p> | <p>日本情報オリンピック本選でAランクとなった者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ能力を評価します。</p> |
| | <p>国際バカロレア特別入試</p> | <p>情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、論理的思考能力、語学力を含めたコミュニケーション能力等を総合的に評価します。</p> |
| | <p>外国学校経験者特別入試</p> | <p>第1種)第2種)情報科学や情報技術への関心や学習意欲、数学の基礎学力と論理的思考力、日本語及び英語によるコミュニケーション能力等を評価します。</p> |
| | <p>編入学試験</p> | <p>情報科学や情報技術を学ぶために必要な数学、情報基礎、専門的知識を学ぶために必要な大学2年次修了程度の英語（TOEFL/TOEICスコアによる）の学力を総合的に評価します。</p> |

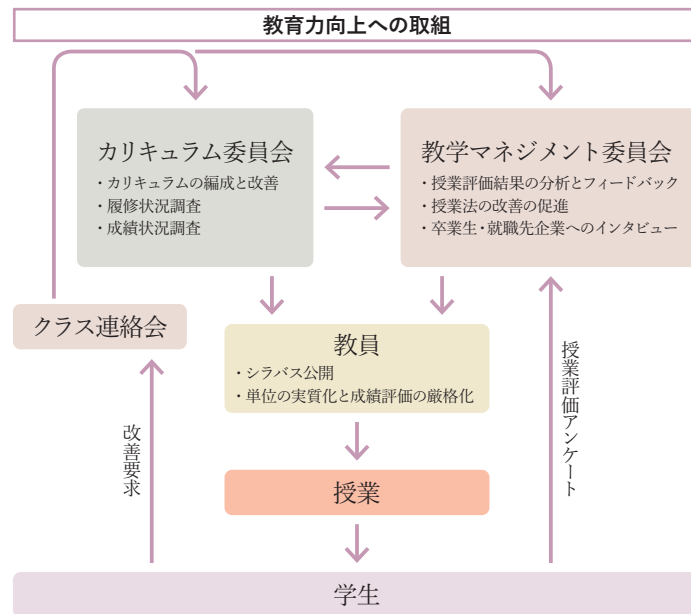
学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|--------------------|--|
| <p>学修支援</p> | <p>学生一人ひとりの成長をサポートするため、学年ごとに体系的な学修支援を提供しています。1・2年次には、学びの土台を築くことを目指します。図書館の活用法や大学生活のルールなど、学修と生活をスムーズに進めるための基礎知識を提供します。また、技術英語のライティング技法を習得するための支援も行い、専門科目の学修に備えます。3・4年次では、より高度な学びを支援します。実験科目や卒業研究において、テクニカルライティングや効果的なプレゼンテーション技法について個別に指導を行い、専門分野における表現力を高めます。また、学生生活全般にわたるサポートも充実しています。1～3年次ではクラス担任、そして4年次では指導教員が面談などを通して学生の状況を丁寧に把握します。学修面や生活面における課題の解決をサポートし、学生が安心して学修に専念できる環境を整えています。</p> |
|--------------------|--|

| | |
|------------------------------|---|
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <p>入学直後の科目「ファーストイヤーセミナー」でのグループワークを通じて、学生は早い段階から協力関係を築き、学問への導入を円滑に進めます。また、学生主体で運営される「クラス代表者会議」は、学年を超えた議論と交流の場となり、学類全体の課題解決に貢献しています。学生が自由に利用できるフリースペースである「情報科学類学生ラウンジ」には、プロジェクターやホワイトボードが完備されており、協働的な学習や活発な意見交換を促す創造的な拠点となっています。さらに、留学生には専属の学生チューターが配置され、学修・生活支援に加え、他学生との文化的な橋渡し役を担うことで、多様性の中で互いに高め合う豊かなコミュニティを育てています。これらの取り組みにより、学生は共に学び、成長する中で、一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことができます。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>学生の学修意欲と研究の質を高めるため、教員との密接な交流を促す様々な機会を設けています。例えば、1年次選択科目「情報科学特別演習」と2・3年次の「情報特別演習」では、学生が自身の興味に基づき演習テーマとアドバイザー教員を自由に選択することで、発案力や実現力を養い、専門分野への探求心を深めます。また、3年次の実験科目においても、学生が多数の候補から希望するテーマを選択できる仕組みを導入し、主体的な学びを支援しています。さらに、学生と教員が直接意見交換を行う「クラス連絡会」を年に複数回開催し、学生の提案や意見を議論することで、より良い教育環境を共に創造する場としています。これらの取り組みを通じて、学生は教員との対話の中で自身の知見を広げ、深い学びと研究への情熱を育てています。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

情報科学類のもとに置く教学マネジメント委員会にて、全ての授業に対して行う授業評価アンケートを実施します。アンケートは定型質問と自由書式からなり、授業内容・進め方に関する包括的データと学生の意見を効率的に収集すると共に、学生自身にも授業への向き合い方を考える機会を与えます。教学マネジメント委員会はアンケート結果を分析し、教員とカリキュラム委員会へのフィードバックと改善の勧告などを行います。また、学生と教員の直接的な意見交換の場であるクラス連絡会を通し、カリキュラム委員会及び教学マネジメント委員会が要望等に対応します。教員相互による授業参観や講演会を適宜実施し、特に新人・若手教員の教育スキル向上に努めます。学修成果の評価において実施・収集した結果は、全ての教員が参加する教育会議において分析・検討し、さらなる改善に努めます。



学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、本学群・学類の人材養成目的に基づき、以下の知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（情報工学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 情報科学の基礎 | 情報の表現、モデル化、抽象化の手法と基礎となる数学を理解し活用する能力 |
| | 2. ソフトウェアサイエンス分野の専門能力 | 数理モデリングとプログラムの構成原理および手法を理解し、質の高いソフトウェアを作り出す能力 |
| | 3. 情報システム分野の専門能力 | ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術を体系的に把握し、情報システムをデザインすることができる能力 |
| | 4. 知能情報メディア分野の専門能力 | 多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解・応用できる能力 |
| | 5. 専門英語コミュニケーション力 | 情報工学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力 |
| | 6. 実践的技術力と問題解決能力 | 情報工学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力 |
| | 7. 専門技術者としての情報倫理 | 情報化社会をリードする専門技術者・研究者としての情報倫理、セキュリティ、知的所有権の理解 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 学修の集大成として卒業研究を重視し、卒業論文およびその最終発表を通じて指導教員に加えて複数の教員により客観的に学修成果と達成状況を確認します。加えて、学生の成績および卒業要件達成状況、アンケート調査、卒業論文などの成果物を通じて、教育プログラム全体を通じた学修成果の達成状況を評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（情報工学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-----------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 ハードウェア・ネットワークからソフトウェア・知能メディアまで、情報分野における国際標準のカリキュラムを包含し、最新の技術動向を反映した質の高いカリキュラムを提供します。情報科学・工学に関する幅広い知識とともに、ハードウェア・ネットワーク・基盤ソフトウェアから知能メディア・メディア情報学などの情報工学分野における高度な専門性を身につけることができるようバランスのとれた教育を実施するとともに、学生が自ら選択し学ぶことを重視します。</p> <p>対応する科目区分・科目群など</p> <ul style="list-style-type: none"> - 情報科学の基礎能力については、数学・コンピュータなどに係る専門基礎科目を修め、これらの知識を応用して情報科学の諸問題を分析する能力を身につけます。 - ソフトウェアサイエンス分野の専門能力については、数理モデリングとプログラムなどに係る専門科目を修め、これらの構成原理および手法を理解したうえで、質の高いソフトウェアを作り出す能力を身に付けます。 - 情報システム分野の専門能力については、情報システム実験などを含む専門科目を修め、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク技術などを体系的に把握し理解したうえで、情報システムをデザインすることができる能力を身に付けます。 - 知能情報メディア分野の専門能力については、知能情報メディア実験などを含む専門科目を修め、多様な知能情報処理技術ならびにメディア処理技術を体系的に理解したうえで、応用できる能力を身に付けます。 - 専門英語コミュニケーション力については、専門英語に係る専門基礎科目、専門科目を修め、情報科学に関する専門英語能力とグローバルな視野をもとに国際的に活躍できる能力を身に付けます。 - 実践的技術力と問題解決能力については、演習科目や卒業研究を通して情報科学に関する未知の問題を解決する実践力、問題解決能力とイノベーション創出能力を身に付けます。 - 専門技術者としての情報倫理については、情報倫理に係る専門基礎科目を納め、情報化社会をリードする専門技術者・研究者としての情報倫理、セキュリティ、知的所有権に対する理解を身に付けます。 <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1・2年次には、英語を含む外国語、幅広い分野から自ら選択して学習する科目、体育などを通じて、社会人として活躍するための教養を身につけます。また、数学など情報科学・工学の基礎となる科目群を修得するとともに、ハードウェア、プログラミング、アルゴリズムなど基盤となる事項を実習や実験を交えて学習することで、情報科学の基礎能力を獲得します。 - 3年次には、情報システム主専攻・知能情報メディア主専攻のカリキュラムのもとで、基盤ソフトウェア・システム構築や知能情報・メディア工学などの授業により、情報工学分野に関する知識と高い専門能力を獲得します。さらに、情報システム・知能情報メディア実験により、実践的技術力と問題解決能力を修得します。また、ソフトウェアサイエンス分野を含めた広範な情報科学・工学における専門的学修により、幅広い専門知識と専門技術を獲得します。 - 4年次においては、上記の学修に加えて、卒業研究・専門語学により情報工学における革新的技術を生み出せる創造力とチャレンジ精神を滋養するとともに、国際的な視点からの発想力とコミュニケーション能力、協調性を身につけ、実社会で通用する実践的技術力と問題解決能力を獲得します。 <p>実施に関する方針 情報科学・工学の専門科目のみならず、数学、英語などの基礎となる科目においても、演習やコンピュータによる実習・実験を多く取り入れ、講義で得た知識や技術への理解を深める教育を実施します。また、学生が自らテーマ設定・計画立案をして学習する科目など、学生の自主性を引き出すための科目群を用意します。</p> |
|-----------------------|--|

学修の方法
特色的な教育

理論と実践を往還しながら学ぶ教育方法を重視し、専門知識と応用力を兼ね備えた人材を育成します。特に、以下の特色ある教育を展開しています。

「組み込み技術キャンパス OJT プログラム」では、企業で実際に製品開発に携わる講師による指導を通じて、現場に直結した実践的な知識と技能を修得します。「プログラミングチャレンジ」では、競技プログラミングを題材に、アルゴリズムの深い理解とプログラミング能力の向上を図ります。「主専攻実験」では、情報科学の多様な専門領域における実験や演習を通じて、実践的技術力と問題解決能力を養います。「情報科学特別演習」や「情報特別演習Ⅰ・Ⅱ」では、自主的なテーマ設定と解法設計を重視し、発案力・実現力・表現力を育成することで、創造的な問題解決能力を涵養します。さらに、インターンシップ科目を通じて企業や研究機関における実習を経験することで、専門的知識の社会的応用を理解するとともに、実践力やコミュニケーション能力を高め、社会で主体的に活躍できる素地を培います。

育成する能力とカリキュラムの構造

| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|---|--|--|---|
| <p>専門基礎科目</p> <p>数学、専門英語基礎など、情報学の基礎能力を獲得します。</p> | <p>専門基礎科目(学類共通)</p> <p>情報科学・工学の基盤となる理論と技術を学び、豊かな情報学的素養と高い社会的倫理感を身につけます。</p> | <p>専門科目 (情報システム・知能情報メディア主専攻)</p> <p>ハードウェア・ネットワーク・基盤ソフトウェアから知能メディア・メディア情報学などの情報工学分野に関する専門的授業と実験により、高度な専門性、実践的技術力、問題解決能力等を獲得します。</p> | <p>卒業研究・専門語学</p> <p>創造力、問題解決能力、コミュニケーション能力等を修得します。</p> |
| <p>共通科目</p> <p>外国語、体育、情報など社会人として活躍する素養を身につけます。</p> | | <p>専門科目(その他)</p> <p>ソフトウェアサイエンス分野の学習、インターンシップを通じて、情報分野に関する幅広い知識と技術を獲得します。</p> | |
| <p>関連科目</p> <p>他学群・学類科目から自由選択し、幅広い教養を獲得します。</p> | | | |

入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|-----------------------|--|--|
| <p>求める人材</p> | <p>情報技術や自然科学・工学に強い好奇心と探究心を持ち、その学習のために必要な基礎学力を有し、修得した知識を創造的に活用・発展させて新しい課題に積極的に取り組み、情報化社会の中核を担う意欲のある人材を求めます。</p> | |
| <p>入学者選抜方針</p> | <p>個別学力検査等前期日程</p> | <p>数学、理科、外国語の基礎学力に加えて、高等学校等における主体性をもった活動の状況を評価します。</p> |
| | <p>推薦入試</p> | <p>高等学校における学習状況と課外活動への取組みとともに、情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、自己表現能力、論理的に思考しその結果を的確に説明するコミュニケーション能力等を総合的に評価します。</p> |
| | <p>AC 入試</p> | <p>情報科学や情報技術、または関連する分野に強い関心を持ち、自ら研究課題と明確な目標を設定して問題の分析や解決を創造的に図る意欲と能力を有し、その過程と結果を論理的に説明することのできる人材を選抜します。</p> |
| | <p>国際科学オリンピック特別入試</p> | <p>日本情報オリンピック本選で A ランクとなった者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ能力を評価します。</p> |
| | <p>国際バカロレア特別入試</p> | <p>情報科学や情報技術への関心、新しい技術を創造する意欲、論理的思考能力、語学力を含めたコミュニケーション能力等を総合的に評価します。</p> |
| | <p>外国学校経験者特別入試</p> | <p>第 1 種) 第 2 種) 情報科学や情報技術への関心や学習意欲、数学の基礎学力と論理的思考力、日本語及び英語によるコミュニケーション能力等を評価します。</p> |
| | <p>編入学試験</p> | <p>情報科学や情報技術を学ぶために必要な数学、情報基礎、専門的知識を学ぶために必要な大学 2 年次修了程度の英語 (TOEFL/TOEIC スコアによる) の学力を総合的に評価します。</p> |

学修支援体制 / Learning Support Framework

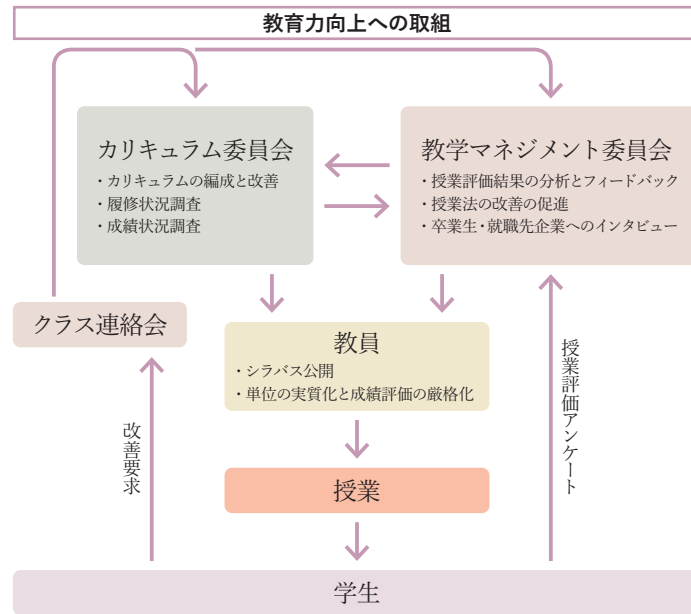
| | |
|--------------------|---|
| <p>学修支援</p> | <p>学生一人ひとりの成長をサポートするため、学年ごとに体系的な学修支援を提供しています。1・2 年次には、学びの土台を築くことを目指します。図書館の活用法や大学生活のルールなど、学修と生活をスムーズに進めるための基礎知識を提供します。また、技術英語のライティング技法を習得するための支援も行い、専門科目の学修に備えます。3・4 年次では、より高度な学びを支援します。実験科目や卒業研究において、テクニカルライティングや効果的なプレゼンテーション技法について個別に指導を行い、専門分野における表現力を高めます。また、学生生活全般にわたるサポートも充実しています。1～3 年次ではクラス担任、そして 4 年次では指導教員が面談などを通して学生の状況を丁寧に把握します。学修面や生活面における課題の解決をサポートし、学生が安心して学修に専念できる環境を整えています。</p> |
|--------------------|---|

| | |
|------------------------------|---|
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <p>入学直後の科目「ファーストイヤーセミナー」でのグループワークを通じて、学生は早い段階から協力関係を築き、学問への導入を円滑に進めます。また、学生主体で運営される「クラス代表者会議」は、学年を超えた議論と交流の場となり、学類全体の課題解決に貢献しています。学生が自由に利用できるフリースペースである「情報科学類学生ラウンジ」には、プロジェクターやホワイトボードが完備されており、協働的な学習や活発な意見交換を促す創造的な拠点となっています。さらに、留学生には専属の学生チューターが配置され、学修・生活支援に加え、他学生との文化的な橋渡し役を担うことで、多様性の中で互いに高め合う豊かなコミュニティを育てています。これらの取り組みにより、学生は共に学び、成長する中で、一人ひとりの可能性を最大限に引き出すことができます。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>学生の学修意欲と研究の質を高めるため、教員との密接な交流を促す様々な機会を設けています。例えば、1年次選択科目「情報科学特別演習」と2・3年次の「情報特別演習」では、学生が自身の興味に基づき演習テーマとアドバイザー教員を自由に選択することで、発案力や実現力を養い、専門分野への探求心を深めます。また、3年次の実験科目においても、学生が多数の候補から希望するテーマを選択できる仕組みを導入し、主体的な学びを支援しています。さらに、学生と教員が直接意見交換を行う「クラス連絡会」を年に複数回開催し、学生の提案や意見を議論することで、より良い教育環境を共に創造する場としています。これらの取り組みを通じて、学生は教員との対話の中で自身の知見を広げ、深い学びと研究への情熱を育てています。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

情報科学類のもとに置く教学マネジメント委員会にて、全ての授業に対して行う授業評価アンケートを実施します。アンケートは定型質問と自由書式からなり、授業内容・進め方に関する包括的データと学生の意見を効率的に収集すると共に、学生自身にも授業への向き合い方を考える機会を与えます。教学マネジメント委員会はアンケート結果を分析し、教員とカリキュラム委員会へのフィードバックと改善の勧告などを行います。

また、学生と教員の直接的な意見交換の場であるクラス連絡会を通し、カリキュラム委員会及び教学マネジメント委員会が要望等に対応します。教員相互による授業参観や講演会を適宜実施し、特に新人・若手教員の教育スキル向上に努めます。学修成果の評価において実施・収集した結果は、全ての教員が参加する教育会議において分析・検討し、さらなる改善に努めます。



情報メディア創成学類

College of Media Arts, Science and Technology

- 学士（情報メディア科学）
- Bachelor of Science in Media Sciences and Engineering

人材養成目的 / Program Educational Objectives

ネットワーク情報社会の発展に不可欠な通信を始めとする基盤的技術分野や、Web・映像・音楽など多様な情報コンテンツを流通させ、活用する分野等において、革新的技術や科学的理論を創造的に生み出すことができる人材を養成します。

| | |
|----------------|---|
| 養成する人材像 | ネットワーク基盤技術や情報コンテンツ処理に関する基礎から応用までを多角的に学ぶことを通じ、科学的な裏付けに基づいて新たな技術や理論を創造できる能力を持ち、情報通信産業をはじめ、医療や教育、経済など広範な領域における課題を解決できる人材の養成を目指しています。 |
| 卒業後の進路 | さらなる学びを志す人には、大学院への進学を強く推奨します。卒業後、あるいは大学院修了後には、情報技術を基盤とする幅広い産業、研究機関、教育機関、官公庁など、国内外の幅広い分野において活躍することが期待されます。また、自ら起業して新たな産業や分野を切り拓くことも大いに期待しています。 |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（情報メディア科学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|---|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. デジタルコンテンツ | 多様な内容のデジタルコンテンツの構築・蓄積・管理・共有・流通に関する高度な知識と技能を有し、システム開発、コンテンツ制作、分析などに活用できる能力 |
| | 2. ネットワークサイエンス | 情報の提供・通信・流通・収集を担うネットワークシステムについて、高度な知識と技能を有し、開発・運営・分析などに実地に適用できる能力 |
| | 3. 情報メディアとインタラクション | 多様なメディアを駆使して情報の提示や表現、ユーザとのインタラクションなど、様々な形態での利用についての高度な知識と技能を有し、システム開発を行っていきける能力 |
| | 4. コンピューティングとシステム | コンピュータシステムやプログラミングの基礎を踏まえ、高度な計算処理を行う知識と技能を有し、新しい手法やモデル、システムの開発や、様々な対象において実施・適用できる能力 |
| | 5. 数理的基盤 | データ分析やシステム構築等において必要となる高度な数理的知識を備え、それを実地の様々な応用に適用できる能力 |
| | 6. 人間の認知と社会 | 人間の認知・感性や社会におけるインタラクションなど、人間の持つ能力や社会的活動の実態について知識を有し、それらを情報メディア等の開発や評価・分析に生かせる能力 |
| | 7. デザインと創造性 | 新しい「モノ」を制作していく上で必要となる現状認識や創造性を養い、優れたセンスをもってデザインするとともに、実現に向けての企画・プロデュース、実現計画の設定と管理などを遂行できる能力 |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>学位授与の方針に掲げるコンピテンスについて、科目ごとに対応関係、評価基準と成績評価方法（テスト、レポート等）をシラバスにおいて示しています。これらの科目の単位取得状況に基づき、コンピテンスの達成状況を測定しています。</p> <p>学位授与の評価は学修成果の集大成としての卒業研究、卒業論文および最終発表等を通じて、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）が修得できているかを評価します。</p> | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（情報メディア科学）に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-------------------------|---|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 コンテンツの蓄積や流通を支えるネットワークメディア・テクノロジーと、コンテンツの活用・製作にかかわるコンテンツテクノロジーの2領域を中心に、これら2領域に欠かすことのできない情報科学・技術分野の教育を融合した情報メディア科学のカリキュラムを提供します。幅広い知識と高度な専門性を学生の主体的選択により身につけることができるような科目群を提供します。</p> <p>順次性に関する方針 1年次では、コンピテンス【数理的基盤】に対応する線形代数や微分積分といった数学科目、および【コンピューティングとシステム】に対応するリテラシーやプログラミングの情報技術科目を中心に、情報科学・技術分野における基礎力を身につけるとともに、コンテンツ処理に関する導入科目でアートの素養などを身につけます。</p> <p>2年次では、【ネットワークサイエンス】に対応するコンピュータネットワークや情報理論等の科目や【デジタルコンテンツ】に対応するデータ工学関連科目に加え、認知科学、情報デザインといった【人間の認知と社会】や【デザインと創造性】を養う科目等により、1年次の基礎力に幅をもたせ情報科学に関する確かな技術力と応用力、倫理観を身につけます。</p> <p>さらに、3、4年次では、【情報メディアとインタラクション】に対応する実世界指向システムやインタラクションデザイン等の科目を含む全コンピテンスに関わる専門科目（先端技術とメディア表現、音楽・音響情報処理、オートマトンと形式言語、アドバンスドCG、ソフトウェア構成、情報可視化、知覚心理学等）を幅広く提供しています。また、長期にわたって1つのテーマを追究する実験科目の履修とあわせて、専門性はもとより、ヒューマンスキルや実践力なども身につけます。そして、4年次の卒業研究により、情報メディア科学における専門知識、技術力などの総仕上げを行い、革新的技術や科学的理論を創造的に生み出すことができる実践力を身につけます。</p> |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>履修計画やモチベーションに応じて、共通する基礎を修得した上で、情報メディア科学に関する科目を自由に選べるカリキュラムとなっています。これにより、学生自身の希望や適性に適合した多様な履修計画が可能となり、社会のニーズに応じた様々な進路に対応できます。また、ダイナミックに変容しているネットワーク情報社会の現状、未来を見据え、産業界から招聘した講師陣による、実体験を踏まえた指導も生かしています。それらを通じて時代のニーズに合うカリキュラム構成となるよう、不断に見直し、変更を進めていきます。</p> <p>情報リテラシー、データサイエンス、プログラミング系科目に加え、学生が自らテーマを設定した演習を通じて企画力や実行力を養う特別演習授業など、充実した演習系科目を整えています。また、キャンパスOJTプログラム関係科目など、実社会で真に必要とされる技術の修得を目指す演習・実験科目を設けています。</p> |



入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|--------------|---|
| 求める人材 | 理数系の素養と文化や芸術に対する豊かな感性を兼ね備え、ネットワーク情報社会における各種の技術や学問分野に強い興味と学習意欲を持ち、創造的に社会貢献することを目指す人材を求めます。 |
|--------------|---|

| | | |
|---------|----------------|--|
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 幅広い基礎学力に加えて、数学並びに外国語の学力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校在学中の学習状況や基礎学力、課外活動への取組みとともに、情報メディアの科学と技術に対する学習意欲や目的意識、自己表現能力、自己分析能力、コミュニケーション能力を総合的に評価します。 |
| | AC入試 | コンテンツやネットワークメディアを支える情報メディアの科学と技術において、研究課題を自ら設定する創造性と意欲、課題を緻密に分析し、創造的に解決する問題解決能力、その過程および結論を論理的に説明できる能力を総合的に評価します。 |
| | 国際科学オリンピック特別入試 | 日本情報オリンピック本選でAランクとなった者を対象として、明確な目標を持って学ぶ意欲や計画的に学ぶ能力を評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 情報メディアの科学と技術に対する学習意欲や論理的思考能力、理解力、及び本学類での学修に必要な数学などの基礎学力や日本語でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 第2種) 情報メディアの科学と技術に対する学習意欲や論理的思考能力、理解力及び本学類での学修に必要な数学の基礎学力や日本語及び英語でのコミュニケーション能力等を総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 情報メディアの科学と技術に対する高い学習意欲と、専門科目に関する知識を学ぶのに必要な大学2年次修了程度の英語 (TOEFL/TOEIC スコアによる)、数学及び情報基礎の学力を有する人材を選抜します。 |

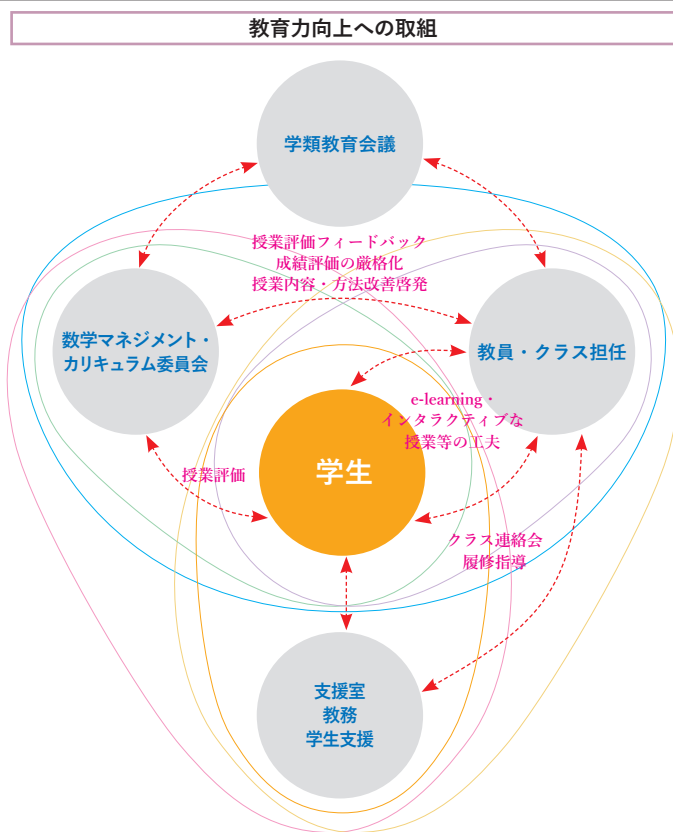
学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------|--|
| 学修支援 | <ul style="list-style-type: none"> - 授業担当者は、学生の理解度に応じた授業進度を調整し、アクティブラーニングを指向した授業を推進し、オフィスアワーを設けることで個別にも対応しています。 - クラス担任が授業担当者と協力して、学生に対し授業に関するきめ細かいケアを行っています。特に履修状況が思わしくない学生を学期ごとにチェックし、クラス担任等による履修指導をしています。 - 学生の復習等における利便性を考慮し、授業資料の電子化を進めています。 - 科目「ファーストイヤーセミナー」においてプレゼンテーション指導を実施しています。 - 科目「情報メディア特別演習 I」「情報メディア特別演習 II」において研究スキルの習得を支援しています。 |
|------|--|

| | |
|-------------------------|--|
| <p>学生同士の交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 授業担当者は、授業の内容にも留意しながら、学生同士のグループ学習の機会を提供しています。 - 科目「情報メディア実験A」「情報メディア実験B」の一部においてグループプロジェクトを実施しています。 - 科目「専門英語A」「専門英語B」の一部において学生同士の発表と議論を行っています。 - 科目「情報メディア特別演習I」「情報メディア特別演習II」の一部において学生同士の発表と議論を促進しています。 |
| <p>教員との交流機会</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 授業担当者は、オフィスアワーに学生と教員の交流機会を設けています。 - 科目「情報メディア特別演習I」「情報メディア特別演習II」の一部においてなされる学生の発表や議論には教員も加わり、ファシリテーションや指導を行っています。 - 学生と教員の情報交換・交流の機会としてクラス連絡会を実施しています。 |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 学群教学マネジメント委員会を通じて、学修成果の評価の結果に基づく点検をおこない、情報学群内の学類間で教学マネジメントに関する取り組みを共有し、教育の改善を行っています。
- 成績評価の厳格化に関するガイドラインを設定し、単位の実質化を図っています。
- 教学マネジメント委員会が毎学期、全学アンケートを一部に含む学類独自の授業評価アンケート（自由記述を含む）を実施します。教学マネジメント委員会はその結果を分析し、授業担当者へフィードバックしています。また、クラス連絡会を通じてクラス代表などの学生主導で実施された授業に関する調査内容も教育会議で共有しています。これらにより効果的な授業改善を行っています。



知識情報・図書館学類

College of Knowledge and Library Sciences

- 学士（図書館情報学）
- Bachelor of Arts in Library and Information Science

人材養成目的 / Program Educational Objectives

文理の枠を超えて、知識や情報に関する社会的・学術的課題に主体的に取り組み、新たな知の創造を通じて社会の発展に貢献する人材を養成します。特に、知識や情報の蓄積・流通に関わる人間の行動、情報技術、社会や文化についての知見を横断的に活用し、課題を自ら発見し解決へと導く力を備えた人材の育成を推進します。

| | |
|----------------|---|
| 養成する人材像 | <ul style="list-style-type: none"> - 人間、情報技術、社会にわたる総合的視野を備え、知識基盤社会の課題解決に貢献できる分野横断的人材 - 知識資源の形成、加工、流通、利用の仕組みを体系的に把握し、専門知の実践を通じて社会の発展を支える高度専門職人材 - 知識や情報に関わる諸原理を理解し、新たな知の創造を通じて知識共有現象の解明に寄与する研究志向型人材 |
| 卒業後の進路 | <p>分野横断的人材は、コンサル、商社・流通、運輸・旅行、金融・保険、サービス、製造販売などの民間企業、および、官庁・自治体などにおいて、総合的視野を生かして活躍の場が増えています。高度専門職人材は、マスコミ・出版、情報・通信、図書館・学校等において、その専門的能力をいかんなく発揮しています。また、大学院へ進学しその専門性をさらに発展させてから就職することが主流となりつつあることに加えて、公務員や図書館員として働きつつ、社会人院生として学び専門性を深める道も開かれています。</p> <p>研究志向型人材は、博士前期課程に加えて博士後期課程も見据えつつ、情報学学位プログラムをはじめとして主に筑波大学の大学院に進学し、研究者を目指します。</p> |

学位授与の方針 / Diploma Policy

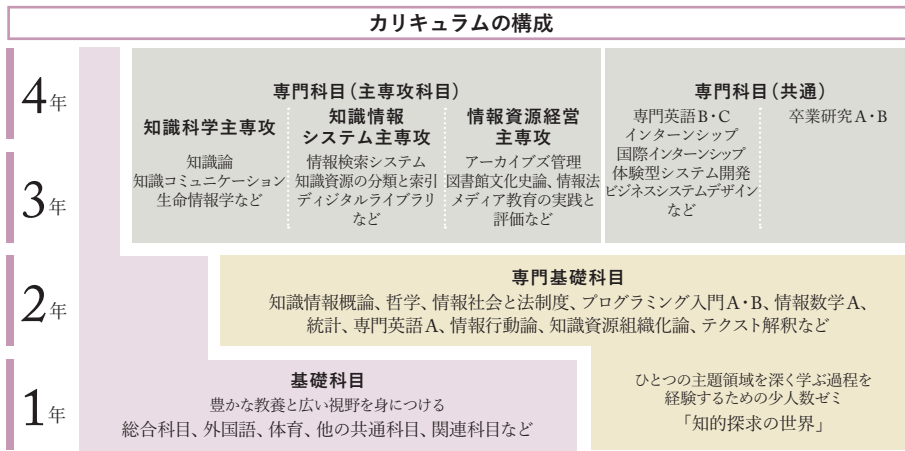
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（図書館情報学）の学位を授与します。本学類では以下の知識・能力を専門コンピテンスとして設定しています。

| | | |
|---------------------|--|---|
| 知識・能力（専門 コンピテンス） | 1. 文理融合型基礎 の獲得 | 情報学分野に関する文理にわたる幅広い基礎知識と視野を獲得していること |
| | 2. 知識共有現象の 理解 | 知識を生成・加工・蓄積・伝達・利用する知識共有現象を多様な学問的観点から理解していること |
| | 3. 調査研究能力 | 量的調査、質的調査、統計解析などのさまざまな調査分析手法を習得し調査研究を遂行できること |
| | 4. 知識基盤構築能力 | 情報技術を駆使して知識資源やデータ基盤を形成・活用する能力を有していること |
| | 5. 知識伝達能力 | さまざまな情報源から適切な情報を検索し蓄積された知識を適切に加工・表現して伝達する能力を有すること |
| | 6. 多様性の理解と 倫理性の獲得 | 文化や価値観の違いを理解し、倫理観と公共心を備えていること |
| 学修成果の評価に 関する方針 | <p>学修成果の集大成である卒業研究への取り組みを、学位授与方針における到達目標に沿って複数の教員により評価します。</p> <p>また、成績評価を厳格化・透明化するために、成績分布の目標値を定めるとともに、科目ごとの成績分布を公表します。</p> | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（図書館情報学）に係る知識・能力（コンピテンス）を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

| | |
|-------------------------|---|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 三つの主専攻に分け、知識科学主専攻では「人間」、知識情報システム主専攻では「情報技術」、情報資源経営主専攻では「社会」をキーワードに教育を行います。どの主専攻においても幅広い視野を養い、専門領域の内容に即して、人間、情報技術、社会・文化の結合と相互の役割を理解するための科目を展開します。</p> <p>順次性に関する方針 1年次では、総合科目、外国語や体育などの基礎科目に加えて、知識情報、情報システムなどについての概論や、プログラミング入門などの専門基礎科目を通して、【文理融合型基礎の獲得】や【知識共有現象の理解】、【知識基盤構築能力】を身につけます。2年次では、1年次に得た知識や技術をさらに深めていくため、哲学や統計、各種調査法、知識・情報の基礎理論などを対象とした専門基礎科目を履修することで、【調査研究能力】、および、【知識伝達能力】を修得し、【多様性の理解と倫理性の獲得】をします。また、さらなる技術を修得し【知識共有現象の理解】と【知識基盤構築能力】を高めるために知識情報演習を履修します。3年次では三つの主専攻のいずれかに属して、専門科目を履修します。多様な視点を育成するため、所属する主専攻の専門科目だけでなく、他の主専攻の専門科目も履修することが要求されます。4年次では、研究室に所属して卒業研究を行い論文を執筆することで、【調査研究能力】、【知識基盤構築能力】、【知識伝達能力】を養います。</p> <p>実施に関する方針 科目数を厳選し、その多くを必修とすることですべての学生が一定水準以上のコンピテンスを身につけるよう配慮しています。各年次に必修として演習・実習を配し、【調査研究能力】、【知識基盤構築能力】、【知識伝達能力】などの応用的・実地的なコンピテンスを全員が修得できる仕組みを提供しています。また、図書館や企業における「インターンシップ」及び海外研修科目として「国際インターンシップ」を実施し、【知識共有現象の理解】と【知識伝達能力】の実践を通じた涵養を図るとともに、【多様性の理解と倫理性の獲得】を実現する教育体制を整えています。</p> |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>科目「知的探求の世界」は、少人数で実施される対話的な科目であり、教員の支援のもとに学生の自主的な学びの場を提供します。この科目では、輪読や演習を通して【知識共有現象の理解】と【知識伝達能力】を一層深め、自主的な探求を通して【調査研究能力】、および、【知識基盤構築能力】を深化させることができます。また、科目「組み込み技術キャンパスOJT」や「分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク（enPiT）」ではシステム・ソフトウェア開発の実践的教育も受けることができます。これらの授業では、1～2年次で身につけた【知識基盤構築能力】をより実践的な状況下でさらに発展させることができます。</p> |



入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|----------------|---|
| 求める人材 | 知識スペシャリストにふさわしい豊かな発想と表現力をもった人材，知識ゼネラリストにふさわしい論理的思考力とコミュニケーション力をもった人材を求めます。 |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等後期日程 総合的な基礎学力に加えて，論理的思考力，表現力，広い視野からの発想を評価します。 |
| | 推薦入試 高等学校で学習する全教科がバランス良く優れていることに加え，論理的思考力，コミュニケーション能力，説得力，豊かな発想を評価します。 |
| | AC 入試 社会における情報の伝達や知識の創造に関して幅広く興味を持ち，関連した課題を自ら発見し，分析・解決していく能力を評価します。課題の分析結果を論理的に説明することや，説得力のある提案ができることも評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 主体的に学ぶ意欲のある者を対象として，語学力を含む基礎学力や論理的思考力，コミュニケーション能力，説得力を評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 第1種) 第2種) 知識と情報に対する学習意欲や日本語によるコミュニケーション能力に加えて，日本語及び英語による理解力，論理的思考力，表現力等を総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 知識と情報に関する領域で学んだ知識・技術を深めたり，異なる領域で学んだ知識・技術を基に新しい領域に挑戦したりする意欲と学力を有する人材を選抜します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-------------------------|--|
| <p>学修支援</p> | <p>「春日ラーニングコモンズ」を図書館情報学図書館に設置しており、履修計画の立て方、学生生活の過ごし方、授業で出された課題のヒント、レポートの書き方、図書館の使い方などについてのサポートを行っています。静謐な空間で内省を通じて自己理解を深められる「ウェルビーインググループ」を設置しており、心理的な側面から学生を支援しています。</p> <p>修学指導グループでは、クラス担任と連携し、学業の振るわない学生の抽出と定期的なケアを行っています。進路指導グループでは、専門のキャリアアドバイザーの協力のもと、きめ細やかなキャリアサポートを実施しています。学類独自の学会発表支援制度を設けており、国内外での学会発表に関わる経費の補助を行っています。</p> |
| <p>学生同士の交流機会</p> | <p>「春日ラーニングコモンズ」に学生チューターを配置しており、先輩学生に対して学修に関する様々な相談ができる環境を整えているほか、イベント等を通じて学生同士の交流を図っています。「ビブリオバトルスタジオ」を設置し、本学類の特徴でもあるビブリオバトルを気軽に行える場を提供することで、学生同士の交流を図っています。</p> <p>進路指導グループでは進路に関する各種イベントを実施しており、学生同士や卒業生との交流機会があります。本のレビューを共有できるアプリ BOOK MARRY を学類で導入し、学生同士で本を通じたオンライン上の交流ができます。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>春日クラス地区代表者会議とのクラス連絡会を年2回開催していることに加えて、教育課程グループと「教育課程を考える会」を年2回程度実施し、教員と学生との間で学修や学生生活に関する課題の共有と解決に向けての検討を行っています。</p> <p>チュートリアル型授業として「知的探究の世界」および「PBL型図書館サービスプログラム開発」を開発しており、学生は自身の興味を生かしつつ、密度の高い学修を行うことができます。研究室への正式配属に先立って、プレ卒研の期間を4か月設けています。プレ卒研では配属予定の研究室でゼミ等を行い、卒業研究に向けた準備を行います。各教員はオフィスアワーを設けており、予約なしで教員を訪問し学修に関する質問や相談することができます。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

教育の質の保証に関する考え方と方策

本学類は、無計画に修得単位数を増やすことよりも、履修前に自身の学修計画を慎重に立てるよう指導し受講する科目で高い到達度を得ることを期待しています。クラス担任や指導教員には、定期的に学生と面談することを義務づけ、学修指導に GPA を活用しています。3年次では TOEIC を受験し、グローバル社会に備えます。

教員の教育力向上の方策

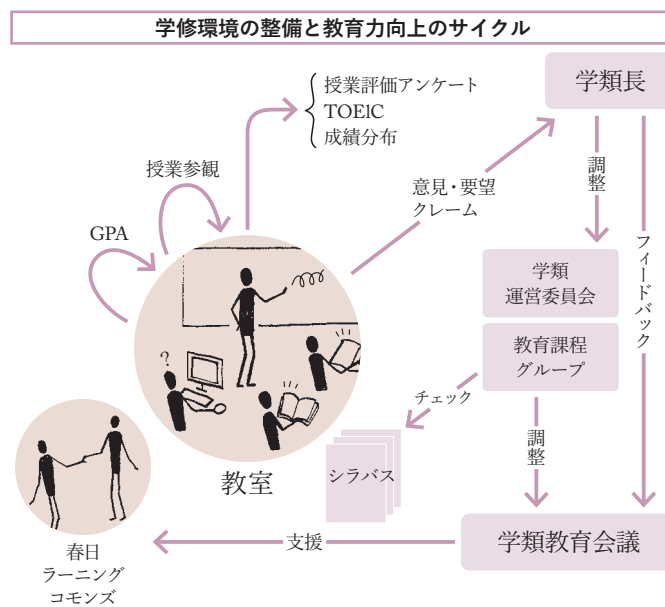
- 学生による授業評価を実施しています。
- 受講者数および成績分布の調査を公表しています。
- シラバスの内容を点検しています。
- 教育会議にて FD を実施しています。

教育改善のための体制

教育課程グループでカリキュラム全般に関する企画・実施・評価を行っています。

カリキュラム改善の方策

教育課程グループが中心となって、学生の学修成果に関する評価を行い、科目間の内容調整など、カリキュラムの内容の定期的な見直しを行っています。



医学群

School of Medicine and Health Sciences

医学類

College of Medicine

- 学士（医学）
 - Doctor of Medicine
-

看護学類

College of Nursing

- 学士（看護学）
 - Bachelor of Science in Nursing
 - 学士（ヘルスケア）
 - Bachelor of Science in Healthcare
-

医療科学類

College of Medical Sciences

- 学士（医療科学）
 - Bachelor of Medical Sciences
 - 学士（国際医療科学）
 - Bachelor of International Medical Sciences
-

人材養成目的 / Educational Objectives

良き医療者、すなわち優れた医療技術のみならず、しっかりしたコミュニケーション能力に裏打ちされた全人的対応のできるグローバルスタンダードに則った医療人、さらには医学、看護学、医療科学の分野における世界レベルの研究者を養成します。

医学類

College of Medicine

- 学士（医学）
- Doctor of Medicine

人材養成目的 / Program Educational Objectives

将来優れた臨床医、医学研究者、医学教育者あるいは保健・医療・福祉の専門家として、それぞれの分野でグローバルな活躍をもって地球規模課題の解決に挑み、社会に奉仕し貢献するために、基本的な臨床能力と医学研究能力を備え、高い問題解決能力と良好なコミュニケーション力をもって、患者の立場に配慮した医療および医学研究を生涯にわたり推進する人間性豊かな医師を養成します。

| | |
|-----------------------|--|
| <p>養成する人材像</p> | <p>優れた臨床医、医学研究者、医学教育者あるいは保健・医療・福祉の専門家としての能力をもって、地球規模課題の解決や生命科学の進歩に貢献できる医師・医学研究者を積極的に養成します。それぞれの分野でグローバルに活躍する能力をもって、先端的で特色ある研究を推進し、新たな学問分野を創生するとともに、医療技術の開発や医療水準の向上に貢献できる次代を担う人材を養成します。基本的な臨床能力と医学研究能力を備え、高い問題解決能力と良好なコミュニケーション能力をもって、教育にも従事し、多様性・柔軟性を有した新しい教育を開発し、我が国の医学教育の水準の向上、グローバル化に貢献する人材を養成します。患者の立場に配慮した医療および医学研究を生涯にわたり推進する人間性豊かな能力をもって、茨城県内を始めとする地域医療の維持・向上に貢献できる人材を養成します。</p> |
| <p>卒業後の進路</p> | <p>医師にとって生涯教育は必須のことであり、様々なキャリアパスがあります。卒業直後の2年間臨床研修とその後続く専門研修に進み、ほとんどの卒業生が医師として活躍しています。途中大学院に進み学位を取得する者や、そのまま基礎研究分野へ進む者の他、一部は保健所や厚生労働省などの行政に進む卒業生もいます。茨城県内への就業は約半数になっています。卒業生フォローアップ調査では、専門分野は臨床医学 90%、基礎医学 4%、社会医学 5%、卒業後 10 年以上の卒業生の学位取得率は 65%、認定医・専門医取得率は 90% でした。また、2024 年度に卒業生が研修医として研修する病院の割合は、筑波大学病院が 16%、総合研修病院が 84%、他大学附属病院が 1% でした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">卒業後の進路</p> <p style="text-align: center;">臨床研修(初期研修)</p> <p style="text-align: center;">筑波大学附属病院…19%</p> <p style="text-align: center;">一般研修病院…67%</p> <p style="text-align: center;">他大学付属病院…13%</p> <p style="text-align: center;">—</p> <p style="text-align: center;">大学院…2%</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">専門研修(後期研修)</p> <p style="text-align: center;">筑波大学附属病院</p> <p style="text-align: center;">一般病院</p> <p style="text-align: center;">他大学付属病院</p> <p style="text-align: center;">▼ ▲</p> <p style="text-align: center;">筑波大学大学院</p> <p style="text-align: center;">他大学大学院</p> <p style="text-align: center;">▼</p> <p style="text-align: center;">病院</p> <p style="text-align: center;">診療所</p> <p style="text-align: center;">大学教員・研究者(大学院生含む)</p> <p style="text-align: center;">行政(厚生労働省、県等)</p> <p style="text-align: center;">保健所・福祉関係</p> <p style="text-align: center;">その他</p> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">※四捨五入により合計が100%にならない場合があります。</p> |

学位授与の方針 / Diploma Policy

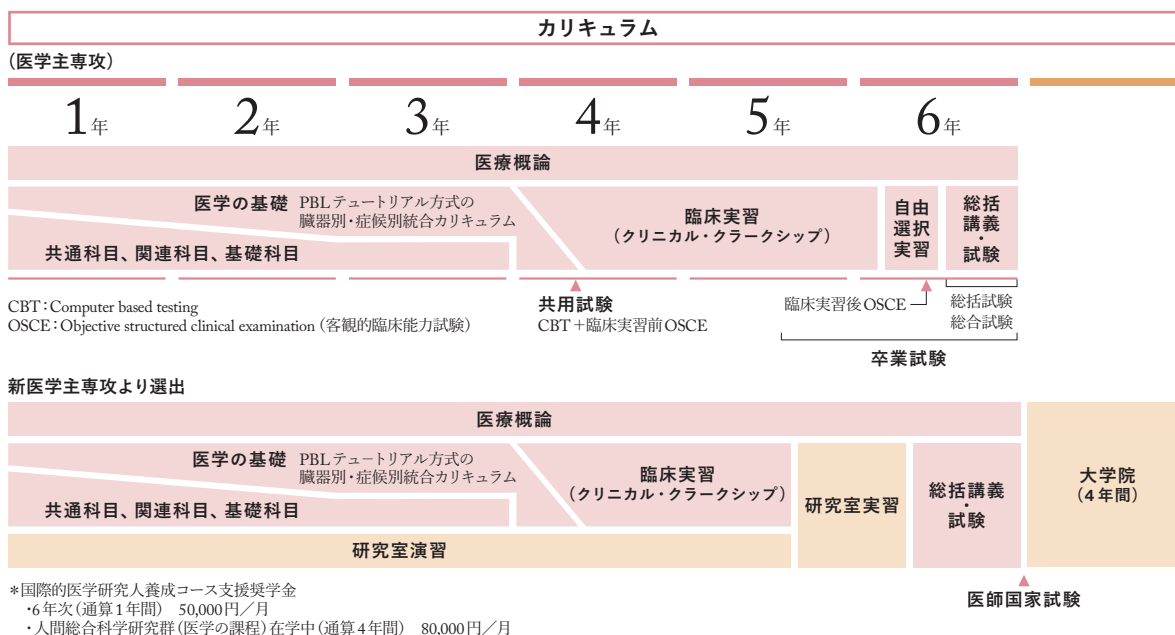
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（医学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|---|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. プロフェッショナルリズム | 豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識と倫理観を有し、人の命と健康を守る医師になる者としての自覚と責任感をもって医療を実践できる。常に向上心を持ち、省察を行い、生涯にわたり自己研鑽を続けることができる。 |
| | 2. 科学的思考 | 事象について、好奇心・探究心を持って科学的な視点でとらえるとともに、未知の問題を解決するための科学的な方法を理解できる。 |
| | 3. コミュニケーション | 多職種を含むチームで連携し患者中心の医療を提供するために、患者やその家族、およびチームメンバーとの間で適切にコミュニケーションをとることができる。 |
| | 4. 診療の実践 | 医療の基盤となっている基礎医学、臨床医学、社会医学、行動科学の知識を有し、それを応用して、患者の問題を全人的に理解し、それを解決するための適切な診療を実践できる。 |
| | 5. 医療の社会性 | 人間個体はもちろん、地域・社会あるいは人類全体のグローバルな問題を広くとらえ、保健・医療・福祉の関連法規、制度、システム、資源を理解した上で、社会基盤に基づく地域・社会の健康を支える活動を実践できる。 |
| | 6. 未来開拓力 | 自身の未来を切り拓き、広く社会に貢献するために、グローバルな視野を持ち、困難な状況においてもたくましくしなやかに、積極果敢に挑戦する姿勢を示す。また、「教育の筑波」としての伝統を継承し、情熱をもって教育を実践し、周囲と協働してリーダーシップを発揮できる。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>臨床実習前に備えておくべき知識・能力（コンピテンス）は4年次に全国共用試験である CBT（知識を評価）、臨床実習前 OSCE（能力を評価）を受験し、合格した者が臨床実習生（医学）の認証を受け病院での臨床実習に進むことができます。</p> <p>学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）および医学類卒業時コンピテンスの修得状況は臨床実習を行った診療科ごとに逐次評価します。これらに併せて臨床実習後 OSCE により客観的にコンピテンスの修得状況の評価します。また、臨床実習後には総括試験および総合試験によりコンピテンスの知識に関わる部分を評価します。</p> | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（医学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-----------------------|---|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 全国の医学部に先駆けて、開学当初より基礎医学・臨床医学・社会医学を統合した6年間一貫教育を取り入れており、自己学習能力・問題解決能力の涵養を重要視していること、体験型プログラムが充実していることが特徴です。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 1～3年次…医学の基礎コース 8～9人の少人数グループに分かれ、チューター教員のファシリテートを受けつつ、事例を用いた討論や自習により自ら問題解決を行う学習方式「PBL テュートリアル」が中心です。基礎・臨床・社会医学の分野が統合された28コースから構成されます。 - 4～6年次…診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ） 従来の見学を中心とする臨床実習とは異なり、医療チームの一員の臨床実習生（医学）として参加型の臨床実習を行います。前半の1年間は大学病院を中心とした内科、外科などの必修診療科での実習を行い、後半では選択実習の他に、茨城県内の地域の医療機関における実習も行います。実習の前には、医療系大学間共用試験実施評価機構が行う、CBT（コンピューターを用いた知識の評価）とOSCE（基本的診療技能・態度の実技に関する客観的評価）に合格しなければなりません。 - 1～6年次…医療概論 医療倫理、チーム医療、地域医療（プライマリ・ケア）、ヘルスプロモーション、医師患者関係など、上記の臓器系統別のプログラムでは修得が難しい領域を体系的に学びます。 - 6年次…アドヴァンスト・エレクティブズ各自の希望により、大学内外・国内外の医療機関、研究室、行政などで実習を行います。 - 1～6年次…研究室演習・実習 自分が興味を持った分野の研究室で教員のアドバイスを受けながら、最先端の医学研究を行います。5年次後半には、将来の医学研究につながる「新医学主専攻」を選択することができます。また、6年次には新医学主専攻の学生のうち、卒業後直ちに大学院博士課程へ進学する者を対象とした「国際的医学研究人養成コース」も用意されています。 <p>実施に関する方針 自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を身につけさせるために、低学年では、少人数制によるチュートリアル方式を全面的に採用しています。この学習を支援するために、リソースパーソン（教員）を配置、e-learning 環境など学習サポート体制を整備し、教授法の向上を目指した教員研修会を定期的の実施しています。 臨床実習は、大学附属病院各診療科を中心に行う他に、大学教員が茨城県内の地域医療の現場で直接指導を行う地域医療教育センター・ステーション制度も活用して行います。</p> |
| | <p>学修の方法 特色的な教育</p> |



入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|--------------|---|
| 求める人材 | 自然科学、語学等の十分な基礎学力と豊かな創造性、探求心を有し、高い倫理観、協調性、コミュニケーション能力を持って、生涯にわたり人類の健康と福祉に貢献する強い意志を持つ人材を求めています。 |
|--------------|---|

| | | |
|---------|---------------|--|
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | <p>広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力など総合的な人間性について評価します。</p> <p>【地域枠】 上記に加え、将来茨城県の医療を担う強い意志を有する人材を、総合的に評価します。</p> |
| | 推薦入試 | <p>高等学校で学習する全教科がバランス良く優れている者の中から、医師となる資質が十分な人材を小論文、適性試験によって総合的に評価します。</p> <p>【地域枠推薦入試】 上記に加え、将来茨城県の医療を担う強い意志を有する人材を、小論文、適性試験により総合的に評価します。</p> |
| | 研究型人材入試 | <p>広い基礎学力に加えて、自ら発見した自然科学の課題に対し、自主的かつ継続的に取り組み、その結果、到達した高い成果を評価します。また、医学を志向する動機、修学の継続性、研究者としての適性・資質、社会的適応力など総合的な人間性についても評価します。</p> |
| | 国際バカロレア特別入試 | <p>広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力など総合的な人間性について評価します。</p> |
| | 海外教育プログラム特別入試 | <p>広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力など総合的な人間性について評価します。</p> |
| | 編入学試験 | <p>広い基礎学力に加えて、数学、理科、英語の学力を評価するとともに、医学を志向する動機、修学の継続性、適性、感性、社会的適応力など総合的な人間性について評価します。</p> |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-----------|---|
| 学修支援 | <p>医学類学生の学修及び生活上の諸問題に関する諸事項について、組織的な支援を行うことを目的として学生委員会が設置されています。この委員会では学生の修学上・生活上の支援、経済支援や課外活動、賞罰、安全と健康に関わること、また、その他目的を達成するために必要な業務を行っています。</p> |
| 学生同士の交流機会 | <p>新入生オリエンテーションでは、新入生全員にとって「絆づくりの一步」となるためにをグランドルールとして、ワールドカフェ方式で小グループでテーマに沿ったトークをする企画があります（URL: https://www.youtube.com/watch?v=rjD9-xiw_yA）。また、医学類のカリキュラムの特徴の1つとして、1~3年次のPBL（Problem based learning：問題基盤型）テュートリアルを基盤とする臓器別統合カリキュラムがある。1グループ8名前後の少人数で行われ、必然的に学生同士の交流機会となり、学修意欲の向上にも資するものです。</p> |

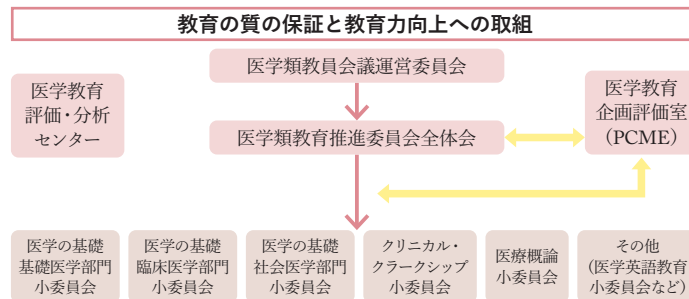
| | |
|-----------------|--|
| 教員との交流機会 | 1年次の春学期に「研究室紹介」を設けており、入学当初から基礎研究に接する機会があります。また、1年次から実際に研究が行われている現場（研究室）で、教員の指導のもとに実験に従事し、論文抄読会に参加し、医学研究を体験することができます。4年次の秋からは臨床実習が始まり、チームの一員として教員と共に診療に当たることとなります。なお、担任とのチュータリングは年に2-3回行われます。 |
|-----------------|--|

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- 教育の質の向上のために、医学教育企画評価室を設置し、医学類教育推進委員会と連携しながら、教育の調整役としての役割を担っています。カリキュラム策定への提案、各プログラムの実施支援、授業評価からフィードバックの一連のプロセスを通して改善を図ることに加え、社会のニーズに対応するための新たなプログラムの企画を行っています。
- 教授法の向上のため、教員ファカルティ・ディベロップメント（FD）を実施しています。全教員必修の初任者研修、更新研修に加えて、担当教員を対象にPBL テュートリアルシナリオ作成およびブラッシュアップなどのテーマで、例年のべ200名ほどの教員が参加しています。
- 学生からのプログラム評価及び教員からの評価を全てのコース終了時および学年末などに実施し、カリキュラム作成にむけたフィードバックを行い、着実な改善につなげています。
- 独立した評価部門として、医学教育評価・分析センターを設置し、教育成果・学修成果の分析かつ教育改善への提言を行っています。
- 全国医学部共通で医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する共用試験の他に、医学類各部門の責任教員で組織される医学類運営委員会において単位認定、進級・卒業判定を行い、社会に向けて卒業生の水準を保証しています。
- 国際基準に基づく医学教育分野別認証

筑波大学医学群医学類は、2023年11月7日～10日に自己点検評価報告書を基に医学教育評価機構（JACME）による実地審査を受け、適合の認定を受けました（認定期間2024年10月1日～2031年9月30日）。

（医学類 HP に実地審査における自己点検評価書を掲載しています）



- *医学類教員会議運営委員会…カリキュラム、成績に関する承認を行う
- *医学類教育推進委員会…カリキュラムの問題点、改善を検討する
- *医学教育企画評価室 (PCME)…Planning and coordination for medical education…各学年のカリキュラム開発への助言、実施支援、授業評価、カリキュラム評価 (学生・教員・卒業生・外部組織からの評価)、評価結果のフィードバックと改善への提案、FDの企画実施
- *医学教育評価・分析センター…医学類直轄の機関として、教育成果の情報収集・分析を行う

看護学類

College of Nursing

- 学士（看護学）
- Bachelor of Science in Nursing
- 学士（ヘルスケア）
- Bachelor of Science in Healthcare

人材養成目的 / Program Educational Objectives

広い教養と深い人間理解を基盤に、人々のニーズに合った質の高い看護を提供し、保健・医療・福祉チームの一員として協働できる優れた看護職を育成するとともに、保健医療分野における行政官、国際的な視野に立った看護職、学際的な研究や後進を育てる教育者など、広く社会に貢献する人材を養成することを目的とします。

| | |
|-----------------------|--|
| <p>養成する人材像</p> | <p>本学類で養成を目指すのは、広い教養と深い人間理解を基盤に、保健・医療・福祉の現場、地域社会、国際的な場など多様な方面で活躍し、人々の健康生活の向上に寄与できる人材です。具体的には、必要な能力として、教育者、研究者、管理者として指導的役割を担い得る力を備えるとともに、以下の資質を有する人材です。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 基本的人権を擁護し、受容・共感できる豊かな人間性 - 高い倫理観に基づいた行動ができる能力 - 看護専門職に必要な知識・技術を習得し、適切な判断で看護活動を展開できる能力 - 人々の健康生活を援助し、QOLの向上に貢献できる能力 - 社会情勢の変化や科学技術の進歩に適応し、新たな看護を展開できる能力 - 保健医療福祉などの関連領域の人々と協働し、リーダーシップを発揮できる能力 - 研究的素養を育みつつ、生涯にわたって学習を継続できる能力 - 国際的な志向を有し、グローバル水準に対応できる能力 |
| <p>卒業後の進路</p> | <p>卒業生の約65%が看護師等として病院等の医療施設へ就職、約10%が保健師や養護教諭として行政・教育機関・企業へ就職、約15%が大学院等に進学しています。病院で働きながら大学院で学んでいる方もいます。看護師・保健師国家試験合格率は100%です（令和6年度）。</p> <p>* 大学院人間総合科学学術院人間総合科学研究群看護科学学位プログラムでは、筑波大学附属病院との教育・実践連携を行っており、働きながら看護科学学位プログラム博士前期課程を修了可能なコースを設けています。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">卒業後の進路</p> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; text-align: center; border: 1px solid black;"> <p>職業人養成（看護師、保健師） 看護学類（学士課程） 4年</p> </div> <p style="text-align: center;">▼</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; text-align: center; border: 1px solid black;"> <p>研究者・教育者、高度専門職業人養成</p> <p>大学院進学例1 ▼ 看護実践経験 3～5年 ▼ 看護科学学位 プログラム (博士前期課程) 2年</p> </div> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; text-align: center; border: 1px solid black;"> <p>大学院進学例2 ▼ 看護科学学位 プログラム (博士前期課程) 2年 ▼ 看護実践経験 3～5年</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">▼</p> <div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px; text-align: center; border: 1px solid black;"> <p>教育者・研究者養成 看護科学学位プログラム (博士後期課程) 3年</p> </div> </div> |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（看護学）の学位を授与します。

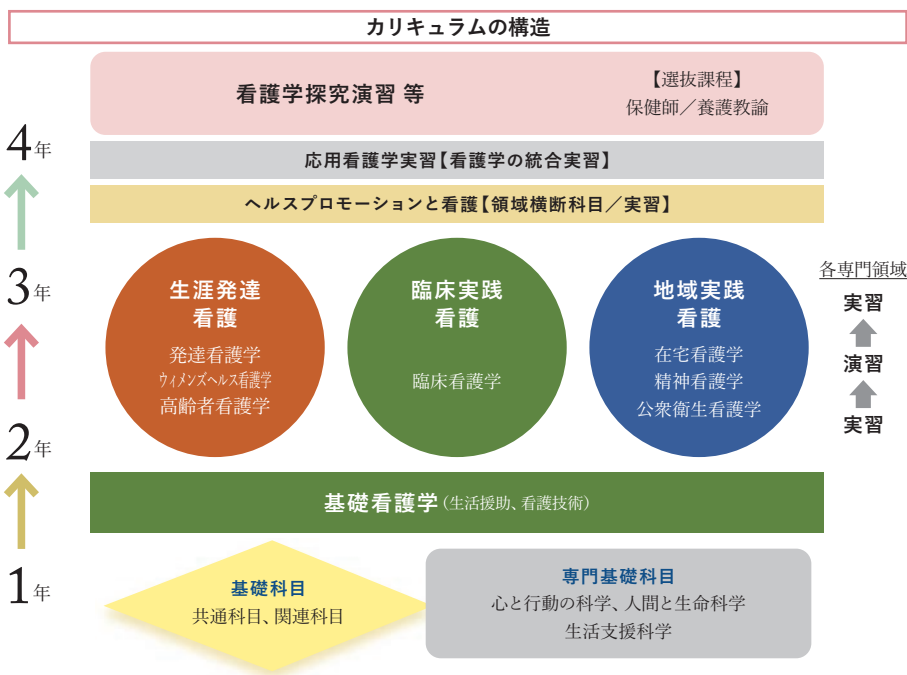
| | | |
|-----------------|---|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 看護における対象理解 | 広い教養を持ち、看護の対象となる人を深く理解することができる。 |
| | 2. 看護の専門知識・技術 | 人々の健康の保持増進、健康障害の予防を目的に、専門的な幅広い知識と技術を活用し看護の対象となる個人、家族、集団、地域に対して看護を提供できる。 |
| | 3. 科学的根拠に基づく看護の実践力 | 科学的な知識・技術を用いて、対象の特性や状態に必要とされる看護について分析し、計画的に実践できる |
| | 4. 医療における連携・協働 | 高いコミュニケーション能力を持ち、保健、医療、福祉領域のなかで他の専門職と協働してチームのリーダー、メンバー、コーディネーターとしての役割を担うことができる。 |
| | 5. 看護倫理とケアリング | 様々な生活背景をもつ人々の多様な価値観を尊重し、看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護することができる。 |
| | 6. 国際的な看護の視点 | 看護の国際的な動向について学修するとともに、社会のグローバル化、国際化について理解するとともに、文化による健康や看護についての捉え方の違いなど多様な視点から看護の役割について学び、探究できる。 |
| | 7. 看護職としてのキャリア形成力 | 看護職としての専門的な能力を生涯にわたり、主体的かつ継続的に発展させていくことができる。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）に関する学修成果は、当該コンピテンスに対応づけられた授業科目、および各領域における実習科目の成績を用いて評価します。各授業科目では、担当教員が厳正な教育評価を実施しています。</p> <p>卒業研究の最終発表を通じて、学位授与の方針に掲げたコンピテンスに関する学修成果を評価します。卒業研究は指導教員以外の看護学類担当教員2名による審査を通じて評価し、学修成果の達成状況に反映します。</p> | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（看護学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|---------------|--|
| 教育課程の 編成方針 | <p>総合的な方針 総合大学の特性を生かして、他学類の学生と総合科目・専門導入科目などを通じて学習交流できる場を提供しています。理論と実践が乖離しないように、学内の演習では、現職の臨床看護スタッフを招き、現状での最先端技術に対応できるような、現実に即した実践能力の向上を目指した教育を行なっています。また、実習においては附属病院、県内の施設との連携を深め、最新の医療・ケアの体験を通して学ぶ機会をつくっています。</p> <p>順次性に関する方針 1年次・2年次では、看護の専門的な役割理解を中心に、看護の基盤となる基本的な看護技術を学習し、専門分野の学修に結びつくようなカリキュラム構成としています。また、看護の専門基礎科目を充実させ、広い視野に立って看護学の専門性が理解できるような工夫も行っています。3年次から4年次にかけては、臨床看護学、精神看護学、高齢者看護学、ウィメンズヘルス看護学、小児・発達支援学を学習することで、各分野のエビデンスに基づいた高度な専門技術を学修します。学修支援として、客観的臨床実技試験（OSCE）などを実施し、技術習得の向上を図っています。また、地域看護、在宅看護の学びによって、保健医療福祉行政などの知識を修得します。さらには、グローバルな人材育成を目指すため、国際保健学、国際看護学、国際看護研修などの学びを通して、国際的な視野に立った看護実践を学ぶ機会を提供しています。4年次は看護の専門領域について、これまでの学習を活用し、さまざまな指導教員のもと看護実践について探求する科目を行っています。専門コンピテンスと科目の対応は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 看護における対象理解 主に専門基礎科目「心と行動の科学」「人間と生命科学」、専門科目「臨床看護実践」「生涯発達看護」「地域看護実践」「看護の発展」における授業科目を通して教授します。 - 看護の専門知識・技術 主に専門基礎科目「人間と生命科学」、専門科目「臨床看護実践」「生涯発達看護」「地域看護実践」「看護の発展」における授業科目を通して教授します。 - 科学的根拠に基づく看護の実践力 主に専門科目「臨床看護実践」「生涯発達看護」「地域看護実践」「看護の発展」における授業科目を通して教授します。 - 医療における連携・協働 主に専門基礎科目「生活支援科学」、専門科目「地域看護実践」「看護の発展」における授業科目を通して教授します。 - 看護倫理とケアリング 主に専門科目「臨床看護実践」「生涯発達看護」「地域看護実践」「看護の発展」における授業科目を通して教授します。 - 国際的な看護の視点 主に専門基礎科目「生活支援科学」、専門科目「看護の発展」における授業科目を通して教授します。 - 看護職としてのキャリア形成力 主に専門科目「看護の発展」における授業科目を通して教授します。 <p>実施に関する方針 自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を養うために、少人数制によるテュートリアル方式を採用した演習・実習を行っています。これらの学習を支援するために、いつでもどこでもコンピューターネットワークを通じて、効果的な学習支援が可能な e-learning をとり入れ、それらの学習成果を自己点検できるように、インターネットを通じて試験が可能な IBT などの導入を図り、情報環境の活用による学習のサポート体制を整備しています。また、教員の教育力のアップを図る目的で、ファカルティ・ディベロップメント（教授法の向上を目指した教員研修会）を積極的に実施しています。</p> |
|---------------|--|

| | |
|--------------------------------|---|
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>看護の専門性に合わせてコース選択を行うことができます。つまり看護師免許の受験資格は基本的資格要件として全員が資格取得可能なカリキュラムとし、その他、保健師コース、養護教諭コースを選抜制で設けています。また、助産師資格取得や教育・研究職を視野に入れ大学卒業と同時に看護科学学位プログラムに進学する学生や、卒業後臨床の場で経験を積んでから大学院に進学する卒業生もいます。看護学類の卒業生のキャリアアップを支援できるようにしています。</p> |
|--------------------------------|---|



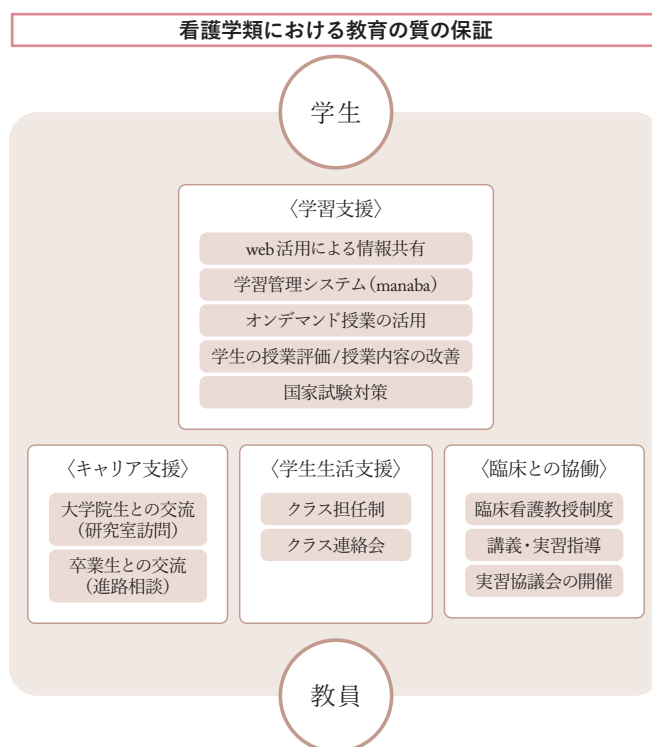
入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|---------------------|--|
| <p>求める人材</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 科学的な知識や語学力などの十分な基礎学力を有し、看護学に関する深い興味と関心が有り、保健医療福祉を支えるための看護について探求し、新しい看護学を開拓できる能力と意欲を有する人材を求めています。 - 科学的な知識や語学力などの十分な基礎学力を有し、ヘルスケアに関する深い興味と関心が有り、国際的にヘルスケアサービスについて探求し開発できる能力と意欲を有する人材を求めています。 |
|---------------------|--|

| | | |
|---------|-------------|---|
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 国語、理科、英語の学力を中心に、基礎学力を評価するとともに、看護を志向する動機、適性、感性、社会的適応力及び人間性等について総合的に判断します。 |
| | 推薦入試 | 看護に関連する分野において必要とされる明確な問題意識と優れた洞察力について評価します。また、部活動、地域活動、社会活動等の実績について評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 看護に関連する分野において必要とされる明確な問題意識と優れた洞察力、大学で看護学を修得するために必要な基礎知識ならびに思考力や学力などを総合的に評価します |
| | 編入学試験 | 医療人としての更なる飛躍を目指す動機に加えて、大学で看護学を修得するために必要な基礎知識ならびに思考力や学力などを総合的に評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-----------|---|
| 学修支援 | 授業内においてプレゼンテーションやレポート作成に関する指導を行います。少人数のグループワークにより、教員の指導のもと多様な学生が相互に補完し合い、強みを発揮できる体制を整えています。さらに、ヒューマンエンパワーメント推進局と連携し、学修や実習等における体力的負担に合理的配慮を要する学生への支援を行います。 |
| 学生同士の交流機会 | 2年次からの授業ではグループワークを多く取り入れ、協調性やピア学習効果を促進します。学生による反転授業や試験問題作成などの取り組みも実施します。また、ヘルスケアコースの学生との合同授業や、さくらサイエンスプログラムを通じて来日した学生との交流機会も設けています。 |
| 教員との交流機会 | 学年担任制度を設け、学生と担任教員の交流を確保します。2年次には「看護学探究概説」において各教員の研究内容を紹介し、これに基づき卒業研究につながる研究室選択を行います。また、学生の関心に応じて、先導的研究者体験プログラム（ARE）を通じて卒業研究の前段階から研究活動に参加する機会を提供しています。 |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

カリキュラム委員会において、学修成果の達成状況を検討し、教育活動全体に対する点検と改善を継続的に実施することで、教育の質を保証し、学類の目的達成に向けた体制を強化します。

学生主体の授業評価を実施し、学生からの意見を、クラス連絡会（クラス担任制を行っているため可能となる）を通じて教員にフィードバックし、教育の改善に役立てます。

教育の質を保証するために「医学教育企画評価室」を設置し、専門の職員を配置してカリキュラムのプランニング、各種教育プログラム実施支援、評価などの支援を行っています。具体的には、社会のニーズに対応するための新たなプログラムの企画（チーム医療に関する医学群3学類合同コースなど）、評価結果に基づく現行のプログラムの改善、チューター養成、教員研修会、卒業生のフォローアップ調査などを実施しています。

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標及び本学群・学類の人材養成目的に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群学位プログラムの学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（ヘルスケア）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1.ヘルスケアのニーズに対する理解 | 広い教養を持ち、保健、医療、教育、福祉領域の対象となる人の生活背景や成長 発達段階、心身の状態を深く理解することができる。 |
| | 2.ヘルスケアの専門知識・技術 | 幅広い知識と技術を活用し、対象となる個人、家族、集団、地域のニーズに合った支援方法を計画し実践できる。 |
| | 3.学際的視点に基づいたヘルスケア | 教育学をはじめ人文科学、社会科学、自然科学、多文化・異文化に関する理解を深め、国家や文化、地域や施設の特徴に応じた教育、政策・管理に活用することができる。 |
| | 4.ヘルスケアにおける連携力 | 高いコミュニケーション能力を持ち、保健、医療、教育、福祉領域のなかで他職種と連携し、協働できる。 |
| | 5.ヘルスケアと倫理 | 様々な生活背景をもつ人々の多様な価値観を尊重し、保健、医療、教育、福祉領域のなかで対象となる人々の尊厳と権利を擁護することができる。 |
| | 6.国際的なヘルスケアの視点 | ヘルスケア領域の国際的な動向、社会のグローバリゼーション、国際化について理解するとともに、文化による保健、医療、教育、福祉についての捉え方の違いなど多様な視点について学び、探究できる。 |
| | 7.ヘルスケアの場におけるキャリア形成力 | 生涯にわたり主体的かつ継続的に自己の学習を深め、保健、医療、教育、福祉領域で教育方法や政策・管理について新たな知識を開発できる。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>各授業科目では、担当教員が厳正な教育評価を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 科学的根拠に基づいた知識や技術は、専門基礎、専門科目の講義での学習成果について、試験やレポート等によってその到達度を客観的に評価します。 - 高度看護専門職にふさわしい倫理観と態度は、専門基礎、専門科目の講義、演習も試験やレポート等により客観的な評価を行い、また実習のなかでは複数人の担当教員により到達度を評価します。 - 学習に対する主体性や未知の問題の解決能力、生涯にわたる自己学習を継続する能力は、専門科目である看護学の発展領域の科目の学習成果ならびに看護学の探究演習で評価します。 - 国際的な動向の理解、多様な視点から看護の役割を探求する能力は、国際保健学、国際看護学等の試験やレポート等により客観的に評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（ヘルスケア）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|---------------|---|
| 教育課程の 編成方針 | <p>総合的な方針 総合大学の特性を生かして、他学類の学生と総合科目・専門導入科目などを通じて学習交流できる場を提供しています。理論と実践が乖離しないように、学内の演習では、現職のスタッフを招き、現状での最先端技術に対応できるような、現実に即した実践能力の向上を目指した教育を行っています。また、実習においては高齢者施設、附属病院等との連携を深め、最新のヘルスケアサービスに関する体験を通して学ぶ機会をつくっています。</p> <p>順次性に関する方針 1年次は主に日本語を学修します。2年次から看護学類生と共に、ヘルスケアの基盤となる生活援助科学に関する科目を学習の起点とし、専門分野の学修に結びつくようなカリキュラム構成としています。また、看護の専門基礎科目の他に、広い視野に立ってヘルスケアサービスが理解できるような工夫も行っています。3年次から4年次にかけては、国際ヘルスケア概論、ヘルスケア実習等の学びによって、各分野のエビデンスに基づいた高度専門技術を学修します。また、地域看護、在宅看護の学びによって、日本ならびに国際的な保健医療福祉行政などの知識を修得します。さらには、グローバルな人材育成を目指すため、国際保健学、国際看護学などの学びを通して、国際的な視野に立ったヘルスケアサービスについて学ぶ機会を提供しています。また、これまでの学習を活用し、ヘルスケアサービスについて探求する科目を行っています。専門コンピテンスと科目の対応は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ヘルスケアのニーズに対する理解 主に専門基礎科目「心と行動の科学」「人間と生命科学」、専門科目「臨床看護実践」「生涯発達看護」「地域看護実践」「ヘルスケア原理」における授業科目を通して教授します。 - ヘルスケアの専門知識・技術 主に専門基礎科目「人間と生命科学」、専門科目「臨床看護実践」「生涯発達看護」「地域実践看護」「看護の発展」「ヘルスケア原理」における授業科目を通して教授します。 - 学際的視点に基づいたヘルスケア 主に専門科目「臨床看護実践」「生涯発達看護」「地域実践看護」における授業科目を通して教授します。 - ヘルスケアにおける連携力 主に専門基礎科目「生活支援科学」、専門科目「地域実践看護」「看護の発展」「ヘルスケア原理」における授業科目を通して教授します。 - ヘルスケアと倫理 主に専門科目「臨床看護実践」「生涯発達看護」「地域実践看護」「ヘルスケア原理」における授業科目を通して教授します。 - 国際的なヘルスケアの視点 主に専門基礎科目「生活支援科学」、専門科目「看護の発展」における授業科目を通して教授します。 - ヘルスケアの場におけるキャリア形成力 主に専門科目「看護の発展」における授業科目を通して教授します。 <p>実施に関する方針 自ら学ぶ態度と習慣をつけ、未知の問題を解決する能力を養うために、少人数制によるテュートリアル方式を採用した演習・実習を行っています。これらの学習を支援するために、いつでもどこでもコンピューターネットワークを通じて、効果的な学習支援が可能な e-learning の充実を実施し、それらの学習成果を自己点検できるように、インターネットを通じて試験が可能な IBT などの導入を図り、情報環境の活用による学習のサポート体制を整備しています。また、教員の教育力のアップを図る目的で、ファカルティ・ディベロップメント（教授法の向上を目指した教員研修会）を積極的に実施しています。また、ヘルスケアコースでは、日本人看護学生によるチューター制度を設けています。</p> |
|---------------|---|

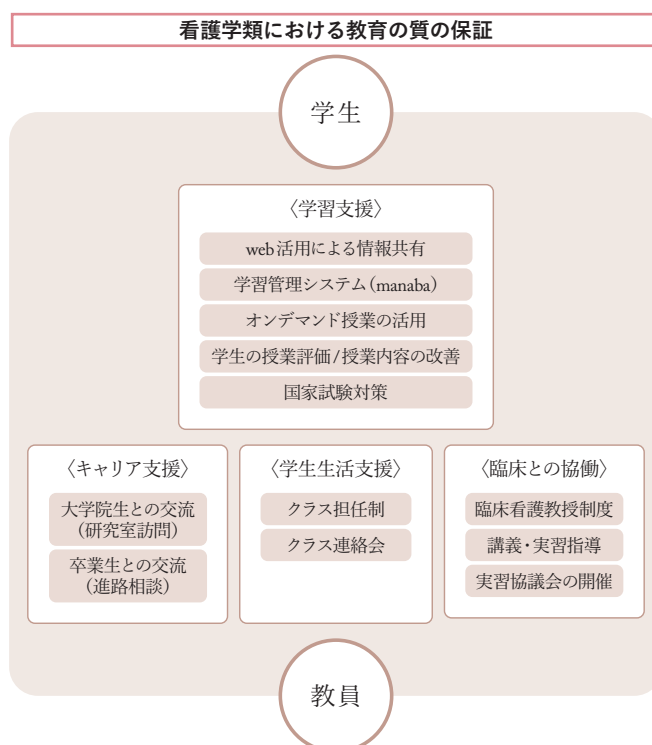
| | |
|-------------------------|--|
| 学修の方法 特色的な教育 | <p>ヘルスケアのニーズ、ヘルスケアの専門知識・技術、国際的な視野に立ったヘルスケアサービスに関する理解を深めるため、2年次からは看護学類生との合同授業を多く実施しています。加えて、ヘルスケアコース独自で医療・福祉施設における実習を実施し、国際的な視点に立って医療現場の課題と解決策を検討する機会としています。大学卒業後、看護学類に再入学し看護師国家資格取得を目指す学生や、企業への就職、大学院進学を選択する卒業生もいます。</p> |
|-------------------------|--|

入学受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|-----------------|--|---|
| 求める人材 | <ul style="list-style-type: none"> - 科学的な知識や語学力などの十分な基礎学力を有し、看護学に関する深い興味と関心が有り、保健医療福祉を支えるための看護について探求し、新しい看護学を開拓できる能力と意欲を有する人材を求めています。 - 科学的な知識や語学力などの十分な基礎学力を有し、ヘルスケアに関する深い興味と関心が有り、国際的にヘルスケアサービスについて探求し開発できる能力と意欲を有する人材を求めています。 | |
| 入学受入れの方針 | Japan-Expert（学士）プログラム | 基礎学力とヘルスケアシステムやヘルスケア技術を学習する動機、日本語での学習能力、適性、感性、社会的適応力、並びに人間性について総合的に評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | | |
|------------------|--|--|
| 学修支援 | <p>授業内においてプレゼンテーションやレポート作成に関する指導を行います。少人数のグループワークにより、教員の指導のもと多様な学生が相互に補完し合い、強みを発揮できる体制を整えています。さらに、ヒューマンエンパワーメント推進局と連携し、学修や実習等における体力的負担に合理的配慮を要する学生への支援を行います。</p> | |
| 学生同士の交流機会 | <p>2年次からの授業ではグループワークを多く取り入れ、協調性やピア学習効果を促進します。学生による反転授業や試験問題作成などの取り組みも実施します。また、ヘルスケアコースの学生との合同授業や、さくらサイエンスプログラムを通じて来日した学生との交流機会も設けています。</p> | |
| 教員との交流機会 | <p>学年担任制度を設け、学生と担任教員の交流を確保します。2年次には「看護学探究概説」において各教員の研究内容を紹介し、これに基づき卒業研究につながる研究室選択を行います。また、学生の関心に応じて、先導的研究者体験プログラム（ARE）を通じて卒業研究の前段階から研究活動に参加する機会を提供しています。</p> | |



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

カリキュラム委員会において、学修成果の達成状況を検討し、教育活動全体に対する点検と改善を継続的に実施することで、教育の質を保証し、学類の目的達成に向けた体制を強化します。

学生主体の授業評価を実施し、学生からの意見を、クラス連絡会（クラス担任制を行っているため可能となる）を通じて教員にフィードバックし、教育の改善に役立てます。

教育の質を保証するために「医学教育企画評価室」を設置し、専門の職員を配置してカリキュラムのプランニング、各種教育プログラム実施支援、評価などの支援を行っています。具体的には、社会のニーズに対応するための新たなプログラムの企画（チーム医療に関する医学群3学類合同コースなど）、評価結果に基づく現行のプログラムの改善、チューター養成、教員研修会、卒業生のフォローアップ調査などを実施しています。

医療科学類

College of Medical Sciences

- 学士（医療科学）
- Bachelor of Medical Sciences
- 学士（国際医療科学）
- Bachelor of International Medical Sciences

人材養成目的 / Program Educational Objectives

医学・医療の様々な分野で活躍するために必要な医科学の基礎的な知識、技能を修得し、医療人としての使命感と責任感を身に付け、医療の向上と発展に貢献する医科学領域の研究・教育を推進する人材および診断や治療に必要な新たな技術の開発とその実践を担う高度専門医療人材を養成することを目的としています。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|---------------|-----|--|--|--------------|--|--|--|---|--|--|--|-----|-----|-----|----|---|---|---|---|-----|----|-----------|-----|
| 養成する人材像 | <p>専門知識とグローバルな視点を活かして、大学や研究所、企業で医学研究に貢献する人材。 研究マインドとリーダーシップをもって、臨床検査技師業務等を通じて医療の向上に貢献する人材。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 卒業後の進路 | <p>卒業後の進路には、大学院進学、病院、一般企業や官公庁への就職などがあります。進学した大学院を修了した後の進路としては、大学教員、国立研究所の研究員、企業の研究職や開発職などがあり、海外研究機関での活動も期待されます。病院への就職では、大学附属病院、公立病院、私立病院、クリニックなどで臨床検査技師として勤務します。また、臨床検査会社をはじめ、多様な企業や官公庁での活躍も期待されます。</p> <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin: 0 auto;"> <tr> <td colspan="4">卒業後の進路</td> </tr> <tr> <td colspan="4">医療科学類</td> </tr> <tr> <td colspan="4">▼</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">61%</td> <td style="text-align: center;">18%</td> <td style="text-align: center;">16%</td> <td style="text-align: center;">5%</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">▼</td> <td style="text-align: center;">▼</td> <td style="text-align: center;">▼</td> <td style="text-align: center;">▼</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">大学院</td> <td style="text-align: center;">病院</td> <td style="text-align: center;">企業 公務員</td> <td style="text-align: center;">その他</td> </tr> </table> </div> | 卒業後の進路 | | | | 医療科学類 | | | | ▼ | | | | 61% | 18% | 16% | 5% | ▼ | ▼ | ▼ | ▼ | 大学院 | 病院 | 企業 公務員 | その他 |
| 卒業後の進路 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 医療科学類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ▼ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 61% | 18% | 16% | 5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ▼ | ▼ | ▼ | ▼ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大学院 | 病院 | 企業 公務員 | その他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

学位授与の方針 / Diploma Policy

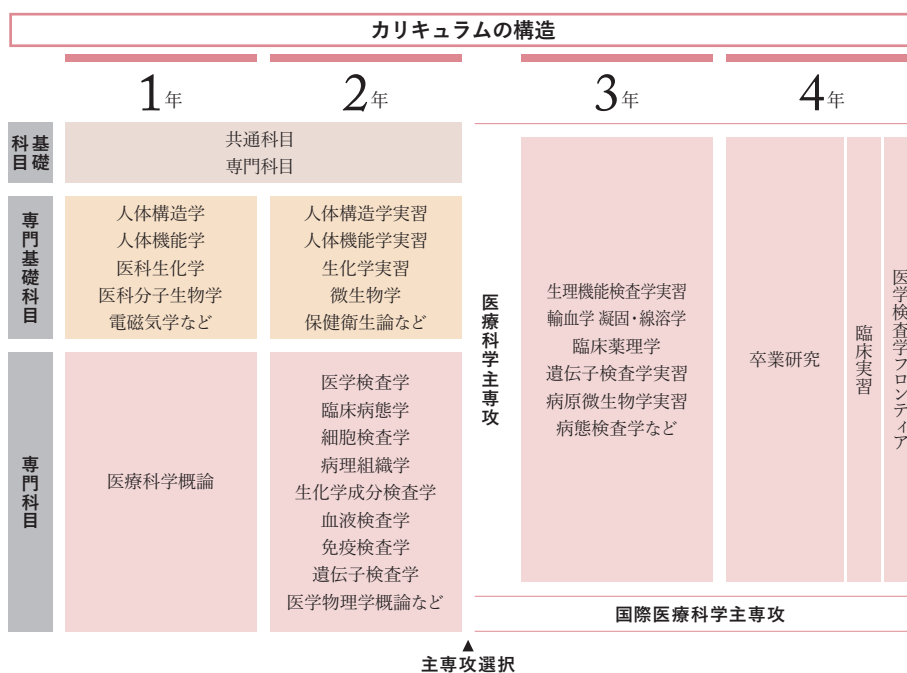
筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群医療科学類の人材養成目的に基づき、以下の専門的な知識・技術・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（医療科学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|--|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 医療人としての倫理性と人間性 | 人間に関する幅広い知識を身に付け、生命の尊厳と倫理を尊重する人間観を学んでいる。 |
| | 2. 人間の健康と疾病の理解 | 医科学の学修に必要な基礎知識と技能、人間の健康と疾病に関する医学的知識を修得している。 |
| | 3. 臨床検査の知識と実践力 | 臨床検査技術に関する基礎的な知識と技能を身に付け、臨床検査技師に必要な専門科目を修得して、臨床検査技師として備えるべき基礎学力、臨床能力ならびに倫理性を身につけている。 |
| | 4. 医科学の研究推進能力 | 医科学分野における研究開発を経験し、自ら研究を推進する幅広い基礎学力、情報収集能力ならびに自学自習能力を獲得している。 |
| | 5. チーム医療の理解と実践能力 | チーム医療の役割を理解し、臨床検査技師として行動する基礎能力と医療コミュニケーション能力を獲得している。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>学位授与の方針に掲げるコンピテンスについて、科目ごとにコンピテンスとの対応関係、評価基準と成績評価方法（確認テスト、小テスト、レポート等）をシラバスに示しています。これらの科目の単位取得状況に基づき、学年末にコンピテンスの達成状況を確認します。学位授与の評価では、学修成果の集大成として卒業研究、病院での臨床実習、国家試験相当の総合試験を重視し、学位授与の方針に掲げたコンピテンスを修得できているか総合的に評価します。卒業研究では、定期的な面談、卒業研究発表、卒業論文を、指導教員を含む複数の教員で評価し、“人間の健康と疾病の理解”、“医科学の研究推進能力”の到達度を評価します。臨床実習（および実習前の実技試験）では、実際の検査業務への取り組みと理解度をもとに、“医療人としての倫理性と人間性”、“臨床検査の知識と実践力”、“チーム医療の理解と実践力”の到達度を評価します。総合試験では、臨床検査技師に必要な知識・能力を網羅した国家試験相当の問題を課すことにより、“人間の健康と疾病の理解”、“臨床検査の知識と実践力”の到達度を評価します。</p> | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（医療科学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-------------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針</p> <p>臨床検査分野の基礎的・専門的知識、関連技能、倫理性、臨床検査技師として社会に貢献する姿勢と基礎能力を養うことを目的とします。そのため、臨床検査技師教育に必要な科目を中心に、幅広い医学分野の科目を配した教育課程を編成・実施しています。</p> <p>順次性に関する方針</p> <p>幅広い教養と自然科学に関する科学的素養を養う科目で構成する基礎科目と、医科学の基礎科目で構成する専門基礎科目を学修した後、専門科目に進みます。専門科目は、臨床検査技師として必要な専門知識と技能を修得することを目的として、講義と実習により構成されています。これらの履修を終えた後は、病院での臨床実習を通して臨床検査技師としての実践力を養います。さらに、卒業前に国家試験相当の総合試験を配置し、臨床検査技師に必要な知識・能力の振り返りと修得度の確認をできるようにしています。また、臨床検査分野に加えて広く医科学各分野の研究の基礎を学ぶために、医学系の各教員が専門とする分野の専門科目、および卒業研究を配置しています。</p> <p>実施に関する方針</p> <p>上記方針により編成された科目を学修することにより、学位授与の方針に掲げるコンピテンスを修得します。“医療人としての倫理性と人間性”は主に基礎科目により、“人間の健康と疾病の理解”は主に専門基礎科目と専門科目によりを修得します。“臨床検査の知識と実践力”は、臨床検査に関連した専門科目、臨床実習、総合試験により修得します。“医科学の研究推進能力”は、医学分野の専門科目、卒業研究により、“チーム医療の理解と実践能力”は、臨床実習や少人数グループ学習により修得します。</p> <p>医療科学主専攻への進級は、3年次進級時に決定します。多岐にわたる臨床検査技師関連科目を修得するためには順次性をもって体系的に学修する必要があることから、進級時に、基礎科目、専門基礎科目、一部の専門科目の学修状況により、進級判定を行います。また、4年次に実施する臨床実習は、臨床検査技師として必要な専門知識、技能の科目を修得していること、および、実技試験に合格していることを条件として履修を認めます。</p> |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>検査技術を中心に医療分野での専門知識と技能、臨床・チームワーク能力を養う講義・実習を中心とした教育を提供しています。多分野の医学領域の専門家から直接指導をうけることができる体制をとっており、学生は最先端の知識や技術を学ぶことができます。</p> |



入学者受入れの方針 / Admission Policy

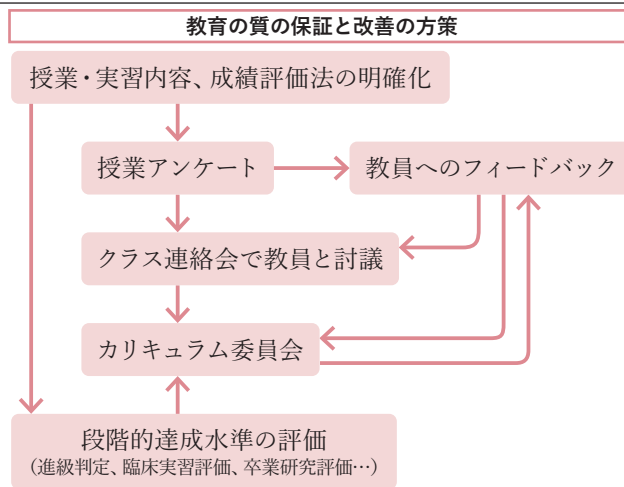
| | | |
|----------------|--|---|
| 求める人材 | 医科学の分野に強い関心をいだき、医科学分野の研究や医学・医療分野の検査技術において国際的に活躍する意欲を持つとともに、チーム医療での役割を理解し、行動することができる柔軟性を持った人材を求めています。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 広い基礎学力と数学、理科、英語の学力さらに医療を志す動機、適性、感性、社会的適応力、主体的に行動する能力などを総合的に評価します。 |
| | 推薦入試 | 医療人を志向する強い動機と適性、人を愛する感性、社会貢献への熱意に加えて、医科学を学ぶために必要な基礎学力と主体的に行動する能力を総合的に評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 医療や医科学を志向する動機と適性、人を愛する感性、社会貢献への熱意に加えて、医科学を学ぶために必要な基礎学力と主体的に行動する能力を総合的に評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 第2種) 英語・日本語の総合学力と数学・理科の基礎的学力、論理的思考力、文章表現力を総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 医療人としての更なる飛躍を目指す動機に加えて、大学で基礎あるいは臨床医学を修得するに足る基礎知識、思考力や学力、主体的に行動する能力などを総合的に評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-------------------------|--|
| <p>学修支援</p> | <p>クラス担任によるガイダンスと面談を通じて学修の指針を周知しています。また、コンピテンス獲得の途中経過を学生自身が確認する機会を設け、主体的な学びを促しています。さらに、キャリアパスセミナーなど進路を考える機会を提供することで、学生が目標に向かって学修意欲を高められるよう支援しています。卒業研究では、研究指導教員とは別にサポート教員を各学生に配置し、定期的な面談により、研究面だけでなく、生活や進路に関するアドバイスも実施しています。</p> |
| <p>学生同士の交流機会</p> | <p>少人数でのグループ学習において、課題解決に向けて学生同士の議論や意見交換の機会を多く設け、互いに刺激を与えあうことで主体的な学びを促進しています。また、卒業研究発表会などでの相互の質疑応答を通じて、研究内容を深く理解し、他者の視点を取り入れながら研究の質を向上させる機会を提供しています。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>クラス担任による定期的なガイダンスや面談により、カリキュラムの理解を促し、学修意欲を高める環境を整備しています。また、卒業研究においては、研究指導教員のほかにサポート教員を配置し、研究の進め方についてきめ細かい指導をおこなっています。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- カリキュラム委員会で学修成果の評価の結果に基づく点検を行い、それを通して教育課程の妥当性や指導の適切性を検証し、教育の質の改善に取り組んでいます。
- カリキュラム委員会において、下記に挙げる調査・評価を実施し、学類の教育活動全体に対する点検を行っています。
 - 進級判定、卒業判定時における学生のコンピテンス対応科目の修得状況の確認
 - 各年次の学生によるコンピテンス到達度の自己評価
 - 学期終了時に行う授業アンケート
 - 授業アンケート、学生アンケートに基づいた、教育課程や授業内容の学生との検討会



学位授与の方針 / Diploma Policy

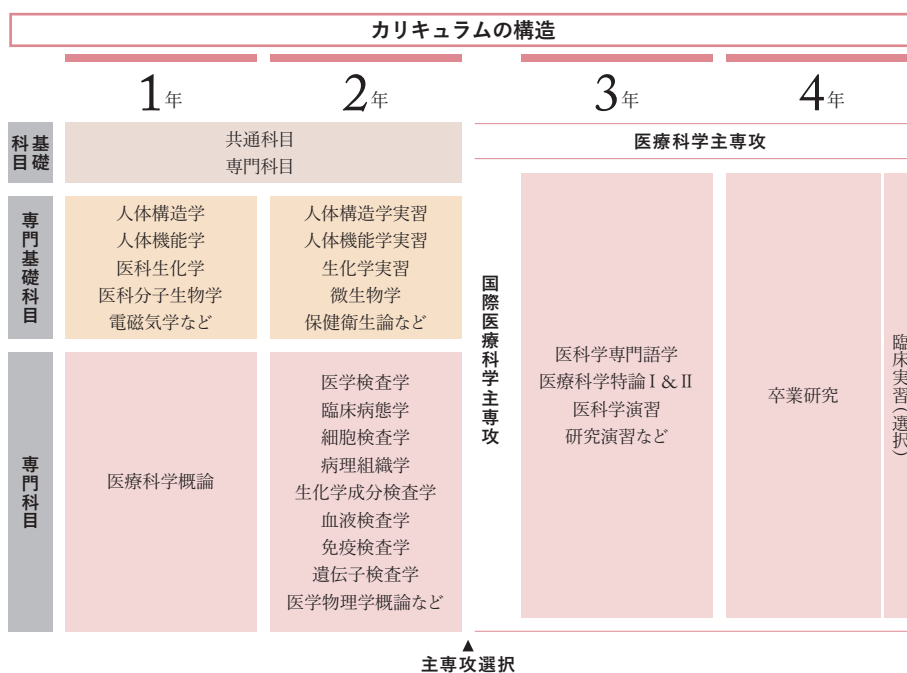
筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ医学群医療科学類の人材養成目的に基づき、以下の専門的な知識・技術・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（国際医療科学）の学位を授与します。

| | | |
|---------------------|---|---|
| 知識・能力（専門 コンピテンス） | 1. 生命科学の倫理と人間性 | 人間に関する幅広い知識を身につけ、生命の尊厳と倫理を尊重する人間観を学んでいる。 |
| | 2. 人間の健康と疾病の理解 | 医科学の学修に必要な基礎知識と技能とともに、人間の健康と疾病に関する医学的知識を修得している。 |
| | 3. 医科学分野の知識と技術 | 医科学分野における研究開発を経験し、自ら研究を推進する幅広い基礎学力、情報収集能力ならびに自学自習能力を獲得している。 |
| | 4. 医科学の研究推進能力 | 医科学研究の原理を理解し、その基本的な技術を身につけている。 |
| | 5. 国際課題の理解と対応立案能力 | 医科学分野における国際的な問題を解決するために必要な学ぶ態度と課題探索能力ならびに対応立案能力を獲得している。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>学位授与の方針に掲げるコンピテンスについて、科目ごとにコンピテンスとの対応関係、評価基準と成績評価方法（確認テスト、小テスト、レポート等）をシラバスに示しています。これらの科目の単位取得状況に基づき、学年末にコンピテンスの達成状況を確認します。また、国際医療科学主専攻では研究者の養成に重点をおいていることから、3年次より卒業研究を実施しています（3年次：研究演習、4年次：卒業研究）。学修成果の集大成として2年間の卒業研究を重視し、下記に記す個別面談、研究発表、卒業論文（研究演習は卒業研究と同様の形式のレポート）を通じて、学位授与の方針に掲げるコンピテンスが修得できているかを評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 所属研究室外の教員を各学生に配し（サポート教員）、年3～4回の定期面談にて研究内容や卒業論文（3年次はレポート）の説明、質疑応答、研究への取り組み等を基に、学修成果の達成状況の評価を行います。 - 各年次で研究発表会を実施し、指導教員以外の複数教員で研究成果・学修成果を評価します。 - 卒業論文（3年次はレポート）は、サポート教員と卒研担当教員（卒業研究と研究演習の科目責任者）で研究成果・学修成果を評価します。 <p>これらの評価と指導教員の評価を総合的に判断し、学修成果の最終的な評価を行います。</p> | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（国際医療科学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-------------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 医科学分野の基礎的・専門的知識、関連技能、国際的な課題の理解と対応立案能力、倫理性、社会に医科学研究者としてグローバルに貢献する真摯な姿勢を養うことを目的とします。そのため、医科学研究とコミュニケーション能力を養うための科目を中心とした教育課程を編成・実施しています。</p> <p>順次性に関する方針 幅広い教養と自然科学に関する科学的教養を養う科目で構成する基礎科目と、医科学の基礎科目で構成する専門基礎科目を学修した後、専門科目に進みます。専門科目では、医科学研究に必要な研究手法と英語での研究コミュニケーション能力を養うための専門科目を多く配置しています。これらの専門科目の履修と並行して、研究とコミュニケーション能力の実践力を養うために長期間の卒業研究を配置しています。</p> <p>実施に関する方針 上記方針により編成された科目を学修することにより、学位授与の方針に掲げるコンピテンスを修得します。“生命科学の倫理と人間性”は主に基礎科目により、“人間の健康と疾病の理解”は主に専門基礎科目と専門科目により修得します。“医科学分野の知識と技術”、“医科学の研究推進能力”は、専門科目や研究演習・卒業研究を通して修得します。“国際課題の理解と対応立案能力”は、実践英語、最新の研究トピックを扱うグループ学習（健康医科学グループワーク、医科学専門語学）、海外での学習・活動（国際生命医科学研修、国際生命医科学）により修得します。国際医療科学専攻への進級は、3年次進級時に決定します。基礎科目、専門基礎科目、一部の専門科目の学修状況、および英語力の客観的な評価により、進級判定を行います。専門英語の修得と討議能力を養うため専門科目を留学生とともに履修し、研究発表と卒業論文作成は全て英語で行います。また、医科学研究の基礎能力と将来を先見した専門能力を養うために、3年次から研究室に所属し、研究演習と卒業研究を行います。</p> |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>留学生と共に講義・実習を履修することで、医科学に関する専門知識と技能、国際的な課題の理解と対応立案能力を身に付ける教育を提供しています。また、研究演習と卒業研究を通じて早期から研究活動に参加し、医科学研究の基礎を修得することができます。</p> |



入学者受入れの方針 / Admission Policy

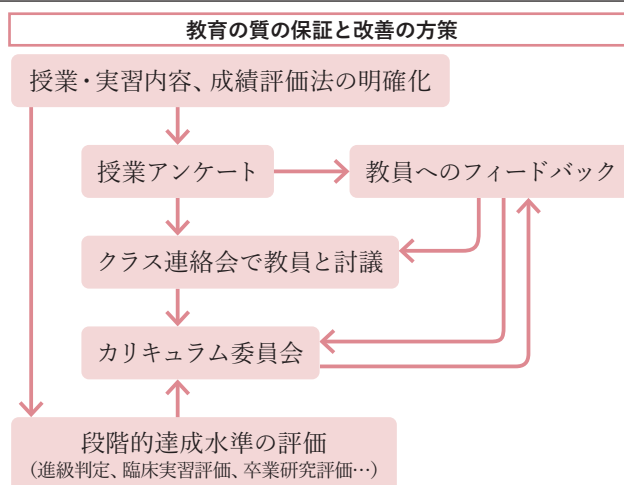
| | | |
|----------------|--|---|
| 求める人材 | 医科学の分野に強い関心をいだき、医科学分野の研究や医学・医療分野の検査技術において国際的に活躍する意欲を持つとともに、チーム医療での役割を理解し、行動することができる柔軟性を持った人材を求めています。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 広い基礎学力と数学、理科、英語の学力さらに医療を志す動機、適性、感性、社会的適応力、主体的に行動する能力などを総合的に評価します。 |
| | 推薦入試 | 医療人を志向する強い動機と適性、人を愛する感性、社会貢献への熱意に加えて、医科学を学ぶために必要な基礎学力と主体的に行動する能力を総合的に評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 医療や医科学を志向する動機と適性、人を愛する感性、社会貢献への熱意に加えて、医科学を学ぶために必要な基礎学力と主体的に行動する能力を総合的に評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 第2種) 英語・日本語の総合学力と数学・理科の基礎的学力、論理的思考力、文章表現力を総合的に評価します。 |
| | 編入学試験 | 医療人としての更なる飛躍を目指す動機に加えて、大学で基礎あるいは臨床医学を修得するに足る基礎知識、思考力や学力、主体的に行動する能力などを総合的に評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-------------------------|--|
| <p>学修支援</p> | <p>クラス担任によるガイダンスと面談を通じて学修の指針を周知しています。また、コンピテンス獲得の途中経過を学生自身が確認する機会を設け、主体的な学びを促しています。さらに、キャリアパスセミナーなど進路を考える機会を提供することで、学生が目標に向かって学修意欲を高められるよう支援しています。卒業研究では、研究指導教員とは別にサポート教員を各学生に配置し、定期的な面談により、研究面だけでなく、生活や進路に関するアドバイスも実施しています。</p> |
| <p>学生同士の交流機会</p> | <p>少人数でのグループ学習において、課題解決に向けて学生同士の議論や意見交換の機会を多く設け、互いに刺激を与えあうことで主体的な学びを促進しています。また、卒業研究発表会などでの相互の質疑応答を通じて、研究内容を深く理解し、他者の視点を取り入れながら研究の質を向上させる機会を提供しています。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>クラス担任による定期的なガイダンスや面談により、カリキュラムの理解を促し、学修意欲を高める環境を整備しています。また、卒業研究においては、研究指導教員のほかにサポート教員を配置し、研究の進め方についてきめ細かい指導をおこなっています。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- カリキュラム委員会で学修成果の評価の結果に基づく点検を行い、それを通して教育課程の妥当性や指導の適切性を検証し、教育の質の改善に取り組んでいます。
- カリキュラム委員会において、下記に挙げる調査・評価を実施し、学類の教育活動全体に対する点検を行っています。
 - 進級判定、卒業判定時における学生のコンピテンス対応科目の修得状況の確認
 - 各年次の学生によるコンピテンス到達度の自己評価
 - 学期終了時に行う授業アンケート
 - 授業アンケート、学生アンケートに基づいた、教育課程や授業内容の学生との検討会



体育専門学群

School of Physical Education, Health and Sport Sciences

- 学士（体育学）
- Bachelor of Health and Physical Education

人材養成目的 / Educational Objectives

優れた運動技能と幅広い運動経験を基盤に、体育・スポーツ、健康、コーチングに関する総合的な知識と最新の科学的知見を活用し、組織を的確にマネジメントして様々な課題を解決できる「知・徳・体」を具備した体育・スポーツ界のリーダーを養成することを目的とします。

| | |
|----------------|---|
| 養成する人材像 | 卓越したスポーツパフォーマンス、科学的探究心、そして創造的な実践力を備え、学校、スポーツ行政・クラブ運営、健康・フィットネス、ビジネス、競技スポーツなど多様な分野において国内外の最前線を拓くことのできる人材を養成します。 |
| 卒業後の進路 | 卒業生は学校（教職員）、官公庁（国家・地方公務員）、スポーツ・健康関連企業・団体のほか、様々な業界（メーカー、商社、金融・保険、運輸・旅行、広告・メディア、IT・通信、建設・不動産、サービスなど）に就職しています。選手やスタッフとしてプロチームや実業団の道に進む者もいます。また、例年は卒業生の約25%が国内外の大学院に進学し、研究者や高度専門職業人としての学びを深めています。 |

- 学士（体育学）
- Bachelor of Health and Physical Education

学位授与の方針 / Diploma Policy

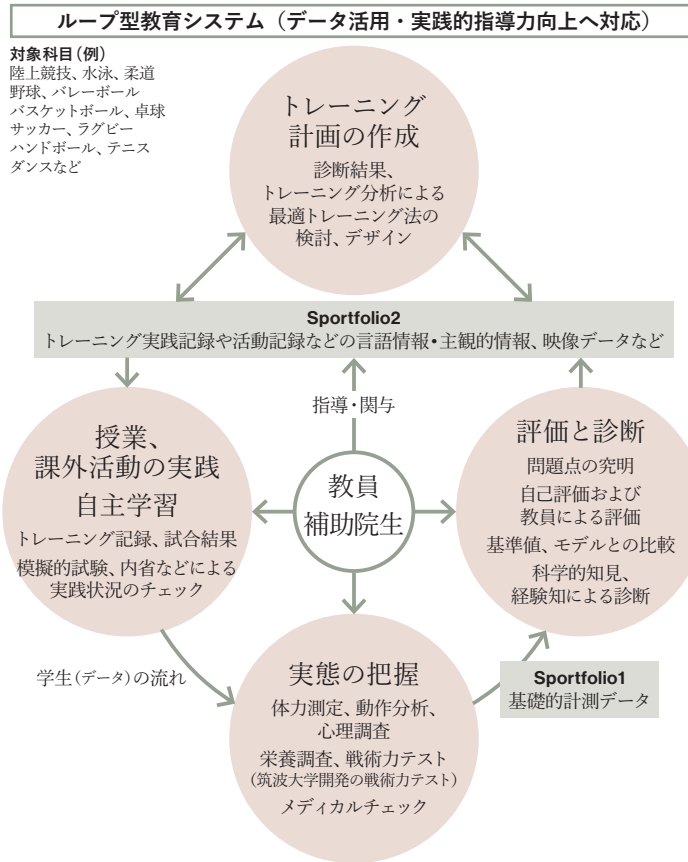
筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本学群の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（体育学）の学位を授与します。

| | | |
|------------------------|--|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 体育・スポーツ学の理解 | 体育・スポーツ学に関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。 |
| | 2. 体育・スポーツ学の分析能力 | 体育・スポーツ学に関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。 |
| | 3. 健康体力学の理解 | 健康体力学に関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。 |
| | 4. 健康体力学の分析能力 | 健康体力学に関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組むことができる能力を身に付けている。 |
| | 5. コーチング学の理解 | コーチングに関する幅広い知識と理論を身に付け、それらを今後の社会との関係から体系づける能力を身に付けている。 |
| | 6. コーチング学の応用展開力 | 特定の運動種目に関する高い運動能力とアスリートに対する指導力、あわせて幅広い運動に関する基本的な技能と初心者に対する指導力を身に付けている。 |
| | 7. キャリア形成能力 | 嘉納治五郎先生の「精力善用・自他共栄」「一世化育」の理念を理解し、体育・スポーツ組織をマネジメントするためのリーダーシップやコミュニケーション力(外国語能力を含む)を身に付けている。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | 学位授与の方針に掲げるコンピテンスについて、科目ごとに対応関係、評価基準と成績評価方法をシラバスにおいて示し、各授業科目について確認テスト（試験）、レポート、毎回のコメントシート等によって評価を行うとともに、全体の履修状況に応じたコンピテンスの修得状況を評価します。加えて学修成果の集大成として卒業研究を重視し、各卒業研究領域での中間発表、卒論論文および最終発表などを通じて学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）の修得状況を評価します。これらを総合し、最終的には学群教育会議において学位授与の方針に基づく学修成果の最終的な評価を行います。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学位授与方針に掲げる7つのコンピテンスを身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-------------------------|---|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 主専攻は体育学1専攻です。体育・スポーツ、健康、コーチングに関する講義や演習、実習を通して、体育・スポーツ界のリーダーに必要な「知・徳・体」を身に付けます。その際には、体育学を創設した嘉納治五郎先生の教育理念を念頭に、これからの社会に必要な体育・スポーツのあり方について追究します。</p> <p>順次性に関する方針 1年次及び2年次には、基礎科目、専門基礎科目を中心に、体育・スポーツ、健康、コーチングの分野に関する理論的な授業と各種実習（学外を含む）を通して基礎的・総合的な知識と技能を身に付けます。3年次からは分野別専門科目、キャリア支援科目を中心に履修するとともに、自らの関心によって選択した卒業研究領域（38領域）において最新の科学的知見を学修し、卒業論文の執筆を行います。これは学群教育の一つの集大成であると同時に、大学院進学への足がかりにもなります。</p> <p>実施に関する方針 卒業研究領域の選択を含めて、各授業科目の選択は学生の自主性に任せられていますが、基本的な履修モデルを作成し、学修プロセスを示しています。本学群では、教育課程全体を通じて学生の課題解決学習が重視されており、特に実技授業においては映像データなどの豊富なデータベースが用意され、自学自習できるように工夫されています。</p> <p>コンピテンスと対応する科目区分や科目群、主要科目等は、カリキュラム・マップ（下記URL）を参照して下さい。</p> <p>https://www.tsukuba.ac.jp/education/policy-tstandard/ugstandard/pdf/2026/physical-education-health-sport-sciences-c.pdf</p> |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>本学群では、講義や演習に加えてチュートリアル型授業、臨海実習や雪上実習、さらに関係団体でのインターンシップなどを通じた実践的な学びを重視しています。また、正課での学びと運動部活動を教育上の重要な機会と位置づけ、座学で得た理論的知見を自身とチームのパフォーマンス向上に応用する力を養い、ひいては将来指導者として必要となるコーチング力の修得を目指します。さらには国際試合への出場や留学生等との交流を通じて、社会で広く活躍するための国際的感覚を育むことを目指します。</p> |



| 育成する能力とカリキュラム構成 | | | |
|--|----|---|----|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
| 専門基礎科目(約40単位) 体育学を専門的に学ぶ全ての学生に必要な 最低限の基礎的知識と運動技能を学修する科目群 | | 専門科目(約50単位) | |
| 体育・スポーツ学関連科目(10単位) コーチング学関連科目(4単位) 健康体力学関連科目(10単位) 実技理論・実習(8単位)ほか | | キャリア支援科目(10単位) 体育・スポーツの職業領域で活用される 実践的な知識・技術を習得する科目群 | |
| | | 分野別専門科目(10単位) 体育学を構成する個別専門諸学の専門的知識を 発展的に学習する科目群 | |
| | | 卒研究領域科目(14単位) 選択した研究領域の最新の知見や研究方法を 習得する演習・実習型科目及び卒業研究 | |
| | | 実技系科目(3単位) 専門とする運動種目の実技力と指導力の レベルアップを目的とする科目群 | |
| 基礎科目(約30単位) 総合科目、外国語、情報処理、国語など | | | |
| 教職科目 | | | |

入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | |
|----------------|--|--|
| 求める人材 | 体育・スポーツ、健康、コーチングに関する分野に強い関心があり、教養を高め運動経験の幅を広げるだけでなく、これまで身につけた運動技能や関連する知識をさらに高めて、体育・スポーツの国内的・国際的発展に貢献する情熱と意欲を持った人材。 | |
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 優れた学力及び運動能力を有し、体育・スポーツ、健康、コーチングの分野での活躍が期待できる人材を選抜するために、学力と運動能力の両方を対等に評価します。 |
| | 推薦入試 | ひとつの運動種目に抜群の技能を有し、体育・スポーツ、健康、コーチングの分野での活躍ができる人材を選抜するために、本学群における修学力とともに、運動技能を重点的に評価します。 |
| | AC 入試 | スポーツに関する科学的知識の主体的な活用と論理的思考力、およびそれらに基づいた、ひとつの運動種目における特に優れた技能や卓越した取り組みを多面的に評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 体育・スポーツ、健康、コーチングの分野に強い関心を持ち、将来、それらの分野で国際的に活躍できる学力、運動能力、国際性を総合的に評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 体育・スポーツ、健康に対する強い関心と、思考能力、基礎的な日本語能力、高い英語能力、及び優れた運動能力を総合的に評価します。 第2種) 体育・スポーツ、健康に対する強い関心と、保健体育に関する基礎学力、高い英語能力、日本語能力、及び優れた運動能力を総合的に評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------------------|---|
| 学修支援 | 本学群の学生が主に利用する体育・芸術エリア 5C 棟 2 階に、語学学習や国際的なコミュニケーションを促進するための「Student Commons for Athlete」、教員採用試験関連の指導を行う「体育系教職サポートルーム」を設置し、より効果的な学修を支援しています。また、1 年次秋学期に、大学において自ら探究してみたい学問的な課題を見つけ、その探究の進め方を計画し、文献調査や教員への聞き取りなどを行いながら探究を試みる授業「体育学探究チュートリアル」を開設しています。そこでは、アドバイスを行うチューター教員が探究への相談や助言を行います。 |
| 学生同士の交流機会 | 日常の講義や演習、実習、運動部活動などに加えて、例えば舞踊論研究領域が主催する「卒業ダンス公演」も、学生にとって貴重な交流の場となっています。毎年、この公演には学年や専門競技・種目の枠を超えて数百名の学生が集い、新たな仲間とともに独創的で迫力あるステージを創り上げています。また、体育スポーツ局が主催する各種のスポーツイベント（TSUKUBA LIVE! など）にも多くの学生が参画し、学んだ知識を実践する場を得ています。 |

| | |
|------------------------|---|
| <p>教員との交流機会</p> | <p>各科目における授業担当教員のほか、クラス担任、卒業研究領域での指導教員、そして運動部活動における教員（顧問、部長、監督、コーチなど）との豊かな交流機会があります。また、学群クラス連絡会を通じて教員と学生との意見交換の場を設けています。総じて本学群担当の約 120 名の教員が各学生の学修を多角的に支援しています。</p> |
|------------------------|---|

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

学生の学習意欲向上のための成績評価観点と基準を設定し、シラバスに明記して、教員と学生双方の共通理解の上に、授業の運営並びに成績の評価を行います。

特に教育課程委員会や FD 委員会を中心に、学生の学修成果・授業アンケートに関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証しています。

幅広い実技・指導能力と学力の修得状況を学生と教員が相互に確認し合い、教育と学習の方向性を明確にするため、実技検定を実施し、各自の運動能力と指導力の向上を支援する体制を整えています。

大学院生と連携した演習を通して、質の高い授業を展開するとともに、大学院進学への意識を啓発します。大学と協定を結んでいる外部団体と連携して研修会等を実施し、国際交流や国際開発への意識を高めます。

芸術専門学群

School of Art and Design

- 学士（芸術学）
- Bachelor of Art and Design

人材養成目的 / Educational Objectives

学際的・国際的な視野と確かな学力を持った、美術及びデザインの専門家を養成することを目的とします。複雑化する社会の諸問題や美術・デザインに関する学問的な課題・要請に美術やデザインの手法で解決策を提案することができる人材を養成します。

| | |
|----------------|--|
| 養成する人材像 | 柔軟な発想力と豊かな表現力を備え、創造的な活力に満ちた専門家として、それぞれの専門性に応じた美術・デザインによる表現を通じて、社会に貢献できる人材。 |
| 卒業後の進路 | 卒業生の数だけ進路はあります。 卒業生は、大学院への進学、企業への就職、あるいは独立した作家、デザイナーなど、様々な分野において自己を実現していきます。その一方で、社会から学群・大学院へと、再教育のため大学を訪れる者もいます。 就職先の例（留学後や大学院修了者を含む） 作家・デザイナー、絵本作家、画家、各種デザイナー、建築家、書家、造形作家、彫刻家、都市計画家、プロデューサー、漫画家 他 企業就職の他、行政・自治体の職員、大学教員、学校教員、学芸員、研究員 |

- 学士（芸術学）
- Bachelor of Art and Design

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく知識・能力（汎用コンピテンス）、ならびに本専門学群の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（芸術学）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|--|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 創造的表現力 | 芸術に関する独創的で柔軟な発想や思考を、美術・デザインの専門的知識・技能を駆使して適切に表現する能力。 |
| | 2. 問題解決能力 | 美術・デザインに関する諸問題を自発的に見出し、習得した知識・技能を活用して柔軟な考察と的確な判断によって解決する能力。 |
| | 3. 幅広い知識に基づく論理的思考力 | 学際的・国際的な教育による幅広い視野と専門的な知識・経験に基づき、多様な諸課題に対して論理的に思考する能力。 |
| | 4. 感性豊かなコミュニケーション能力 | 感性を共有し協働する能力を培い、豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーションができる能力。 |
| | 5. 自律的・社会的な創造活動のための基礎力 | 社会における芸術の意義と役割を理解し、美術・デザインの専門家として自律的に創造活動を継続できる能力。 |
| 学修成果の評価に関する方針 | <p>卒業に必要な要件を満たした上で、最終的に「学位授与の方針」に掲げた知識・能力（コンピテンス）について、学修の成果を集約または発展させた卒業研究（「論文」および「作品」、もしくは「論文」）を中心にして授業や課外活動等の取組を含めて、以下の評価の観点により各14領域毎に領域の担当教員が評価を行います。</p> <p>【創造的表現力】</p> <p>①芸術に関する独創的で柔軟な発想や思考をもとに表現できるか</p> <p>②専門的な学びを通じて得られた知識・技能を駆使して表現できるか</p> <p>【問題解決能力】</p> <p>①美術・デザインに関する諸問題を自発的に見出しているか</p> <p>②社会における諸問題を自発的に見出しているか</p> <p>③習得した知識・技能を活用して柔軟な考察と的確な判断によって解決方法を提案して実践できているか</p> <p>【幅広い知識に基づく論理的思考力】</p> <p>①学際的な教育による知識・経験が反映されているか</p> <p>②美術・デザインにおける専門的な知識・経験が反映されているか</p> <p>③幅広い視野が思考に反映されているか</p> <p>④美術・デザインに関する事柄を外国語で発表できるか</p> <p>【感性豊かなコミュニケーション能力】</p> <p>①卒業制作展の運営に関わり、制作・研究の公开发表ができるか</p> <p>②美術・デザインについての発表や批評、ワークショップ等により、広く他者との交流を図れているか</p> <p>【自律的・社会的な創造活動のための基礎力】</p> <p>①専門的な学びを通じて独自の美意識を養うことができるか。</p> <p>②社会における芸術の意義と役割に対する理解を深めたか</p> <p>③美術・デザインの学びを通して作品・論文を完成させることができるか</p> <p>④学内外における展覧会、学会などで制作・研究の発表ができるか</p> | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（芸術学）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|-----------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <p>総合的な方針 総合大学における芸術教育の場という特色を活かし、広く学際的な知性（汎用智）と、深い専門能力（専門智）に芸術的感性を統合した統合智を醸成し、創造力に溢れた美術及びデザインの専門家を育成します。 美術・デザインの諸領域の基礎を横断的に履修する専門基礎科目と、専門科目によって芸術の専門的基盤を形成します。さらに、学年や専門分野の枠を超えた横断的科目を配置することによって感性豊かなコミュニケーション能力を養います。</p> <p>順次性に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 基礎と専門が統合されたカリキュラム 1・2年次では、多様な専門に繋がる基礎科目を必修とし、芸術に関する創造的表現力、問題解決能力、論理的思考力を柔軟に使いこなす基盤を養います。また、専門領域の基礎を学ぶと同時に学際的・国際的な講義・演習を選択的に履修することで専門的な知識の活用力を養います。 3年次以降に、諸領域におけるより高度な専門科目の講義や演習・実習を通じ、多様な諸課題に対する論理的思考力と横断的知識を活かす卓越した表現力や説得力を養い、卒業研究へと結びつけます。 - 卒業研究 4年間の集大成である卒業研究は学生の自立を保証するものです。卒業研究の指導では、学生自ら研究テーマを見出し、思考し、表現することにより、美術・デザインの専門家として自律的・社会的に創造活動を行う基礎力を養い、感性溢れる表現能力や感性を共有し豊かでクリエイティブな人間関係を形成するコミュニケーション能力を磨きます。基本的にすべての卒業研究は学外の公立美術館等で公開展示され、卒業研究作品集の公刊とともに社会の評価を仰ぎ、優秀作品は顕彰され大学に收藏されます。 <p>実施に関する方針</p> <ul style="list-style-type: none"> - 学生の個性を尊重した教育 芸術教育において学生の個性は最大限に尊重されるべきものです。諸領域における専門教育は可能な限り少人数クラスとし、対話を通して個性を伸ばす指導を行います。 - 「現場」と繋がる授業 全学の学生・教員や市民と協働する学際的カリキュラムを配置し、企業、行政、美術館、教育現場等との協働や教育交流など、実務と直結した教育を実施し、時代に即した高いコラボレーション力と学際的な視野を持つ学生を育成します。 - 創造的表現力と論理的思考力の両立制作と論文執筆の二つを卒業要件とすることで、ものづくりの実践による創造的表現力と、客観的・論理的な思考方法を基盤とした確実な文章表現力の習得をめざします。 - 世界的視野に基づく創造力の育成 国際交流協定等に基づく交換留学や研究交流、作品交流展、国際インターンシップなどの機会を活用し、国際的コミュニケーション能力と世界的視野に立った創造力を育成します。 <p>Japan-Expert（学士）プログラムについて Japan-Expert(学士)プログラム日本芸術コースでは専用の集中日本語授業を開設します。学生は、入学後半年間は集中的に日本語を学び、専門科目等を受講できる日本語能力の向上を目指します。日本語教育は、文法・漢字・聞く・話す・読む・書くといった総合的な運用能力を高めるために、日本語教育専門の教員が担当します。また、「専門日本語」として、各コースの教員が担当する授業も開設しますので、集中日本語教育期間終了後には、各コースの専門科目の受講がスムーズになります。また、インターンシップを必修とすることで、現場力・実践力が身に付けられます。日本国内における就職も視野にいれつつ、外部機関とも連携を図りながら、各コースの専門に即した現場体験を行います。</p> |
|-----------------------|--|

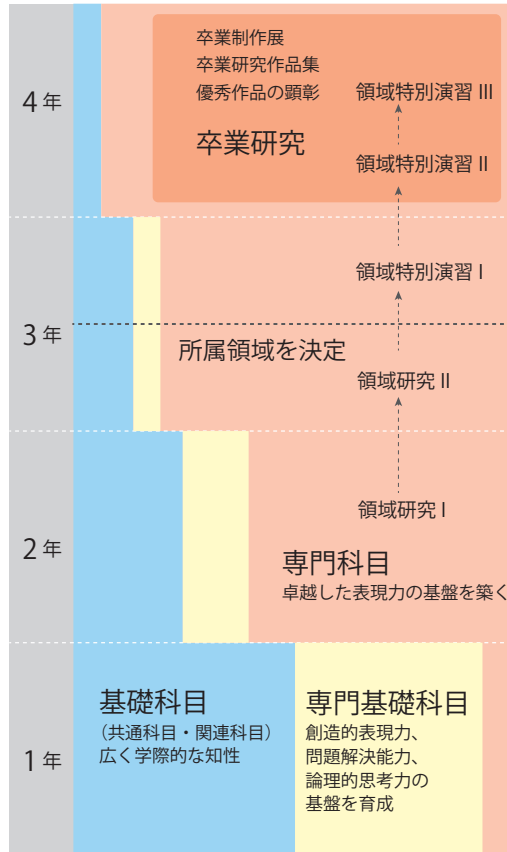
学修の方法
特色的な教育

卒業研究の公開展示や卒業研究作品集の公刊によって学外の評価を仰ぎます。

教育課程編成・実施の方針

学際的な知性と深い専門能力に芸術的感性を統合した創造的人材

汎用智と専門智による総合智の醸成



入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材

芸術を追求する熱意のある人材、社会的・国際的観点から創造活動にチャレンジする意欲のある人材、多領域に関わる知識や方法に基づいた美術・デザインによる表現によって社会に貢献する意欲のある人材を求めています。

| | | |
|---------|-----------------------|--|
| 入学者選抜方針 | 個別学力検査等前期日程 | 幅広い基礎学力と芸術に関する能力を総合的に評価します。 |
| | 個別学力検査等後期日程 | 基礎学力と芸術に関する基礎的な能力を総合的に評価します。 |
| | 推薦入試 | 高等学校（後期中等教育）における学習や活動の成果に加え、芸術に関する資質、意欲、能力を総合的に評価します。 |
| | 国際バカロレア特別入試 | 国際バカロレア資格を取得した者を対象として、本学の教育を受けるのに必要な基礎学力、問題発見・解決能力、行動力等の一般的能力と、芸術に関する資質、意欲、基礎的な能力を総合的に評価します。 |
| | 外国学校経験者特別入試 | 第1種) 高等学校（後期中等教育）における学習・活動の成果や日本語能力に加え、芸術に関する資質、意欲、基礎的な能力を総合的に評価します。 第2種) 高等学校（後期中等教育）における学習・活動の成果に加え、芸術に関する資質、意欲、基礎的な能力を総合的に評価します。 |
| | Japan-Expert（学士）プログラム | 高等学校（後期中等教育）における学習の成果や日本語能力に加え、提出された書類や作品等も含め、芸術に関する資質や意欲を総合的に評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-----------|--|
| 学修支援 | 効果的な学修を支援するために以下の活動を行っています。 <ul style="list-style-type: none"> - 新入生オリエンテーション - カリキュラムガイダンス - 技術職員または事務（技術）補佐員による工房撮影スタジオでの撮影講習会 - 金属加工室、木材加工室、総合加工室において、技術職員による制作相談および機器の取り扱い方法等を含めた安全講習を随時行っています。 |
| 学生同士の交流機会 | 「筑波大学アートギャラリー T+」の活動：学生が主体となって運営するアートギャラリー T+ では、自由な発表の場として、平面作品、立体作品、インスタレーション、映像作品など、さまざまなジャンルの作品を展示することができます。また、学生による企画展示も行われており、創造的な交流の場となっています。さらに、SNS やフリーペーパーを通じて情報発信も積極的に行っており、学生同士が互いの作品を展示・鑑賞することで、ピア効果の向上が期待されます。 |
| 教員との交流機会 | 芸術専門学群学生委員会、クラス連絡会、クラス担任、卒業研究指導教員によって丁寧に教育等に関する学生の意見集約を行い、全学組織のチュードントサポートセンター、保健管理センターなどと連携して、健康で有意義な学生生活がおくれるように支援しています。 |

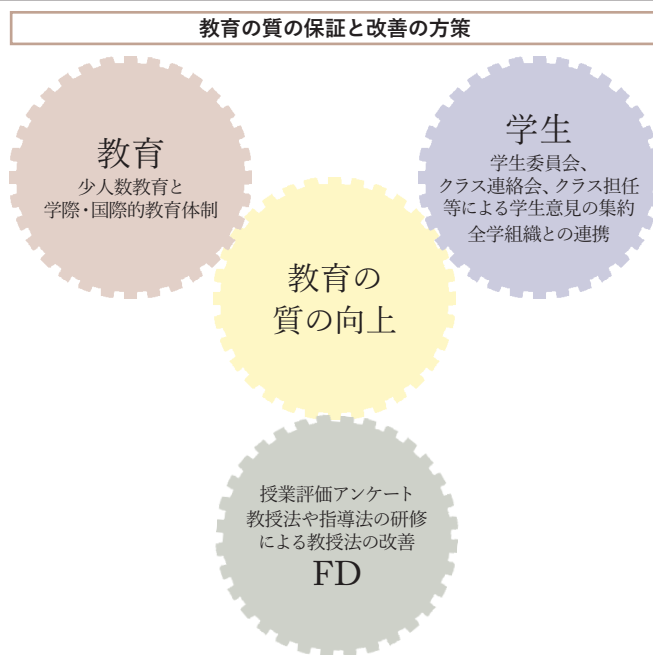
教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

教育の質の保証

- 芸術専門学群カリキュラム委員会において学修成果の評価の結果に基づく点検を通して教育活動全体に対する改善を継続的に実施することで、教育の質を保証し、芸術専門学群の人材養成目的達成に向けた体制を強化します。
- 学内外の展覧会・研究会において積極的に作品や研究の発表を行うことを奨めています。その結果、学生は自身の力を認識し、教員は教育を客観視することができ、教育の質の向上につながっています。

教育改善への学生意見の反映

- 芸術ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会を中心に、学生による授業評価アンケート、教授法や学生指導法の研究・研修を行い、継続的に教育方法を改善しています。



学際サイエンス・デザイン専門学群

School of Transdisciplinary Science and Design

- 学士（学術）
- Bachelor of Arts and Science

人材養成目的 / Educational Objectives

データサイエンスを基軸とし、自然科学、人文社会科学の考え方、技術を広く環境・社会問題等に適用し、デザイン思考を踏まえつつ創造的に地球規模課題解決に貢献する人材を育成します。

| | |
|---------|---|
| 養成する人材像 | データサイエンスを基軸とし、自然科学、人文社会科学の考え方、技術を広く環境・社会問題等に適用し、デザイン思考を踏まえつつ創造的に地球規模課題解決に貢献する人材 |
| 卒業後の進路 | 日本国内、あるいはマレーシア国内の大学院（情報科学、人文社会科学、生命科学、環境科学、教育学、スポーツ科学、理工学等）へ進学する。・マレーシアの日系企業、あるいは日本国内の企業に就職する。・マレーシア国内の政府系機関・団体・企業等に就職する。 |

- 学士（学術）
- Bachelor of Arts and Science

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本専門学群の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士（学術）の学位を授与します。

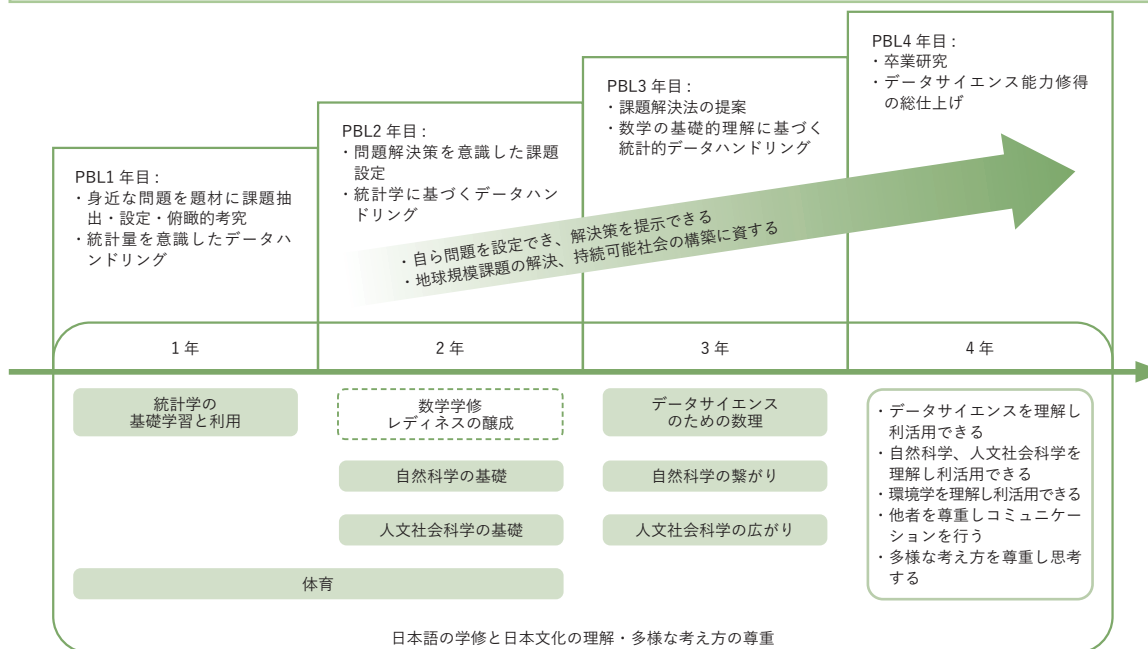
| | | |
|---------------------|---|--|
| 知識・能力（専門 コンピテンス） | 1. データサイエンス 活用力 | データサイエンスを理解し利活用できる能力が身についている。 |
| | 2. リベラルアーツ 活用力 | 地球規模課題解決の観点から、自然科学、人文社会科学を理解し利活用できる能力が身についている。 |
| | 3. 環境学活用力 | 環境学を理解し地球規模課題解決のために利活用できる能力が身についている。 |
| | 4. コミュニケー ション力 | 多様な他者に敬意を払いつつ円滑なコミュニケーションをとる能力が身についている。 |
| | 5. 多文化思考力 | 日本文化や伝統の理解を通じた多様な価値観に基づき思考する能力が身についている。 |
| 学修成果の評価に 関する方針 | 卒業研究を含む課題解決型学修（Problem Based Learning; PBL）については、各年次末において、学修成果を報告する発表会を実施する。卒業研究発表においては、指導教員に加えて複数の教員により、学位授与の方針に掲げた知識・能力（コンピテンス）の修得状況を評価する。その他の授業科目においては、学位授与の方針に掲げるコンピテンスについて、科目ごとに対応関係、評価基準と成績評価方法をシラバスにおいて示し、学修成果が可視化できる確認テスト・レポートを各学生に課し、コンピテンスの修得状況を評価する。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士（学術）に係る学修成果を身に付けるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>教育課程の 編成方針</p> | <ul style="list-style-type: none"> - 人文社会科学の基礎、日本文化と社会の理解、自然科学の基礎、データサイエンスの基礎学理となる数学やプログラミング、統計の基礎と応用に関する授業科目を設定する。特に、データサイエンスを基軸として思考・実践できるようにするための配慮として、情報リテラシー及びデータサイエンスを1年次に配当した後、これらの科目で修得した内容を、課題解決型学修を行う科目で利用・応用するようにして経験を積むことでデータサイエンスを深く理解するためのレディネスを涵養し、3年次でデータサイエンスに関連して基礎となる数学を配置することで理解を深められるようにする。 - 時事課題に関する論考や課題解析、課題解決法の提案などに関する演習を、課題解決型学修で実施する授業科目として構成し、十分な学修量（単位数）を確保して設定する。これらの演習は入学当初から3年次まで配当する。4年次は3年次までに涵養した能力と、学生各自が選択した問いを探究すべく卒業研究を実施する。 - 本学で定める共通科目として必要な総合科目3科目、体育、外国語、情報リテラシーとデータサイエンスを配当し、本学学士課程において共通に修得すべき能力を涵養する。 - マレーシアにおける高等教育政策に基づき、マレーシアの社会や言語等に関する科目を配当する。 - データサイエンスを基軸として各授業科目間の連携を明確にし、自然科学基礎、人文社会科学基礎、日本語と学問等の専門基礎科目で学んだ知識、技術が、時事課題解析演習、時事課題解決法提案演習等の課題解決型学修において有用であることを学生が理解できるようにする。 - 課題解決型学修を行う科目及び卒業研究の各年次末において、学修成果を報告する発表会を実施する。各学生には、学修成果が可視化できるレポートを提出させ、また学修成果に関する口頭発表を課す。これらの内容により各学生の学修成果を評価する。 |
| <p>学修の方法 特色的な教育</p> | <p>本専門学群の人材養成目的を達成するため、特にグローバル化の世界において地球規模で生起する諸課題に対して解を見つけられるように、科学的エビデンスに基づきデータサイエンスによって抽出・特定する能力を涵養するべく、課題解決型学修（Problem Based Learning: PBL）を教育課程の中で多く取り入れます。こうして実社会での実装も視野に入れた具体的な解決策を提示できる能力を育成することに重点を置きます。</p> |

課題解決型学修（PBL: Problem Based Learning）を中心にしたカリキュラム



入学者受入れの方針 / Admission Policy

| | | | | | |
|----------------|--|-------------|---|-------------|--|
| <p>求める人材</p> | <ol style="list-style-type: none"> マレーシア及び東南アジア域等において顕在化する地球規模課題とその解決に、強い関心と意欲を持っている。 地球規模課題解決のために自然科学及び人文社会科学を学ぶことに関し、関心と意欲を持っている。 客観的なデータや資料に基づき情報の適否を判断し、自身の考え方を合理的にまとめることに関し、関心と意欲を持っている。 日本語や日本文化に関心を持つとともに、多様な価値観や考え方を尊重することができる。 | | | | |
| <p>入学者選抜方針</p> | <table border="1"> <tr> <td data-bbox="379 1469 683 1603"> <p>推薦入試</p> </td> <td data-bbox="683 1469 1433 1603"> <p>高等学校等において優秀な成績を修め、地球規模課題解決への高い関心と学修意欲等があること、かつ日本語で学ぶ素養があることを総合的に評価します。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="379 1603 683 1729"> <p>適性入試</p> </td> <td data-bbox="683 1603 1433 1729"> <p>全般的な基礎学力と、データサイエンスを学ぶ上で必要となる高度な理解力、思考力、地球規模課題への関心と表現力等を総合的に評価します。</p> </td> </tr> </table> | <p>推薦入試</p> | <p>高等学校等において優秀な成績を修め、地球規模課題解決への高い関心と学修意欲等があること、かつ日本語で学ぶ素養があることを総合的に評価します。</p> | <p>適性入試</p> | <p>全般的な基礎学力と、データサイエンスを学ぶ上で必要となる高度な理解力、思考力、地球規模課題への関心と表現力等を総合的に評価します。</p> |
| <p>推薦入試</p> | <p>高等学校等において優秀な成績を修め、地球規模課題解決への高い関心と学修意欲等があること、かつ日本語で学ぶ素養があることを総合的に評価します。</p> | | | | |
| <p>適性入試</p> | <p>全般的な基礎学力と、データサイエンスを学ぶ上で必要となる高度な理解力、思考力、地球規模課題への関心と表現力等を総合的に評価します。</p> | | | | |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|-------------|--|
| <p>学修支援</p> | <p>課題解決型学修（Problem Based Learning: PBL）を常に行っており、この授業の中で、教員が学生の学修を支援する体制を整えている。</p> |
|-------------|--|

| | |
|------------------------------|--|
| <p>学生同士の 交流機会</p> | <p>スポーツイベントや新入生を迎えるネットワークイベントを、学生が主体的に企画・実施し、これを教職員が全面的にサポートする体制を整えている。学生主体の学生交流イベントを通じて、学生同士が話をしやすい雰囲気が醸成され、共修効果の高い、積極的な学びの場が形成されている。</p> |
| <p>教員との交流機会</p> | <p>学生と教員・職員との意見交換の場を年に2～4回設定している。学生からの意見を取り上げて、よりよい学びの場とする改善を継続的に行っている。</p> |

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

本専門学群における自己点検・評価を行う PDCA 委員会を設置しています。この組織は、本専門学群の教育研究活動の改善及び質の向上を図るため、

- ①学修成果の評価結果に基づく質向上提案
- ②本学の組織評価委員会が実施する組織評価項目に関する自己点検及び質向上提案
- ③質保証に関する定量的・定性的データの継続的な収集
- ④その他必要と考えられる事項についての取組

を行います。上記①及び②の質向上提案は、本専門学群内において対応する事項を担当する委員会に対して行われ、当該委員会はその提案に基づき改善アクションをとります。このようにして、本専門学群内における質の保証と向上に関する PDCA サイクルを確立します。

グローバル教育院

School of Integrative and Global Majors

地球規模課題学位プログラム

Bachelor's Program in Global Issues

- 学士（学術）
 - Bachelor of Arts and Science
-

地球規模課題学位プログラム Bachelor's Program in Global Issues

- 学士（学術）
- Bachelor of Arts and Science

人材養成目的 / Program Educational Objectives

本学位プログラムは、地球規模課題全般を俯瞰する幅広い基礎知識を身に付け、人間と環境に関する課題を解決するために分野を超えて必要な情報・技術を自ら意欲的に求めていく姿勢を持ち、多くの選択肢の中から最適な解決を意思決定できる人材を養成します。

| | |
|-----------------------|---|
| <p>養成する人材像</p> | <p>国際機関や研究機関、あるいは世界展開している企業など、地球規模の課題を解決するあらゆる場で、柔軟で論理的な思考力と、興味に応じた高度な専門知識を武器に活躍できる人材を養成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文理融合の立場から、地球規模課題を俯瞰できる幅広い基礎知識と体系的な専門知識を備えている人材 - 地球規模課題に関して、多角的な視点から総合的に分析し、創意工夫によって課題解決に取り組む能力を備えている人材 - グローバル社会において自分自身の見解を論理的かつ説得的に主張しつつ、他者の意見にも十分耳を傾ける柔軟なコミュニケーション能力を有し、異分野・異文化の環境において積極的にリーダーシップを発揮し、社会に貢献できる能力を備えている人材 - グローバル社会における多様な価値観を尊重しつつ、公正で持続可能な社会の形成に資する高い倫理観を備えている人材 |
| <p>卒業後の進路</p> | <p>国際機関や研究機関、あるいは世界展開している企業など、地球規模の課題を解決目指す組織。具体的には、グローバル企業（製造業、コンサルティング、教育等）、総合商社（環境ビジネス、医療・健康機器・食品業界、海外リスク管理企業等）、国際機関（UN、WHO、UNESCO等）、大学院進学を想定しています。卒業生の約3割は筑波大学を含む国内外の大学院に進学しています。</p> |

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、地球規模課題学位プログラムの人材養成目的に基づき、以下の知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（学術）の学位を授与します。

| | | |
|-----------------|---|---|
| 知識・能力（専門コンピテンス） | 1. 基礎的知識 | 理学、人文学、社会学、情報学等の分野における、基礎・専門基礎科目レベルの、分野横断的に地球規模課題に取り組むために必要な基盤となる知識 |
| | 2. 情報解析力 | 地球規模課題の解決に向けて収集した情報を分析・解析し、的確な解釈と理解を行う能力 |
| | 3. 対話的コミュニケーション能力 | 異なる文化的背景や専門をもつ人々に対しても論理的に説明し、共感を伴って討論を行うことのできるコミュニケーション能力 |
| | 4. 専門的知識 | 地球環境、リスクと安全、健幸問題、共生社会、持続可能性といった、地球規模課題の分野横断的課題を解決するのに必要な、関連分野の専門科目のレベルの知識 |
| | 5. 問題発見・解決能力 | 自然環境や人間社会の中から地球規模課題の問題を抽出し、それに対して解決策を見出せる能力。 |
| | 6. 提言力 | 地球規模課題に関し、基礎・専門的知識、精緻な情報分析に基づき、課題解決に向け具体的な方策を提案できる能力 |
| 学修成果の評価に関する方針 | カリキュラムに沿った科目の単位を取得し、汎用コンピテンス並びに専門コンピテンスが身に付き、地球規模課題に取り組む学士（学術）にふさわしい見識、俯瞰的に把握する能力、課題を解決に導く能力を有しているかを評価します。卒業研究または長期実習では、課題の発見力、課題解決能力、研究または実務実施能力などを評価し、卒業研究発表会においてプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、質問に対応する能力などを確認し、汎用・専門コンピテンスが養われているか学位授与の方針に記載した能力を総合的に評価します。 | |

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

学士 (学術) の学位を授与するために、本学位プログラムが定めるコンピテンス (汎用コンピテンスおよび専門コンピテンス) が涵養されるよう、人材養成目的に基づき、以下の方針で教育課程を編成・実施します。授業は英語による少人数教育で行い、課題解決型学習 (Problem Based Learning) を主体とした授業を多く取り入れています。また、国際基督教大学との連携により、同大学で英語による基礎科目 (教養教育科目) を履修します。なお、学生が科目を履修するにあたっては、事前に履修モデルを提示するとともに、学生個々にきめ細かい履修指導を行います。

教育課程の
編成方針

<全体的な方針>

本プログラムは、地球規模課題を多角的に俯瞰し、文理融合の視点から課題解決に貢献できる人材を養成するため、体系的かつ実践的な教育課程を編成します。授業はすべて英語による少人数教育で行い、課題解決型学習 (Problem Based Learning: PBL) を軸に据えることで、学生の主体的な学びを促進し、コンピテンスを総合的に育成します。

授業科目は、大学での学修の基礎を築き、幅広い教養を身につける「基礎科目」、地球規模課題の全体像と基本的な分析手法を学び、コンピテンスの土台を築く「専門基礎科目」、そして専門性を段階的に深め応用力を養う「専門科目」に区分して配置します。専門科目は、大きく「環境」と「人間」の2つの専門領域から構成され、それぞれが更に「地球環境」「リスク・安全」、「社会共生」「人の健幸」という2つの視点に細分化されています。

学修の集大成として、4年次には卒業研究または長期インターンシップを課し、4年間で培った知識、技術、倫理観を統合し、現実社会の課題解決に応用する能力 (特に専門コンピテンス) が目標水準に到達したことを確認します。

<各学年 (セメスター) の学習目標と涵養されるコンピテンス>

4年間の学修を段階的に進め、効果的に能力を育成するために、各学年において以下の学習目標を設定し、関連するコンピテンスを重点的に涵養します。

1年次:【Foundations - 基礎形成期】

学習目標: 1年次前半 (10月~3月) は筑波大学で専門分野への導入教育を受け、後半 (4月~9月) は国際基督教大学 (ICU) に滞在し、集中的なりベラルアーツ教育を受けます。これにより、大学での学びに必要なアカデミックスキルを習得し、幅広い教養と学問的視野を広げます。地球規模課題の全体像を概観し、環境と人間の両側面から課題を捉えるための基本的な知識とリテラシーを、両大学の特色を生かした環境で身につけます。

涵養される主なコンピテンス:

専門コンピテンス: 基礎的知識

汎用コンピテンス: コミュニケーション能力、データ・情報リテラシー、広い視野と国際性

2年次:【Exploration - 専門探求期】

学習目標: PBL形式の演習・実習を通じて、4つの専門領域の基礎知識と応用スキルを学び始めます。グループワークやフィールドワークを通じて、現実の地域社会が抱える課題を分析し、自らの関心領域を探求します。

涵養される主なコンピテンス:

専門コンピテンス: 専門的知識 (基礎)、情報解析力、問題発見・解決能力 (基礎)

汎用コンピテンス: 批判的・創造的思考力、協働性・主体性・自律性

| | |
|---------------|---|
| 教育課程の 編成方針 | <p>3年次：【Specialization - 専門深化期】</p> <p>学習目標：各専門領域に関するより高度な専門知識と応用スキルを深めます。PBLを通じて、複雑な地球規模の課題を多角的に分析し、論理的根拠に基づいた解決策を構想・提案する能力を高めます。卒業研究に向けた研究計画を策定します。</p> <p>涵養される主なコンピテンス： 専門コンピテンス：専門的知識（応用）、対話的コミュニケーション能力、問題発見・解決能力（応用） 汎用コンピテンス：批判的・創造的思考力</p> <p>4年次：【Integration & Application - 統合・実践期】</p> <p>学習目標：卒業研究または長期インターンシップを通じて、特定の課題に対する専門性を確立します。4年間の学びで得た知識とスキルを総動員し、プロジェクトを主体的に計画・実行し、その成果を論理的かつ説得的に発信します。</p> <p>涵養される主なコンピテンス： 専門コンピテンス：提言力、および全ての専門コンピテンスの統合 汎用コンピテンス：全ての汎用コンピテンスの統合と実践</p> <p><授業科目の配置の方針></p> <p>上記の学習目標を達成し、各コンピテンスを効果的に育成するため、授業科目を以下の方針に基づいて配置します。</p> <p>【基礎科目】</p> <p>大学教育への円滑な移行と、「コミュニケーション能力」や「広い視野と国際性」の基礎を築くため、1年次前半に「ファーストイヤーセミナー」等を配置します。加えて、幅広い教養を養うため、1年次後半（4月～9月）は国際基督教大学（ICU）に滞在し、同大学の質の高いリベラルアーツ教育（基礎科目）を集中的に履修します。</p> <p>【専門基礎科目】</p> <p>地球規模課題に関する共通の基盤と「基礎的知識」を形成するため、1年次前半に筑波大学にて配置します。「地球規模課題総論」では、多様な課題を俯瞰し、のちの専門的な学びへの動機付けを行います。「地球規模課題方法論」では、PBLや卒業研究に不可欠な「データ・情報リテラシー」や「対話的コミュニケーション能力」の基礎を重点的に育成します。「地球規模課題基礎論（環境）・（人間）」では、文理両側面からの「基礎的知識」を体系的に習得します。</p> <p>【専門科目】</p> <p>「専門的知識」「情報解析力」「問題発見・解決能力」を段階的に涵養するため、2年次から4年次にかけてPBL形式の演習・実習科目を系統的に配置します。これらの科目では、「協働性・主体性」も同時に育成します。2年次の「地球規模課題基礎演習・実習 A-I / B-I」では、専門分野への導入として、基本的な問題分析と解決策の探求を実践します。3年次の「基礎演習・実習 A-II / B-II」では、より高度な分析手法を学び、学生個々の研究テーマの深化を促すことで、「批判的・創造的思考力」を刺激します。4年次の「総合演習・実習 III」および「卒業研究 I・II」（または長期インターンシップ）をキャップストーン科目として配置します。ここでは、これまでの学びで得た全てのコンピテンスを統合し、課題解決に向けた具体的な「提言力」を養い、その達成度を最終的に評価します。</p> |
|---------------|---|

| | |
|-------------------------|--|
| 学修の方法 特色的な教育 | 本プログラムは、すべて英語で課題解決型学習（Problem Based Learning）を実施します。専門科目は全学群から幅広く履修ができます。また、国際基督教大学との連携により、同大学において英語による基礎科目（教養科目）を履修します。 |
|-------------------------|--|

| 地球規模課題学位プログラム（学士）の専門分野 | | |
|------------------------|--------|---------------------|
| 領域 | 柱となる視点 | 専門分野 |
| 環境 | 地球環境 | 環境学、地球科学、地理学、社会科学 |
| | リスク・安全 | 社会工学、安全システム科学、総合工学 |
| 人間 | 社会共生 | 人文学、社会科学、哲学、言語学、政治学 |
| | 人の健幸 | スポーツ科学、衛生学、社会医学 |

| カリキュラムの構成 | | | | | |
|---------------------|--|---------------------|------------------------|------------|--------------|
| 4年 | <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">専門科目（演習・実習） 12単位</td> <td style="text-align: center;">卒業研究またはインターンシップ 6単位</td> </tr> </table> | 専門科目（演習・実習） 12単位 | 卒業研究またはインターンシップ 6単位 | | |
| 専門科目（演習・実習） 12単位 | 卒業研究またはインターンシップ 6単位 | | | | |
| 3年 | <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">専門科目（演習・実習） 18単位</td> <td style="text-align: center;">専門科目（講義） 15単位</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">基礎科目 1.5単位</td> <td></td> </tr> </table> | 専門科目（演習・実習） 18単位 | 専門科目（講義） 15単位 | 基礎科目 1.5単位 | |
| 専門科目（演習・実習） 18単位 | 専門科目（講義） 15単位 | | | | |
| 基礎科目 1.5単位 | | | | | |
| 2年 | <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">専門科目（演習・実習） 18単位</td> <td style="text-align: center;">専門科目（講義） 15単位</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">基礎科目 5.5単位</td> <td></td> </tr> </table> | 専門科目（演習・実習） 18単位 | 専門科目（講義） 15単位 | 基礎科目 5.5単位 | |
| 専門科目（演習・実習） 18単位 | 専門科目（講義） 15単位 | | | | |
| 基礎科目 5.5単位 | | | | | |
| 1年 | <table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">基礎科目 21単位</td> <td style="text-align: center;">専門基礎科目 12単位</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">専門科目（講義） 3単位</td> </tr> </table> | 基礎科目 21単位 | 専門基礎科目 12単位 | | 専門科目（講義） 3単位 |
| 基礎科目 21単位 | 専門基礎科目 12単位 | | | | |
| | 専門科目（講義） 3単位 | | | | |

入学受入れの方針 / Admission Policy

| | |
|---------------|--|
| 求める人材 | 地球環境、リスク・安全、社会共生、人々の健幸といった課題に関心を持ち、文系・理系の双方の幅広い素養を備えた人材を求めます。学問領域の垣根を越えて主体的に学び、習得した知識・技術・方法を活用しながら、将来は国内外のグローバル企業や国際機関等において、社会的課題の解決や新たなイノベーションの創出に貢献する意欲を持つ方を歓迎します。 |
| 入学選抜方針 | 書類審査およびオンライン口述試験により、英語力を含む学業基礎能力、地球規模課題に対する関心と理解、学際的な学修意欲、論理的・批判的な思考力や表現力、柔軟な応答力、国際的視野を評価します。 |

学修支援体制 / Learning Support Framework

| | |
|------------------|--|
| 学修支援 | 学生委員会の教員にコアタイムが設けられ、必要に応じて学生の学修相談をうけられる仕組みとなっています。 |
| 学生同士の交流機会 | 日常の授業科目における、グループワークやフィールド実習を通して、学生同士の交流を図っています。外国籍の学生には、入学直後から各学生に本学位プログラムの先輩学生を学生チューターとして配置しています。 |

| | |
|----------|---|
| 教員との交流機会 | 卒業研究活動に関して、主となる指導教員とともにメンター教員を配置し、異なる視点からの指導による研究の質の向上および学生と教員のコミュニケーションの円滑さの向上に取り組んでいます。 |
|----------|---|

教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

運営体制

プログラム全体の活動を統括する教育会議の下に運営委員会を置き、さらに下部組織として入試委員会、カリキュラム委員会、広報・国際連携委員会、学生委員会、Faculty Development 委員会を置き、各種の課題に対応します。

教育の自己点検体制

学位プログラムの人材養成目的、3つのポリシー、教育指導法、学生の学修成果、成績評価の自己点検は、運営委員会にて実施します。

教育指導体制

学位プログラムに参画する教員は、Faculty Development (FD)・StaffDevelopment (SD) 研修会において、学位プログラムの人材養成目的、3つのポリシー、教育指導法、学生の学修成果、成績評価等について意見交換・討論を行い、共通認識を持って教育に当たります。また学位プログラムに関係する教職員の協力関係の構築及び学生指導活動の一層の充実を図ります。

学生の意見反映

学生委員がコアタイムを通じて日々学生と接しており、各学生の意見を頻繁に聴取する機会があります。加えて、アカデミックな内容については、メンター教員と研究指導教員が配置され学生とのコミュニケーションを図っています。課題については各種委員会等で検討のうえ、改善を図ります。

筑波スタンダード

筑波大学は、学士課程教育と大学院教育に係る2つの「筑波スタンダード」を策定し、本学の教育宣言として広く社会に公表しています。

■学群スタンダード

学士課程の教育目標とその達成に向けた全学的方針を掲げるとともに、教養教育の目標とその達成に向けた具体的な教育内容、各教育組織における学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針、教育の質の保証の方策等を明示しています。

■大学院スタンダード

大学院の教育目標とその達成に向けた全学的方針を掲げるとともに、各教育組織における学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、教育の質の保証の方策等を明示しています。

筑波大学

ホームページ <http://www.tsukuba.ac.jp/>
住所 〒305-8577
茨城県つくば市天王台1-1-1

学群スタンダード

発行日 令和8(2026)年4月
編集・発行 筑波大学教育推進部



筑波大学

University of Tsukuba